

FD Review vol.6

2010年度の総括

目 次

はじめに	教授法開発室長 藤松 素子	
2010年度 英語基礎力調査について	教授法開発室員 持留 浩二	1
基礎学力調査の結果報告 ―入学前教育の必要性を中心にして―	教授法開発室員 近藤 敏夫	27
授業アンケート ―真に活用できるアンケートを目指して―	教授法開発室員 田中 智子	41
e - Learning	教授法開発室員 達富 洋二	165
	協力：教育研究連携調査課	
FD 活動報告 ―クリッカーの試用経験―	教授法開発室員 漆葉 成彦	171
入学前教育.....	教授法開発室員 小林 隆	175
FD 研究会		
第 1 回 FD 研究会 「入門ゼミ受講生の声に接して」.....	教授法開発室員 小野田 俊藏	199
2011年1月26日開催		
第 2 回 FD 研究会 「成績評価の基礎知識」	教授法開発室長 藤松 素子	201
2011年2月15日開催		
初年次教育.....	教授法開発室員 水谷 隆之	203
京都 FD 開発推進センター活動紹介.....	専門研究員 川面 きよ	209
今年度の FD 活動の回顧と展望.....	教学部長 八木 透	221
活動記録.....		223
教授法開発室のご紹介.....		225

FD Review



はじめに

はじめに

教授法開発室長 藤 松 素 子

佛教大学教授法開発室においては、開設以来、「授業方法・内容の改善ならびに教員の教育能力・資質の向上をはかり、教育の質を高める組織的取り組みや活動等（以下「FD」という）を推進・支援すること」を目的として活動を続けている（教授法開発室規程第2条）。

2010年度に取り組んだ主たる実施事業は、①入学前教育、②初年次教育、③基礎学力調査、④英語基礎力調査、⑤授業アンケート、⑥ e-learning の推進、⑦ FD 研究会、⑧教員研修会の開催、⑨ FD 関連研修会への参加促進、⑩機関紙の発行等である。

とりわけ、入学前教育においては入学予定者の現状に応じた新しいプログラムを開発して実施することとなった。また、各学部・学科の1セメスターに設定されている「入門ゼミ1」を初年次教育として位置づけ、全学共通シラバスを導入して初めて実施した。それぞれの取り組みについての詳細は各稿に譲るが、いずれも各学部の諸先生方をはじめ、関連部署にご尽力いただいたおかげで、一定の成果を得たといえよう。他方で、新しい試みであったため、様々な課題も明らかになっている。引き続き多面的に検討していくことが求められる。

また、その方法が定着してきている基礎学力調査（国語）、英語基礎力調査、授業アンケート等については、実施率も安定してきており、データが集積されてきてはいるものの、その結果は個別にフィードバックするにとどまり、総合的に検討し、組織的なFD活動につなげていくことができていないのが現状である。学生の現状を把握し、学部における教育実践にいかしていくためには、これらの調査結果の集積・分析と共に、入学前教育、初年次教育にとどまらず、全学共通科目、学部専門科目等のカリキュラムの見直し、授業運営等の見直し等と結びつけた検討を行っていくことが不可欠である。

FD 関連研修会への参加促進のための助成は、2009年度より実施しており、室員以外の先生方にも積極的にご活用いただいている。その成果は個別にご報告いただいているが、全学的にフィードバックするまでには至っていないため、その効果的な方法を検討することが必要であろう。

教員研修会としては、全学的な研修会として基礎学力調査（国語）・英語基礎力調査についての結果報告会を開催することができた。関係教員以外に委託業者からの分析結果も示され、学生の状況を多角的に観る機会を得た。また、室員を中心とした小規模な研修会も実施し、直接に学生の声を聴く機会を設けることができたのは、FD活動の新しい展開につながる契機になったといえよう。

課題は山積しているが、組織的なFD活動を活性化させるため、これまでの取り組みを丁寧に検証しながら、次年度に向けて引き続き議論を重ね、実践していきたいと考えている。

FD Review

英語基礎力調查

2010年度 英語基礎力調査について

教授法開発室員 持 留 浩 二

1. はじめに

佛教大学ではカリキュラム改革が実施された2004年度より、全1回生を対象にして、入学時と1回生終了時にTOEIC Bridge IPテストを使用した英語基礎力調査を実施している。この調査は本学における英語教育プログラムをより効果的なものへと改善させていく上で大きな役割を果たしている。

現在のカリキュラムにおいて全学共通科目・必修外国語「英語」（文学部、歴史学部のみ選択必修）で習熟度別クラスを編成しているが、これはこの調査結果をもとになされている。1回生では「Intensive Reading」が1科目、「Integrated Communication Skills」が2科目の計3科目が必修となっており、受講生は春、秋学期にそれぞれの授業を同じ指定クラスで受講することになる。2回生では「Integrated Communication Skills」1科目を1回生終了時の調査結果をもとに指定されたクラスで受講することになっている。

ここでは、2010年度の英語基礎力調査結果を紹介するとともに、2004年度からの調査結果と比較し新1回生の英語力がどのように変化してきているのか、また各学部、学科別の調査結果及び1年間の学修後の学力の変化を見ながら本学における今後の英語教育の課題を考えてみたい。

さらに、前年度より英語基礎力調査の際に行うアンケートの内容を一新した。アンケート内容は主に学生の英語学習へのニーズを問うものとなっている。彼らが英語の授業に何を求めているのか、どういう授業が彼らのモチベーションを高めるのにプラスになるのかといった点に関して、授業の運営方法と授業内容の両面にわたって学生の意識を調査した。アンケートは入学時と1回生終了時に行われたので、それぞれの数値および1年間を経ての数値の変化を見ることができた。その結果をどのように授業に生かしていくかは今後の課題である。

英語基礎力調査の結果の分析は佛教大学の学生の英語力の変化を知る上で重要なものであるが、その結果は学生の英語力のみを明らかにするにとどまらず、学生の一般的な学力を知る手掛かりにもなる。興味深いことに、過去の調査結果において、各学科の平均点は各学科の入学難易度と比例する傾向が見られた。つまり学生の英語力は、ある程度その学生の全体的な学力を示す指標ともなっている。それだけに毎年の学生の英語力の推移を分析することは、学生の全体的な学力のレベルを知る上でも重要であるといえる。

2. TOEIC Bridge IP テストについて

TOEIC Bridge とは TOEIC の特長を備えつつ初・中級レベルの英語能力測定に照準を合わせて設計されたテストで、テスト時間と問題数は TOEIC テストの半分に設計されている。問題はリスニングセクション（25 分間・50 問）と、リーディングセクション（35 分間・50 問）からなっており、スコアはリスニング 10 点～90 点、リーディング 10 点～90 点、トータル 20 点～180 点の 2 点刻みで表示される。TOEIC テストよりも日常的で身近なコミュニケーション場面や素材をテスト問題に採用しており、リスニングセクションの出題スピードは TOEIC テストより遅く、ネイティブスピーカーが「注意深く」話す際のスピードとなっている。また、TOEIC Bridge では、各セクションスコア、トータルスコアの他に 5 分野 3 段階のサブスコアが表示される。IP TEST とは TOEIC 運営委員会が実施する公開テストではなく、実施団体が独自に運営・管理する団体特別受験制度のことである。

TOEIC TEST との相関性については、TOEIC 運営委員会が以下の比較表を公開している。

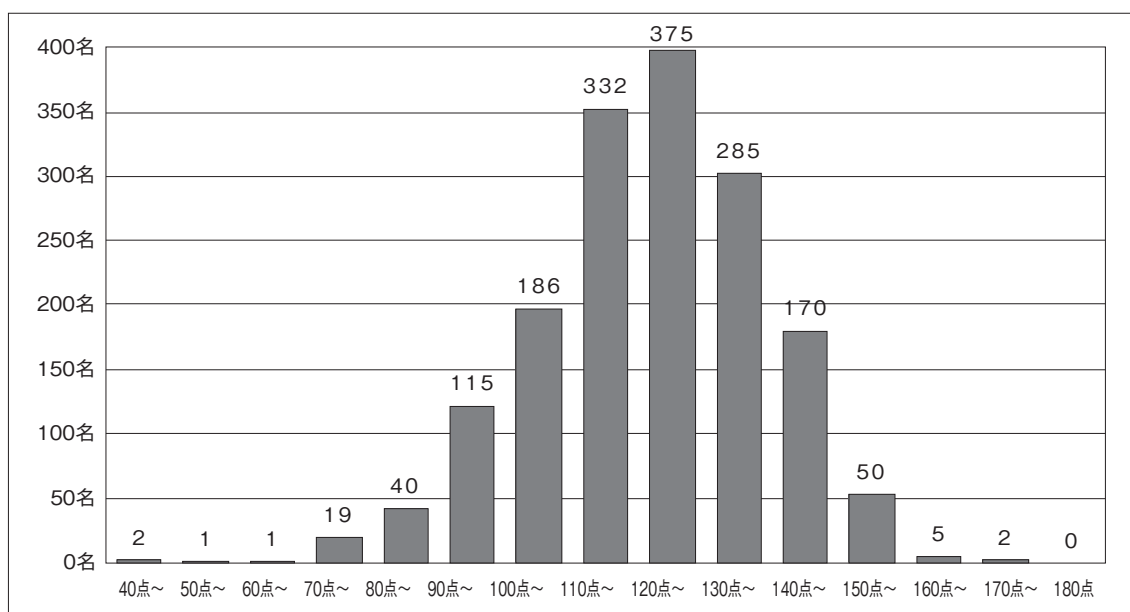
TOEIC Bridge	90	100	110	120	130	140	150	160
TOEIC TEST	230	260	280	310	345	395	470	570

3. 入学時のスコア

3.1 全体の傾向

		第 1 回							
		2004 年度	2005 年度	2006 年度	2007 年度	2008 年度	2009 年度	2010 年度	
Total	平均点	117.6	122.4	124.2	124.8	124.0	121.8	120.5	
	標準偏差	18.2	17.5	17.5	18.5	17.6	18.5	17.5	
	最高点	170.0	168.0	178.0	178.0	174.0	174.0	172.0	
	最低点	62.0	38.0	66.0	60.0	58.0	42.0	40.0	
Listening	平均点	56.8	58.6	59.6	60.4	60.1	58.8	60.7	
	標準偏差	9.8	8.4	9.2	9.1	9.2	8.3	8.7	
	最高点	86.0	88.0	90.0	90.0	90.0	88.0	88.0	
	最低点	28.0	20.0	30.0	28.0	28.0	26.0	28.0	
Reading	平均点	60.7	63.8	64.6	64.4	63.9	63.0	59.8	
	標準偏差	10.7	11.0	10.0	11.3	10.2	11.9	10.8	
	最高点	88.0	86.0	90.0	88.0	86.0	88.0	88.0	
	最低点	30.0	12.0	24.0	26.0	24.0	12.0	28.0	

2010年度第1回テストの得点分布



入学時のトータルスコアについては、調査が開始された2004年度以降では2007年度が最も好成績であった。しかしその次の年2008年度はわずかながら下落した。それでも過去の成績と比べて高水準を保っていたのであるが、2009年度は大きくスコアは下落し、過去6年間の調査中2番目に悪い成績となった。残念ながら今回の調査でもこの下落傾向に歯止めはかからず、2010年度全体の平均スコアは3年連続下落という結果となってしまった。今後この傾向が続けば新入生の質の確保という点では少々不安になってくる。

3.2 学部学科の傾向

第1回学部スコア

第1回							
	仏教学部	文学部	歴史学部	教育学部	社会学部	社会福祉学部	保健医療技術学部
受験者数	59	283	215	245	392	307	82
Total							
平均点	106.2	123.1	120.1	130.5	114.1	119.3	128.6
標準偏差	15.9	17.6	15.9	14.3	18.0	15.2	15.6
最高点	144.0	168.0	158.0	170.0	158.0	172.0	166.0
最低点	70.0	46.0	80.0	94.0	58.0	40.0	72.0
Listening							
平均点	55.0	62.3	61.0	64.5	57.6	60.0	64.3
標準偏差	8.2	8.5	7.9	7.6	8.7	8.3	7.9
最高点	72.0	86.0	82.0	86.0	82.0	88.0	86.0
最低点	28.0	34.0	34.0	44.0	28.0	30.0	38.0
Reading							
平均点	50.7	60.9	59.1	66.0	56.5	59.3	64.3
標準偏差	9.8	10.9	10.4	8.9	11.0	9.1	9.4
最高点	80.0	84.0	82.0	86.0	84.0	84.0	88.0
最低点	30.0	34.0	34.0	42.0	28.0	34.0	34.0

※リスニングもしくはリーディングのどちらかを回答していれば受験者数に含む。

第1回学科スコア

第1回													
	仏教	日文	中国	英米	歴史	歴史	教育	臨床	現社	公共	福祉	理学	作業
受験者数	59	142	49	91	137	78	176	69	239	153	306	42	40
Total													
平均点	106.2	123.3	110.6	129.8	121.9	116.8	131.2	128.7	114.9	112.9	119.3	133.3	123.6
標準偏差	15.9	14.3	21.4	16.3	16.2	14.8	13.9	15.0	16.6	19.9	15.2	14.3	15.3
最高点	144.0	152.0	146.0	168.0	158.0	146.0	170.0	160.0	150.0	158.0	172.0	166.0	154.0
最低点	70.0	92.0	46.0	82.0	80.0	84.0	94.0	94.0	66.0	0.0	40.0	98.0	72.0
Listening													
平均点	55.0	62.0	57.0	65.5	61.4	60.3	64.7	63.9	57.8	57.3	60.0	65.5	63.0
標準偏差	8.1	7.4	9.4	8.0	7.6	8.2	7.4	8.1	8.0	9.8	8.3	8.0	7.5
最高点	72.0	82.0	74.0	86.0	82.0	76.0	86.0	80.0	82.0	82.0	88.0	80.0	86.0
最低点	28.0	34.0	34.0	46.0	38.0	34.0	44.0	44.0	38.0	0.0	0.0	44.0	38.0
Reading													
平均点	50.7	61.3	53.6	64.3	60.6	56.6	66.5	64.8	57.1	55.6	59.3	67.9	60.6
標準偏差	9.8	9.1	13.7	9.7	10.6	9.5	8.8	9.0	10.4	11.7	9.1	7.4	9.7
最高点	80.0	84.0	78.0	84.0	82.0	76.0	86.0	84.0	82.0	84.0	84.0	88.0	78.0
最低点	30.0	42.0	0.0	36.0	34.0	40.0	44.0	42.0	28.0	0.0	34.0	50.0	34.0

※リスニングもしくはリーディングのどちらかを回答していれば受験者数に含む。

まず学部別のトータルスコアを見てみると、前年度同様教育学部と保健医療技術学部が高いスコアを記録しているものの、両学部ともに前年度よりは若干スコアが下落している。2010年度改組により旧文学部は3つの学部に分かれ、仏教学部、文学部、歴史学部となったので、旧文学部だけは2009年度以前のデータとの比較が困難となっている。

前年度は保健医療技術学部の平均スコアが教育学部の平均スコアに逆転されてしまうという現象が見られたが、今回の調査でも教育学部の方が上位に来ている。過去3年間程続いている保健医療技術学部のスコア下落傾向は今回の調査でも続いている。

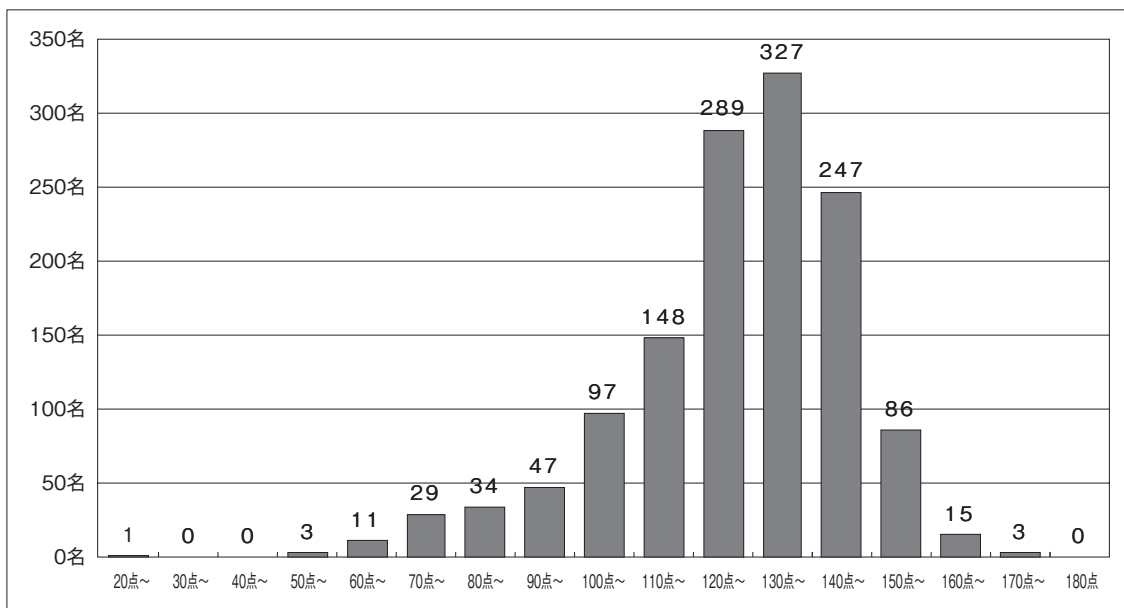
とはいえ、学科別にみると理学療法学科は全学科中一番高い成績を上げている。ただこの成績も前年度と比べると3点低下しており、ここ数年のスコア悪化の傾向に歯止めはかかっていない。続いて教育学科、英米学科、臨床心理学科という順になるが、この3学科の順位は前年度と同じである。ここからは今年度より新学科が入ってくるので前年度との比較がしにくくなる。簡単にまとめると、前年度の順位は、作業→福祉→現社→人文→公共→中国となっていたのに対し、2010年度は、作業→日文→歴史→福祉→歴史→現社→公共→中国→仏教という順位になっている。

4. 1 回生終了時のスコア

4.1 全体の傾向

		第 2 回						
		2004 年度	2005 年度	2006 年度	2007 年度	2008 年度	2009 年度	2010 年度
Total	平均点	124.4	126.9	126.0	126.9	126.7	129.2	126.0
	標準偏差	20.6	18.8	22.5	19.7	20.2	19.5	19.8
	最高点	172.0	176.0	176.0	176.0	178.0	178.0	172.0
	最低点	26.0	46.0	36.0	22.0	30.0	56.0	22.0
Listening	平均点	61.6	61.6	62.4	62.8	64.1	64.0	62.5
	標準偏差	10.0	8.6	11.1	9.0	9.2	9.4	9.3
	最高点	86.0	86.0	86.0	88.0	88.0	88.0	86.0
	最低点	14.0	28.0	20.0	10.0	12.0	18.0	12.0
Reading	平均点	62.8	65.3	63.6	64.1	62.6	65.1	63.5
	標準偏差	12.1	11.7	12.7	12.3	12.2	11.3	12.0
	最高点	88.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	86.0
	最低点	12.0	18.0	14.0	12.0	14.0	28.0	10.0

2010 年度第 2 回テストの得点分布



前年度、1 回生終了時のスコアは 2004 年の英語基礎力調査開始以来最高のスコアを記録し、1 年間の学修を経たスコアの伸びも調査開始以来最高を記録したのだが、2010 年度は過去 3 番目に悪いスコアとなってしまった。前年度より平均点でマイナス 3 点となっている。ただ入学時のスコアが低かったため、スコアの伸び自体はそれほど悪いわけではない。とはいえ前年度の素晴らしい結果からは一歩後退の感が否めない。

4.2 学部学科の傾向

第2回学部別スコア

第2回							
	仏教学部	文学部	歴史学部	教育学部	社会学部	社会福祉学部	保健医療技術学部
受験者数	46	185	156	231	358	283	78
Total							
平均点	108.4	134.1	128.0	134.0	118.2	124.5	131.8
標準偏差	29.2	15.7	17.4	15.3	21.5	17.0	18.3
最高点	146.0	172.0	166.0	166.0	160.0	154.0	172.0
最低点	22.0	84.0	60.0	76.0	58.0	64.0	56.0
Listening							
平均点	55.8	65.9	63.1	65.2	59.3	62.1	65.3
標準偏差	14.4	7.7	8.5	7.2	10.1	8.1	9.7
最高点	72.0	86.0	80.0	86.0	78.0	82.0	86.0
最低点	12.0	40.0	32.0	44.0	24.0	28.0	28.0
Reading							
平均点	52.6	68.2	64.9	68.8	58.9	62.3	66.6
標準偏差	16.3	9.7	10.3	9.6	12.9	10.6	9.8
最高点	78.0	86.0	86.0	86.0	86.0	80.0	86.0
最低点	10.0	42.0	28.0	26.0	24.0	24.0	28.0

第2回学科別スコア

第2回													
	仏教	日文	中国	英米	歴史	歴文	教育	臨床	現社	公共	福祉	理学	作業
受験者数	46	95	5	85	102	54	165	66	223	135	283	40	38
Total													
平均点	108.4	128.3	122.8	141.2	128.9	126.4	133.3	135.6	121.8	112.4	124.5	135.9	127.6
標準偏差	29.2	14.7	10.8	13.8	18.5	14.8	15.7	13.9	18.5	24.6	17.0	14.7	20.7
最高点	146.0	164.0	138.0	172.0	166.0	158.0	166.0	164.0	154.0	160.0	154.0	172.0	156.0
最低点	22.0	84.0	108.0	90.0	60.0	80.0	76.0	102.0	70.0	58.0	64.0	106.0	56.0
Listening													
平均点	55.8	62.3	64.4	70.0	63.0	63.4	64.8	66.2	61.0	56.6	62.1	67.0	63.5
標準偏差	14.4	6.5	4.1	6.9	9.0	7.6	7.0	7.4	8.2	12.2	8.1	8.8	10.3
最高点	72.0	82.0	70.0	86.0	80.0	78.0	82.0	86.0	78.0	76.0	82.0	86.0	80.0
最低点	12.0	40.0	60.0	44.0	32.0	42.0	44.0	44.0	32.0	24.0	28.0	44.0	28.0
Reading													
平均点	52.6	66.0	58.4	71.2	65.9	63.0	68.5	69.4	60.7	55.8	62.3	68.9	64.2
標準偏差	16.3	9.6	8.5	8.7	10.6	9.3	10.1	8.5	11.8	14.1	10.6	7.4	11.4
最高点	78.0	82.0	68.0	86.0	86.0	80.0	86.0	86.0	82.0	86.0	80.0	86.0	82.0
最低点	10.0	42.0	48.0	46.0	28.0	38.0	26.0	40.0	28.0	24.0	24.0	50.0	28.0

入学時スコア同様、2010年度改組で旧文学部が3学部に分かれたため、前年度との比較が難しくなっている。前年度は、教育→保健医療→文→社会福祉→社会という順序だったのだが、2010年度では上の表を見て分かるように、文→教育→保健医療→歴史→社会福祉→社会→仏教という順序になっている。文学部と教育学部がほぼ同スコア1位、2位となっているのであるが、旧文学部が急に1年でレベルアップしたわけではない。旧文学部の中で特に英語については能力が高かった英米学科が残った文学部の平均点が高くなったただけのことである（英米学科はほぼ毎年1回生終了時のスコアは全学科中最高のスコアを記録している）。

学科別順位の変化も学部学科改組のため分かりにくくなっているため、簡単に前年度と2010年度の順位を紹介するにとどめておきたい。前年度は、英米→教育→理学→臨床→福祉→作業→人文→現社→公共となっていたのだが、2010年度は、英米→理学→臨床→教育→歴史→日文→作業→歴史→福祉→現社→公共→仏教となっている（中国学科は受験者5人とデータが少なすぎるので除外）。上位4学科（英米・教育・臨床・理学）はここ数年微妙に順位が入れ替わっているが、大きな変動はなく上位を維持し続けている。

5. スコアの伸び

5.1 全体の傾向

		2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度
Total	第1回	117.6	122.4	124.2	124.8	124.0	121.8	120.5
	第2回	124.4	126.9	126.0	126.9	126.7	129.2	126.0
	伸び	6.8	4.5	1.8	2.1	2.7	7.4	5.5
Listening	第1回	56.8	58.6	59.6	60.4	60.1	58.8	60.7
	第2回	61.6	61.6	62.4	62.8	64.1	64.0	62.5
	伸び	4.8	3.0	2.8	2.4	4.0	5.3	1.8
Reading	第1回	60.7	63.8	64.6	64.4	63.9	63.0	59.8
	第2回	62.8	65.3	63.6	64.1	62.6	65.1	63.5
	伸び	2.1	1.5	-1.0	-0.3	-1.3	2.1	3.7

前年度は+7.4という過去最高の伸びを記録し、調査が開始された2004年度以降で最も生産的な1年となったのであるが、2010年度はスコアの伸びが+5.5と、決して悪い数字ではないものの前年度の素晴らしい伸びには届かなかった。前年度の2009年度、調査が開始された2004年度に続く3番目の伸びにとどまった。

5.2 学部学科の傾向

学部

	全体	仏教	文	歴史	教育	社会	社会福祉	保健医療
Total	5.5	2.2	11.0	7.9	3.5	4.1	5.2	3.3
Listening	1.8	0.7	3.6	2.2	0.7	1.7	2.1	1.0
Reading	3.7	1.9	7.3	5.7	2.8	2.4	3.1	2.3

学科

	全体	仏教	日文	中国	英米	歴史	歴史文	教育	臨床	現社	公共	福祉	理学	作業
Total	5.5	2.2	5.1	12.2	11.4	6.9	9.5	2.1	6.9	6.9	-0.5	5.2	2.5	4.1
Listening	1.8	0.7	0.3	7.4	4.5	1.6	3.1	0.1	2.3	3.2	-0.7	2.1	1.5	0.5
Reading	3.7	1.9	4.8	4.8	6.8	5.3	6.4	2.0	4.6	3.7	0.2	3.1	1.0	3.6

学部別にトータルスコアの伸びを見てみよう。前回の調査では、文学部 +11.7、教育学部 +4.6、社会学部 +5.7、社会福祉学部 +6.1、保健医療技術学部 +2.2 と全学部でプラスの伸びを示していたのであるが、2010 年度の学部改組で学部間の格差はそれほど大きく開いていない。下は仏教学部で +2.2、上は文学部で +11.0 となり、その差 7.8 の開きとなっている。文学部には英米学科があるので大幅の伸びは毎年のことなのであるが、今回歴史学部の健闘が目立った。他学科と比べるとその伸びは際立っている。

次に学科別に伸びを見てみよう。まず一番の伸び率を示しているのは +12.2 点の中国学科となっているが、これは受験者 5 人というサンプルとしては少なすぎる数字なので除外（毎年中国学科は秋学期の調査には加わっていないのだが、今回はなぜか 5 人受験していることになっている）。ということで 1 番の伸びを示したのは前年度と同じ英米学科となっており +11.4 の伸びを示している。前年度はその次に人文学科が大きな伸びを示していたのであるが、今年度は前年度まで人文学科に含まれていた歴史文化学科が +9.5 という大きな伸びを記録している。続いて臨床心理学科、現代社会学科、そして歴史学科が同じ +6.9 の伸びを示している。そこまでが全体平均の伸び +5.5 よりも高い数値を記録した学科となっている。

次に社会福祉学科の +5.2、それに続いて日本文学科の +5.1、そこからやや落ちるものの +4.1 とそれほど悪くない伸びを示したのは作業療法学科となっている。さらに、かなり伸び悩んだ印象を与える +2.5 の理学療法学科、さらに +2.2 の仏教学科、+2.1 の教育学科が続き、公共政策学科に至っては -0.5 というマイナスの伸びとなってしまった。

英米学科に続いて、2 位と 3 位につけている歴史文化学科と歴史学科は素晴らしい結果を残している。臨床心理学科と現代社会学科の健闘も目立っている。その一方で、理学療法学科と教育学科は入学時スコアが 1 位と 2 位という高い学力を持っていただけに 1 年間の学修を経ての伸び悩みは大いに気になるところである。

気になると言えば、公共政策学科の伸びが -0.5 とわずかながらマイナスの伸び（つまり 1 年間の学修を経て学力が低下している）を記録したことである。これが一過性の現象なのか、今後も続くのかについては来年度以降の調査を継続して行い、注意深くフォローしていく必要がある。

学科の改組もあったので前年度との比較が困難ではあるが、比較のためにもう一度スコアの伸びの学科別順位だけ確認しておく、前年度は、英米→人文→福祉→現社→公共→教育→作業→臨床→理学となっていたが、2010 年度は、英米→歴文→歴史・臨床・現社→福祉→日文→作業→理学→仏教→教育→公共となっている。

6. TOEIC Bridge 150 点以上

6.1 全体の傾向

	2004 年度		2005 年度		2006 年度		2007 年度		2008 年度		2009 年度		2010 年度	
	第 1 回	第 2 回	第 1 回	第 2 回	第 1 回	第 2 回	第 1 回	第 2 回	第 1 回	第 2 回	第 1 回	第 2 回	第 1 回	第 2 回
150点以上	52	111	51	92	93	122	101	95	84	111	58	129	57	104
割合	3.5%	9.2%	3.6%	8.5%	6.1%	10.2%	6.9%	8.2%	5.7%	9.4%	3.9%	10.6%	3.6%	7.8%
受験者数	1,469	1,211	1,424	1,085	1,526	1,191	1,471	1,155	1,477	1,181	1,502	1,222	1,583	1,337
平均点	117.6	124.4	122.4	126.9	124.2	126	124.8	126.9	124	126.7	121.8	129.2	120.5	126.1

本学の英語プログラムの教学目標は、2年間の学修でTOEIC 500点に到達することである。前に示したTOEICとTOEIC Bridgeの比較表を見ると、TOEIC Bridgeの150点がTOEIC470点に相当するので、そのスコアを超える人数を集計したのが上の表である。2010年度について言うと、入学時では人数においても割合においても2004年度に調査を開始して以来3番目に悪い数値となっている。さらに1年の学修後のスコアの方は、人数こそ104人ということで一見悪くない印象を与えるかもしれないが、全体からの比率で言うと、7.8%となっており、この比率は実は過去最低の比率である。つまり2010年度は全体的にも伸び悩んだが、得点の上位層はさらに伸び悩んだと言えそうだ。

6.2 学部学科別の傾向

学部

	仏教学部	文学部	歴史学部	教育学部	社会学部	社会福祉学部	保健医療技術学部
第1回(名)	0	15	5	22	5	5	5
57人中(%)	0.0	26.3	8.8	38.6	8.8	8.8	8.8
第2回(名)	0	30	11	32	11	7	13
104人中(%)	0.0	28.8	10.6	30.8	10.6	6.7	12.5

学科

	仏教	日文	中国	英米	歴史	歴文	教育	臨床	現社	公共	福祉	理学	作業
第1回(名)	0	3	0	12	5	0	16	6	1	4	5	4	1
58人中(%)	0.0	5.3	0.0	21.1	8.8	0.0	28.1	10.5	1.8	7.0	8.8	7.0	1.8
第2回(名)	0	7	0	23	9	2	21	11	3	8	7	7	6
129人中(%)	0.0	6.7	0.0	22.1	8.7	1.9	20.2	10.6	2.9	7.7	6.7	6.7	5.8

学部別に見ると、教育学部と社会福祉学部での伸び悩みが目立つ。文学部、歴史学部、社会学部、保健医療技術学部においては、150点以上の人数が倍増しているのだが、教育学部と社会福祉学部ではその人数の増加が少なく、上位層が伸び悩んでいたことが分かる。

学科別に見ると、先ほど指摘した上位層が伸び悩んでいる教育学科の実情がもう少しはっきりしてくる。同じ教育学部内でも、臨床心理学科の方は順調に150点以上を増やしており、実は伸び悩んでいるのは教育学科であることが分かる。

英米学科で毎年英語力がアップする理由は、当然のことながら履修科目のほとんどが英語に関する科目だからであろう。ここでもやはり英語学習には時間がかかるし、また時間をかけるしか英語力を上げる方法はないという当たり前の事実を思い起こさせられる。全体的に学生の英語力を上げるには、いかにして多くの時間を英語に触れさせるかということを考える必要がある。

7. サブスコア

TOEIC Bridge は受験者の英語能力向上に役立てるため 5 分野 3 段階の診断情報をサブスコアとしてフィードバックしている。リスニング、リーディング、トータルスコアの他に下記の 5 つのカテゴリーごとに 1～3 の評価が提示されるが、各カテゴリーの数値が高いほど他の受験者に比べて評価が高いことを意味している。各カテゴリーは次の通りである。

Listening Strategies

(聞く技術)

英語を聞いて、必要な情報を聞き取る、話の要旨をつかむ、内容を推測する、アクセント・発音・時制などを正しく聞き分けることができる。

Functions

(言葉のはたらき)

どのような目的と意図（例：何かの申し出・要求・時間を伝える・指示・情報収集など）で英語が使用されているのかを理解できる。

Reading Strategies

(読む技術)

英語を読んで、必要な情報を読み取る、さっと読んで意味をつかむ、話の要旨を見極める、内容を推測する、文章内の構造が理解できる。

Vocabulary

(語彙)

日常生活、嗜好、趣味、娯楽、旅行、健康、簡単な商取引などに関する単語や語句、及び文脈における意味を把握できる。

Grammar

(文法)

文法を理解し、用法も把握している。

2010 年度のサブスコアとその伸び

		Listening Strategies	Functions	Reading Strategies	Vocabulary	Grammar
第 1 回	平均	1.50	1.57	1.84	2.02	2.24
	標準偏差	0.56	0.56	0.65	0.63	0.59
第 2 回	平均	1.82	1.69	2.12	2.25	2.07
	標準偏差	0.63	0.55	0.71	0.71	0.64
伸び		0.31	0.12	0.28	0.23	-0.17

毎年の傾向として Vocabulary と Grammar において学力の伸び悩みが見られる。今回は少し変わっていて、Grammar については例年通りの伸び悩みが見られるのであるが、Vocabulary は順調な伸びを示している。その代わりに例年に比べ Functions（言葉のはたらき）に伸び悩みが見られる結果となっている。

8. 英語基礎力調査アンケート

1年に2回1回生対象に英語基礎力調査を行なう際、同時に英語学習に関するアンケートが行われている。詳しいアンケート結果については、学科別、あるいは得点別に集計されたものを掲載しているので見てもらいたい。

英語の教員には二つの果たすべき目的があると私は考えている。学生の英語力を向上させることと学生の英語学習へのモチベーションを上げることである。モチベーションが大切な理由は、学生の英語力を上げるためには、授業時間内だけの学習だけでは不十分なので授業時間外にも学生に学習をさせる必要があるのだが、そのためには学習への強い動機付けが必要になってくるからだ。

英語基礎力調査の結果からは、学生の英語力の変化は見る事が出来るが、モチベーションの変化は見る事は出来ない。前年度に以前の英語基礎力調査アンケートを一新し、どうすれば受講生のモチベーションを上げることができるかをさぐるアンケートを実施した。彼らの英語学習への意欲、モチベーションを高めるにはどういう英語教育への取り組みが必要か、あるいはどういう授業運営及び内容が必要か、そして彼らが授業以外で英語学習にどれくらいの時間を割いているのか、そういった事柄をさぐるアンケートとなっている。

ではまず学生のモチベーションの変化、つまり情意的変化に注目してみたい。1番目のアンケート項目は「あなたは英語力を伸ばしたいですか」というものである。各学科ごとに入学時と1回生終了時それぞれの数及びパーセンテージで表すと以下の表になる。

I あなたは英語力を伸ばしたいですか

入学時

	もっと伸ばしたい	伸ばしたい	できるなら伸ばしたい	その必要はない	満足ではないが伸ばしたいとも思わない	合計
仏教 (名)	19	11	19	4	4	57
比率 (%)	33	19	33	7	7	100
日文 (名)	40	36	53	3	10	142
比率 (%)	28	25	37	2	7	100
中国 (名)	13	12	16	0	2	43
比率 (%)	30	28	37	0	5	100
英米 (名)	66	20	4	0	0	90
比率 (%)	73	22	4	0	0	100
歴史 (名)	46	41	38	2	10	137
比率 (%)	34	30	28	1	7	100
歴史 (名)	22	17	30	0	9	78
比率 (%)	28	22	38	0	12	100

	もっと伸ばしたい	伸ばしたい	できるなら 伸ばしたい	その必要はない	満足ではないが 伸ばしたいとも 思わない	合計
教育 (名)	71	44	50	2	5	172
比率 (%)	41	26	29	1	3	100
臨床 (名)	27	16	22	0	3	68
比率 (%)	40	24	32	0	4	100
現社 (名)	90	66	69	3	10	238
比率 (%)	38	28	29	1	4	100
公共 (名)	52	43	52	3	3	153
比率 (%)	34	28	34	2	2	100
福祉 (名)	91	100	105	3	8	307
比率 (%)	30	33	34	1	3	100
理学 (名)	10	17	15	0	0	42
比率 (%)	24	40	36	0	0	100
作業 (名)	11	12	15	1	1	40
比率 (%)	28	30	38	3	3	100
合計 (名)	558	435	488	21	65	1,567
比率 (%)	36	28	31	1	4	100

1 回生終了時

	もっと伸ばしたい	伸ばしたい	できるなら 伸ばしたい	その必要はない	満足ではないが 伸ばしたいとも 思わない	合計
仏教 (名)	13	7	17	4	6	47
比率 (%)	28	15	36	9	13	100
日文 (名)	34	20	34	0	6	94
比率 (%)	36	21	36	0	6	100
中国 (名)	0	2	3	0	0	5
比率 (%)	0	40	60	0	0	100
英米 (名)	67	11	5	0	0	83
比率 (%)	81	13	6	0	0	100
歴史 (名)	34	25	33	1	8	101
比率 (%)	34	25	33	1	8	100
歴史 (名)	8	12	21	1	3	45
比率 (%)	18	27	47	2	7	100
教育 (名)	62	38	50	6	8	164
比率 (%)	38	23	30	4	5	100
臨床 (名)	20	23	18	0	3	64
比率 (%)	31	36	28	0	5	100
現社 (名)	76	62	63	5	6	212
比率 (%)	36	29	30	2	3	100
公共 (名)	42	31	39	11	10	133
比率 (%)	32	23	29	8	8	100
福祉 (名)	83	65	112	9	11	280
比率 (%)	30	23	40	3	4	100
理学 (名)	7	9	18	1	5	40
比率 (%)	18	23	45	3	13	100
作業 (名)	9	4	13	1	3	30
比率 (%)	30	13	43	3	10	100
合計 (名)	455	309	426	39	69	1,298
比率 (%)	35	24	33	3	5	100

次に入学時と1回生終了時の数値の変化を表にしてみた。それが次の表である。

「あなたは英語力を伸ばしたいですか」への回答数の変化

(単位：%)

	もっと伸ばしたい	伸ばしたい	できるなら 伸ばしたい	その必要はない	満足ではないが 伸ばしたいとも 思わない
仏教	-6	-4	3	1	6
日文	8	-4	-1	-2	-1
中国	-30	12	23	0	-5
英米	7	-9	2	0	0
歴史	0	-5	5	0	1
歴史文	-10	5	8	2	-5
教育	-3	-2	1	2	2
臨床	-8	12	-4	0	0
現社	-2	2	1	1	-1
公共	-2	-5	-5	6	6
福祉	0	-9	6	2	1
理学	-6	-18	9	3	13
作業	3	-17	6	1	8
合計	2	-6	0	2	2

普通に考えるとモチベーションと学力には相関関係があるはずである。もしある学科で英語学習へのモチベーションが上昇したなら、学力も上昇していると考えるのは普通だろう。そして過去のレビューで触れたが、2007年度では確かにモチベーションと学力には相関関係が見られたものの、2008年度のアンケート結果からはそれほど相関は見られなかった。そして2009年度のアンケート結果からは人文学科において際立ったモチベーションの上昇が見られたが、実際人文学科は他学科に比べかなり大幅なスコアの伸びを示した。ただ英米学科と人文学科以外の学科においては、総じてモチベーションは下降傾向にあった。1年間の学修を経て、受講生に「もっと英語の勉強をしたい」という気にさせることは大学全体の英語力をアップさせるには最も大切なことである。2009年度人文学科に見られたモチベーションのアップを他学科でも見られるようになることが理想である。

そこで2010年度のアンケート結果、特に1年間の学修を経た変化に注目してもらいたい。日本文学科と英米学科では明らかなモチベーションのアップが見られるが、その他の学科では総じてダウンしているのが分かる。英米学科がアップしているのは、英語専攻の学科であるということもあり、例年の現象なのであるが、日本文学科がアップしているのは興味深い。

いずれにせよ、ほとんど全ての学科でモチベーションの下落という傾向は2010年度も続いてしまったわけで、1年間の学修を経ていかに受講生に英語学習へのやる気を起こさせるかというのが今後の佛教大学における英語教育の大きな課題であると言える。

では次に受講生がどのような英語教育への取り組みを求めているのかという項目へと移りたい。

Ⅱ 次のような英語教育への取り組みのうち、あなたの英語学習へのやる気を起こさせる上で重要だと思うものを次の中から選んでください。

入学時

	習熟度別（プレイ スメントテスト による学力別） のクラス編成	TOEICや英検等 の資格試験対策	CALL(パソコン を使った自学自 習システム)	15人程度の少人 数クラス編成	外国人教員に よる英語のみを 使用する授業	英米の文学や 文化を通して 英語を学ぶ授業	合計
仏教（名）	14	9	7	11	3	13	57
比率（%）	25	16	12	19	5	23	100
日文（名）	25	21	8	36	18	34	142
比率（%）	18	15	6	25	13	24	100
中国（名）	6	10	4	6	6	11	43
比率（%）	14	23	9	14	14	26	100
英米（名）	12	33	2	13	13	17	90
比率（%）	13	37	2	14	14	19	100
歴史（名）	39	23	11	20	16	28	137
比率（%）	28	17	8	15	12	20	100
歴史文（名）	19	10	4	11	7	27	78
比率（%）	24	13	5	14	9	35	100
教育（名）	32	39	5	49	25	22	172
比率（%）	19	23	3	28	15	13	100
臨床（名）	17	17	5	11	12	7	69
比率（%）	25	25	7	16	17	10	100
現社（名）	44	55	16	41	29	53	238
比率（%）	18	23	7	17	12	22	100
公共（名）	35	41	5	33	13	26	153
比率（%）	23	27	3	22	8	17	100
福祉（名）	72	58	10	92	31	44	307
比率（%）	23	19	3	30	10	14	100
理学（名）	10	9	0	8	4	11	42
比率（%）	24	21	0	19	10	26	100
作業（名）	6	10	4	9	5	6	40
比率（%）	15	25	10	23	13	15	100
合計（名）	331	335	81	340	182	299	1,568
比率（%）	21	21	5	22	12	19	100

1 回生終了時

	習熟度別（プレイ スメントテスト による学力別） のクラス編成	TOEICや英検等 の資格試験対策	CALL(パソコン を使った自学自 習システム)	15人程度の少人 数クラス編成	外国人教員に よる英語のみを 使用する授業	英米の文学や 文化を通して 英語を学ぶ授業	合計
仏教（名）	3	12	4	10	3	15	47
比率（%）	6	26	9	21	6	32	100
日文（名）	18	19	4	15	9	29	94
比率（%）	19	20	4	16	10	31	100
中国（名）	1	2	0	0	3	0	6
比率（%）	17	33	0	0	50	0	100
英米（名）	7	36	0	12	18	10	83
比率（%）	8	43	0	14	22	12	100
歴史（名）	15	37	4	12	7	26	101
比率（%）	15	37	4	12	7	26	100
歴史文（名）	10	4	1	7	1	22	45
比率（%）	22	9	2	16	2	49	100
教育（名）	28	31	5	43	24	33	164
比率（%）	17	19	3	26	15	20	100
臨床（名）	8	23	3	14	6	10	64
比率（%）	13	36	5	22	9	16	100
現社（名）	34	68	10	28	34	37	211
比率（%）	16	32	5	13	16	18	100
公共（名）	28	39	8	24	16	18	133
比率（%）	21	29	6	18	12	14	100
福祉（名）	55	50	17	73	50	36	281
比率（%）	20	18	6	26	18	13	100
理学（名）	8	6	3	7	6	10	40
比率（%）	20	15	8	18	15	25	100
作業（名）	9	3	5	4	3	6	30
比率（%）	30	10	17	13	10	20	100
合計（名）	224	330	64	249	180	252	1,299
比率（%）	17	25	5	19	14	19	100

この数字を見ると、学科ごとに随分違いが見られるところが興味深い。英米学科は「TOEIC や英検等の資格試験対策」に対するニーズが際立っているし、歴史文化学科は「英米の文学や文化を通して英語を学ぶ授業」へのニーズが際立っている。このあたりの学科ごとのニーズに応えていくことはそれぞれの学科の受講生のモチベーションを上げる上で重要になってくるだろう。

全体的に見てみると、「TOEIC や英検等の資格試験対策」の数値がやや高いことが分かる。

次に1年間の学修を経てこれらの数字がどう変化したのかを見てみたい。

「英語学習へのやる気を起こさせる上で重要だと思う英語教育への取り組み」への回答数の変化

(単位：%)

	習熟度別（プレイ スメントテストに よる学力別）の クラス編成	TOEICや英検等の 資格試験対策	CALL(パソコンを 使った自学自習 システム)	15人程度の少人数 クラス編成	外国人教員に よる英語のみを 使用する授業	英米の文学や 文化を通して 英語を学ぶ授業
仏教	-18	10	-4	2	1	9
日文	2	5	-1	-9	-3	7
中国	3	10	-9	-14	36	-26
英米	-5	7	-2	0	7	-7
歴史	-14	20	-4	-3	-5	5
歴史文	-2	-4	-3	1	-7	14
教育	-2	-4	0	-2	0	7
臨床	-12	11	-3	6	-8	5
現社	-2	9	-2	-4	4	-5
公共	-2	3	3	-4	4	-3
福祉	-4	-1	3	-4	8	-2
理学	-4	-6	8	-2	5	-1
作業	15	-15	7	-9	-3	5
合計	-4	4	0	-3	2	0

全体的にみると、1年間の学修を経て「TOEICや英検等の資格試験対策」が増えていることが分かる。ここ2年間の就職難が影響したのか、英語資格試験への意識が高くなっているようだ。

次に、授業において学生をやる気にさせる要因についてのアンケート結果を見てもらいたい。

Ⅲ 英語の授業を受ける際、あなたの英語学習へのやる気を起こさせる上で重要だと思うものを次の中から選んでください。

入学時

	クラスメイ トとの良好 な関係	教室内の 自由でリ ラックスし た雰囲気	学習者に興味 のある内容を 扱うこと	教師と学習 者の良好な 関係	教師がなるべ く多く英語で やりとりする 機会をつくる こと	学習者に自 信を持たせ るよう教師 が気を配る こと	学習者の自 主性を育て ること	教師の個性 や熱意	社会が英語学 習の価値を高 く評価してい ること	合計
仏教(名)	10	9	15	6	7	3	3	3	1	57
比率(%)	18	16	26	11	12	5	5	5	2	100
日文(名)	30	29	36	26	6	5	7	2	1	142
比率(%)	21	20	25	18	4	4	5	1	1	100
中国(名)	12	6	10	6	1	0	4	4	0	43
比率(%)	28	14	23	14	2	0	9	9	0	100
英米(名)	21	11	18	23	7	0	5	2	3	90
比率(%)	23	12	20	26	8	0	6	2	3	100
歴史(名)	29	29	34	14	9	8	2	11	1	137
比率(%)	21	21	25	10	7	6	1	8	1	100
歴史文(名)	4	26	26	9	3	4	3	2	1	78
比率(%)	5	33	33	12	4	5	4	3	1	100
教育(名)	38	33	32	20	25	9	4	7	4	172
比率(%)	22	19	19	12	15	5	2	4	2	100
臨床(名)	15	12	16	6	6	2	5	5	2	69
比率(%)	22	17	23	9	9	3	7	7	3	100

	クラスメイ トとの良好 な関係	教室内の自 由でリラッ クスした雰 囲気	学習者に興味 のある内容を 扱うこと	教師と学習 者の良好な 関係	教師がなるべ く多く英語で やりとりする 機会をつくる こと	学習者に自 信を持たせ るよう教師 が気を配る こと	学習者の自 主性を育て ること	教師の個性 や熱意	社会が英語学 習の価値を高 く評価してい ること	合計
現社(名)	70	60	51	20	19	12	2	3	1	238
比率(%)	29	25	21	8	8	5	1	1	0	100
公共(名)	44	38	31	10	8	11	4	5	2	153
比率(%)	29	25	20	7	5	7	3	3	1	100
福祉(名)	95	60	62	51	16	4	6	5	7	306
比率(%)	31	20	20	17	5	1	2	2	2	100
理学(名)	7	4	13	9	1	1	3	3	1	42
比率(%)	17	10	31	21	2	2	7	7	2	100
作業(名)	7	7	13	6	2	2	1	2	0	40
比率(%)	18	18	33	15	5	5	3	5	0	100
合計(名)	382	324	357	206	110	61	49	54	24	1,567
比率(%)	24	21	23	13	7	4	3	3	2	100

1 回生終了時

	クラスメイ トとの良好 な関係	教室内の自 由でリラッ クスした雰 囲気	学習者に興味 のある内容を 扱うこと	教師と学習 者の良好な 関係	教師がなるべ く多く英語で やりとりする 機会をつくる こと	学習者に自 信を持たせ るよう教師 が気を配る こと	学習者の自 主性を育て ること	教師の個性 や熱意	社会が英語学 習の価値を高 く評価してい ること	合計
仏教(名)	11	9	10	6	2	2	2	2	3	47
比率(%)	23	19	21	13	4	4	4	4	6	100
日文(名)	23	15	25	10	6	2	4	5	4	94
比率(%)	24	16	27	11	6	2	4	5	4	100
中国(名)	1	0	3	0	0	0	0	0	1	5
比率(%)	20	0	60	0	0	0	0	0	20	100
英米(名)	11	11	25	13	12	2	4	2	3	83
比率(%)	13	13	30	16	14	2	5	2	4	100
歴史(名)	20	23	24	9	5	2	8	7	2	100
比率(%)	20	23	24	9	5	2	8	7	2	100
歴史文(名)	5	7	15	5	2	5	2	3	1	45
比率(%)	11	16	33	11	4	11	4	7	2	100
教育(名)	47	34	35	15	15	2	9	6	1	164
比率(%)	29	21	21	9	9	1	5	4	1	100
臨床(名)	17	13	14	4	1	1	3	7	4	64
比率(%)	27	20	22	6	2	2	5	11	6	100
現社(名)	66	44	45	27	9	5	9	5	2	212
比率(%)	31	21	21	13	4	2	4	2	1	100
公共(名)	35	32	26	20	6	6	3	3	2	133
比率(%)	26	24	20	15	5	5	2	2	2	100
福祉(名)	72	55	60	49	19	9	4	6	4	278
比率(%)	26	20	22	18	7	3	1	2	1	100
理学(名)	9	8	13	2	1	2	1	3	1	40
比率(%)	23	20	33	5	3	5	3	8	3	100
作業(名)	8	7	9	4	0	1	1	0	0	30
比率(%)	27	23	30	13	0	3	3	0	0	100
合計(名)	325	258	304	164	78	39	50	49	28	1,295
比率(%)	25	20	23	13	6	3	4	4	2	100

「クラスメイトとの良好な関係」、「教室内の自由でリラックスした雰囲気」、「学習者に興味のある内容を扱うこと」、「教師と学習者の良好な関係」あたりの数値が高くなっている。続いて1年間の学修を経てこの数字がどう変化したのかが以下の表となっている。

「英語の授業を受ける際、あなたの英語学習へのやる気を起こさせる上で重要だと思うもの」の回答数の変化 (単位：%)

	クラスメイトとの良好な関係	教室内の自由でリラックスした雰囲気	学習者に興味のある内容を扱うこと	教師と学習者の良好な関係	教師がなるべく多く英語でやりとりする機会をつくること	学習者に自信を持たせるよう教師が気を配ること	学習者の自主性を育てること	教師の個性や熱意	社会が英語学習の価値を高く評価していること
仏教	6	3	-5	2	-8	-1	-1	-1	5
日文	3	-4	1	-8	2	-1	-1	4	4
中国	-8	-14	37	-14	-2	0	-9	-9	20
英米	-10	1	10	-10	7	2	-1	0	0
歴史	-1	2	-1	-1	-2	-4	7	-1	1
歴史文	6	-18	0	0	1	6	1	4	1
教育	7	2	3	-2	-5	-4	3	0	-2
臨床	5	3	-1	-2	-7	-1	-3	4	3
現社	2	-4	0	4	-4	-3	3	1	1
公共	-2	-1	-1	9	-1	-3	0	-1	0
福祉	-5	0	1	1	7	3	1	2	-1
理学	6	10	2	-16	0	3	-5	0	0
作業	9	6	-3	-2	-5	-2	1	-5	0
合計	1	-1	1	0	-1	-1	1	0	1

1年間の学修を経て変化はほとんど見られない。

次に、必要だと思う英語のスキルについてのアンケート結果は以下のようになっている。

IV あなたが自分に最も必要だと思う英語のスキルを次から選んでください

入学時

	リスニング	スピーキング	ライティング	リーディング	語彙	文法	合計
仏教(名)	11	17	5	9	6	9	57
比率(%)	19	30	9	16	11	16	100
日文(名)	18	53	7	18	25	21	142
比率(%)	13	37	5	13	18	15	100
中国(名)	13	17	2	1	6	4	43
比率(%)	30	40	5	2	14	9	100
英米(名)	23	47	3	8	4	5	90
比率(%)	26	52	3	9	4	6	100
歴史(名)	24	63	5	15	15	15	137
比率(%)	18	46	4	11	11	11	100
歴史文(名)	11	20	8	10	18	11	78
比率(%)	14	26	10	13	23	14	100
教育(名)	40	79	7	15	21	10	172
比率(%)	23	46	4	9	12	6	100
臨床(名)	11	29	1	9	17	2	69
比率(%)	16	42	1	13	25	3	100
現社(名)	47	100	13	26	26	26	238
比率(%)	20	42	5	11	11	11	100
公共(名)	23	68	7	23	16	16	153
比率(%)	15	44	5	15	10	10	100

	リスニング	スピーキング	ライティング	リーディング	語彙	文法	合計
福祉 (名)	67	117	24	27	34	38	307
比率 (%)	22	38	8	9	11	12	100
理学 (名)	12	15	3	3	6	3	42
比率 (%)	29	36	7	7	14	7	100
作業 (名)	7	15	4	4	6	4	40
比率 (%)	18	38	10	10	15	10	100
合計 (名)	307	640	89	168	200	164	1,568
比率 (%)	20	41	6	11	13	10	100

1 回生終了時

	リスニング	スピーキング	ライティング	リーディング	語彙	文法	合計
仏教 (名)	10	19	5	1	7	5	47
比率 (%)	21	40	11	2	15	11	100
日文 (名)	20	40	3	5	18	8	94
比率 (%)	21	43	3	5	19	9	100
中国 (名)	0	3	0	0	2	0	5
比率 (%)	0	60	0	0	40	0	100
英米 (名)	21	46	1	5	2	8	83
比率 (%)	25	55	1	6	2	10	100
歴史 (名)	19	50	2	10	8	12	101
比率 (%)	19	50	2	10	8	12	100
歴史文 (名)	7	21	1	5	9	2	45
比率 (%)	16	47	2	11	20	4	100
教育 (名)	47	77	0	14	16	10	164
比率 (%)	29	47	0	9	10	6	100
臨床 (名)	28	17	3	5	10	1	64
比率 (%)	44	27	5	8	16	2	100
現社 (名)	48	94	12	20	18	19	211
比率 (%)	23	45	6	9	9	9	100
公共 (名)	31	55	5	26	9	7	133
比率 (%)	23	41	4	20	7	5	100
福祉 (名)	67	128	8	31	29	17	280
比率 (%)	24	46	3	11	10	6	100
理学 (名)	13	17	2	4	4	0	40
比率 (%)	33	43	5	10	10	0	100
作業 (名)	10	10	1	3	3	3	30
比率 (%)	33	33	3	10	10	10	100
合計 (名)	321	577	43	129	135	92	1,297
比率 (%)	25	44	3	10	10	7	100

「最も必要だと思う英語のスキル」への回答の変化

(単位：%)

	リスニング	スピーキング	ライティング	リーディング	語彙	文法
仏教	2	11	2	-14	4	-5
日文	9	5	-2	-7	2	-6
中国	-30	20	-5	-2	26	-9
英米	0	3	-2	-3	-2	4
歴史	1	4	-2	-1	-3	1
歴史文	1	21	-8	-2	-3	-10
教育	5	1	-4	0	-2	0
臨床	28	-15	3	-5	-9	-1
現社	3	3	0	-1	-2	-2
公共	8	-3	-1	5	-4	-5
福祉	2	8	-5	2	-1	-6
理学	4	7	-2	3	-4	-7
作業	16	-4	-7	0	-5	0
合計	5	4	-2	-1	-2	-3

十分予想されたことであるが、やはりリスニングやスピーキングへの苦手意識が強いようだ。1年間を経てさらにその数値が上がっていることから、その苦手意識が増え続けていることが分かる。

次に、学生が英語を学習する理由についてどう考えているのかについての結果は次のようになっている。

V 次のうちあなたが英語を学習する理由として最も大きなものを選んでください

入学時

	自分とは異なる文化圏の人々と友達になりたいから	外国へ旅行したいから	英米文化に興味があるから	教養として英語は大切だから	将来の就職や留学のため	国際社会の中で国際的な視野を持って働くため	英米の音楽に興味があるから	なんとなく必要性を感じるから	さまざまな情報を得るための手段として必要だから	合計
仏教(名)	2	5	4	7	11	4	2	15	7	57
比率(%)	4	9	7	12	19	7	4	26	12	100
日文(名)	12	24	8	39	21	7	6	16	9	142
比率(%)	8	17	6	27	15	5	4	11	6	100
中国(名)	5	8	2	4	9	6	0	8	1	43
比率(%)	12	19	5	9	21	14	0	19	2	100
英米(名)	9	10	6	5	42	7	4	4	3	90
比率(%)	10	11	7	6	47	8	4	4	3	100
歴史(名)	11	18	8	38	25	6	6	16	9	137
比率(%)	8	13	6	28	18	4	4	12	7	100
歴史文(名)	5	9	3	21	11	7	2	16	4	78
比率(%)	6	12	4	27	14	9	3	21	5	100
教育(名)	18	22	3	60	29	11	2	20	7	172
比率(%)	10	13	2	35	17	6	1	12	4	100
臨床(名)	6	12	3	22	8	5	3	5	5	69
比率(%)	9	17	4	32	12	7	4	7	7	100
現社(名)	22	29	4	59	56	17	7	32	12	238
比率(%)	9	12	2	25	24	7	3	13	5	100

	自分とは異なる文化圏の人々と友達になりたいから	外国へ旅行したいから	英米文化に興味があるから	教養として英語は大切だから	将来の就職や留学のため	国際社会の中で国際的な視野を持って働くため	英米の音楽に興味があるから	なんとなく必要性を感じるから	さまざまな情報を得るための手段として必要だから	合計
公共(名)	7	13	2	49	33	16	1	24	8	153
比率(%)	5	8	1	32	22	10	1	16	5	100
福祉(名)	31	46	10	95	38	21	5	44	17	307
比率(%)	10	15	3	31	12	7	2	14	6	100
理学(名)	3	8	0	12	5	7	1	3	3	42
比率(%)	7	19	0	29	12	17	2	7	7	100
作業(名)	2	6	1	9	6	6	1	8	1	40
比率(%)	5	15	3	23	15	15	3	20	3	100
合計(名)	133	210	54	420	294	120	40	211	86	1,568
比率(%)	8	13	3	27	19	8	3	13	5	100

1 回生終了時

	自分とは異なる文化圏の人々と友達になりたいから	外国へ旅行したいから	英米文化に興味があるから	教養として英語は大切だから	将来の就職や留学のため	国際社会の中で国際的な視野を持って働くため	英米の音楽に興味があるから	なんとなく必要性を感じるから	さまざまな情報を得るための手段として必要だから	合計
仏教(名)	1	2	2	16	8	2	4	7	5	47
比率(%)	2	4	4	34	17	4	9	15	11	100
日文(名)	6	12	4	29	13	5	6	11	7	93
比率(%)	6	13	4	31	14	5	6	12	8	100
中国(名)	0	0	2	2	0	0	0	1	0	5
比率(%)	0	0	40	40	0	0	0	20	0	100
英米(名)	6	12	8	17	28	4	3	1	4	83
比率(%)	7	14	10	20	34	5	4	1	5	100
歴史(名)	6	15	4	24	23	6	2	17	4	101
比率(%)	6	15	4	24	23	6	2	17	4	100
歴史文(名)	2	7	3	9	8	1	2	8	5	45
比率(%)	4	16	7	20	18	2	4	18	11	100
教育(名)	14	24	3	60	28	7	6	16	6	164
比率(%)	9	15	2	37	17	4	4	10	4	100
臨床(名)	3	12	0	13	15	4	4	8	5	64
比率(%)	5	19	0	20	23	6	6	13	8	100
現社(名)	12	41	2	40	59	18	8	18	14	212
比率(%)	6	19	1	19	28	8	4	8	7	100
公共(名)	9	25	6	31	27	5	2	24	4	133
比率(%)	7	19	5	23	20	4	2	18	3	100
福祉(名)	11	59	11	91	32	12	4	40	16	276
比率(%)	4	21	4	33	12	4	1	14	6	100
理学(名)	4	3	0	11	4	3	1	8	6	40
比率(%)	10	8	0	28	10	8	3	20	15	100
作業(名)	2	4	2	6	6	3	0	6	1	30
比率(%)	7	13	7	20	20	10	0	20	3	100
合計(名)	76	216	47	349	251	70	42	165	77	1,293
比率(%)	6	17	4	27	19	5	3	13	6	100

「英語を学習する理由」への回答の変化

(単位：%)

	自分とは異なる文化圏の人々と友達になりたいから	外国へ旅行したいから	英米文化に興味があるから	教養として英語は大切だから	将来の就職や留学のため	国際社会の中で国際的な視野を持って働くため	英米の音楽に興味があるから	なんとなく必要性を感じるから	さまざまな情報を得るための手段として必要だから
仏教	-1	-5	-3	22	-2	-3	5	-11	-2
日文	-2	-4	-1	4	-1	0	2	1	1
中国	-12	-19	35	31	-21	-14	0	1	-2
英米	-3	3	3	15	-13	-3	-1	-3	1
歴史	-2	2	-2	-4	5	2	-2	5	-3
歴史文	-2	4	3	-7	4	-7	2	-3	6
教育	-2	2	0	2	0	-2	2	-2	0
臨床	-4	1	-4	-12	12	-1	2	5	1
現社	-4	7	-1	-6	4	1	1	-5	2
公共	2	10	3	-9	-1	-7	1	2	-2
福祉	-6	6	1	2	-1	-2	0	0	0
理学	3	-12	0	-1	-2	-9	0	13	8
作業	2	-2	4	-3	5	-5	-3	0	1
合計	-3	3	0	0	1	-2	1	-1	0

多かった答えは「教養として英語は大切だから」、「将来の就職や留学のため」、「外国へ旅行したいから」、「なんとなく必要性を感じるから」となっている。将来の就職や留学や外国旅行は良いとしても、「教養としての大切」や「なんとなく必要性を感じている」という答えは、学習への動機づけの欠如を表しているようにも見える。もう少し明確な学習への動機づけを持たせるためにも、教師はなぜ英語学習が必要なのかを学生に向けてアピールする必要があるのではないだろうか。

最後に、授業時間以外で学生がどれくらい英語学習に時間を費やしているかについてのアンケート結果を見てみたい。

VI あなたは授業時間以外で週に何時間くらい英語の勉強をしていますか？

入学時

	全くして いない	30分未満	30分～ 1時間未満	1時間～ 1時間30分 未満	1時間30分 ～2時間 未満	2時間～ 2時間30分 未満	2時間30分 ～3時間 未満	3時間以上	合計
仏教(名)	38	10	1	6	1	0	0	1	57
比率(%)	67	18	2	11	2	0	0	2	100
日文(名)	69	29	16	19	4	1	0	4	142
比率(%)	49	20	11	13	3	1	0	3	100
中国(名)	30	5	4	2	1	1	0	0	43
比率(%)	70	12	9	5	2	2	0	0	100
英米(名)	30	16	13	16	7	3	1	3	89
比率(%)	34	18	15	18	8	3	1	3	100
歴史(名)	70	11	22	24	3	1	4	2	137
比率(%)	51	8	16	18	2	1	3	1	100
歴史文(名)	37	16	2	18	3	0	1	1	78
比率(%)	47	21	3	23	4	0	1	1	100
教育(名)	95	25	21	21	5	1	3	1	172
比率(%)	55	15	12	12	3	1	2	1	100

	全くして いない	30分未満	30分～ 1時間未満	1時間～ 1時間30分 未満	1時間30分 ～2時間 未満	2時間～ 2時間30分 未満	2時間30分 ～3時間 未満	3時間以上	合計
臨床(名)	42	8	6	8	2	0	2	1	69
比率(%)	61	12	9	12	3	0	3	1	100
現社(名)	148	24	19	32	5	4	4	2	238
比率(%)	62	10	8	13	2	2	2	1	100
公共(名)	99	17	9	17	3	2	4	2	153
比率(%)	65	11	6	11	2	1	3	1	100
福祉(名)	182	41	31	35	9	4	2	2	306
比率(%)	59	13	10	11	3	1	1	1	100
理学(名)	21	6	6	5	2	1	0	1	42
比率(%)	50	14	14	12	5	2	0	2	100
作業(名)	23	5	3	5	2	1	1	0	40
比率(%)	58	13	8	13	5	3	3	0	100
合計(名)	884	213	153	208	47	19	22	20	1,566
比率(%)	56	14	10	13	3	1	1	1	100

1 回生終了時

	全くして いない	30分未満	30分～ 1時間未満	1時間～ 1時間30分 未満	1時間30分 ～2時間 未満	2時間～ 2時間30分 未満	2時間30分 ～3時間 未満	3時間以上	合計
仏教(名)	23	10	5	7	1	0	0	1	47
比率(%)	49	21	11	15	2	0	0	2	100
日文(名)	34	20	13	19	4	0	3	0	93
比率(%)	37	22	14	20	4	0	3	0	100
中国(名)	4	1	0	0	0	0	0	0	5
比率(%)	80	20	0	0	0	0	0	0	100
英米(名)	23	10	15	21	3	2	6	3	83
比率(%)	28	12	18	25	4	2	7	4	100
歴史(名)	37	20	12	15	6	3	5	3	101
比率(%)	37	20	12	15	6	3	5	3	100
歴文(名)	16	9	3	10	2	3	2	0	45
比率(%)	36	20	7	22	4	7	4	0	100
教育(名)	72	42	25	17	4	1	2	1	164
比率(%)	44	26	15	10	2	1	1	1	100
臨床(名)	26	20	5	10	1	0	1	1	64
比率(%)	41	31	8	16	2	0	2	2	100
現社(名)	98	34	24	36	12	3	4	0	211
比率(%)	46	16	11	17	6	1	2	0	100
公共(名)	60	18	12	27	8	2	4	2	133
比率(%)	45	14	9	20	6	2	3	2	100
福祉(名)	111	47	44	53	9	1	7	4	276
比率(%)	40	17	16	19	3	0	3	1	100
理学(名)	29	4	3	3	0	1	0	0	40
比率(%)	73	10	8	8	0	3	0	0	100
作業(名)	12	6	6	2	1	0	3	0	30
比率(%)	40	20	20	7	3	0	10	0	100
合計(名)	545	241	167	220	51	16	37	15	1,292
比率(%)	42	19	13	17	4	1	3	1	100

2010年度は前年度に比べて「全くしていない」の率が低下している。入学時で62%（2009年度）→56%（2010年度）、終了時で47%（2009年度）→42%（2010年度）に減少している。これだけを見ると、2010年度の学生は授業時間以外の学習時間を増やしているようだ。

「授業時間以外での英語の学習時間」への回答の変化

（単位：％）

	全くして いない	30分未満	30分～ 1時間未満	1時間～ 1時間30分 未満	1時間30分 ～2時間 未満	2時間～ 2時間30分 未満	2時間30分 ～3時間 未満	3時間以上
仏教	-18	4	9	4	0	0	0	0
日文	-12	1	3	7	1	-1	3	-3
中国	10	8	-9	-5	-2	-2	0	0
英米	-6	-6	3	7	-4	-1	6	0
歴史	-14	12	-4	-3	4	2	2	2
歴史文	-12	-1	4	-1	1	7	3	-1
教育	-11	11	3	-2	0	0	-1	0
臨床	-20	20	-1	4	-1	0	-1	0
現社	-16	6	3	4	4	0	0	-1
公共	-20	2	3	9	4	0	0	0
福祉	-19	4	6	8	0	-1	2	1
理学	23	-4	-7	-4	-5	0	0	-2
作業	-18	8	13	-6	-2	-3	8	0
合計	-14	5	3	4	1	0	1	0

全体的に「全くしていない」の割合が大きく減って、「30分未満」から「1時間～1時間30分」あたりが増えている。これはいい傾向である。

9. おわりに

前年度の『FD Review Vol.5——2009年度の総括——』による報告では、英語基礎力調査の結果を受けて前年度1回生の英語力の全体的な傾向は、ここ数年続いた「伸び悩み」から一転し、2004年の英語基礎力調査開始以来最も生産的な1年となったと総括されている。1年間の学修を経たスコアの伸びは過去最高を記録しており、しかも全学科でプラスの伸びが見られた。特に注目すべきは人文学科におけるスコアの伸びであったが、英語基礎力調査と同時に進められているアンケートの結果からは、人文学科において、1年間の学修を経て英語学習への顕著なモチベーションの上昇も見られた。

ただ総じて明るい内容ばかりが目立つ前年度の調査結果で少し気になるのが保健医療技術学部であった。ここ数年続いているスコアの下落傾向、及び1年間の学修を経た伸び率の悪さが続いており、今後改善していかなければならない課題となっていた。

さて2010年度に関してであるが、まず入学時のスコアは前年度よりも下落し、ここ3年連続しての下落となっている。2004年度の調査開始以来2番目に悪いスコアとなっている。前年度同様、教育学科と保健医療技術学部が高いスコアを出しているものの、両学部とも前年度よりスコアは下落している。学科別では、理学療法学科が1番高い成績をあげているが、やはり前年度に比べると3点低下しており、同学科におけるここ数年のスコ

アの悪化傾向に歯止めはかかっていない。2010年度の学部学科改組により、前年度との比較が難しくなるが、簡単に順位を紹介すると、2009年度の順位は、理学→教育→英米→臨床→作業→福祉→現社→人文→公共→中国となっていたのに対し、2010年度は、理学→教育→英米→臨床→作業→日文→歴史→福祉→歴史→現社→公共→中国→仏教という順位になっている。

次に1回生終了時のスコアについてであるが、2010年度は過去2番目に悪いスコアとなってしまった。前年度の素晴らしい結果からは一歩後退してしまったと言える。一応簡単に学科別順位だけまとめておくと、前年度は、英米→教育→理学→臨床→福祉→作業→人文→現社→公共となっていたのだが、2010年度は、英米→理学→臨床→教育→歴史→日文→作業→歴史→福祉→現社→公共→仏教となっている。

1年間を経たスコアの伸びについてであるが、前年度は+7.4という過去最高の伸びを記録し、調査が開始された2004年度以降で最も生産的な1年となったのであるが、2010年度はスコアの伸びが+5.5と、決して悪い数字ではないものの前年度の素晴らしい伸びには届かなかった。学部で言うと歴史学部の健闘が目立った。学科別で見ても、歴史文化学科と歴史学科は英米学科に続いて、2位と3位という素晴らしい結果を残している。さらに臨床心理学科と現代社会学科の健闘も目立っている。その一方で、理学療法学科と教育学科は入学時スコアが1位と2位という高い学力を示していただけに1年間の学修を経ての伸び悩みは大いに気になるところである。さらに気になるのは公共政策学科で、-0.5とわずかながらマイナスの伸び（つまり1年間の学修を経て学力が低下している）を記録している。

TOEIC Bridge 150点以上の人数であるが、これも過去最低レベルの悪い結果が出ており、2010年度は全体的にも伸び悩んだが、得点の上位層も伸び悩んだ結果となった。

サブスコアについては、毎年傾向としてVocabularyとGrammarにおいて学力の伸び悩みが見られるのであるが、今回は少し変わっていて、Grammarについては例年通りの伸び悩みが見られるのであるが、Vocabularyは順調な伸びを示している。その代わりに例年に比べFunctions（言葉のはたらき）に伸び悩みが見られる結果となっている。

次に英語基礎力調査アンケート結果についてであるが、まずモチベーションについては、日本文学科と英米学科では明らかなモチベーションのアップが見られたが、その他の学科では総じてダウンしているのが分かった。1年間の学修を経ていかに受講生に英語学習へのやる気を起こさせるかというのが今後の佛教大学における英語教育の大きな課題であると言える。

英語教育への取り組みについては、全体的には「TOEICや英検等の資格試験対策」の数値がやや高く、しかもこの数値は1年間の学修を経て増えている。ここ2年間の就職難が影響したのか、英語資格試験への意識が高くなっているようだ。

英語の授業でやる気を起こさせる上で重要だと考えるものについては、「クラスメイトとの良好な関係」、「教室内の自由でリラックスした雰囲気」、「学習者に興味のある内容を扱うこと」、「教師と学習者の良好な関係」あたりの数値が高いが、これは例年と同じである。自分に必要なスキルについては、やはりリスニングやスピーキングへの苦手意識が強いようだ。1年間を経てその数値が上がっていることから、その苦手意識が増え続けていることが分かる。

英語を学習する理由については、前年度同様、学習への動機づけの欠如を表すような結果が出ている。明確な学習への動機づけを持たせるためにも、教師はなぜ英語学習が必要なのかを学生に向けてアピールする必要がある。

授業時間以外での英語の学習時間については、前年度に比べ少し変化がみられる。2010年度は前年度に比べて「全くしていない」の率が低下している。入学時で62%（2009年度）→56%（2010年度）、終了時で47%（2009年度）→42%（2010年度）に減少している。また1年間の学修を経た学習時間についても、全体的に「全くしていない」の割合が大きく減って、「30分未満」から「1時間～1時間30分」あたりが増えており、これは良い傾向であると言える。

今後とも、他の教授法開発室室員や英語担当教員とこのデータを共有し、様々な意見を提供してもらい、考察を続けていきたい。

第1回学部スコア

理学	133.3
教育	131.2
英米	129.8
臨床	128.7
作業	123.6
日文	123.3
歴史	121.9
福祉	119.3
歴史文	116.9
現社	114.9
公共	112.9
中国	110.6
仏教	106.2

第2回学部スコア

英米	141.2
臨床	136.1
理学	135.9
教育	133.1
歴史	128.9
日文	128.3
作業	127.6
歴史文	126.4
福祉	124.4
中国	122.8
現社	121.8
公共	112.3
仏教	108.4

FD Review

基礎學力調查

基礎学力調査の結果報告

—入学前教育の必要性を中心にして—

教授法開発室員 近藤敏夫

1. 調査の概要

教授法開発室では2000年度の新入生より基礎学力調査を実施してきた。2010年度はその11回目にあたる。試験問題は2000年度と2001年度がA社の就職対策用問題を使用し、2002年度から2008年度までがB社の就職対策用問題を使用してきた。2001年度から2008年度までは対象者を1回生と3回生にした。なお、実施時期は春学期オリエンテーション期間である。

2009年度からはC社の「学習調査」（国語40分）と「学習実態調査」（20分）を併用することとし、対象者も1回生のみとした。受験日は春学期オリエンテーション期間（2010年4月3日）で、受験率は新入生1,624人中、受験者1,569人（96.6%）であった。

「学習調査」の科目に国語を選定した理由は、大学の学習に必要とされる基礎学力であると判断したからである。問題の構成は、「語彙・表現」、「論理的文章読解」、「情緒的文章読解」の3つに分かれている。

2 国語の学力

図表1はC社が定めている国語の学力の評価基準である。評価基準はC社の大学受験用模擬試験（毎年約40万人が受験）を参考にして定められている。この基準は6段階に分かれている。AランクとBランクが大学の学習に支障が出ない学力である。C+以下のランクでは国語の基礎学力を身につける必要がある。なお、試験結果は受験者個人に送付され、学生は自分のレベルを知ることができる。

図表1 国語の学力の評価基準

評価	評価の意味
A	文章を読むための基本的な語彙及び読解手法は習得できている。 大学での講義やテキストの読み込み・理解など、問題ないレベルである。
B	文章を読むための基本的な語彙及び読解手法は概ね習得できている。 大学での講義やテキストの読み込みなどには、ついていけるレベルである。
C+	文章を読むための基本的な語彙及び読解手法はおおよそ習得できているが、大学でのテキストの読み込み・講義の理解などには若干の支障を来す可能性がある。
C-	文章を読むための基本的な語彙及び読解手法はある程度習得できているが、大学での講義や与えられたテキストの内容理解には支障を来す恐れがあり、何らかの補習が必要である。
D+	文章を読むための基本的な語彙及び読解手法の習得に問題が見られ、大学での講義や一般書・新聞等の内容理解がままならないと思われる。学生の学習理解の状況を調査する必要がある。
D-	文章を読むための基本的な語彙及び読解手法が習得できておらず、大学での講義のみならず、一般書や新聞等の読み取りもままならないと思われる。しっかりとしたフォローが必要。

図表2は国語の学力(学科別)である。全体の平均点は52.1(2009年度:52.4)であった。評価基準のAとBの合計は46.2%(2009年度:49.5%)であった。つまり、本学の新生の半数以上が大学の学習に必要とされる国語の学力を身につけていないことになる。

学科別に国語の平均点をみると、「歴史文化」(62.6)、「教育」(58.3)、「歴史」(58.2)の順に高かった。標準偏差(得点のバラツキ)をみると、「仏教」(16.5)、「歴史」(16.3)、「作業療法」(16.3)の順で高かった。歴史学部は全体的に高得点者が多いけれども、「歴史学科」に限ってみると高得点から低得点までバラツキが大きい。評価基準のAとBの合計が50%を超える学科は、「歴史文化」(74.6%)、「教育」(64.8%)、「歴史」(59.2%)、「日本文」(59.0%)「臨床心理」(58.0%)の5学科である。他の8学科では半数以上の学生が大学の学習に支障を来すレベルであると考えられる。

図表3で、入試種別の平均点をみると、「センター後期」(59.0)、「センター前期」(57.0)、「A日程」(54.6)の順に高く、その他の入試種別の順位も過去11年間の基礎学力調査とほぼ同様の結果であった(詳しくはFD Review vol.1～vol.5を参照のこと)。

入試種別の標準偏差をみると、「同窓推薦」(18.2)、「B日程」(16.3)、「センター後期」(15.4)の順で高く、とくに「同窓推薦」で高得点者から低得点者までバラツキが大きいことが分る。

評価基準のAとBを合計して50%を超える入試種別は、「センター後期」(64.1%)、「センター前期」(55.9%)、「B日程」(55.2%)、「同窓推薦」(52.4%)、「A日程」(51.4%)であった。その他の9つの入試種別では半数以上の学生が国語の基礎学力を身につける必要がある。また、「同窓推薦」はB(38.1%)が一番多いが、C-(14.3%)とD-(14.3%)も多く、学力の低いレベルの割合が比較的高い。

教授法開発室では、2010年度から本格的に入学前教育を開始した(2011年度新生対象)。その際の留意点は、入試種別にグループ分けをし、学生の基礎学力に応じた課題を与えることである。Aグループ(スポーツ強化枠、課外活動、宗門後継者)は、国語の平均点が30点代、Bグループ(AO選抜、指定校推薦、教育連携校、法人系列校、同窓推薦)は国語の平均点が40点代となっている。評価基準でも、Aグループでは「C-」以下の学生が多く、国語の基礎学力を身につける必要がある。そこで、Aグループの学生には入学前教育で平易な国語の問題を課すことになった。

なお、図表3では入学前教育を実施しなかった学生をCグループ(公募制推薦、A日程、B日程、センター前期、センター後期)に分類しているが、Cグループの国語の平均点は50点代と高い。

(注意:図表の数値を合計したとき本文中の合計数値と小数点第1位が0.1ずれて記載されることがある。これは図表では小数点第2位以下が四捨五入されて表記されるためである。以下同様。)

図表2 国語得点 (学科別)

		平均点	標準偏差	A	B	C+	C-	D+	D-
	全体 1,569人	52.1	16.0	20.5%	25.6%	20.5%	17.9%	10.3%	5.1%
仏教学部	仏教 59人	47.0	16.5	10.2%	20.3%	27.1%	23.7%	15.3%	3.4%
文学部	日本 139人	56.3	16.1	23.7%	35.3%	19.4%	14.4%	5.8%	1.4%
	中国 48人	43.4	16.2	6.3%	22.9%	20.8%	18.8%	22.9%	8.3%
	英米 85人	45.8	15.3	10.6%	18.8%	23.5%	28.2%	10.6%	8.2%
歴史学部	歴史 137人	58.2	16.3	28.5%	30.7%	23.4%	10.9%	5.8%	0.7%
	歴史文 79人	62.6	13.2	35.4%	39.2%	17.7%	7.6%	0.0%	0.0%
教育学部	教育 176人	58.3	15.5	29.0%	35.8%	17.6%	11.9%	4.0%	1.7%
	臨床 69人	55.8	15.3	26.1%	31.9%	18.8%	17.4%	5.8%	0.0%
社会学部	現社 238人	50.5	15.4	12.6%	31.5%	23.5%	18.9%	10.1%	3.4%
	公共 155人	48.1	14.6	10.3%	25.8%	22.6%	29.0%	8.4%	3.9%
社会福祉学部	社福 303人	47.9	14.2	7.9%	28.4%	26.4%	22.4%	10.2%	4.6%
保健医療学部	理学 42人	51.2	15.1	21.4%	19.0%	19.0%	38.1%	2.4%	0.0%
	作業 39人	51.8	16.3	20.5%	25.6%	20.5%	17.9%	10.3%	5.1%

※図表中の学科名称は「日本」が「日本文」、「歴史文」が「歴史文化」、「臨床」が「臨床心理」、「現社」が「現代社会」、「公共」が「公共政策」、「社福」が「社会福祉」、「理学」が「理学療法」、「作業」は「作業療法」である。以下の図表も同様。

図表3 国語得点 (入試種別)

		平均点	標準偏差	A	B	C+	C-	D+	D-
	全体 1,569人	52.1	16.0	20.5%	25.6%	20.5%	17.9%	10.3%	5.1%
Aグループ	スポーツ強化枠 20人	34.5	14.0	0.0%	10.0%	15.0%	30.0%	15.0%	30.0%
	課外活動 32人	38.8	15.2	3.1%	18.8%	18.8%	28.1%	9.4%	21.9%
	宗門後継者 13人	35.9	12.2	0.0%	7.7%	15.4%	46.2%	23.1%	7.7%
Bグループ	AO選抜 25人	40.8	13.1	4.0%	12.0%	16.0%	40.0%	24.0%	4.0%
	指定校推薦 115人	43.6	14.3	5.2%	19.1%	23.5%	25.2%	21.7%	5.2%
	教育連携校 20人	47.4	13.4	5.0%	25.0%	30.0%	25.0%	10.0%	5.0%
	法人系列校 23人	41.2	12.9	0.0%	17.4%	30.4%	21.7%	26.1%	4.3%
	同窓推薦 21人	49.8	18.2	14.3%	38.1%	9.5%	14.3%	9.5%	14.3%
Cグループ	公募制推薦 360人	52.9	14.6	17.2%	31.7%	25.0%	18.1%	6.4%	1.7%
	A日程 523人	54.6	15.7	21.2%	30.2%	22.9%	18.9%	4.6%	2.1%
	B日程 286人	54.0	16.3	19.2%	36.0%	17.5%	16.8%	8.7%	1.7%
	センター前期 34人	57.0	14.2	29.4%	26.5%	29.4%	11.8%	2.9%	0.0%
	センター後期 67人	59.0	15.4	31.3%	32.8%	20.9%	10.4%	4.5%	0.0%
	不明者 27人	50.7	12.2	11.1%	25.9%	33.3%	22.2%	7.4%	0.0%

※入試種別の「帰国生徒」は3人と少ないため統計量を表記せず

「スポーツ強化枠」は「特別推薦入試(スポーツ強化枠)」、「課外活動」は「特別推薦入試(課外活動)」

「指定校推薦」は「特別推薦入試(指定校)」、「教育連携校」は「特別推薦入試(教育連携校)」

「法人系列校」は「特別推薦入試(法人系列校)」、「同窓推薦」は「特別推薦入試(同窓)」

「A日程」は「一般入試A日程」、「B日程」は「一般入試B日程」、「センター前期」は「大学入試センター試験利用入試(前期)」

「センター後期」は「大学入試センター試験利用入試(後期)」

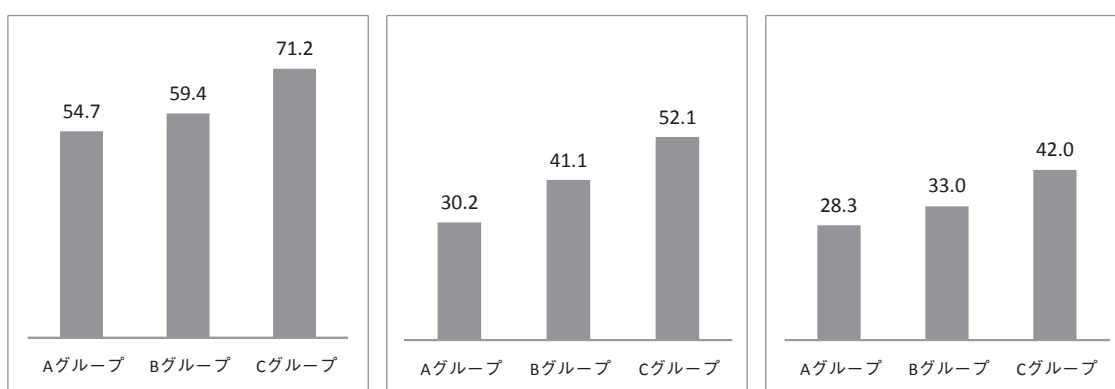
図表4は、「語彙・基礎表現」、「論理的文章読解」、「情緒的文章読解」の3つの領域の得点率をみたものである。全体でみると、「語彙・基礎表現」(68.9%)、「論理的文章読解」(49.8%)、「情緒的文章読解」(40.1%)の順である。本学の新生は学習に必要とされる文章読解力が弱いと推測される。

図表5、図表6、図表7で入試グループ別の違いをみると、3つの領域ともCグループ、Bグループ、Aグループの順に得点率が高いことが分る。とくに「論理的文章読解」ではCグループ（52.1）とAグループ（30.2）の間に20ポイント以上の大きな差がある。

図表4 国語の分野別平均得点率 (%)

	語彙・基礎表現	論理的的文章読解	情緒的文章読解
全体	68.9	49.8	40.1
Aグループ	54.7	30.2	28.3
Bグループ	59.4	41.1	33.0
Cグループ	71.2	52.1	42.0

図表5 語彙・基礎表現の得点率 (%) 図表6 論理的的文章読解の得点率 (%) 図表7 情緒的文章読解の得点率 (%)



Aグループの学生は入学年度前の11月までに本学に入学が決定している。その後は受験勉強をする必要がないため、入学前教育等で国語の学習を継続させることが大切であろう。とくに論理的文書読解の基礎学力は入学までの期間に身につけておく必要がある。2011年度の新入生から入学前教育を実施しているが、その効果を検証することが望まれる。

3 大学進学理由と本学を選択した理由

図表8は大学に進学した理由を選んでもらったものである。進学理由は「将来のための資格や免許をとりたいたから」(35.5%)、「興味・関心のあることを勉強したいから」(26.3%)、「社会に出てから役立つ知識や技能を身につけたいから」(12.4%)の順に多かった。

学科別にみると、「将来のための資格や免許をとりたいたから」を選んだ学科は、「教育」(62.5%)、「仏教」(50.8%)、「社会福祉」(48.2%)、「作業療法」(41.0%)、「理学療法」(40.5%)の順に多かった。「興味や関心のあることを勉強したいから」を選んだ学科は、「歴史文化」(62.0%)、「歴史」(48.2%)、「臨床心理」(43.5%)の順に多かった。「社会に出てから役立つ知識や技能を身につけたいから」を選んだ学科は、「公共政策」(23.9%)、「現代社会」(21.8%)、「中国」(20.8%)の順に多かった。「専門的な知識や技術を身につけたいから」を選んだ学科は「作業療法」(33.3%)、「理学療法」(28.6%)の順に多かった。

なお、「やりたいことがはっきりしていないから」を進学理由に選んだ学科は、「現代社会」(11.8%)、「公共政策」(11.6%)、「仏教」(10.2%)の順に多かった。

入試種別に大学進学理由をみると、「将来のための資格や免許を取りたいから」を選ん

だ入試種別は、「宗門後継者」(61.5%)、「教育連携校」(45.0%)、「センター後期」(43.3%)の順に多かった。「興味や関心のあることを勉強したいから」を選んだ入試種別は、「センター前期」(41.2%)、「法人系列校」(39.1%)、「教育連携校」(30.0%)の順に多かった。「社会に出てから役立つ知識や技能を身につけたいから」を選んだ入試種別は、「同窓推薦」(23.8%)、「指定校推薦」(20.0%)の順に多かった。「専門的な知識や技能を身につけたいから」は「AO選抜」(24.0%)で多かった。

その他、全体と比較して入試種別の特徴をみると、「やりたいことがはっきりしていないから」を選んだ入試種別は、「同窓推薦」(14.3%)、「課外活動」(12.5%)の順に多かった。「大卒の学歴がほしいから」を選んだ入試種別は、「宗門後継者」(15.4%)、「スポーツ強化枠」(15.0%)の順に多かった。「さまざまな人々と交流したいから」は「スポーツ強化枠」(15.0%)で多かった。

図表8 進学理由 (学科別)

(単位：%)

	全体	仏教	日本	中国	英米	歴史	歴文	教育	臨床	現社	公共	社福	理学	作業
資格・免許の取得	35.5	50.8	38.1	18.8	32.9	27.7	15.2	62.5	30.4	20.2	18.7	48.2	40.5	41.0
興味・関心ある勉強	26.3	11.9	27.3	25.0	21.2	48.2	62.0	22.7	43.5	20.2	23.2	17.8	21.4	15.4
社会的な知識・技能	12.4	10.2	8.6	20.8	18.8	2.9	3.8	5.1	2.9	21.8	23.9	13.2	2.4	7.7
専門的な知識・技術	7.3	3.4	5.8	6.3	7.1	8.8	6.3	5.1	8.7	3.8	0.6	9.2	28.6	33.3
やりたいことがわからないから	5.1	10.2	2.9	0.0	7.1	3.6	2.5	0.0	2.9	11.8	11.6	3.0	0.0	0.0
大卒の学歴	4.1	6.8	4.3	8.3	4.7	1.5	3.8	0.0	1.4	8.0	7.1	3.3	0.0	2.6
人々と交流	2.5	1.7	2.9	6.3	2.4	2.2	1.3	1.1	1.4	4.6	6.5	0.3	2.4	0.0
みんなが行くから	2.0	0.0	6.5	2.1	0.0	0.7	2.5	1.1	1.4	2.9	0.6	1.7	4.8	0.0
自分を変えてくれる	1.0	0.0	0.0	2.1	2.4	1.5	1.3	0.6	2.9	1.7	0.6	0.3	0.0	0.0
自由に過ごす時間	0.9	1.7	0.7	4.2	1.2	0.7	0.0	0.6	0.0	1.3	0.6	1.0	0.0	0.0
先生や家族の薦め	0.8	0.0	0.0	2.1	1.2	0.7	1.3	0.0	1.4	1.3	1.3	0.7	0.0	0.0
その他	2.1	3.4	2.9	4.2	1.2	1.5	0.0	1.1	2.9	2.5	5.2	1.3	0.0	0.0
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

※網掛けは20.0%以上

図表9 進学理由 (入試種別)

(単位：%)

	全体	スポーツ強化枠	課外活動	宗門後継者	AO選抜	指定校推薦	教育連携校	法人系列校	同窓推薦	公募制推薦	A日程	B日程	センター前期	センター後期
資格・免許の取得	35.5	20.0	25.0	61.5	40.0	33.9	45.0	34.8	33.3	34.4	32.3	40.9	35.3	43.3
興味・関心ある勉強	26.3	15.0	21.9	0.0	20.0	18.3	30.0	39.1	19.0	27.8	27.7	26.9	41.2	23.9
社会的な知識・技能	12.4	5.0	12.5	0.0	8.0	20.0	15.0	4.3	23.8	10.6	13.2	11.5	8.8	13.4
専門的な知識・技術	7.3	5.0	0.0	15.4	24.0	6.1	10.0	0.0	9.5	8.6	8.0	4.9	5.9	6.0
やりたいことがわからないから	5.1	5.0	12.5	0.0	4.0	4.3	0.0	8.7	14.3	6.7	5.2	4.2	0.0	0.0
大卒の学歴	4.1	15.0	3.1	15.4	0.0	5.2	0.0	0.0	0.0	4.7	4.6	2.1	5.9	3.0
人々と交流	2.5	15.0	6.3	0.0	0.0	2.6	0.0	4.3	0.0	3.1	1.9	3.5	0.0	0.0
みんなが行くから	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.6	0.0	4.3	0.0	1.4	2.7	1.7	2.9	3.0
自分を変えてくれる	1.0	10.0	3.1	0.0	0.0	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	0.3	0.0	0.0
自由に過ごす時間	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0	1.1	0.8	0.7	0.0	3.0
先生や家族の薦め	0.8	5.0	3.1	0.0	0.0	2.6	0.0	0.0	0.0	0.6	0.2	1.0	0.0	0.0
その他	2.1	5.0	12.5	7.7	4.0	1.7	0.0	4.3	0.0	1.1	1.9	2.1	0.0	4.5
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

※網掛けは20.0%以上

4 本学を選んだ理由

図表10は本学を選んだ理由である(複数回答)。学生は3つまで理由を回答しているため、合計の数値を示している。全体では、「自分の学びたい学問分野がある」(71.8%)、「取りたい資格や免許が取得できる」(62.6%)が本学を選んだ主な理由にあげられる。それに次いで「入試難易度が合っていた」(22.9%)、「自宅通学ができる」(20.7%)の順になる。

学科別でみると、「自分の学びたい学問分野がある」は、「歴史文化」(94.7%)、「作業療法」(92.3%)、「理学療法」(90.2%)、「歴史」(89.4%)の順に多く、歴史学部と保健医療技術学部の新生の9割以上が本学を選んだ理由に「学問分野」をあげている。

「取りたい資格や免許が取得できる」は、「教育」(89.4%)、「社会福祉」(81.4%)、「理学療法」(80.5%)、「作業療法」(76.9%)、「仏教」(75.4%)の順に多い。

全体との比較で学科の特徴をみると、「語学教育が充実している」は「中国」(25.7%)と「英米」(18.3)で多い。「専攻分野を入学後にじっくり選ぶことができる」は「歴史」(20.8%)、「教養教育が充実している」は「教育」(30.0%)、「クラブ・サークル活動が盛んである」は「現代社会」(22.0%)、「自宅通学ができる」は「公共政策」(35.4%)、「施設・設備が充実している」は「作業療法」(17.9%)、「総合大学である」は「作業療法」(20.5%)で多かった。

図表10 本学を選んだ理由 (学科別)

(3つまでの複数回答)(単位：%)

	全体	仏教	日本	中国	英米	歴史	歴史	教育	臨床	現社	公共	社福	理学	作業
学びたい学問分野	71.8	54.3	70.3	50.2	67.8	89.4	94.7	81.3	84.7	62.7	52.3	70.3	90.2	92.3
資格・免許	62.6	75.4	60.1	45.6	49.9	60.2	65.5	89.4	58.6	38.9	34.4	81.4	80.5	76.9
入試難易度	22.9	17.2	26.5	24.2	25.1	22.4	28.4	10.6	21.0	32.5	32.8	17.5	24.4	5.1
自宅通学ができる	20.7	13.8	19.8	21.5	26.5	16.4	11.7	10.6	16.8	26.0	35.4	19.2	29.3	17.9
教養教育の充実	14.6	10.2	16.8	17.2	15.9	16.4	9.2	30.0	12.4	9.5	7.3	16.3	2.4	5.1
キャンパスの立地・環境	13.2	17.2	11.8	8.4	15.7	15.6	7.8	4.7	15.2	18.1	17.9	11.5	14.6	12.8
大学のイメージ	12.7	20.7	12.5	8.8	7.2	10.4	11.6	13.5	4.6	14.7	17.4	13.2	2.4	15.4
クラブ・サークル活動	11.4	10.3	7.3	12.9	13.3	3.7	9.1	3.5	6.3	22.0	19.2	12.5	2.4	5.1
専攻分野の選択可能性	8.3	8.6	5.1	8.8	3.6	20.8	10.3	4.1	6.0	11.7	7.3	6.7	4.9	2.6
歴史・伝統	7.1	8.6	5.1	6.7	4.8	8.2	10.4	5.3	6.0	9.1	9.3	6.4	2.4	5.1
高校の先生の薦め	6.7	1.7	11.0	10.8	3.6	6.7	1.3	6.5	9.1	8.2	6.7	6.7	2.4	2.6
施設・設備の充実	6.4	10.3	4.4	2.2	6.1	4.5	5.2	2.3	9.0	8.6	6.6	5.7	14.6	17.9
少人数教育	5.0	3.4	2.2	4.4	3.6	3.0	3.9	7.5	12.4	6.9	5.3	3.4	4.9	7.7
総合大学である	4.3	1.7	5.1	2.2	6.0	2.2	0.0	4.1	3.1	3.5	7.3	2.7	9.8	20.5
語学教育の充実	4.2	0.0	12.4	25.7	18.3	0.7	1.3	1.2	0.0	2.2	3.3	2.4	0.0	0.0
知名度	4.1	6.9	5.1	6.6	1.2	2.2	1.3	7.6	3.0	3.5	6.7	3.7	0.0	0.0
友達・家族の評判	3.6	8.6	3.7	8.8	1.2	2.2	3.8	3.5	7.6	2.2	6.0	3.0	0.0	0.0
就職に有利	3.2	3.4	0.7	0.0	2.4	1.5	1.3	7.1	1.5	3.9	2.7	4.7	0.0	2.6
奨学金制度	3.1	6.9	3.7	10.9	3.6	2.2	3.9	0.6	3.0	3.0	5.3	1.7	2.4	0.0
有名教授・教授陣	2.9	6.9	2.2	2.1	1.2	6.7	3.9	2.3	9.2	2.2	0.7	1.0	7.3	2.6
国際交流が盛ん	1.8	0.0	1.5	11.0	9.7	0.7	0.0	0.0	0.0	1.3	0.7	2.4	0.0	0.0
学費が安い	1.2	0.0	3.7	2.2	1.2	0.7	2.6	0.0	0.0	1.3	2.0	1.0	0.0	0.0
付属高校から	0.7	0.0	1.5	0.0	0.0	0.0	1.3	0.6	1.5	0.9	1.3	0.3	0.0	2.6
授業が楽しそう	0.6	0.0	0.7	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	1.3	1.3	0.0	0.0
その他	7.0	13.8	6.6	6.7	11.9	3.0	11.5	4.1	9.0	6.9	10.7	5.0	4.9	5.1

※網掛けは全体より10%以上多い数値

図表 11 本学を選んだ理由（入試種別）

(3つまでの複数回答) (単位: %)

	全体	スポーツ強化枠	課外活動	宗門後継者	AO選抜	指定校推薦	教育連携校	法人系列校	同窓推薦	公募制推薦	A日程	B日程	センター前期	センター後期
学びたい学問分野	71.8	25.0	35.5	69.2	62.5	62.5	57.9	78.3	75.0	77.4	73.8	72.9	79.4	72.3
資格・免許	62.6	35.0	49.9	92.3	57.8	59.8	98.9	34.8	68.3	58.7	64.8	67.8	55.9	66.3
入試難易度	22.9	0.0	6.7	15.4	0.0	7.1	0.0	8.7	24.8	27.8	28.9	19.5	20.6	21.8
自宅通学ができる	20.7	15.0	13.4	0.0	16.3	15.2	35.8	30.4	9.5	22.3	18.8	25.2	29.4	17.1
教養教育の充実	14.6	0.0	6.6	0.0	20.8	19.6	10.5	4.3	29.0	14.0	13.9	16.8	5.9	21.6
キャンパスの立地・環境	13.2	15.0	13.4	15.4	8.0	11.6	10.5	17.4	10.0	13.7	13.7	11.1	20.6	18.7
大学のイメージ	12.7	25.0	13.4	7.7	28.5	19.6	20.3	17.4	5.0	14.3	11.0	10.8	5.9	6.3
クラブ・サークル活動	11.4	90.0	80.5	15.4	4.0	14.3	0.0	13.0	9.5	12.3	7.2	6.1	8.8	4.6
専攻分野の選択可能性	8.3	5.0	0.0	7.7	0.0	14.3	10.0	4.3	9.8	8.9	6.5	10.1	17.6	7.8
歴史・伝統	7.1	0.0	6.8	7.7	8.2	7.1	0.0	17.4	0.0	5.4	8.0	8.6	2.9	6.2
高校の先生の薦め	7.0	10.0	13.4	23.1	8.0	3.6	5.0	4.3	5.0	4.3	9.0	4.0	11.8	12.5
施設・設備の充実	6.7	10.0	6.8	7.7	8.0	13.4	20.3	21.7	0.0	4.3	5.9	5.8	5.9	7.8
少人数教育	6.4	35.0	6.7	0.0	16.2	8.0	0.0	0.0	5.0	6.0	7.4	4.0	8.8	0.0
総合大学である	5.0	0.0	6.7	0.0	16.5	8.0	5.0	0.0	4.8	3.2	5.3	5.7	11.8	3.1
語学教育の充実	4.3	0.0	0.0	0.0	8.2	0.9	5.3	4.3	0.0	4.3	4.7	4.7	0.0	6.2
知名度	4.2	0.0	6.5	0.0	8.3	3.6	0.0	4.3	14.8	4.3	3.9	3.9	2.9	6.2
友達・家族の評判	4.1	10.0	6.7	0.0	0.0	2.7	5.0	4.3	0.0	4.6	3.3	6.8	0.0	3.1
就職に有利	3.6	0.0	0.0	7.7	0.0	4.5	5.0	4.3	19.8	3.7	3.3	2.9	0.0	4.7
奨学金制度	3.2	0.0	10.2	7.7	4.0	11.6	0.0	4.3	5.0	1.4	2.3	4.0	0.0	0.0
有名教授・教授陣	3.1	10.0	3.3	7.7	4.0	0.9	0.0	4.3	4.8	3.2	2.2	3.2	8.8	6.2
国際交流が盛ん	2.9	5.0	10.1	15.4	4.2	4.5	10.5	0.0	0.0	3.2	1.8	2.5	0.0	3.1
学費が安い	1.8	5.0	3.3	0.0	16.5	3.6	0.0	4.3	0.0	0.9	0.8	2.2	0.0	3.1
付属高校から	1.2	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.4	2.0	0.7	2.9	0.0
授業が楽そう	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	2.7	0.0	17.4	0.0	0.3	0.4	0.0	0.0	1.6
その他	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2	0.7	0.0	0.0

※網掛けは全体より10%以上多い数値

図表 11 は本学を選んだ理由を入試種別にみたものである。全体との比較で特徴があるものをあげると、「スポーツ強化枠」の新入生は「クラブ・サークル活動が盛んである」(90.0%) が9割と多く、次いで「少人数教育が充実している」(35.0%)、「大学のイメージがよい」(25.0%) が全体と比較して多い。「課外活動」の新入生も「クラブ・サークル活動が盛んである」(80.5%) が8割と多い。「宗門後継者」は「取りたい資格や免許が取得できる」(92.3%) が9割を超し、「高校の先生の薦め」(23.1%) も2割以上いる。「AO選抜」は「大学のイメージがよい」(28.5%) と「総合大学である」(16.5%) を理由にあげる新入生が全体と比較して多い。「教育連携校」の新入生は「取りたい資格や免許が取得できる」(98.9%) をほぼ全員が理由としてあげ、「自宅通学ができる」(35.8%)、「施設・設備が充実している」(20.3%) も新入生全体と比較して多い。「法人系列校」は「歴史・伝統がある」(17.4%) と「施設・設備が充実している」(21.7%) が多い。

5 本学を選んだときの参考情報

図表 12 は本学を選んだときに役立つ情報である。全体では、「大学の総合案内パンフレット」(22.4%)、「進学情報誌」(15.4%)、「大学の学部案内パンフレット」(13.6%) の

順で多い。全体との比較で学科別の違いはあまりなかった。学科別の特徴を強いてあげるなら、「仏教」が「大学のオープンキャンパス」(13.6%)と「保護者や親族などの話」(13.6%)、「中国学科」が「進学説明会」(14.6%)と「高校の先生との面談や話」(14.6%)、「歴史文化」が「大学の総合案内パンフレット」(27.8%)、「臨床心理」が「進学情報サイト」(15.9%)がそれぞれ全体と比較して多くなっている。

図表 12 本学を選ぶときに役立った情報 (学科別)

(単位：%)

	全体	仏教	日本	中国	英米	歴史	歴史	歴史	教育	臨床	現社	公共	社福	理学	作業
大学の総合案内パンフレット	22.4	23.7	15.1	12.5	27.1	21.9	27.8	22.2	20.3	21.8	26.5	23.8	21.4	20.5	
進学情報誌	15.4	6.8	18.7	14.6	15.3	20.4	17.7	10.8	15.9	15.1	14.8	15.5	16.7	15.4	
大学の学部案内パンフレット	13.6	11.9	15.1	2.1	12.9	16.1	10.1	15.3	14.5	11.8	16.8	13.5	14.3	15.4	
大学のホームページ	9.7	13.6	12.2	8.3	8.2	7.3	11.4	6.8	10.1	14.3	11.6	7.3	7.1	2.6	
進学情報サイト	9.6	3.4	12.2	12.5	8.2	8.8	13.9	9.1	15.9	9.2	3.9	9.9	11.9	12.8	
大学のオープンキャンパス	8.5	13.6	10.1	6.3	8.2	5.1	7.6	8.5	8.7	5.5	7.7	10.6	11.9	12.8	
進学説明会	5.2	5.1	0.7	14.6	4.7	5.1	2.5	8.0	1.4	3.4	4.5	7.9	2.4	7.7	
保護者や親族などの話	4.8	13.6	4.3	6.3	2.4	2.9	2.5	8.0	5.8	4.6	3.2	3.3	7.1	7.7	
高校の先生との面談や話	4.5	3.4	5.8	14.6	5.9	3.6	2.5	4.5	1.4	5.9	3.9	3.3	4.8	0.0	
先輩や友人などの話	4.4	3.4	5.8	4.2	4.7	5.1	1.3	3.4	2.9	6.7	6.5	2.6	2.4	5.1	
予備校や塾からの情報	0.9	1.7	0.0	4.2	1.2	0.0	1.3	1.7	1.4	0.8	0.6	0.7	0.0	0.0	
無回答	1.1	0.0	0.0	0.0	1.2	3.6	1.3	1.7	1.4	0.8	0.0	1.7	0.0	0.0	
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	

※網掛けは全体より5%以上多い数値

図表 13 で入試種別の特徴をみると、「スポーツ強化枠」の新入生は「先輩や友人などの話」(35.0%)を参考にした者が3割5分と多かった。「課外活動」の新入生は「大学のオープンキャンパス」(18.8%)と「先輩や友人などの話」(18.8%)が多い。「宗門後継者」は「保護者や親族などの話」(30.8%)が3割を超え、「大学のオープンキャンパス」(23.1%)も多かった。「AO 選抜」の新入生は「大学の総合案内パンフレット」(40.0%)が4割と多く、次いで「大学のオープンキャンパス」(24.0%)であった。「同窓推薦」は「大学のホームページ」(28.6%)、「大学のオープンキャンパス」(23.8%)、「進学説明会」(19.0%)の順に多かった。「センター前期」は「進学情報誌」(29.4%)が3割弱と多く、「センター後期」は「進学情報サイト」(22.4%)が多かった。

図表 13 本学を選ぶときに役立った情報（入試種別）

(単位：%)

	全体	スポーツ強化枠	課外活動	宗門後継者	AO選抜	指定校推薦	教育連携校	法人系列校	同窓推薦	公募制推薦	A日程	B日程	センター前期	センター後期
大学の総合案内パンフレット	22.4	10.0	15.6	15.4	40.0	22.6	25.0	13.0	4.8	24.7	22.9	20.3	17.6	20.9
進学情報誌	15.4	15.0	9.4	0.0	0.0	12.2	5.0	4.3	4.8	14.7	17.4	16.8	29.4	16.4
大学の学部案内パンフレット	13.6	15.0	3.1	7.7	8.0	15.7	20.0	17.4	14.3	12.2	14.0	15.4	8.8	9.0
大学のホームページ	9.7	15.0	18.8	15.4	8.0	5.2	5.0	8.7	28.6	8.9	9.6	10.1	8.8	14.9
進学情報サイト	9.6	0.0	0.0	0.0	4.0	0.9	0.0	4.3	4.8	9.2	11.5	11.5	11.8	22.4
大学のオープンキャンパス	8.5	5.0	18.8	23.1	24.0	15.7	15.0	8.7	23.8	12.2	5.0	5.6	5.9	0.0
進学説明会	5.2	0.0	3.1	7.7	8.0	9.6	10.0	26.1	19.0	5.3	4.6	5.6	0.0	0.0
保護者や親族などの話	4.8	0.0	6.3	30.8	4.0	3.5	10.0	8.7	0.0	3.9	4.8	3.1	2.9	6.0
高校の先生との面談や話	4.5	5.0	0.0	0.0	4.0	7.8	10.0	8.7	0.0	3.1	4.6	4.5	11.8	4.5
先輩や友人などの話	4.4	35.0	18.8	0.0	0.0	4.3	0.0	0.0	0.0	3.6	4.2	4.2	0.0	4.5
予備校や塾からの情報	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	1.0	1.7	2.9	0.0
無回答	1.1	0.0	6.3	0.0	0.0	2.6	0.0	0.0	0.0	1.4	0.6	1.0	0.0	1.5
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

※網掛けは全体より10%以上多い数値

5 志望順位

図表 14 は本学を志望したときの順位である。本学を第一志望にしていた新入生(40.3%)は半数にみえない。学科別でみると、本学を第一志望にしていたのは、「仏教」(66.1%)、「作業療法」(61.5%)、「社会福祉」(51.8%)、「理学療法」(50.0%)である。

入試種別にみると、前年度11月末までにAO選抜や推薦入試で合格した新入生の7割以上は第1志望である。前年度12月までに基礎能力試験(国語と英語)を受けて合格した「同窓推薦」(52.4%)と「公募制推薦」(49.4%)は約半数の新入生が第1志望である。しかし、本学の一般試験を受けた「A日程」(29.6%)と「B日程」(25.2%)では第1志望の新入生が3割未満と少ない。さらに、「センター前期」(8.8%)と「センター後期」(3.0%)では第1志望の新入生が1割に満たない。

図表 14 大学志望順位(学科別)

(単位：%)

	全体	仏教	日本	中国	英米	歴史	歴文	教育	臨床	現社	公共	社福	理学	作業
第1志望	40.3	66.1	24.5	47.9	28.2	35.0	39.2	39.2	36.2	34.5	36.1	51.8	50.0	61.5
第2志望	37.2	25.4	47.5	25.0	37.6	41.6	35.4	43.2	36.2	38.7	38.7	32.7	31.0	20.5
第3志望	22.4	8.5	28.1	25.0	34.1	23.4	25.3	17.6	27.5	26.9	25.2	15.5	19.0	17.9
無回答	0.1	0.0	0.0	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

※網掛けは20%以上

図表 15 大学志望順位(入試種別)

(単位：%)

	全体	スポーツ強化枠	課外活動	宗門後継者	AO選抜	指定校推薦	教育連携校	法人系列校	同窓推薦	公募制推薦	A日程	B日程	センター前期	センター後期
第1志望	40.3	85.0	84.4	92.3	100.0	77.4	70.0	78.3	52.4	49.4	29.6	25.2	8.8	3.0
第2志望	37.2	10.0	12.5	7.7	0.0	16.5	25.0	17.4	42.9	40.6	40.5	45.5	35.3	38.8
第3志望	22.4	5.0	3.1	0.0	0.0	6.1	5.0	4.3	4.8	9.7	29.8	29.4	55.9	58.2
無回答	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

※網掛けは20%以上

図表 16 は学部・学科の志望順位を尋ねたものである。入学した学部・学科を第 1 志望にしていた新生は 7 割である (70.7%)。学科別にみると、「教育」(92.0%) と「理学療法」(90.5%) は 9 割以上の新生が、「歴史文化」(81.0%) は 8 割以上の新生が第 1 志望であった。入試種別でみると、入学した学部・学科を第 1 志望にしていた新生は、「宗門後継者」(92.3%)、「AO 選抜」(92.0%)、「同窓推薦」(85.7%) の順に多い。一般入試の「A 日程」(64.8%) と「B 日程」(64.7%)、「センター前期」(64.7%) と「センター後期」(65.7%) は 6 割 5 分の新生が第 1 志望であった。

図表 16 学部・学科の志望順位 (学科別)

(単位：%)

	全体	仏教	日本	中国	英米	歴史	歴史	教育	臨床	現社	公共	社福	理学	作業
第 1 志望	70.7	42.4	72.7	43.8	67.1	77.4	81.0	92.0	73.9	75.2	56.1	62.4	90.5	76.9
第 2 志望	22.6	32.2	20.1	31.3	25.9	20.4	17.7	5.7	20.3	18.5	36.1	30.4	9.5	20.5
第 3 志望	6.7	25.4	7.2	25.0	7.1	2.2	1.3	2.3	5.8	6.3	7.7	7.3	0.0	2.6
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

※網掛けは 15% 以上

図表 17 学部・学科の志望順位 (入試種別)

(単位：%)

	全体	スポーツ強化枠	課外活動	宗門後継者	AO 選抜	指定校推薦	教育連携校	法人系列校	同窓推薦	公募制推薦	A 日程	B 日程	センター前期	センター後期
第 1 志望	70.7	80.0	75.0	92.3	92.0	74.8	75.0	65.2	85.7	81.1	64.8	65.0	64.7	65.7
第 2 志望	22.6	15.0	9.4	0.0	8.0	20.0	15.0	34.8	14.3	15.3	28.1	25.5	23.5	23.9
第 3 志望	6.7	5.0	15.6	7.7	0.0	5.2	10.0	0.0	0.0	3.6	7.1	9.4	11.8	10.4
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

※網掛けは 15% 以上

6 高校時代の学習態度

図表 18 は高校時代に「予習をした」かについて回答してもらったものである。全体では「よくした」(9.4%)、「まあした」(28.0%) の両者を足すと 4 割近く (37.4%) の新生が高校時代に予習をしていたと考えられる。上述 2 節の入試グループ別でみると、A グループ (スポーツ強化枠、課外活動、宗門後継者) が「よくした」(7.7%) と「まあした」(18.5%) の合計 26.2%、B グループ (AO 選抜、指定校推薦、教育連携校、法人系列校、同窓推薦) が「よくした」(3.9%)、「まあした」(27.1%) の合計 31.0%、C グループ (公募制推薦、A 日程、B 日程、センター前期、センター後期) が「よくした」(10.4%)、「まあした」(28.7%) の合計 39.1% となり、A グループは C グループより 12.9 ポイントも予習をする比率が低くなっている。

同様に図表 19 で「復習をした」かについてみると、全体では「よくした」(6.6%) と「まあした」(31.8%) の合計 38.4% となり、4 割近くが復習をしていた。入試グループ別でみると、A グループが「よくした」(6.2%) と「まあした」(15.4%) の合計 21.6%、B グループが「よくした」(3.9%) と「まあした」(30.4%) の合計 34.3%、C グループが「よくした」(7.0%) と「まあした」(32.9%) の合計 39.9% となり、A グループは C グループより 18.3 ポイントも復習をする比率が低くなっている。

図表 20 で「自宅では自分なりに計画や目標を立てて勉強した」かについてみると、全体では「よくした」(17.2%) と「まあした」(34.4%) の合計 51.6% であり、5 割以上が

自分なりに計画や目標を立てて勉強していた。入試種別にみると、Aグループが「よくした」(7.7%)と「まあした」(26.2%)の合計33.9%、Bグループが「よくした」(11.1%)と「まあした」(30.0%)の合計41.1%、Cグループが「よくした」(18.7%)と「まあした」(35.6%)の合計54.3%となり、AグループはCグループより10.4ポイントも自宅で計画学習をする比率が低くなっている。

また、授業中や学校での学習態度についてみても、Aグループは他のグループよりポイントが低くなる。すなわち、図表21で「板書」について比較すると、全体では「よくした」(64.8%)と「まあした」(25.0%)の合計89.8%であり、9割近くが板書をとっていた。しかし、Aグループは「よくした」(61.5%)と「まあした」(20.0%)の合計81.5%で、他のグループより10ポイント以上、板書をする比率が低くなっている。

図表22で「先生に質問・相談に行った」かについてみると、全体では「よくした」(20.0%)と「まあした」(33.6%)の合計53.6%となり、5割強の新入生が先生に質問・相談に行っていた。しかし、Aグループは「よくした」(16.9%)と「まあした」(27.7%)の合計44.6%であり、他のグループより10ポイント以上、比率が低くなっている。

以上、Aグループの新入生は予習、復習、計画学習とも家庭での学習習慣が身につくおらず、授業中や学校での学習態度も他のグループと比較してよくない。入学前教育ではAグループを中心に家庭での学習習慣を身につけさせることが課題となるだろう。また、Aグループは入学後も授業中や大学でのアドバイスを必要とする新入生が多いと推測される。

図表 18 授業についていけるようできるだけ予習をした

			できるだけ予習した				合計
			よくした	まあした	あまりしなかった	まったくしなかった	
入試グループ	Aグループ	度数	5	12	23	25	65
		入試グループの%	7.7%	18.5%	35.4%	38.5%	100.0%
	Bグループ	度数	8	56	87	56	207
		入試グループの%	3.9%	27.1%	42.0%	27.1%	100.0%
	Cグループ	度数	132	363	499	271	1,265
		入試グループの%	10.4%	28.7%	39.4%	21.4%	100.0%
合計		度数	145	431	609	352	1,537
		入試グループの%	9.4%	28.0%	39.6%	22.9%	100.0%

※無回答を欠損値として省き、カイ二乗両側検定5%未満採用、以下同様。

** p<0.01

図表 19 授業で習った内容を理解するために復習をした

			復習をした				合計
			よくした	まあした	あまりしなかった	まったくしなかった	
入試グループ	Aグループ	度数	4	10	28	23	65
		入試グループの%	6.2%	15.4%	43.1%	35.4%	100.0%
	Bグループ	度数	8	63	92	44	207
		入試グループの%	3.9%	30.4%	44.4%	21.3%	100.0%
	Cグループ	度数	89	415	564	195	1,263
		入試グループの%	7.0%	32.9%	44.7%	15.4%	100.0%
合計		度数	101	488	684	262	1,535
		入試グループの%	6.6%	31.8%	44.6%	17.1%	100.0%

*** p<0.001

図表 20 自宅では自分なりに計画や目標を立てて勉強した

			計画や目標を立てて勉強した				合計
			よくした	まあした	あまり しなかった	まったく しなかった	
入試グループ	A グループ	度数	5	17	23	20	65
		入試グループの%	7.7%	26.2%	35.4%	30.8%	100.0%
	B グループ	度数	23	62	78	44	207
		入試グループの%	11.1%	30.0%	37.7%	21.3%	100.0%
	C グループ	度数	236	449	432	144	1,261
		入試グループの%	18.7%	35.6%	34.3%	11.4%	100.0%
合計		度数	264	528	533	208	1,533
		入試グループの%	17.2%	34.4%	34.8%	13.6%	100.0%

*** p<0.001

図表 21 授業中は黒板に書かれたことはきちんとノートをとった

			板書はノートにとった				合計
			よくした	まあした	あまり しなかった	まったく しなかった	
入試グループ	A グループ	度数	40	13	9	3	65
		入試グループの%	61.5%	20.0%	13.8%	4.6%	100.0%
	B グループ	度数	151	40	10	6	207
		入試グループの%	72.9%	19.3%	4.8%	2.9%	100.0%
	C グループ	度数	805	331	99	30	1,265
		入試グループの%	63.6%	26.2%	7.8%	2.4%	100.0%
合計		度数	996	384	118	39	1,537
		入試グループの%	64.8%	25.0%	7.7%	2.5%	100.0%

* p<0.05

図表 22 授業の内容でわからないところは先生に質問や相談に行った

			先生に質問・相談に行った				合計
			よくした	まあした	あまり しなかった	まったく しなかった	
入試グループ	A グループ	度数	11	18	20	16	65
		入試グループの%	16.9%	27.7%	30.8%	24.6%	100.0%
	B グループ	度数	39	86	55	27	207
		入試グループの%	18.8%	41.5%	26.6%	13.0%	100.0%
	C グループ	度数	257	412	429	166	1,264
		入試グループの%	20.3%	32.6%	33.9%	13.1%	100.0%
合計		度数	307	516	504	209	1,536
		入試グループの%	20.0%	33.6%	32.8%	13.6%	100.0%

* p<0.05

7 入学後の学習態度

入学後の学習態度について全体と入試グループ別とで比較してみよう。図表 23 の「論理的思考力を身につける」は全体で「とても力を入れたいと思う」(40.1%)と「やや力を入れたいと思う」(49.1%)の合計 89.2%となり、9割近くが「論理的思考力」を身につけたいと思っている。入試種別にみると、Aグループでは「とても力を入れたいと思う」(29.2%)と「やや力を入れたいと思う」(41.5%)の合計 70.7%である。Bグループでは「とても力を入れたいと思う」(35.7%)と「やや力を入れたいと思う」(52.7%)の合計 88.4%である。Cグループでは「とても力を入れたいと思う」(41.3%)と「やや力を入れたいと思う」(48.9%)の合計 90.2%である。Aグループの合計 70.7%はCグループの合計 90.2%より 19.5ポイントも低く、Aグループは論理的思考力を身につけたいと思う新入生が少なくなっている。

図表 24 の「文章作成能力を身につける」は全体で「とても力を入れたいと思う」(51.0%)と「やや力を入れたいと思う」(42.4%)の合計 93.4%となり、9割以上が「文章作成能力」

を身につけたいと思っている。入試種別にみると、Aグループでは「とても力を入れたいと思う」(33.8%)と「やや力を入れたいと思う」(50.8%)の合計84.6%である。Bグループでは「とても力を入れたいと思う」(52.2%)と「やや力を入れたいと思う」(44.9%)の合計97.1%である。Cグループでは「とても力を入れたいと思う」(51.7%)と「やや力を入れたいと思う」(41.6%)の合計93.3%である。Aグループの合計84.6%はBグループの合計97.1%より12.5ポイント低く、またCグループの合計93.3%より8.7ポイント低い。つまり、Aグループは文章作成能力を身につけたいと思う新入生が他のグループより少なくなっている。

Aグループの新入生は入学時点で国語の基礎学力が全体と比較して低く(第2節の図表4、図表5参照)、また入学後も国語の基礎学力を身につけようと思う比率が低い。Aグループの学生が大学の学習に支障を来さないように、入学後の早い段階で国語の基礎学力の向上に結びつく学習習慣を形成させる必要があるだろう。

図表 23 論理的思考力を身につける

			論理的思考力				合計
			とても力を入れたいと思う	やや力を入れたいと思う	あまり力を入れようと思わない	まったく力を入れようと思わない	
入試グループ	Aグループ	度数	19	27	16	3	65
		入試グループの%	29.2%	41.5%	24.6%	4.6%	100.0%
	Bグループ	度数	74	109	21	3	207
		入試グループの%	35.7%	52.7%	10.1%	1.4%	100.0%
	Cグループ	度数	525	621	117	7	1,270
		入試グループの%	41.3%	48.9%	9.2%	.6%	100.0%
合計		度数	618	757	154	13	1,542
		入試グループの%	40.1%	49.1%	10.0%	.8%	100.0%

*** p<0.001

図表 24 文章作成能力を身につける

			文章作成能力				合計
			とても力を入れたいと思う	やや力を入れたいと思う	あまり力を入れようと思わない	まったく力を入れようと思わない	
入試グループ	Aグループ	度数	22	33	9	1	65
		入試グループの%	33.8%	50.8%	13.8%	1.5%	100.0%
	Bグループ	度数	108	93	5	1	207
		入試グループの%	52.2%	44.9%	2.4%	.5%	100.0%
	Cグループ	度数	656	528	79	6	1,269
		入試グループの%	51.7%	41.6%	6.2%	.5%	100.0%
合計		度数	786	654	93	8	1,541
		入試グループの%	51.0%	42.4%	6.0%	.5%	100.0%

** p<0.01

8 今後の課題

以上、入学前教育の必要性を中心にして基礎学力調査の結果を報告したが、その他の結果については2010年9月15日の教職員研修会でC社から報告された詳細な分析結果を参照されたい(研修会の配付資料:貴学における「学習力調査」結果について2010年4月3日ご実施分のご報告、教授法開発室だよりvol.19参照)。C社の分析結果および本稿の分析結果については数値の読み方が幾通りもある。各学部・学科、各部署で分析の視点を設定して、図表の数値を読んでいただきたい。また、今後、大学で各種データベースを統合して分析することが望まれる。

教授法開発室では学生カルテやポートフォリオの必要性を数年前から認識しているが、まだ実用段階に至っていない。それが実現しない理由は、第一に簡単な分析スキルや図表の作成スキルを持つ教職員が育っていないこと、第二に教職員に作業をする時間がないことがあげられる。大学が学生カルテもしくはポートフォリオを作成し、その運用規定を定める段階に来ているが、現場の各学部・学科や各部署で作業を行なう人的資源と時間を確保できるかどうかは課題になるだろう。

FD Review



ト
一
一
八
了
業
授

授業アンケート

——真に活用できるアンケートを目指して——

教授法開発室員 田 中 智 子

本年度のアンケートの取り組み

本年度の本学で実施された授業アンケートについては、春学期が1,178 / 1,762 講座（実施率 66.9%）秋学期が1,073 / 1,661 講座（実施率 64.6%）となっており、多くの先生方の協力を得ることができた。

また、本年度は授業アンケート票そのものを見直し、板書や教材、学習形態等の授業方法に関して個別の項目を立ち上げることで、具体的な授業改善へと結びつきやすいように工夫を行なった。

更には通信教育課程のスクーリングにおいてもアンケートの実施の依頼を行なった。

授業アンケートに関する全体的動向

授業アンケートという手法は、特に文部科学省が推奨しているものではないが、FDの義務化や第三者評価の導入に伴って、現在の日本の大学において広く行なわれている。しかし、その実施方法や活用方法については多様であり、アンケートの結果を「大学全体の満足度調査」「大学全体・学部単位の教育力の把握」に活用しているところもあれば「教員の個人評価」につなげている大学など様々である。授業アンケートそのものが、当該授業受講者の意見を代表しているとは言いきれないが、授業が学生にどのように受けとめられているのかということを大きく掴むのには一定効果があると思う。

授業アンケートの活用

しかし、私自身、授業アンケートを実施して悩むのが、その活用法である。本学の授業アンケートには、全体の平均得点と当該授業における得点が記載されており、それを見て一喜一憂されている先生も多いと思う。点数が高ければホッと、低ければ落ち込み、そのまま引き出しの奥にしまわれているのではないだろうか。アンケートを実施すること自体が目的ではなく、それに基づき授業改善が行なわれることが目的であるので、私見ではあるが、今後検討すべき課題として以下の二点について触れておく。

第一に、今年度から全ての授業科目についての実施が呼び掛けられたが、少人数のゼミなどについては、その妥当性と活用について検討が必要であると思われる。今回のアンケー

ト票は量的に処理されるものであるので、そもそもゼミなどの少人数の集団を対象としての有効性は不明である。更に、アンケートの目的が当該授業に対する評価ということであれば、ゼミなどのフェイス・トゥ・フェイスの関係の中では、個々の学生の評価は授業の様々な場面で教員に伝わってくる。それは直接的に言葉として伝えられることもあるだろうし、表情や出席態度などの非言語を媒体として通して伝えられることもあるであろう。それらを感じ取りながら、個々の教員はゼミの運営や教授内容に反映させている。また、ゼミの学生とはゼミの終了後にもその関係性が継続することも少なくない。そのような状況の中で、15回の授業の最後に点数で評価する一されるという緊張関係を持ちこむことの意義についても今後検討するべきだと考える。また授業評価という方法を取るのであれば、大講義とは異なる方法が必要であると思う。

第二に、個々の教員に対し今年度のアンケートの調査結果の返し方では、具体的な授業改善には結び付きにくいと思われる。確かに今年度の調査票では、去年の「授業の工夫」に丸をつけるものから、「話し方」「板書」「印刷教材」「学習形態」などの項目ごとに5件法が用いられていたもので、どこが良くてどこに改善の余地があるのかは明確になったと思う。しかし、どのように改善すれば良いのかということについては、見えてこない。多くの教員は、たとえ毎年同じ科目を持つ場合であっても、改良をし、その時々をベストを尽くしていると思う。更には大学において他の教員の授業を垣間見る機会も少ないという状況の中で、授業アンケートでいくら改善の余地があるという指摘を受けても、何をどうしたら良いのかということについては、自分自身で考えるには限界がある。私自身の経験として、大学時代教育実習に行った際、授業計画から実際の授業までの助言や指摘を当該クラスの担任の教師からしていただいた経験がある。また同じクラスに10名くらい実習生がいて、相互に授業に同席し、その後の振り返りで互いに指摘し合った。それらを通じて、授業の内容はもちろんのこと、どのように授業を構成するのか、どのように発問するのか、資料の提示の仕方はどうするのかなど技術的なことも多いに学べた。

そのようなことを学習する機会、教員免許などが必要で無い大学教員だからこそ必要なものと思う。例えば、専門のアドバイザーなどを配置して、希望する者には授業計画から振り返りに至るまで、助言をしてもらう機会などがあれば良いと思う。また、公開授業に留まらず、授業研究として教授法などを検討する研究会のようなものも有効であろう。

真に活用できる授業アンケートを目指して

以上、課題ばかりを述べてきたが、授業アンケートは学生の本音が垣間見ることのできる貴重な機会であることは間違いない。だからこそ、それが真に活用できるものでなければ、本音を寄せてくれた学生の気持ちに応えたことにはならない。

アンケートが本当の意味で活用されるということは、授業改善に向けて教員個々人の主体的形成がなされるということである。主体形成がなされるためには、教員個々人が授業改善に取り組む意欲を持ち、それに必要な環境が準備されることが必要である。そうすることによって、おそらく授業をワクワクする気持ちで迎えることができるのではないだろう

うか。

筆者は自らの所属する社会福祉学部において、本年度そのような経験をする事ができたので、そのことを通じて教員の授業に向き合う主体形成について考えてみたい。

社会福祉学部において筆者は、国家資格である社会福祉士の養成に携わっている。社会福祉士の養成課程においては実習は必須であり、本学部でも福祉教育開発センターの実習指導講師や非常勤講師を含め、多くの者がそれに関わっている。社会福祉士の国家資格は、厚生労働省によるカリキュラム改定が行なわれ、本学でもそれへの対応を行なった。

その中で、本学教員の総意として、今回の改定に際して、本学で養成する社会福祉士にどのような専門性を身につけさせるべきかというミニマムを設定するべきであると考えた。そこで、どのような教授内容が相応しいのかということを考え、それに基づくテキスト開発を行なった。足かけ二年、議論を重ね、今春テキストを発刊することができた。

議論が交わされる中で、授業の狙いや方法などについて意見が交わされた。特に、各単元において、学生の到達目標としてどのようなものを定めるのかということに多くの時間が割かれた。専門分野や学問的背景が異なる中で、ミニマムを設定すること自体が非常に困難であったが、逆にそれらが異なることで個々の授業内容を振り返り、深める機会となった。

以上の経験が非常に有効であった点は、学生の現状についての分析が行なわれたことと、授業全体のあるいは各単元における学生の到達目標、翻って言うと教員の教授目標が明確になったことである。このことで、筆者自身、この目標に到達するためにはどうしたら良いのだろうかというアイデアがいろいろ浮かんでくるようになり、いつもの年より授業をするのが楽しみになっている。

評価というのは目標が設定されてこそ初めて意味を成すのではないだろうか。学生の現状というのはいわゆるスタートで、授業における到達目標というのゴールである。スタートとゴールが明確になってこそ、ゴールに近づくための方法の検討が可能となり、またどの程度到達したのかということ測ることができるのであろう。その到達状況に関する計測方法の一つとして学生による授業アンケートが位置づくのだと思う。

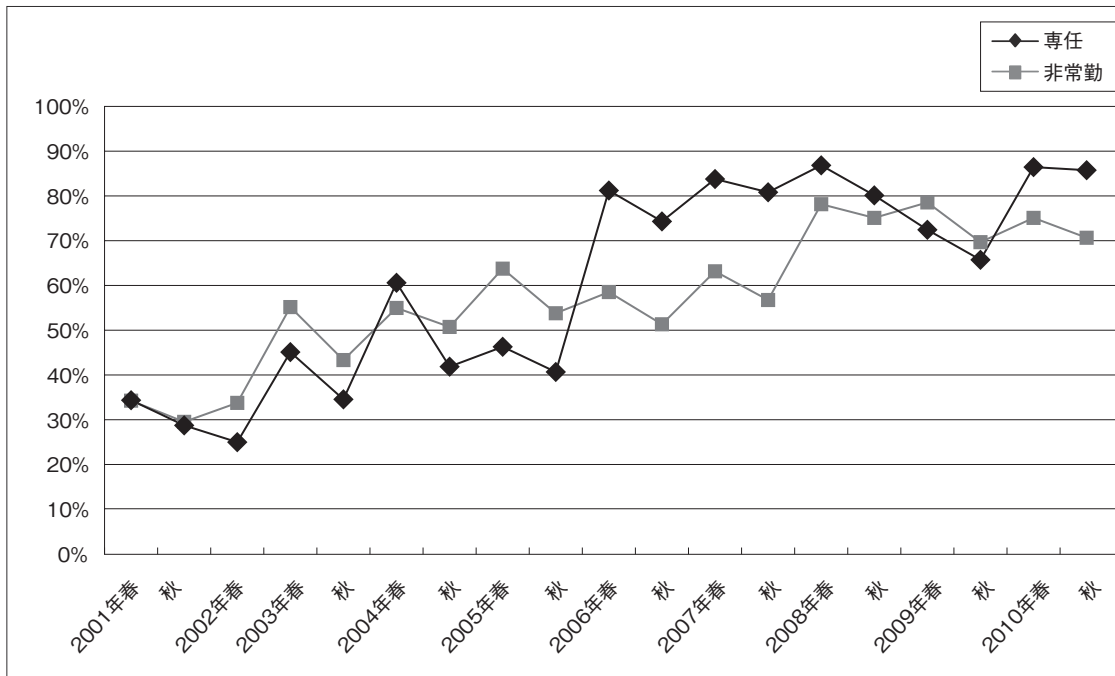
以上のことから、授業アンケートと並行して、教員が学生状況や授業に関する集団的議論の場が必要であると思う。更に、授業方法についての意見やアイデアの交換ができる機会があればなお良い。それらを通じて、授業が学生にとってはもちろんのこと、教員にとってもワクワクできるような場となるように、私自身今後も他の教職員と協働しながら努力していきたいと思う。

授業アンケート実施者数・実施率の推移

		2001年春	秋	2002年春	2003年春	秋	2004年春	秋
専任	実施者数(名)	59	49	44	77	59	107	74
	総数(名)	169	168	173	168	168	174	174
	実施率(%)	34.9	29.2	25.4	45.8	35.1	61.5	42.5
非常勤	実施者数(名)	151	130	181	308	242	300	277
	総数(名)	434	434	527	550	550	538	538
	実施率(%)	34.8	30.0	34.3	56.0	44.0	55.8	51.5

2005年春	秋	2006年春	秋	2007年春	秋	2008年春	秋
87	76	140	129	153	146	171	157
185	184	170	171	180	178	194	193
47.0	41.3	82.4	75.4	85.0	82.0	88.1	81.3
321	294	352	309	311	277	382	346
496	538	593	593	485	481	482	454
64.7	54.6	59.4	52.1	64.1	57.6	79.3	76.2

2009年春	秋	2010年春	秋
144	130	185	181
196	195	211	208
73.5	66.7	87.7	87.0
369	331	333	306
463	468	437	427
79.7	70.7	76.2	71.7



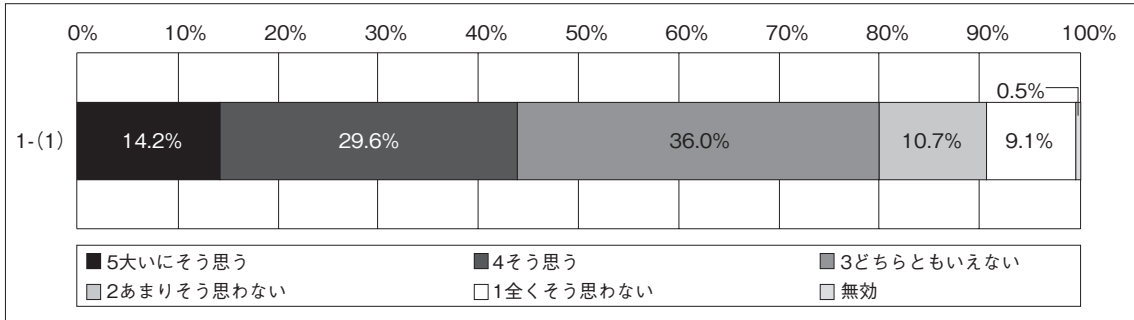
2010年度 春学期 授業アンケート 全体集計

1. あなた自身の取り組みについて

Q1-(1) シラバスを読んで受講に備えた

[単位：名(延べ)]

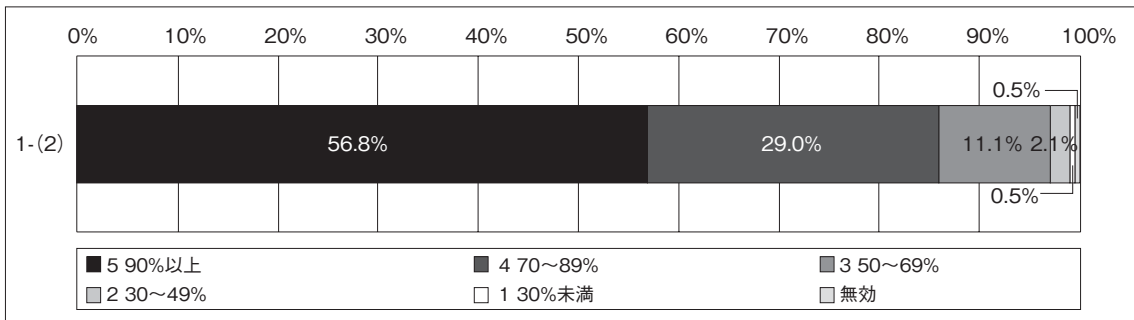
5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
5,441	11,342	13,787	4,093	3,488	180	38,331



Q1-(2) これまでの授業の出席率

[単位：名(延べ)]

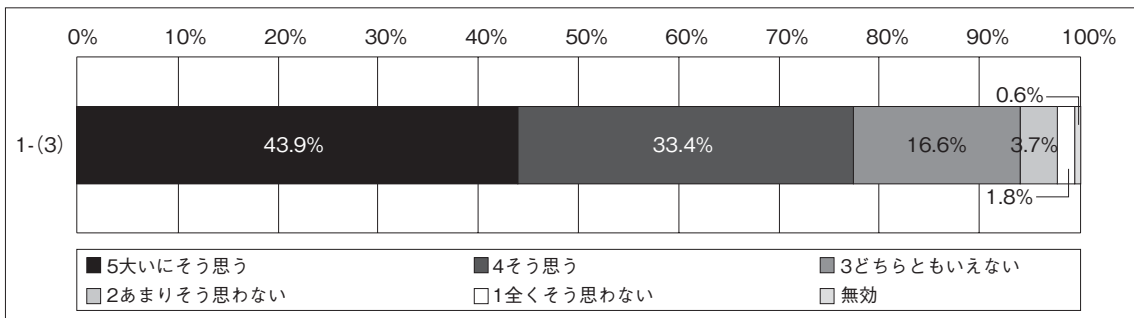
5 90%以上	4 70～89%	3 50～69%	2 30～49%	1 30%未満	無効	合計
21,763	11,129	4,268	789	197	185	38,331



Q1-(3) 授業を妨げる行為(私語・携帯の使用・遅刻・途中退出等)をしなかった

[単位：名(延べ)]

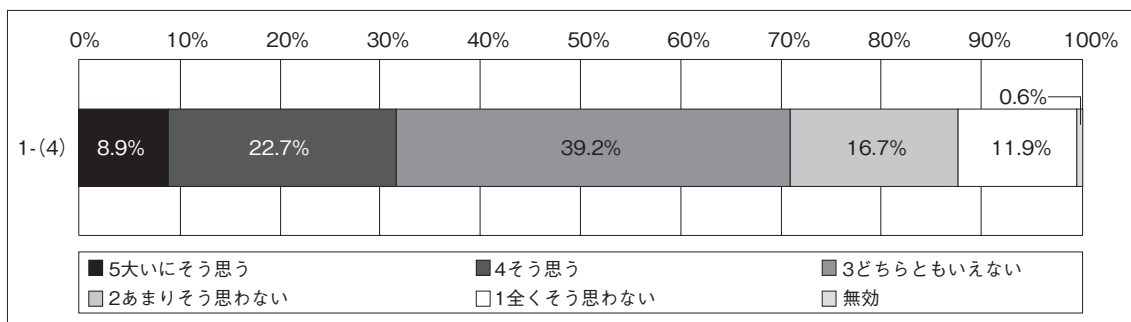
5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
16,841	12,816	6,347	1,426	672	229	38,331



Q1-(4) 1回の授業につき予習・復習をした

[単位：名(延べ)]

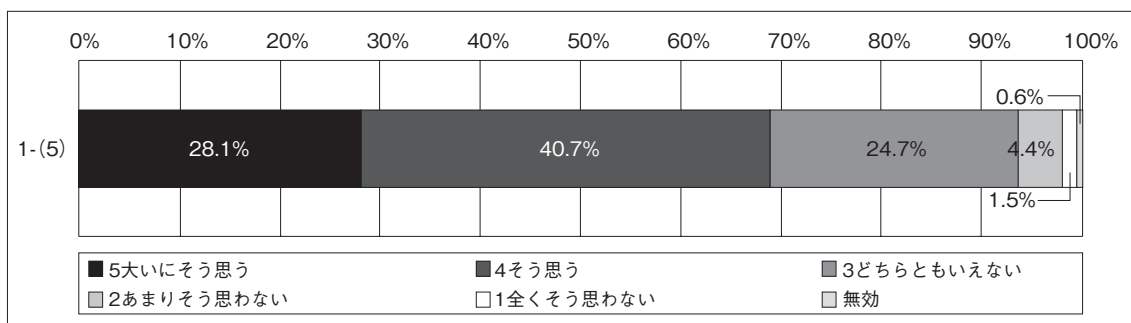
5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
3,413	8,690	15,016	6,399	4,572	241	38,331



Q1-(5) 熱心に授業に取り組んだ

[単位：名(延べ)]

5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
10,771	15,611	9,482	1,669	569	229	38,331

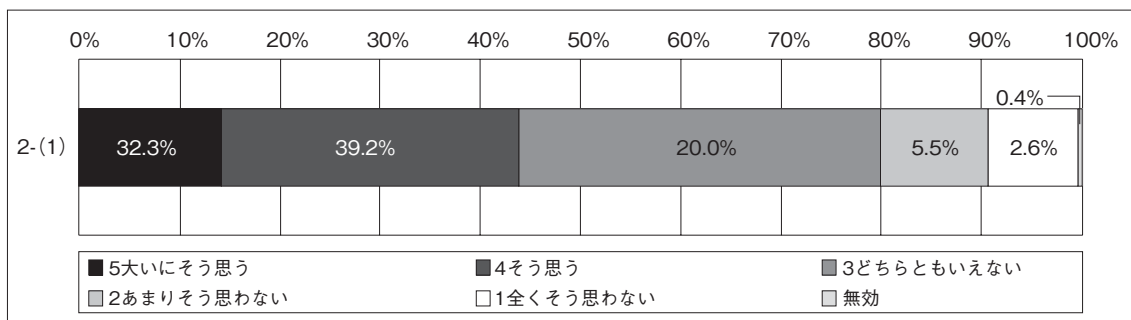


2. この授業の運営について

Q2-(1) わかりやすい授業であった

[単位：名(延べ)]

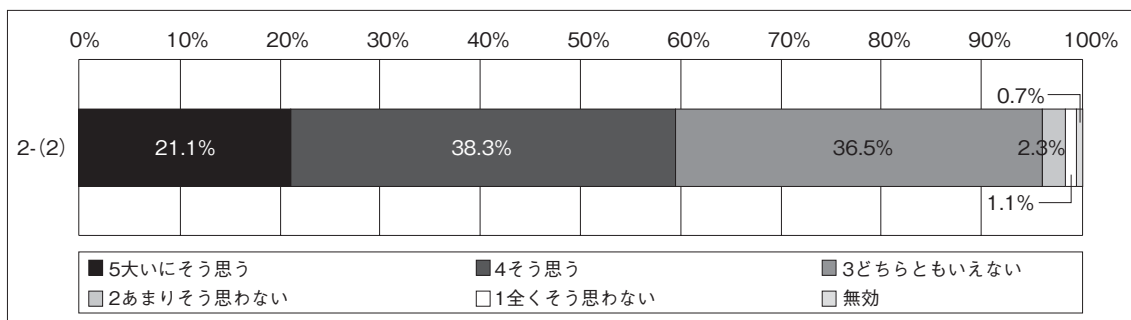
5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
12,389	15,030	7,675	2,098	982	157	38,331



Q2-(2) 授業はシラバス通りに進行していた

[単位：名(延べ)]

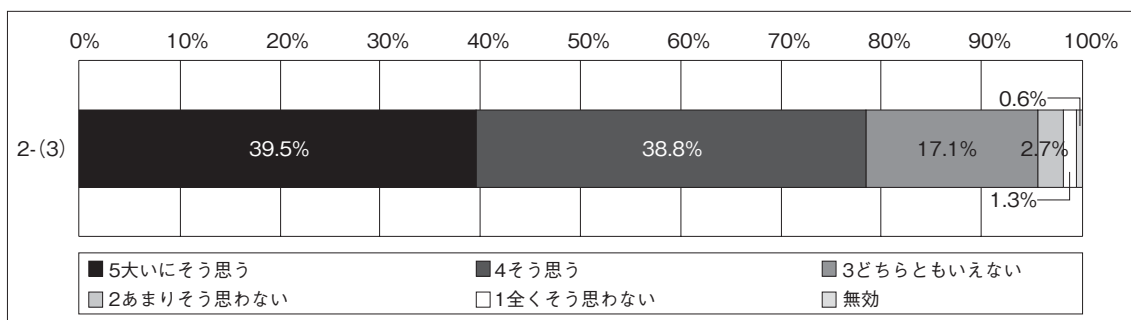
5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
8,072	14,686	13,986	889	417	281	38,331



Q2-(3) 教員の熱意が伝わってきた

[単位：名(延べ)]

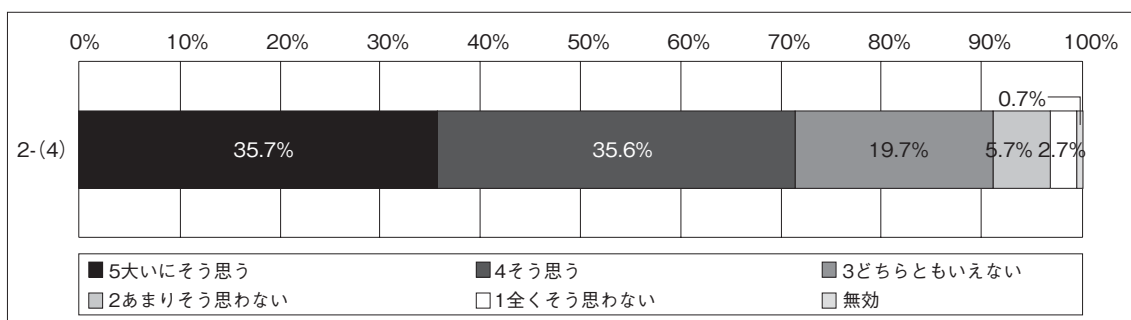
5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
15,126	14,874	6,544	1,047	514	226	38,331



Q2-(4) 聴きやすい話し方だった

[単位：名(延べ)]

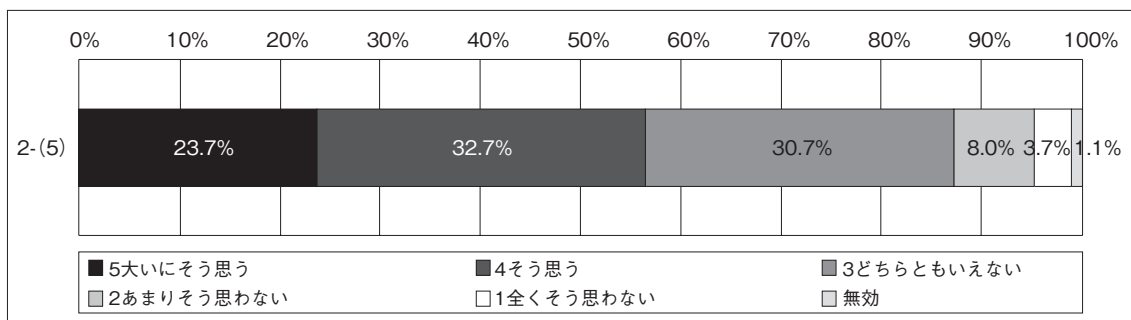
5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
13,677	13,661	7,542	2,166	1,027	258	38,331



Q2-(5) 板書（OHP、パワーポイント含む）は見やすかった

[単位：名（延べ）]

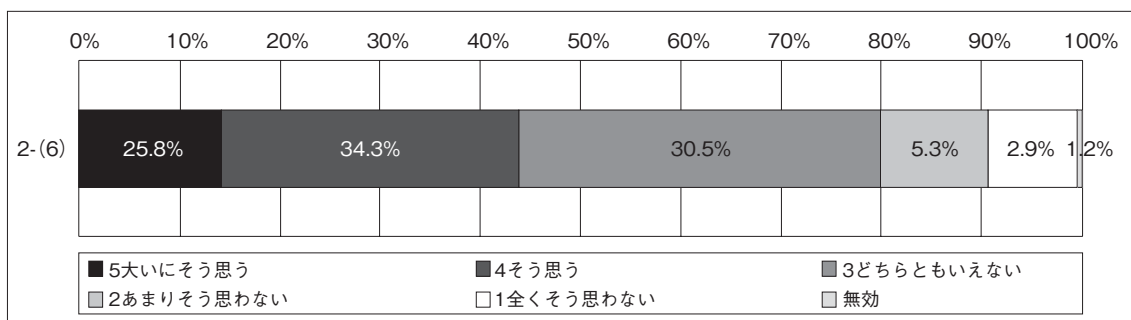
5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
9,091	12,542	11,780	3,052	1,427	439	38,331



Q2-(6) 印刷教材（レジュメ・補助教材等）、視聴覚教材等が効果的だった

[単位：名（延べ）]

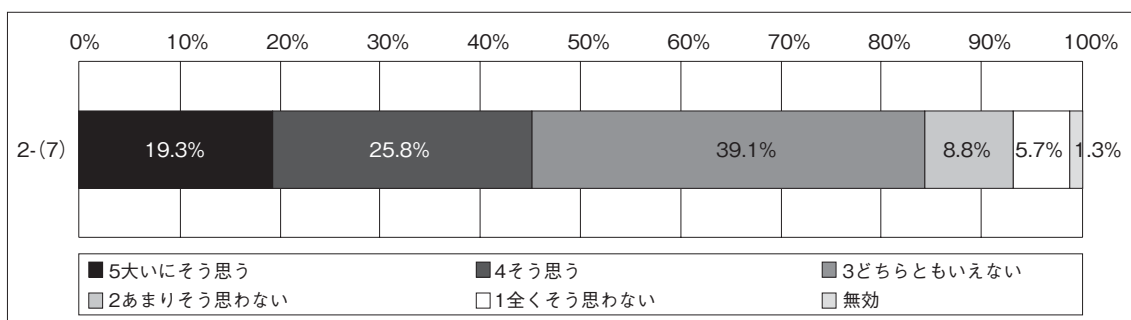
5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
9,905	13,148	11,691	2,023	1,116	448	38,331



Q2-(7) 学習形態（グループ学習・発表、フィールドワーク等）に工夫がみられた

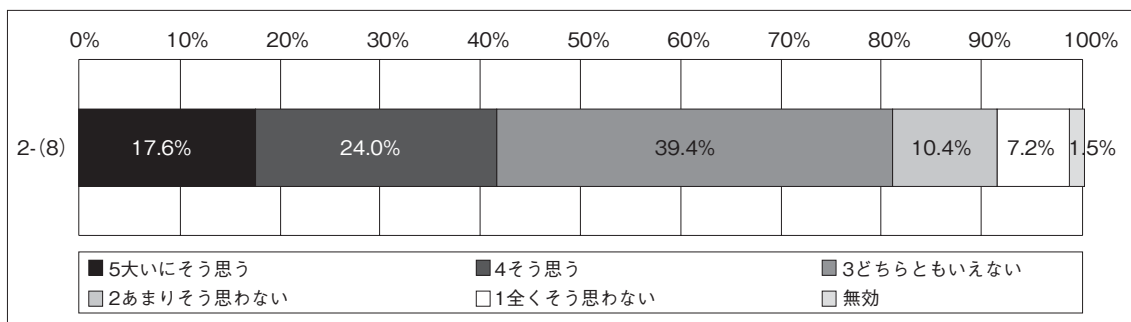
[単位：名（延べ）]

5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
7,390	9,891	14,999	3,360	2,175	516	38,331



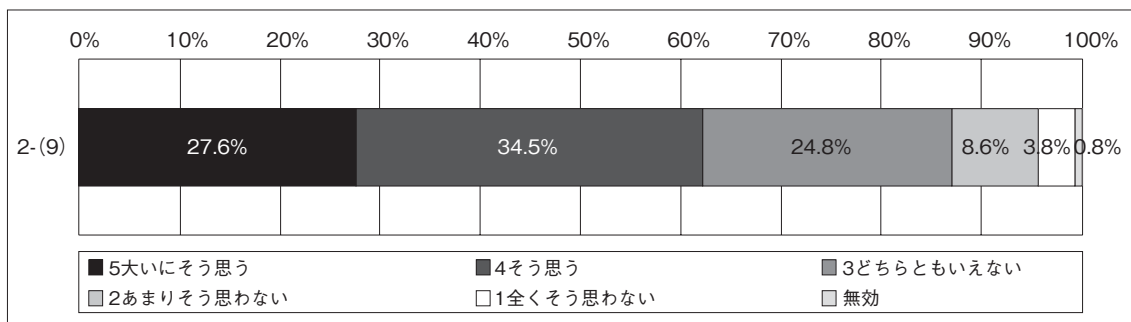
Q2-(8) 教員や学生同士のコミュニケーション (e-learning “縁 (えにし)” 含む) に工夫がみられた [単位：名 (延べ)]

5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
6,741	9,210	15,106	3,970	2,741	563	38,331



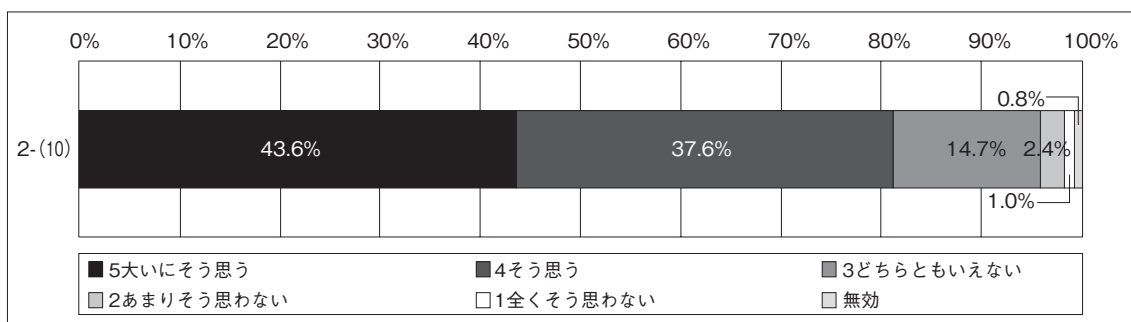
Q2-(9) 授業は十分な静粛性が保たれていた [単位：名 (延べ)]

5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
10,585	13,219	9,496	3,285	1,453	293	38,331



Q2-(10) 授業時間が守られていた [単位：名 (延べ)]

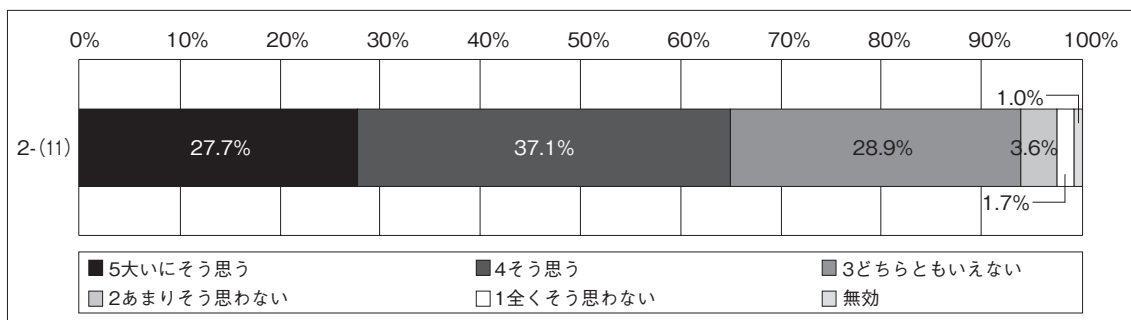
5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
16,712	14,408	5,618	903	389	301	38,331



Q2-(11) 授業に関する受講生の意見への対応が十分になされていた

[単位：名(延べ)]

5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
10,599	14,224	11,072	1,382	670	384	38,331

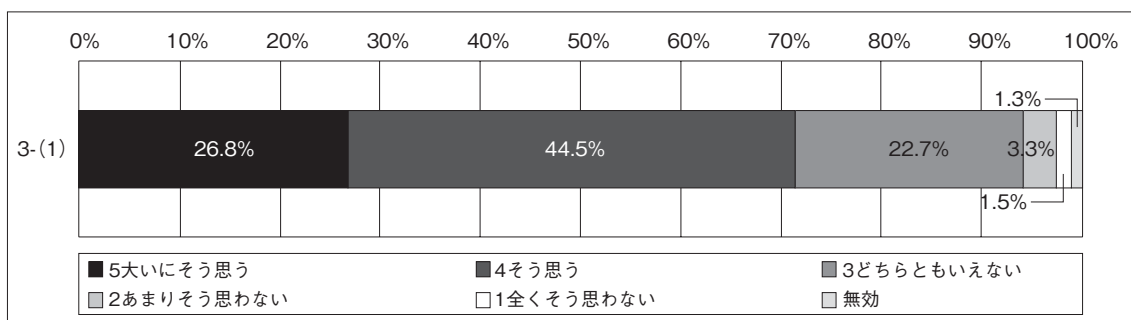


3. この授業からあなたが得たものについて

Q3-(1) 授業で扱った分野に関する専門知識・技術が身についた

[単位：名(延べ)]

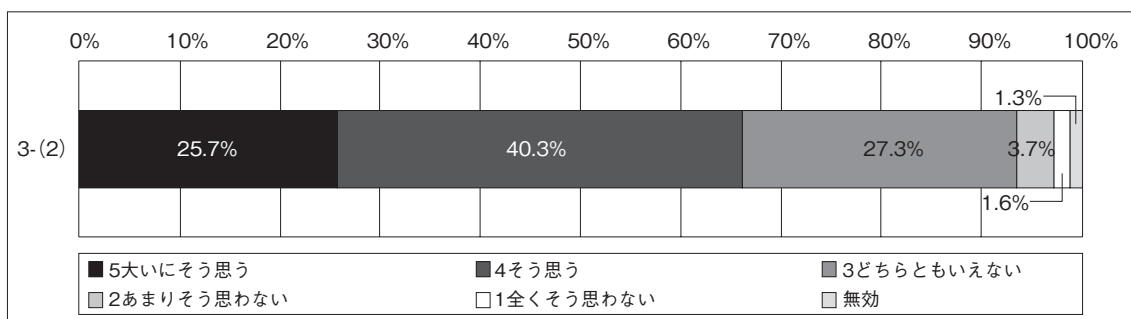
5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
10,257	17,063	8,701	1,249	580	481	38,331



Q3-(2) 自分にとって有益な考え方・発想が身についた

[単位：名(延べ)]

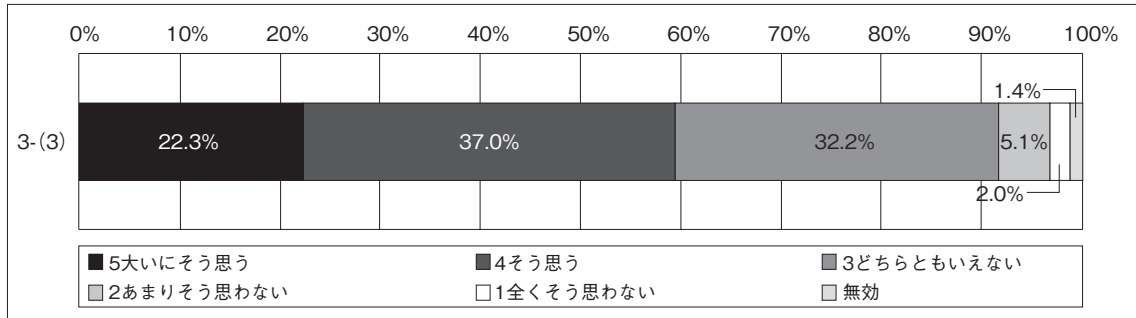
5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
9,861	15,456	10,466	1,427	620	501	38,331



Q3-(3) 自分で調べ、考える姿勢をもてた

[単位：名(延べ)]

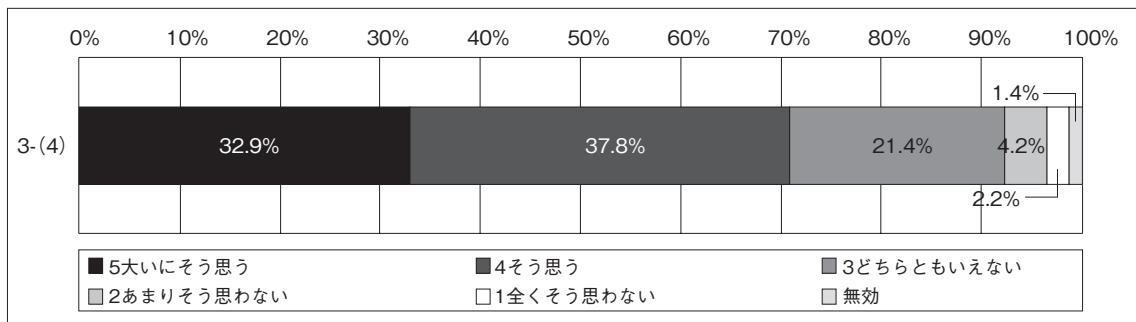
5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
8,561	14,164	12,336	1,966	764	540	38,331



Q3-(4) 総合的にみてこの授業に満足をした

[単位：名(延べ)]

5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
12,613	14,508	8,216	1,612	843	539	38,331



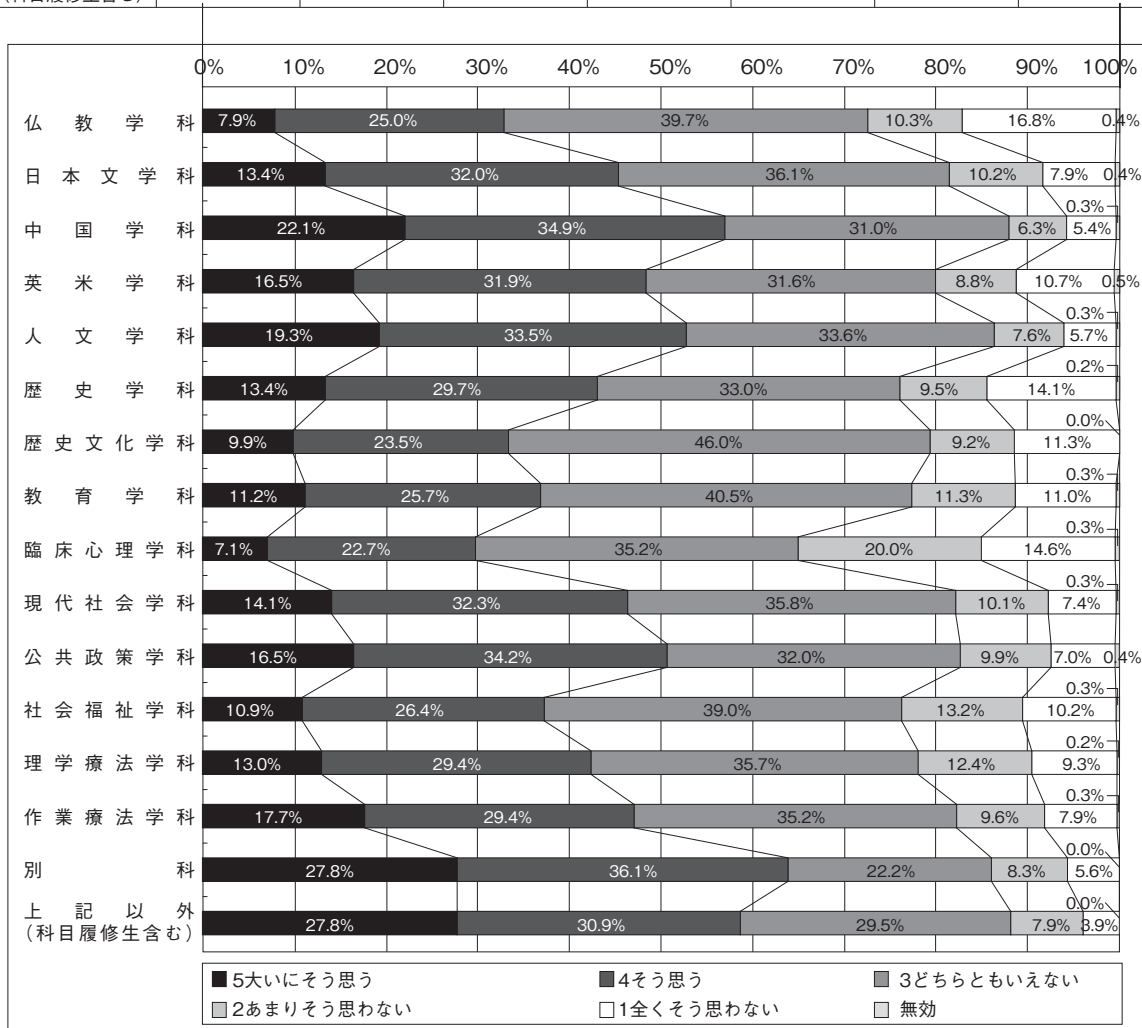
2010年度 春学期 授業アンケート マーク学科別集計

1. あなた自身の取り組みについて

Q1-(1) シラバスを読んで受講に備えた

[単位：名(延べ)]

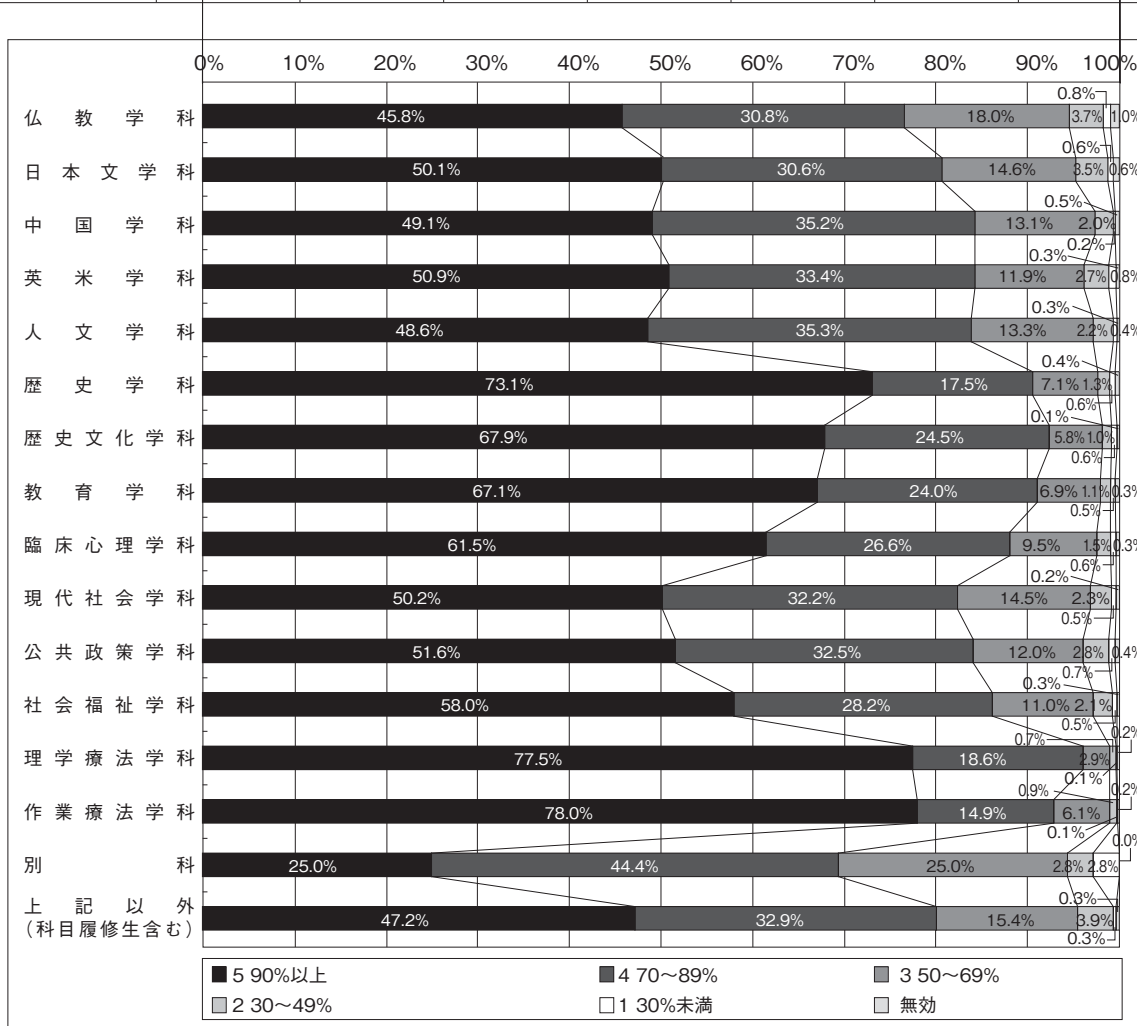
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	41	129	205	53	87	2	517
日 本 文 学 科	233	556	628	178	137	7	1,739
中 国 学 科	276	436	387	79	67	4	1,249
英 米 学 科	391	755	747	207	253	11	2,364
人 文 学 科	1,010	1,756	1,760	397	297	15	5,235
歴 史 学 科	199	442	491	142	210	3	1,487
歴史文化学科	85	202	395	79	97	0	858
教 育 学 科	524	1,208	1,905	531	516	14	4,698
臨床心理学科	129	410	636	362	264	5	1,806
現代社会学科	709	1,630	1,806	509	375	14	5,043
公共政策学科	481	996	934	289	204	12	2,916
社会福祉学科	778	1,880	2,779	942	729	20	7,128
理学療法学科	146	330	400	139	104	2	1,121
作業療法学科	187	311	372	101	83	3	1,057
別 科	10	13	8	3	2	0	36
上記以外 (科目履修生含む)	99	110	105	28	14	0	356



Q1-(2) これまでの授業の出席率

[単位：名(延べ)]

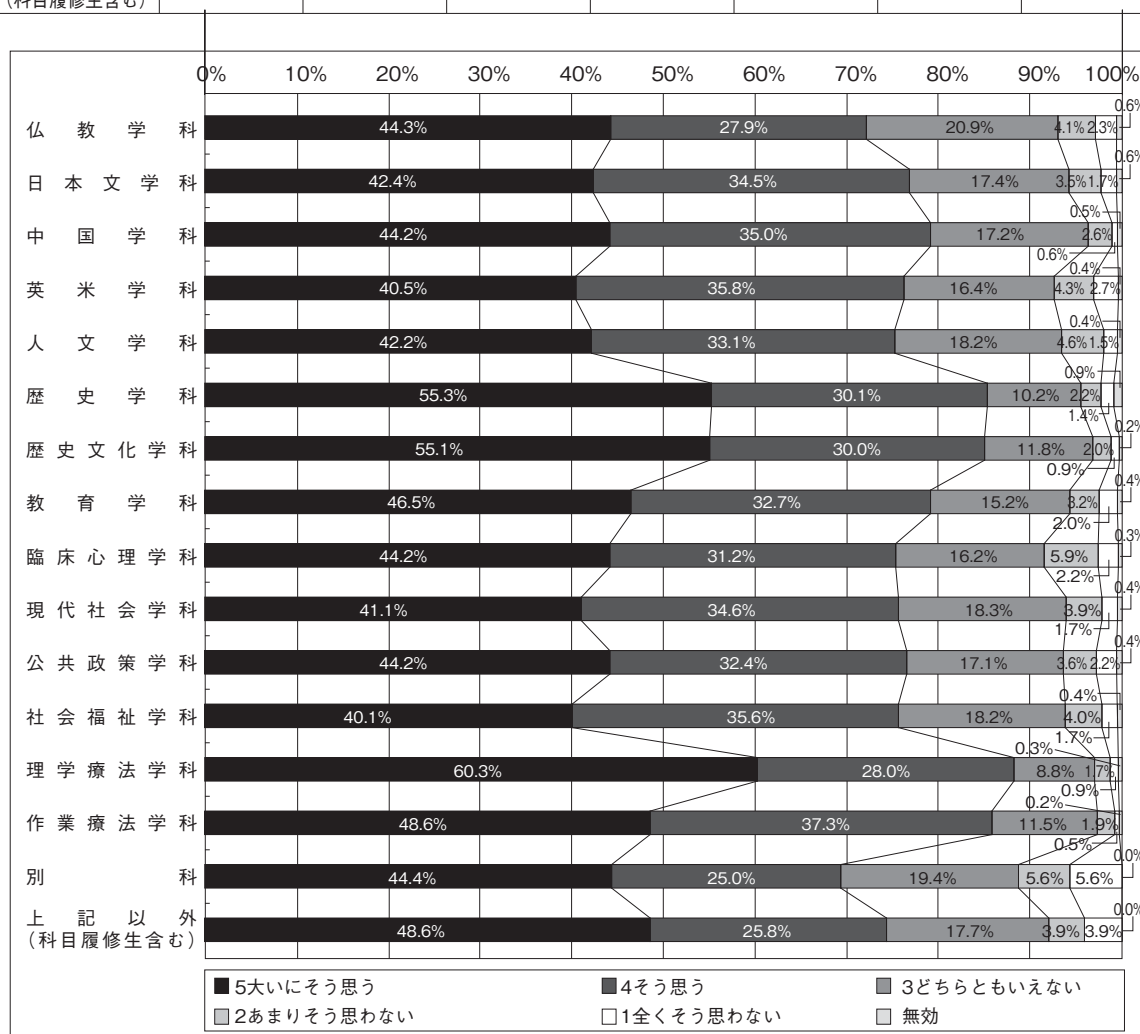
	590%以上	470~89%	350~69%	230~49%	130%未満	無効	合計
仏 教 学 科	237	159	93	19	4	5	517
日 本 文 学 科	872	533	254	60	10	10	1,739
中 国 学 科	613	440	163	25	2	6	1,249
英 米 学 科	1,203	789	281	64	19	8	2,364
人 文 学 科	2,545	1,846	694	113	21	16	5,235
歴 史 学 科	1,087	260	105	20	9	6	1,487
歴 史 文 化 学 科	583	210	50	9	5	1	858
教 育 学 科	3,152	1,129	326	53	23	15	4,698
臨 床 心 理 学 科	1,111	480	171	27	11	6	1,806
現 代 社 会 学 科	2,534	1,623	731	118	27	10	5,043
公 共 政 策 学 科	1,505	949	349	82	20	11	2,916
社 会 福 祉 学 科	4,135	2,007	783	152	33	18	7,128
理 学 療 法 学 科	869	208	33	8	1	2	1,121
作 業 療 法 学 科	824	157	64	9	1	2	1,057
別 科	9	16	9	1	1	0	36
上 記 以 外 (科目履修生含む)	168	117	55	14	1	1	356



Q1-(3) 授業を妨げる行為(私語・携帯の使用・遅刻・途中退出等)をしなかった

[単位:名(延べ)]

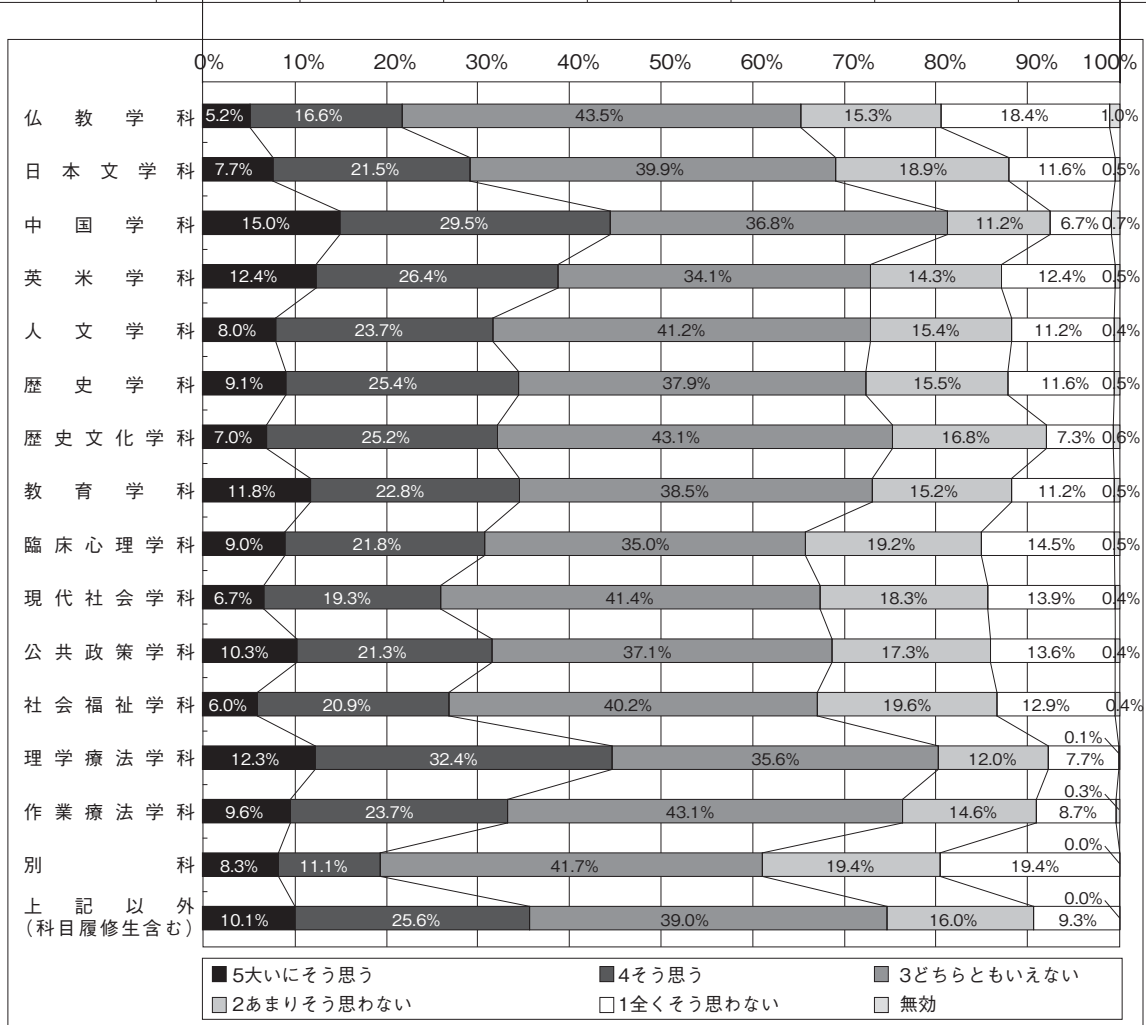
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	229	144	108	21	12	3	517
日 本 文 学 科	737	600	302	61	29	10	1,739
中 国 学 科	552	437	215	32	7	6	1,249
英 米 学 科	957	846	387	101	63	10	2,364
人 文 学 科	2,209	1,732	952	240	80	22	5,235
歴 史 学 科	822	447	152	32	21	13	1,487
歴史文化学科	473	257	101	17	8	2	858
教 育 学 科	2,185	1,536	712	152	92	21	4,698
臨床心理学科	799	564	292	106	40	5	1,806
現代社会学科	2,071	1,745	925	196	86	20	5,043
公共政策学科	1,290	946	500	105	63	12	2,916
社会福祉学科	2,858	2,535	1,298	283	124	30	7,128
理学療法学科	676	314	99	19	10	3	1,121
作業療法学科	514	394	122	20	5	2	1,057
別 科	16	9	7	2	2	0	36
上 記 以 外 (科目履修生含む)	173	92	63	14	14	0	356



Q1-(4) 1回の授業につき予習・復習をした

[単位：名(延べ)]

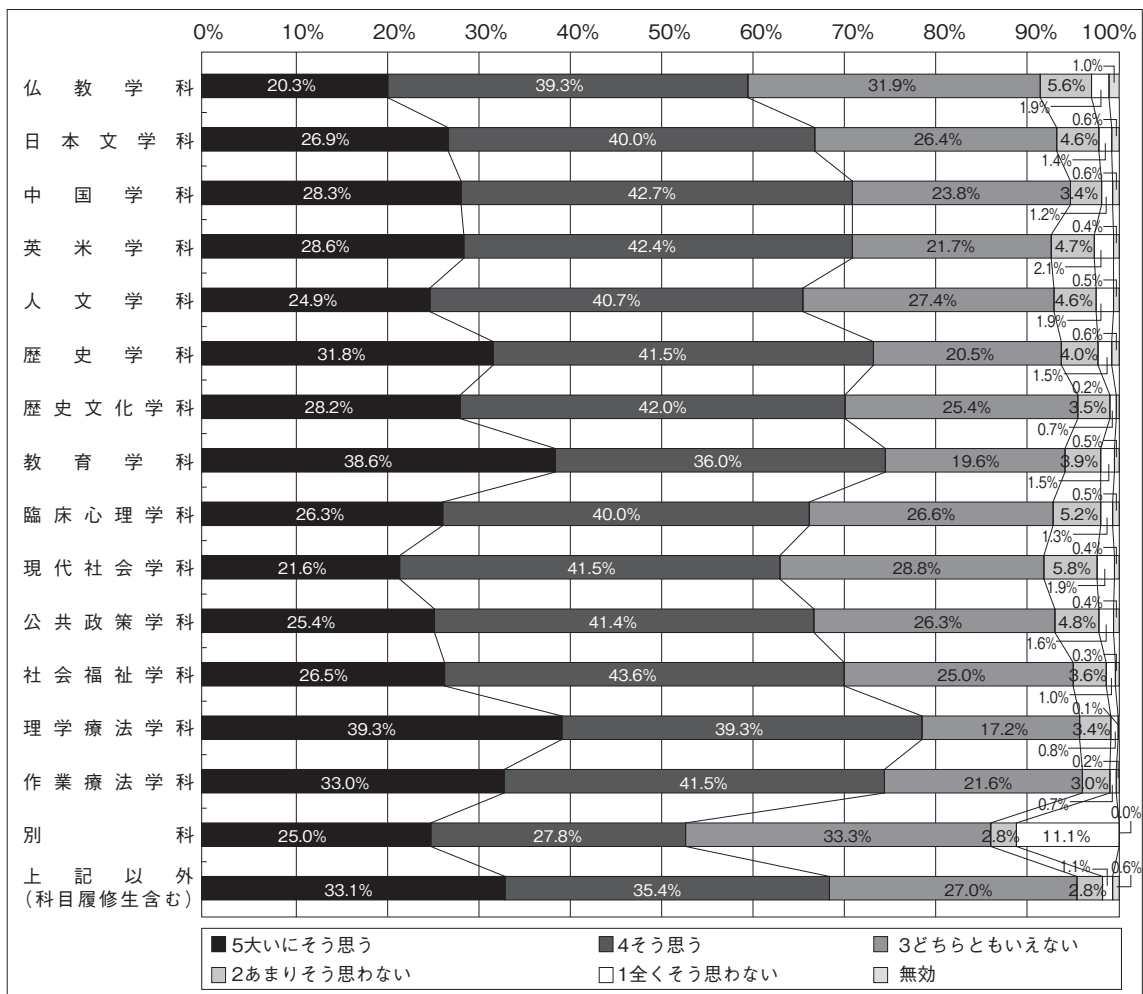
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	27	86	225	79	95	5	517
日 本 文 学 科	134	374	693	329	201	8	1,739
中 国 学 科	187	369	460	140	84	9	1,249
英 米 学 科	293	623	806	339	292	11	2,364
人 文 学 科	421	1,240	2,156	807	588	23	5,235
歴 史 学 科	135	378	563	231	173	7	1,487
歴史文化学科	60	216	370	144	63	5	858
教 育 学 科	553	1,070	1,811	713	527	24	4,698
臨床心理学科	163	393	633	347	261	9	1,806
現代社会学科	340	975	2,086	921	700	21	5,043
公共政策学科	299	621	1,082	505	396	13	2,916
社会福祉学科	429	1,489	2,862	1,397	923	28	7,128
理学療法学科	138	363	399	134	86	1	1,121
作業療法学科	102	250	456	154	92	3	1,057
別 科	3	4	15	7	7	0	36
上 記 以 外 (科目履修生含む)	36	91	139	57	33	0	356



Q1-(5) 熱心に授業に取り組んだ

[単位：名(延べ)]

	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	105	203	165	29	10	5	517
日 本 文 学 科	468	696	459	80	25	11	1,739
中 国 学 科	353	533	297	43	15	8	1,249
英 米 学 科	677	1,002	514	111	50	10	2,364
人 文 学 科	1,302	2,132	1,437	243	97	24	5,235
歴 史 学 科	473	617	305	60	23	9	1,487
歴史文化学科	242	360	218	30	6	2	858
教 育 学 科	1,815	1,690	920	182	69	22	4,698
臨床心理学科	475	723	481	94	24	9	1,806
現代社会学科	1,089	2,091	1,453	295	96	19	5,043
公共政策学科	740	1,208	767	140	48	13	2,916
社会福祉学科	1,891	3,109	1,780	258	71	19	7,128
理学療法学科	440	440	193	38	9	1	1,121
作業療法学科	349	439	228	32	7	2	1,057
別 科	9	10	12	1	4	0	36
上 記 以 外 (科目履修生含む)	118	126	96	10	4	2	356

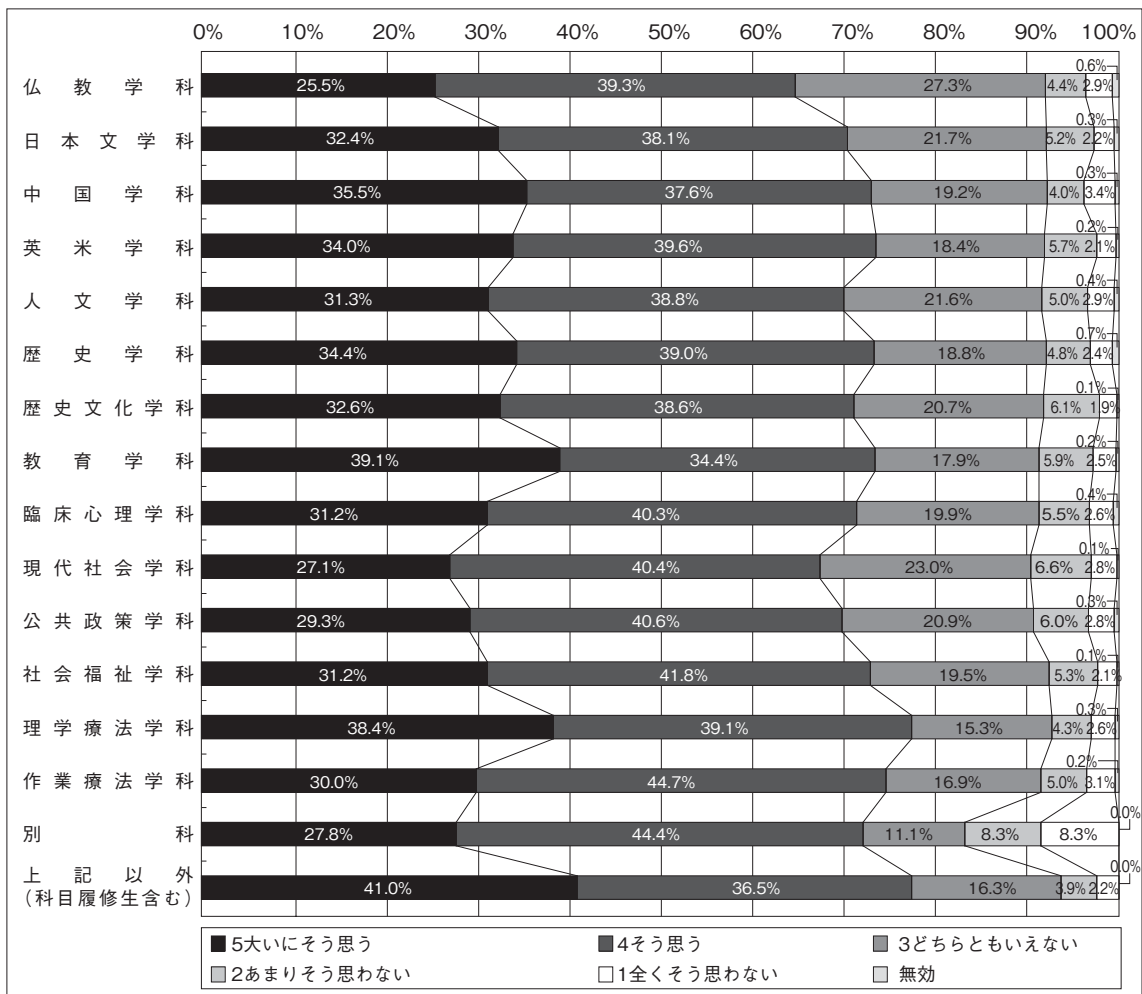


2. この授業の運営について

Q2-(1) わかりやすい授業であった

[単位：名(延べ)]

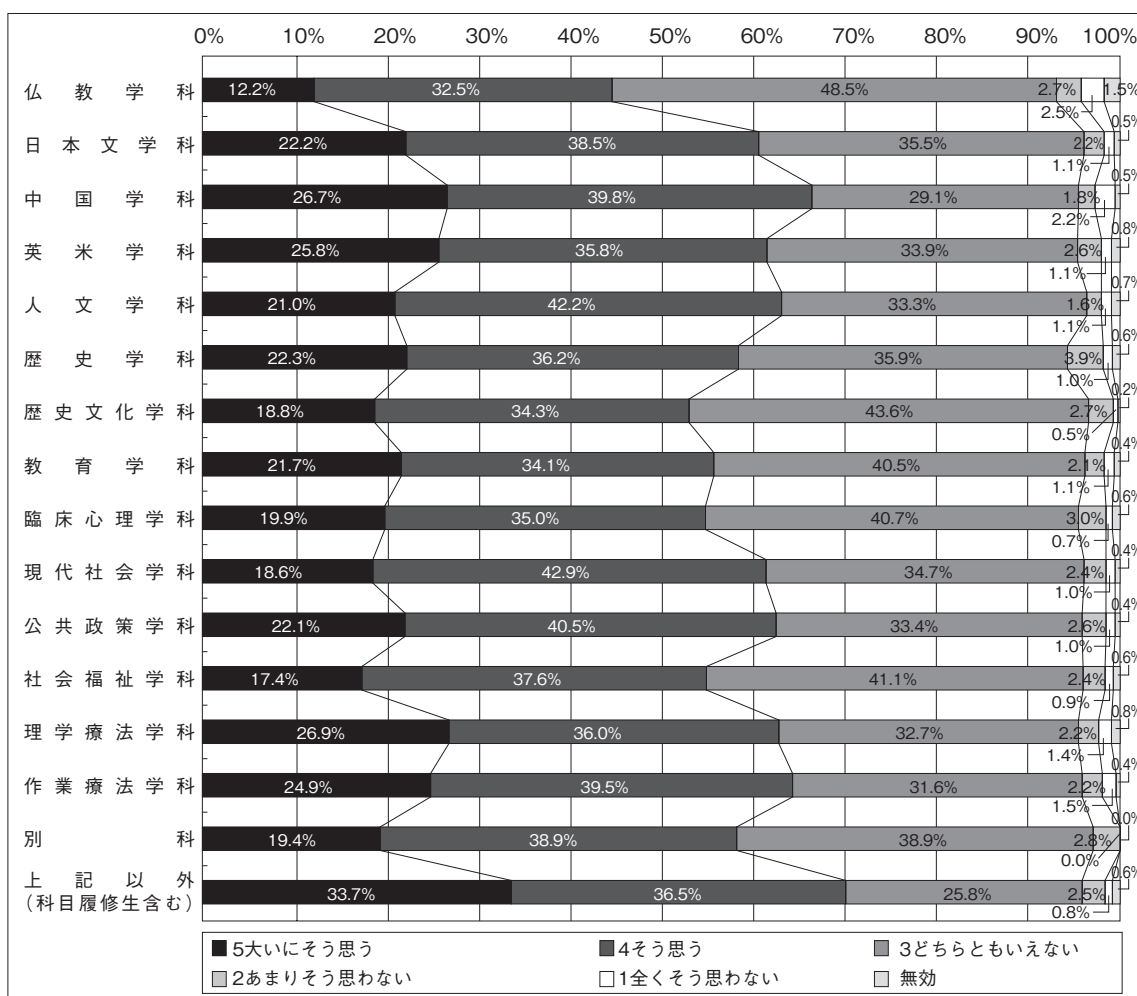
	5大いにそう思う	4そう思う	3どちらともいえない	2あまりそう思わない	1全くそう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	132	203	141	23	15	3	517
日 本 文 学 科	564	663	377	90	39	6	1,739
中 国 学 科	444	469	240	50	42	4	1,249
英 米 学 科	804	935	436	134	50	5	2,364
人 文 学 科	1,637	2,033	1,130	264	151	20	5,235
歴 史 学 科	511	580	279	71	36	10	1,487
歴史文化学科	280	331	178	52	16	1	858
教 育 学 科	1,839	1,615	840	276	119	9	4,698
臨床心理学科	564	727	360	100	47	8	1,806
現代社会学科	1,365	2,039	1,159	333	142	5	5,043
公共政策学科	855	1,184	610	176	82	9	2,916
社会福祉学科	2,225	2,978	1,387	378	150	10	7,128
理学療法学科	431	438	172	48	29	3	1,121
作業療法学科	317	473	179	53	33	2	1,057
別 科	10	16	4	3	3	0	36
上記以外 (科目履修生含む)	146	130	58	14	8	0	356



Q2-(2) 授業はシラバス通りに進行していた

[単位：名(延べ)]

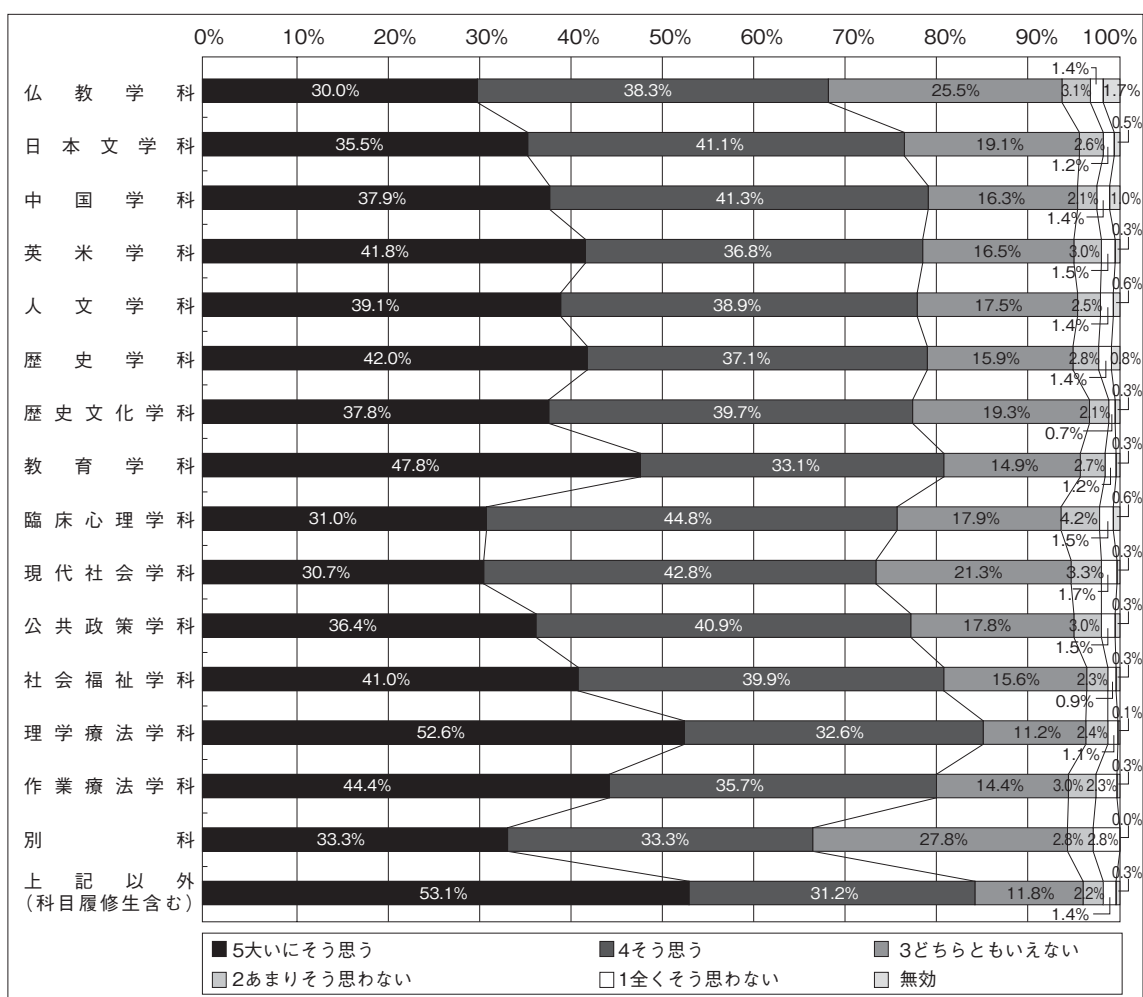
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	63	168	251	14	13	8	517
日 本 文 学 科	386	670	618	38	19	8	1,739
中 国 学 科	333	497	363	22	28	6	1,249
英 米 学 科	610	846	802	61	26	19	2,364
人 文 学 科	1,101	2,211	1,742	83	60	38	5,235
歴 史 学 科	332	539	534	58	15	9	1,487
歴史文化学科	161	294	374	23	4	2	858
教 育 学 科	1,020	1,602	1,904	97	54	21	4,698
臨床心理学科	360	633	735	55	12	11	1,806
現代社会学科	938	2,165	1,749	123	50	18	5,043
公共政策学科	644	1,182	973	76	28	13	2,916
社会福祉学科	1,241	2,678	2,933	169	62	45	7,128
理学療法学科	301	403	367	25	16	9	1,121
作業療法学科	263	417	334	23	16	4	1,057
別 科	7	14	14	1	0	0	36
上 記 以 外 (科目履修生含む)	120	130	92	9	3	2	356



Q2-(3) 教員の熱意が伝わってきた

[単位：名(延べ)]

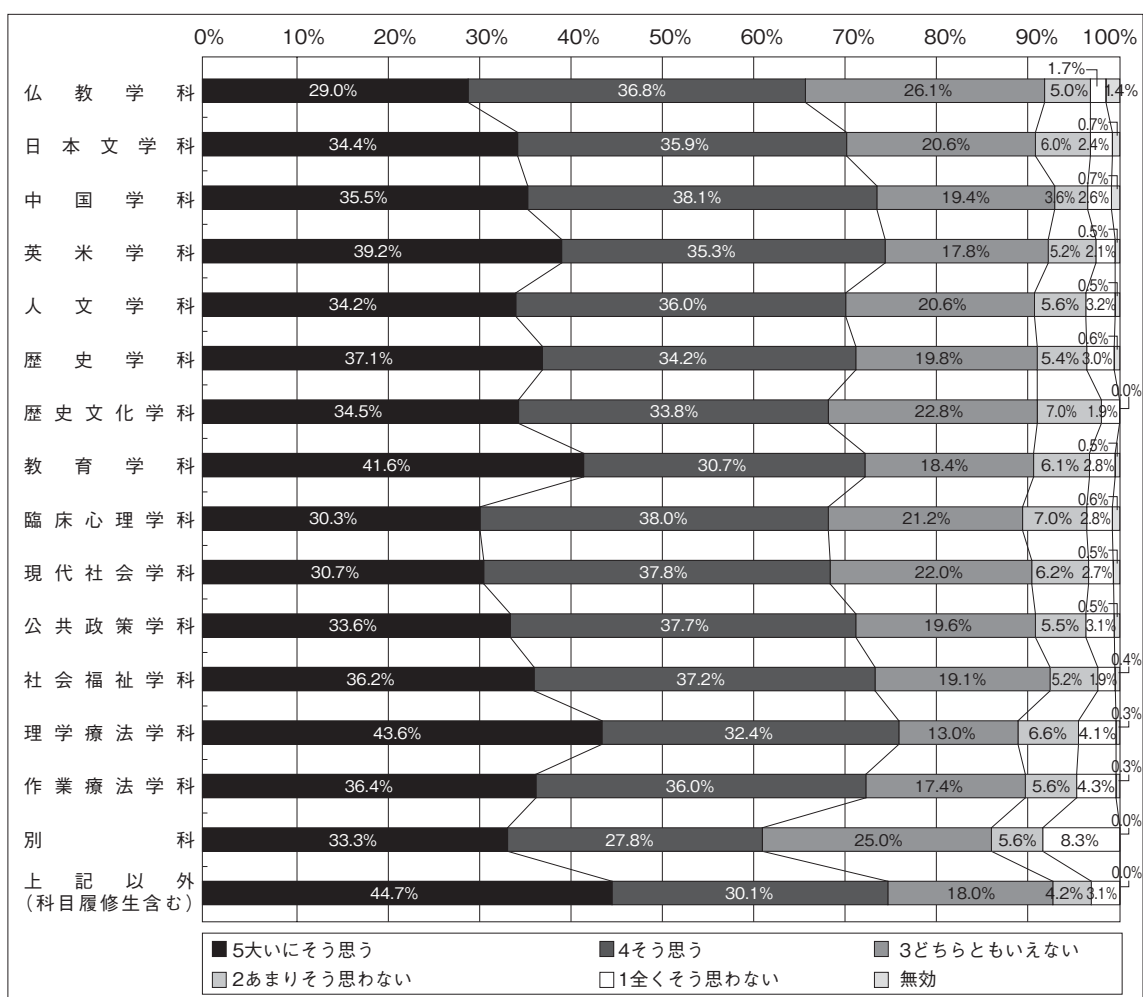
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	155	198	132	16	7	9	517
日 本 文 学 科	618	714	332	46	21	8	1,739
中 国 学 科	473	516	204	26	18	12	1,249
英 米 学 科	989	870	391	71	36	7	2,364
人 文 学 科	2,049	2,037	915	130	75	29	5,235
歴 史 学 科	625	551	237	41	21	12	1,487
歴史文化学科	324	341	166	18	6	3	858
教 育 学 科	2,247	1,557	699	126	56	13	4,698
臨床心理学科	560	809	324	75	27	11	1,806
現代社会学科	1,547	2,158	1,073	164	85	16	5,043
公共政策学科	1,061	1,194	519	88	44	10	2,916
社会福祉学科	2,924	2,845	1,111	162	65	21	7,128
理学療法学科	590	365	126	27	12	1	1,121
作業療法学科	469	377	152	32	24	3	1,057
別 科	12	12	10	1	1	0	36
上 記 以 外 (科目履修生含む)	189	111	42	8	5	1	356



Q2-(4) 聴きやすい話し方だった

[単位：名(延べ)]

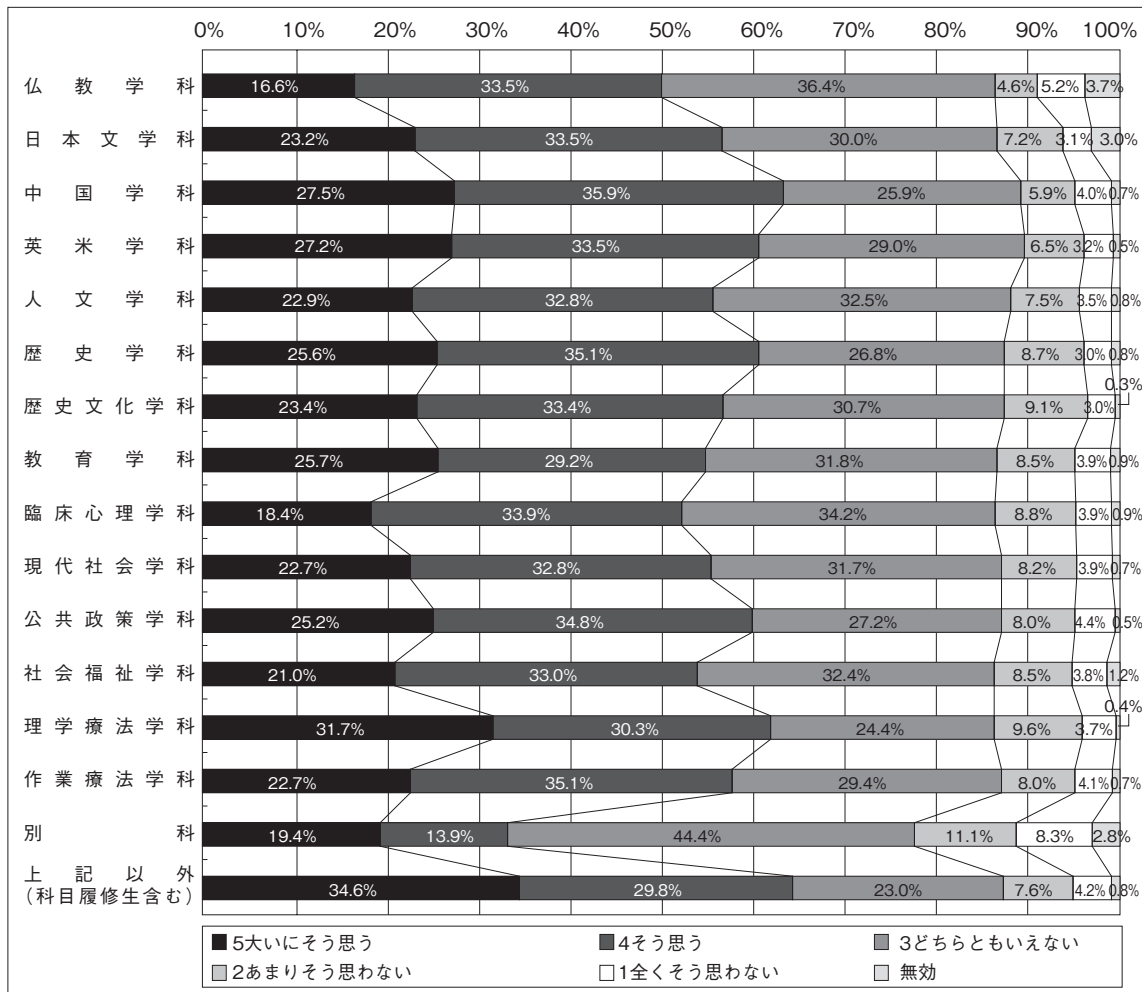
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	150	190	135	26	9	7	517
日 本 文 学 科	599	624	358	104	42	12	1,739
中 国 学 科	444	476	242	45	33	9	1,249
英 米 学 科	926	834	420	122	49	13	2,364
人 文 学 科	1,791	1,883	1,076	292	165	28	5,235
歴 史 学 科	551	509	294	80	44	9	1,487
歴史文化学科	296	290	196	60	16	0	858
教 育 学 科	1,953	1,442	863	286	131	23	4,698
臨床心理学科	548	686	383	127	51	11	1,806
現代社会学科	1,546	1,906	1,111	315	138	27	5,043
公共政策学科	980	1,099	571	160	91	15	2,916
社会福祉学科	2,577	2,651	1,359	373	137	31	7,128
理学療法学科	489	363	146	74	46	3	1,121
作業療法学科	385	381	184	59	45	3	1,057
別 科	12	10	9	2	3	0	36
上 記 以 外 (科目履修生含む)	159	107	64	15	11	0	356



Q2-(5) 板書 (OHP、パワーポイント含む) は見やすかった

[単位：名 (延べ)]

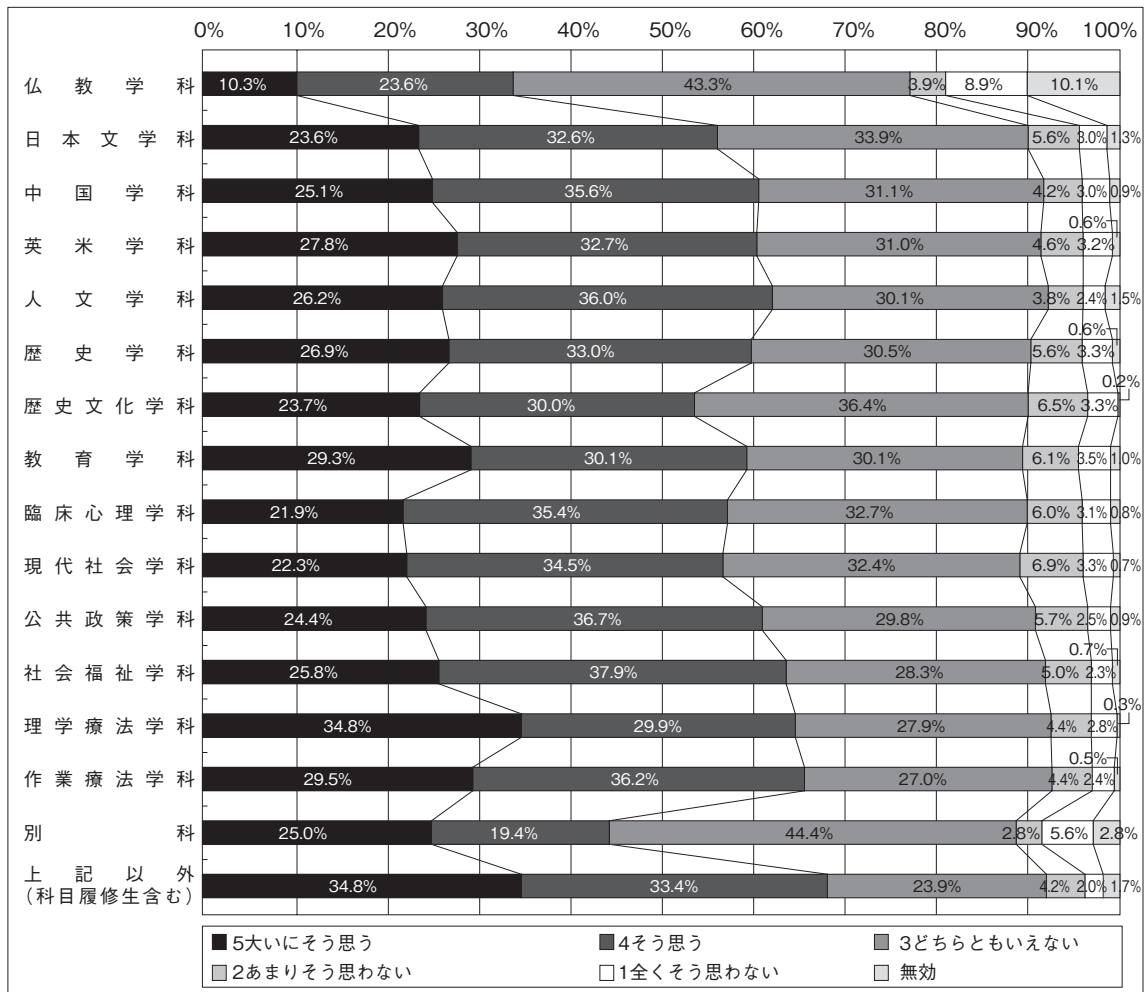
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	86	173	188	24	27	19	517
日 本 文 学 科	403	582	522	126	54	52	1,739
中 国 学 科	343	449	324	74	50	9	1,249
英 米 学 科	644	793	685	154	76	12	2,364
人 文 学 科	1,200	1,717	1,700	393	182	43	5,235
歴 史 学 科	380	522	398	130	45	12	1,487
歴史文化学科	201	287	263	78	26	3	858
教 育 学 科	1,207	1,374	1,495	398	182	42	4,698
臨床心理学科	332	612	617	159	70	16	1,806
現代社会学科	1,143	1,652	1,600	416	197	35	5,043
公共政策学科	734	1,014	793	232	127	16	2,916
社会福祉学科	1,498	2,355	2,312	608	269	86	7,128
理学療法学科	355	340	273	108	41	4	1,121
作業療法学科	240	371	311	85	43	7	1,057
別 科	7	5	16	4	3	1	36
上 記 以 外 (科目履修生含む)	123	106	82	27	15	3	356



Q2-(6) 印刷教材（レジュメ・補助教材等）、視聴覚教材等が効果的だった

[単位：名（延べ）]

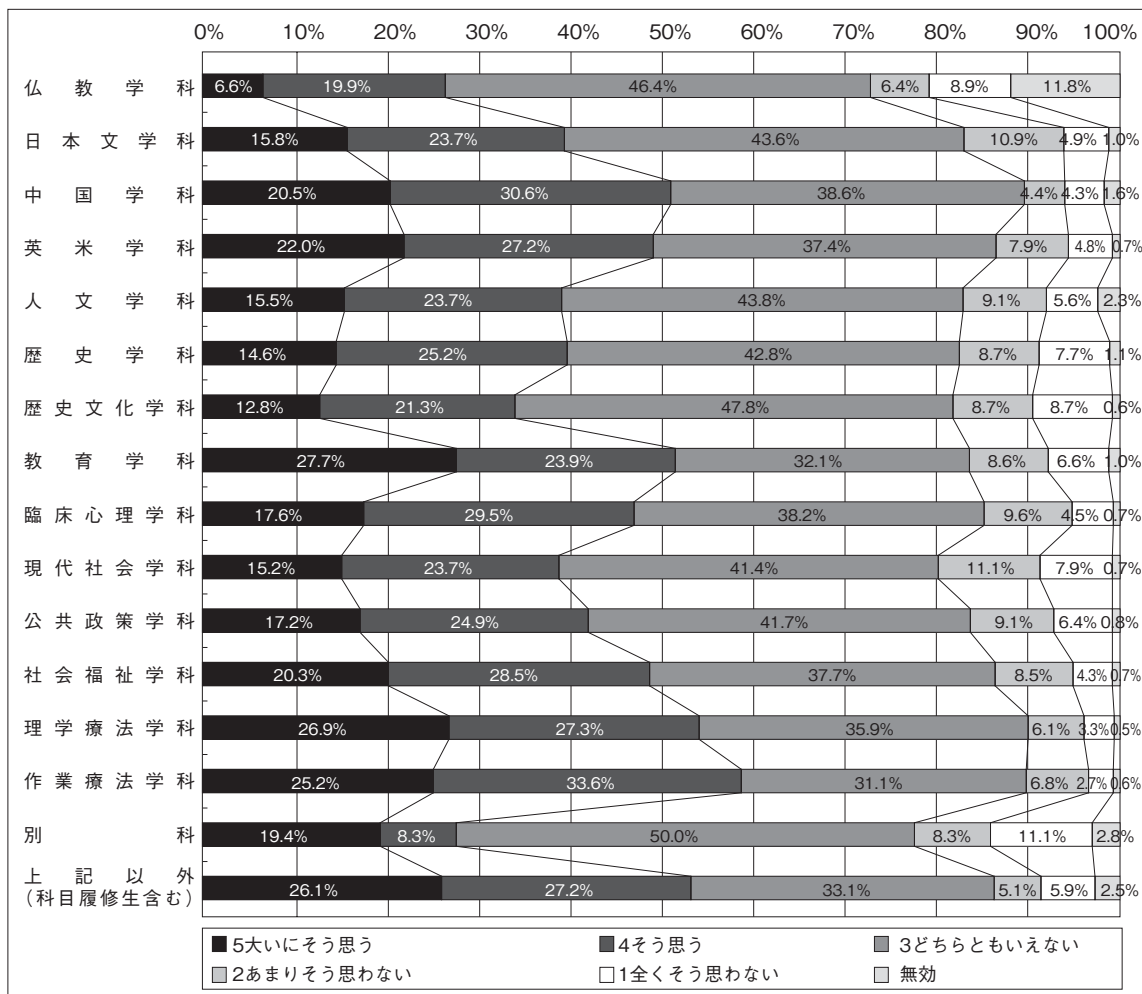
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	53	122	224	20	46	52	517
日 本 文 学 科	410	567	589	98	52	23	1,739
中 国 学 科	314	445	388	53	38	11	1,249
英 米 学 科	657	774	734	109	76	14	2,364
人 文 学 科	1,373	1,883	1,575	200	124	80	5,235
歴 史 学 科	400	491	454	84	49	9	1,487
歴史文化学科	203	257	312	56	28	2	858
教 育 学 科	1,376	1,415	1,412	285	165	45	4,698
臨床心理学科	395	640	591	109	56	15	1,806
現代社会学科	1,127	1,738	1,634	347	164	33	5,043
公共政策学科	712	1,069	869	167	74	25	2,916
社会福祉学科	1,838	2,704	2,015	354	167	50	7,128
理学療法学科	390	335	313	49	31	3	1,121
作業療法学科	312	383	285	47	25	5	1,057
別 科	9	7	16	1	2	1	36
上 記 以 外 (科目履修生含む)	124	119	85	15	7	6	356



Q2-(7) 学習形態（グループ学習・発表、フィールドワーク等）に工夫がみられた

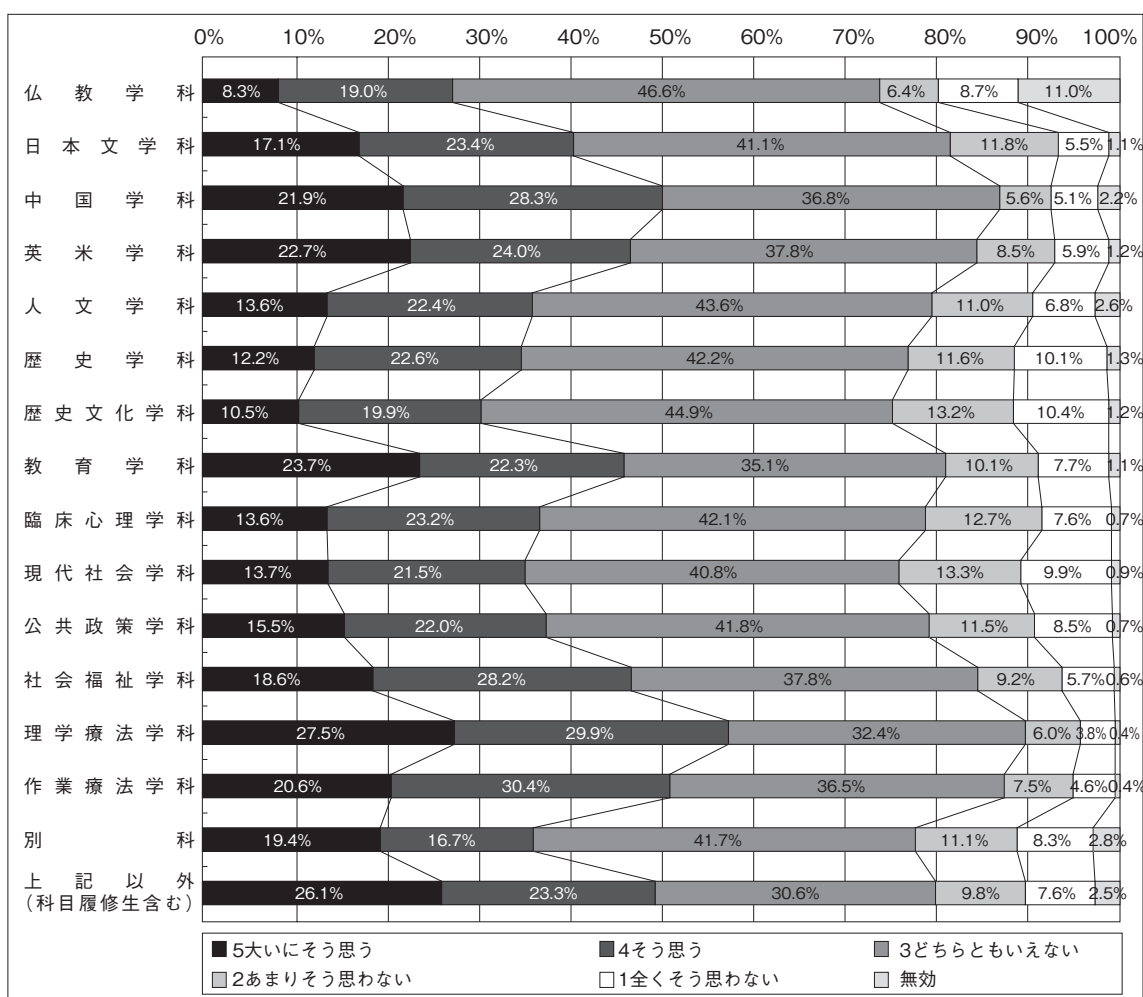
[単位：名（延べ）]

	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	34	103	240	33	46	61	517
日 本 文 学 科	274	413	759	190	86	17	1,739
中 国 学 科	256	382	482	55	54	20	1,249
英 米 学 科	521	642	885	186	114	16	2,364
人 文 学 科	814	1,239	2,294	477	291	120	5,235
歴 史 学 科	217	374	636	129	115	16	1,487
歴史文化学科	110	183	410	75	75	5	858
教 育 学 科	1,301	1,122	1,510	405	311	49	4,698
臨床心理学科	317	532	689	173	82	13	1,806
現代社会学科	766	1,197	2,089	562	396	33	5,043
公共政策学科	501	726	1,216	265	186	22	2,916
社会福祉学科	1,445	2,032	2,689	607	304	51	7,128
理学療法学科	302	306	402	68	37	6	1,121
作業療法学科	266	355	329	72	29	6	1,057
別 科	7	3	18	3	4	1	36
上 記 以 外 (科目履修生含む)	93	97	118	18	21	9	356



Q2-(8) 教員や学生同士のコミュニケーション (e-learning “縁 (えにし)” 含む) に工夫がみられた [単位: 名 (延べ)]

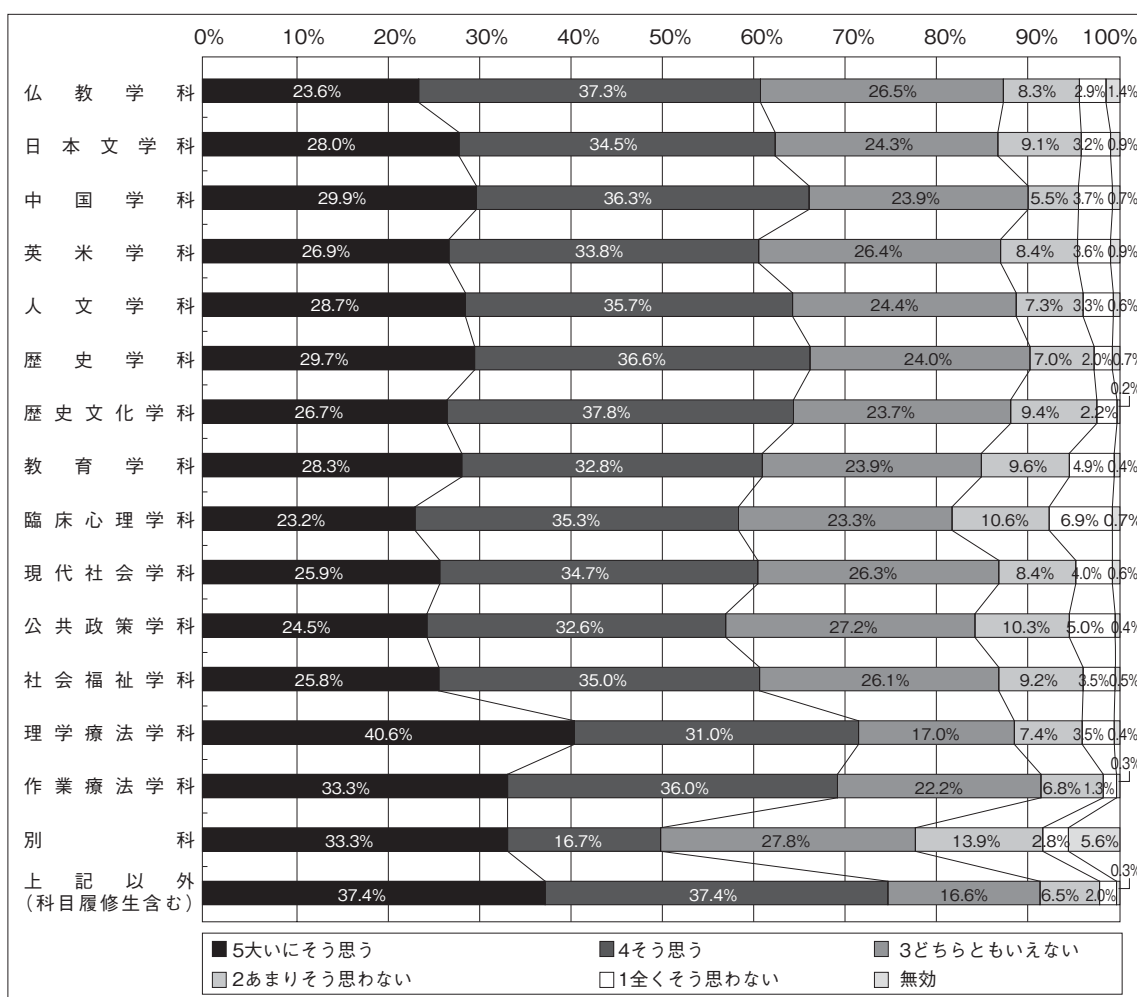
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	43	98	241	33	45	57	517
日 本 文 学 科	298	407	714	206	95	19	1,739
中 国 学 科	274	353	460	70	64	28	1,249
英 米 学 科	536	567	894	200	139	28	2,364
人 文 学 科	713	1,175	2,280	577	354	136	5,235
歴 史 学 科	182	336	628	172	150	19	1,487
歴史文化学科	90	171	385	113	89	10	858
教 育 学 科	1,115	1,046	1,651	473	363	50	4,698
臨床心理学科	246	419	761	230	137	13	1,806
現代社会学科	689	1,082	2,056	670	500	46	5,043
公共政策学科	451	642	1,220	334	249	20	2,916
社会福祉学科	1,324	2,007	2,694	655	403	45	7,128
理学療法学科	308	335	363	67	43	5	1,121
作業療法学科	218	321	386	79	49	4	1,057
別 科	7	6	15	4	3	1	36
上 記 以 外 (科目履修生含む)	93	83	109	35	27	9	356



Q2-(9) 授業は十分な静粛性が保たれていた

[単位：名(延べ)]

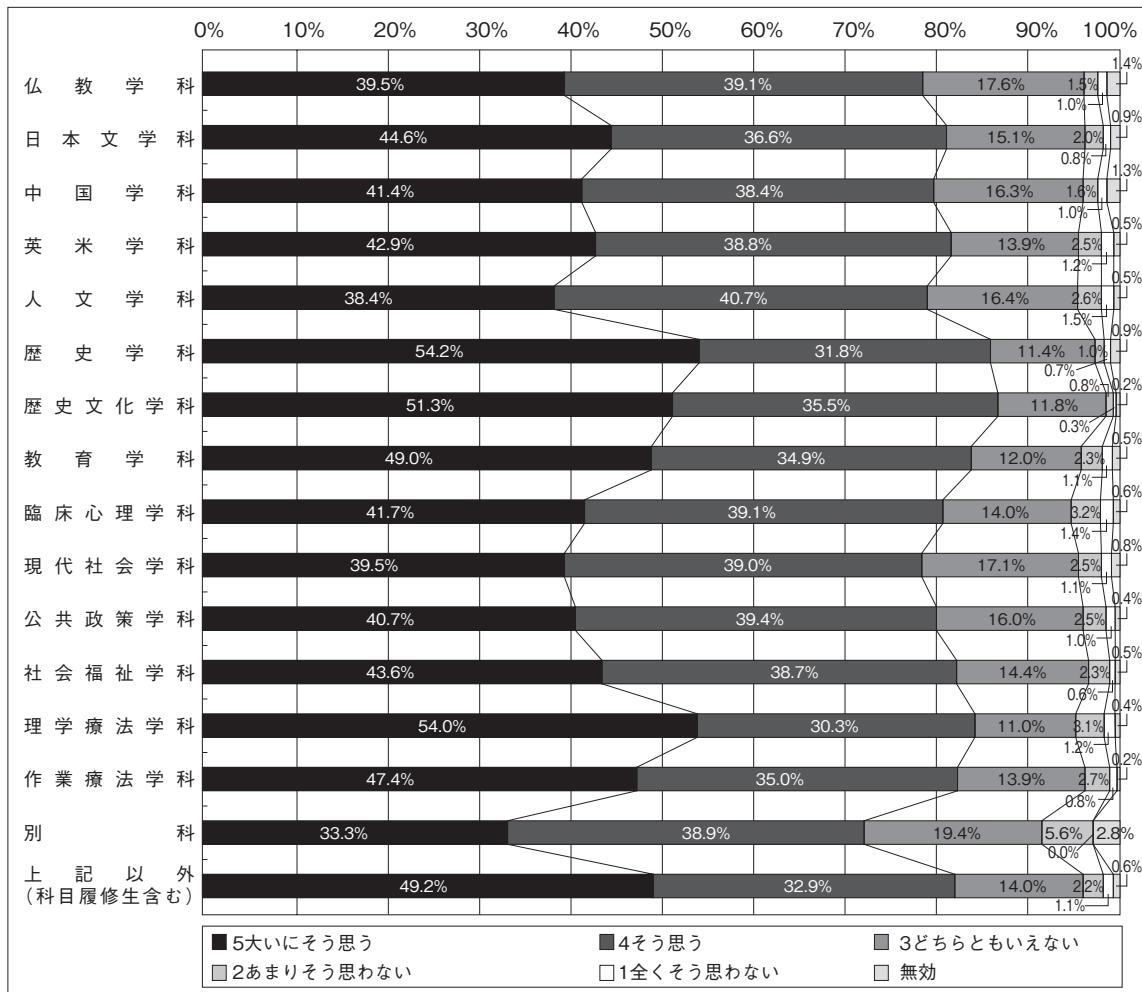
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	122	193	137	43	15	7	517
日 本 文 学 科	487	600	423	158	56	15	1,739
中 国 学 科	374	453	298	69	46	9	1,249
英 米 学 科	636	798	625	199	85	21	2,364
人 文 学 科	1,503	1,870	1,278	380	172	32	5,235
歴 史 学 科	441	544	357	104	30	11	1,487
歴史文化学科	229	324	203	81	19	2	858
教 育 学 科	1,331	1,540	1,123	453	230	21	4,698
臨床心理学科	419	638	420	191	125	13	1,806
現代社会学科	1,308	1,751	1,326	424	203	31	5,043
公共政策学科	713	950	794	300	147	12	2,916
社会福祉学科	1,837	2,493	1,862	654	246	36	7,128
理学療法学科	455	348	191	83	39	5	1,121
作業療法学科	352	381	235	72	14	3	1,057
別 科	12	6	10	5	1	2	36
上 記 以 外 (科目履修生含む)	133	133	59	23	7	1	356



Q2-(10) 授業時間が守られていた

[単位：名(延べ)]

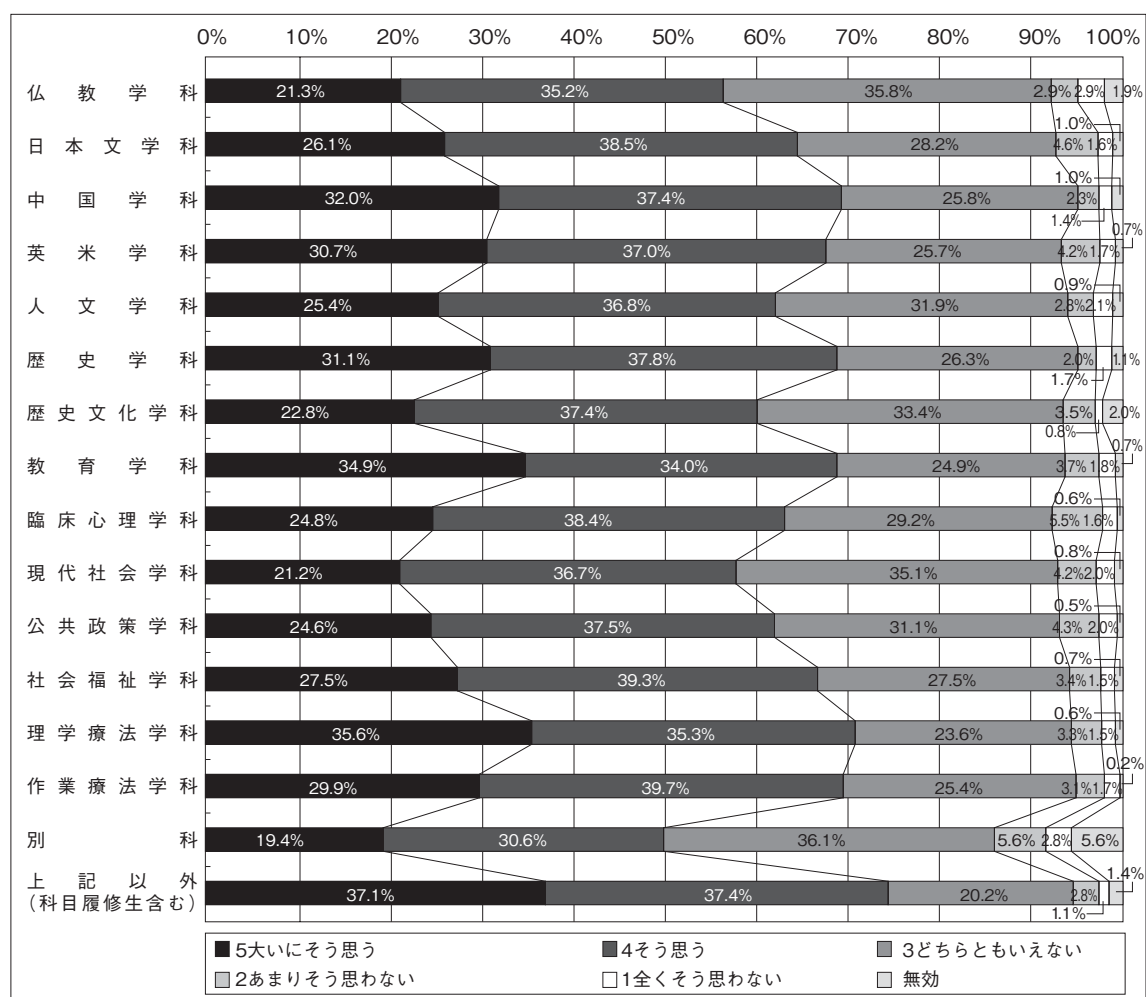
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	204	202	91	8	5	7	517
日 本 文 学 科	775	636	263	35	14	16	1,739
中 国 学 科	517	480	203	20	13	16	1,249
英 米 学 科	1,015	918	329	60	29	13	2,364
人 文 学 科	2,009	2,129	857	137	77	26	5,235
歴 史 学 科	806	473	170	15	10	13	1,487
歴史文化学科	440	305	101	7	3	2	858
教 育 学 科	2,304	1,640	566	109	54	25	4,698
臨床心理学科	754	706	253	57	25	11	1,806
現代社会学科	1,993	1,969	860	127	56	38	5,043
公共政策学科	1,187	1,150	466	72	28	13	2,916
社会福祉学科	3,105	2,756	1,023	165	40	39	7,128
理学療法学科	605	340	123	35	13	5	1,121
作業療法学科	501	370	147	29	8	2	1,057
別 科	12	14	7	2	0	1	36
上 記 以 外 (科目履修生含む)	175	117	50	8	4	2	356



Q2-(11) 授業に関する受講生の意見への対応が十分になされていた

[単位：名(延べ)]

	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	110	182	185	15	15	10	517
日 本 文 学 科	454	669	490	80	28	18	1,739
中 国 学 科	400	467	322	29	18	13	1,249
英 米 学 科	726	874	608	99	40	17	2,364
人 文 学 科	1,331	1,928	1,671	148	108	49	5,235
歴 史 学 科	462	562	391	30	26	16	1,487
歴史文化学科	196	321	287	30	7	17	858
教 育 学 科	1,641	1,598	1,168	173	84	34	4,698
臨床心理学科	447	694	527	99	28	11	1,806
現代社会学科	1,068	1,853	1,769	210	101	42	5,043
公共政策学科	717	1,094	908	125	57	15	2,916
社会福祉学科	1,962	2,804	1,960	241	109	52	7,128
理学療法学科	399	396	265	37	17	7	1,121
作業療法学科	316	420	268	33	18	2	1,057
別 科	7	11	13	2	1	2	36
上 記 以 外 (科目履修生含む)	132	133	72	10	4	5	356

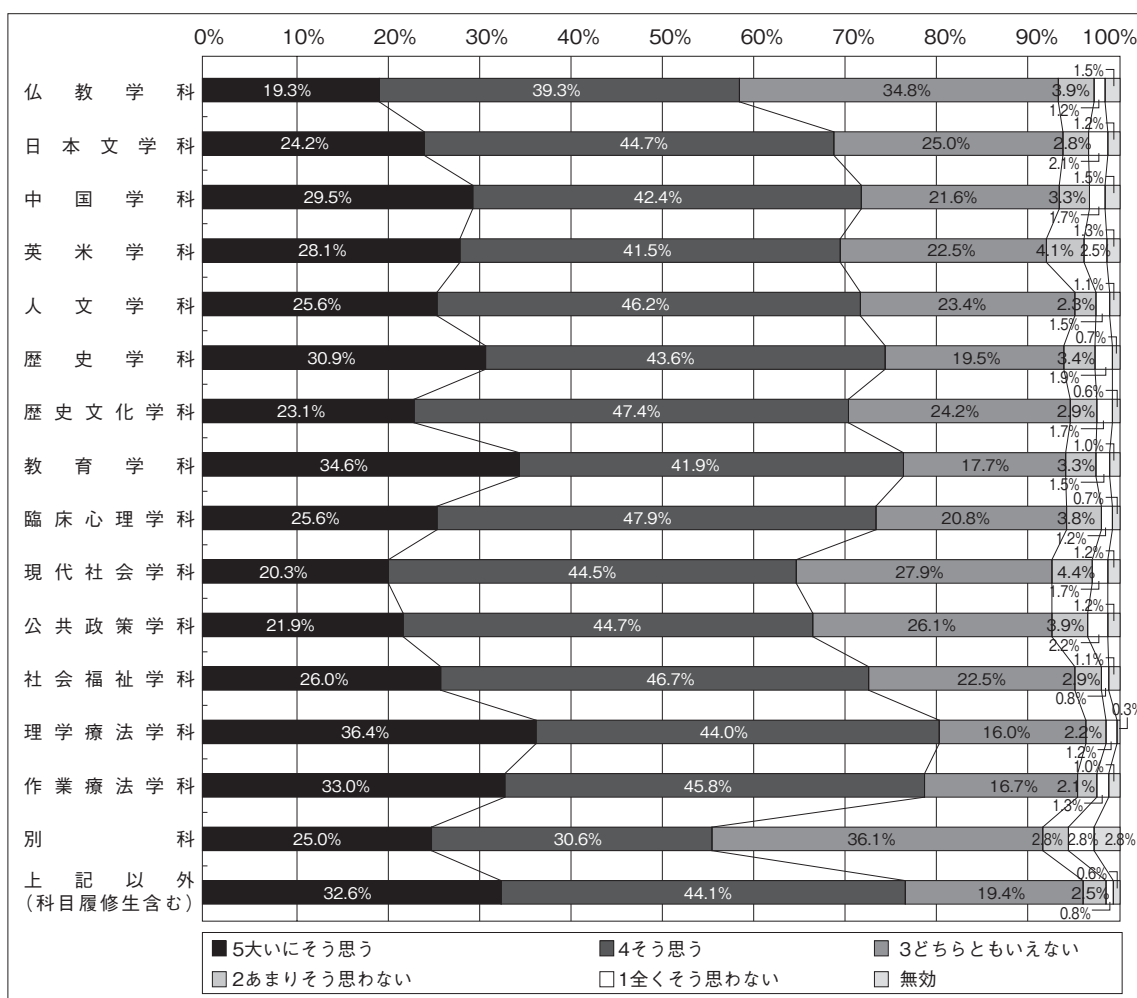


3. この授業からあなたが得たものについて

Q3-(1) 授業で扱った分野に関する専門知識・技術が身についた

[単位：名(延べ)]

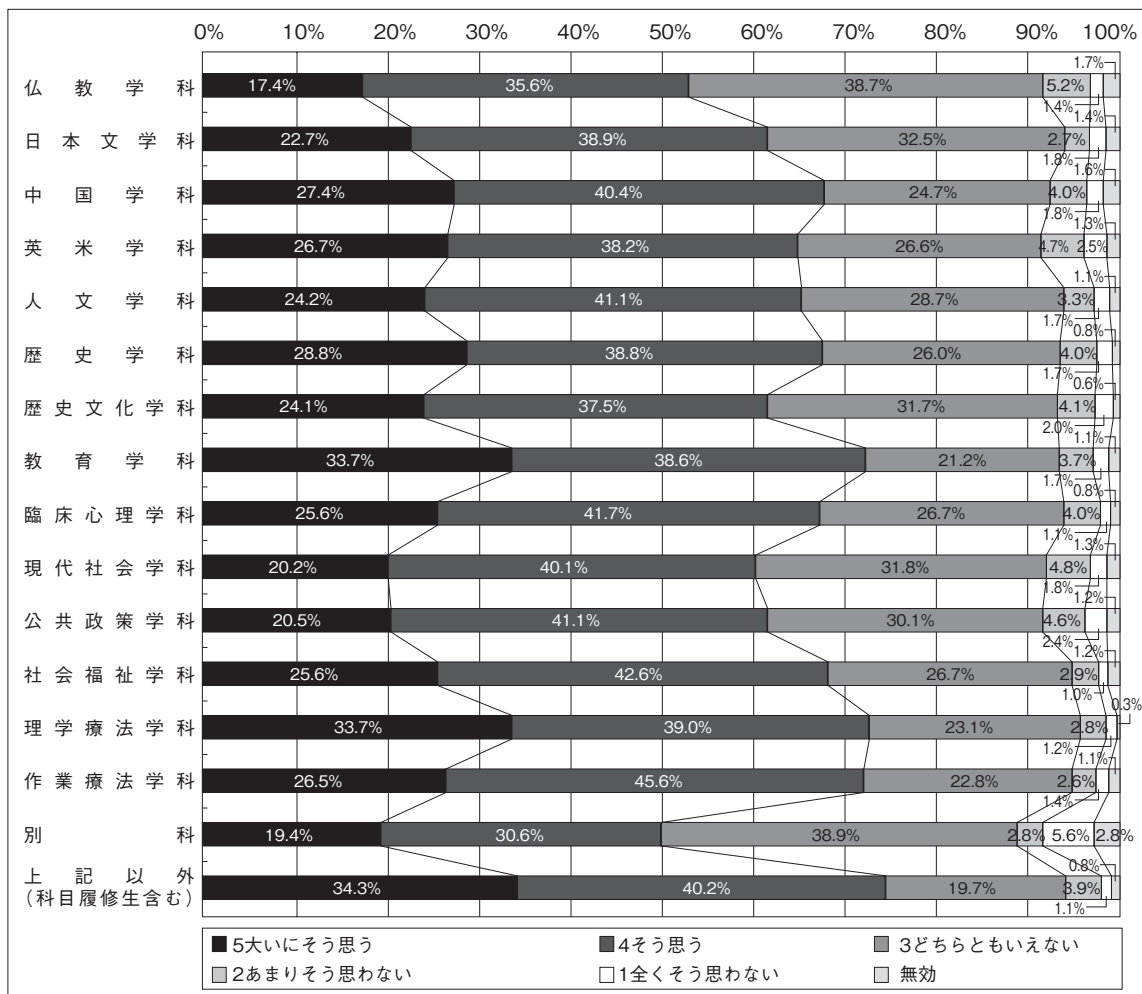
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	100	203	180	20	6	8	517
日 本 文 学 科	420	778	435	48	37	21	1,739
中 国 学 科	369	529	270	41	21	19	1,249
英 米 学 科	664	981	532	98	58	31	2,364
人 文 学 科	1,338	2,417	1,223	123	78	56	5,235
歴 史 学 科	459	649	290	51	28	10	1,487
歴史文化学科	198	407	208	25	15	5	858
教 育 学 科	1,624	1,967	833	156	70	48	4,698
臨床心理学科	463	865	376	68	22	12	1,806
現代社会学科	1,023	2,244	1,408	222	85	61	5,043
公共政策学科	638	1,303	761	114	64	36	2,916
社会福祉学科	1,854	3,326	1,605	205	59	79	7,128
理学療法学科	408	493	179	25	13	3	1,121
作業療法学科	349	484	177	22	14	11	1,057
別 科	9	11	13	1	1	1	36
上記以外 (科目履修生含む)	116	157	69	9	3	2	356



Q3-(2) 自分にとって有益な考え方・発想が身についた

[単位：名(延べ)]

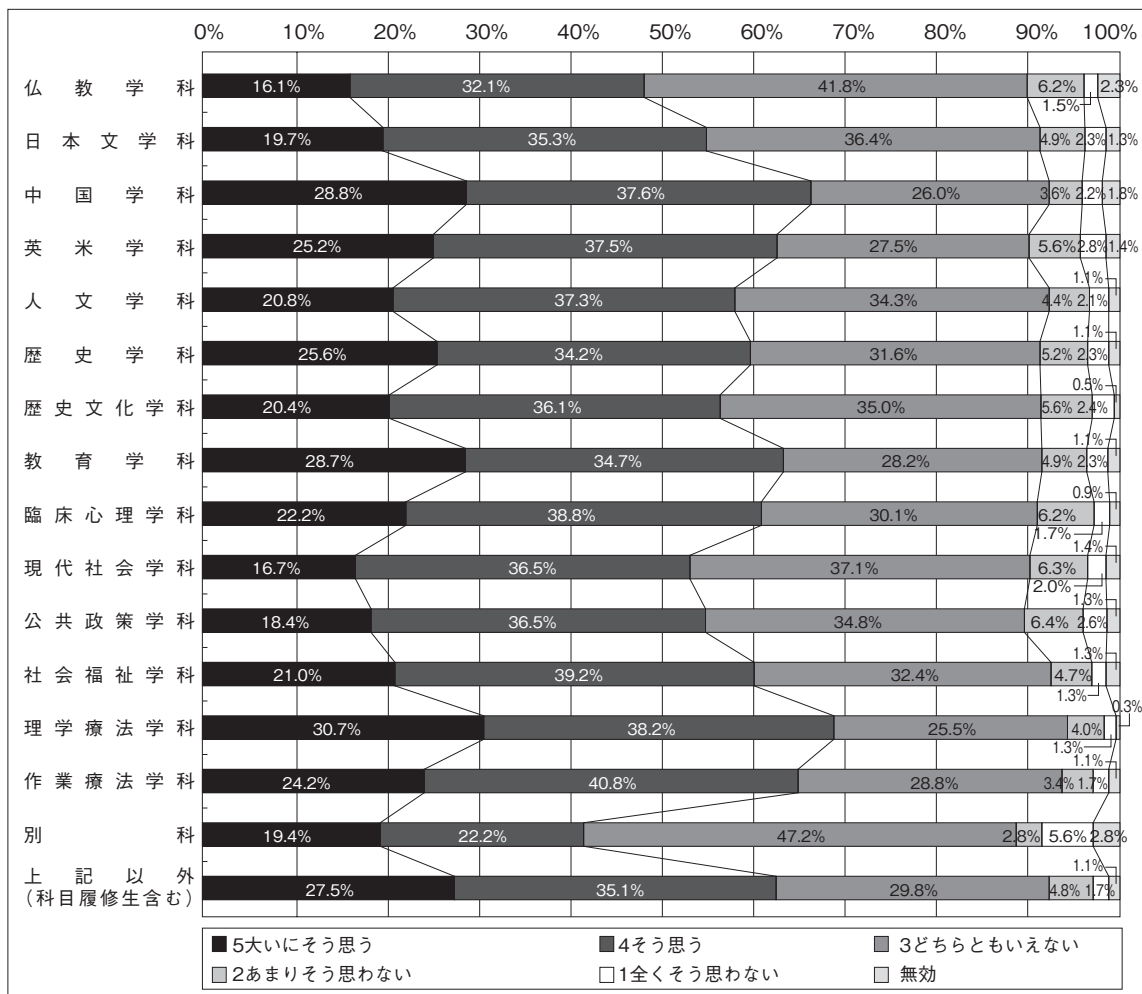
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	90	184	200	27	7	9	517
日 本 文 学 科	395	676	566	47	31	24	1,739
中 国 学 科	342	505	309	50	23	20	1,249
英 米 学 科	631	903	629	112	58	31	2,364
人 文 学 科	1,268	2,151	1,500	173	87	56	5,235
歴 史 学 科	428	577	386	59	25	12	1,487
歴史文化学科	207	322	272	35	17	5	858
教 育 学 科	1,583	1,812	995	176	81	51	4,698
臨床心理学科	463	753	483	73	19	15	1,806
現代社会学科	1,021	2,024	1,605	240	89	64	5,043
公共政策学科	598	1,199	878	134	71	36	2,916
社会福祉学科	1,823	3,036	1,906	208	70	85	7,128
理学療法学科	378	437	259	31	13	3	1,121
作業療法学科	280	482	241	27	15	12	1,057
別 科	7	11	14	1	2	1	36
上 記 以 外 (科目履修生含む)	122	143	70	14	4	3	356



Q3-(3) 自分で調べ、考える姿勢をもてた

[単位：名(延べ)]

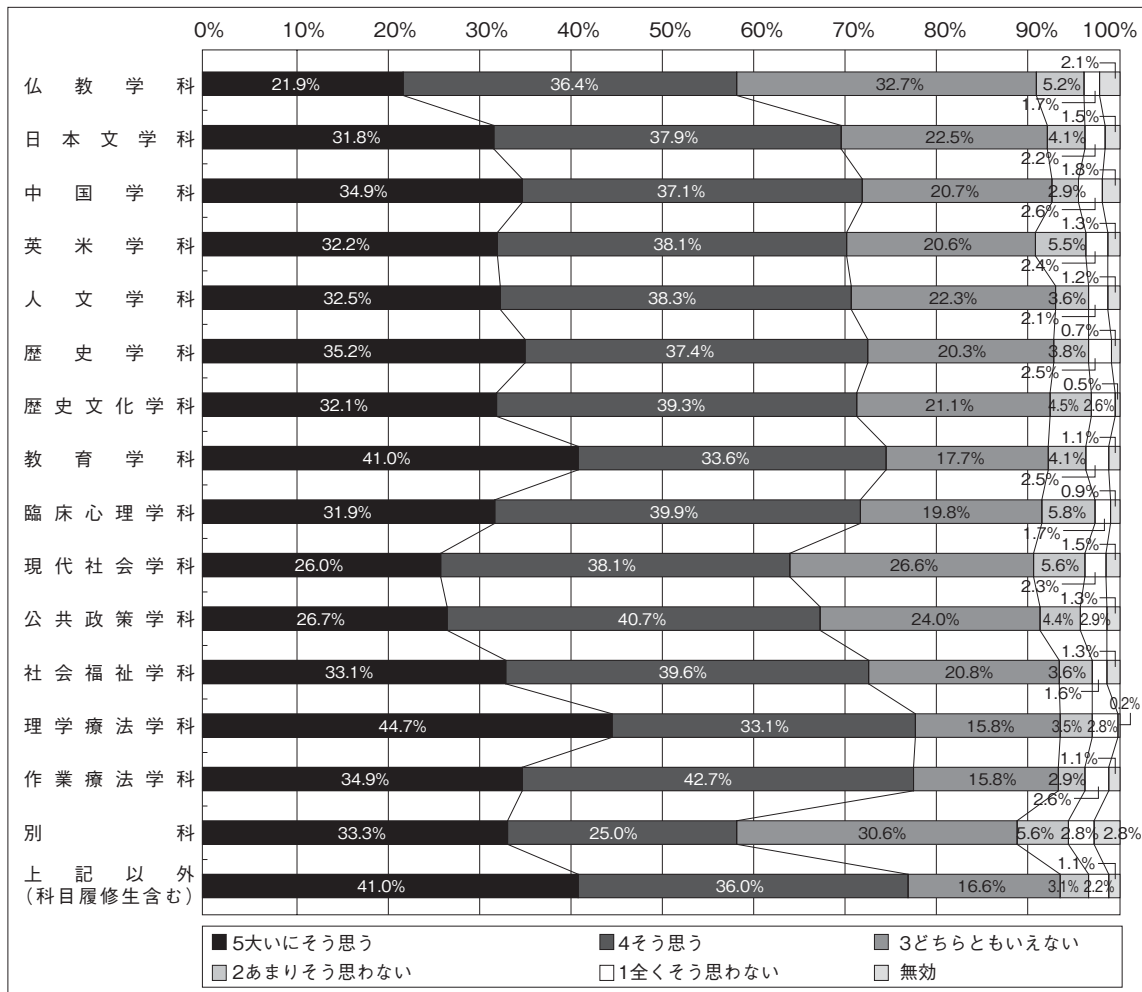
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	83	166	216	32	8	12	517
日 本 文 学 科	343	614	633	86	40	23	1,739
中 国 学 科	360	469	325	45	28	22	1,249
英 米 学 科	596	887	649	132	67	33	2,364
人 文 学 科	1,090	1,954	1,794	231	109	57	5,235
歴 史 学 科	381	509	470	77	34	16	1,487
歴史文化学科	175	310	300	48	21	4	858
教 育 学 科	1,349	1,632	1,326	232	108	51	4,698
臨床心理学科	401	701	544	112	31	17	1,806
現代社会学科	844	1,839	1,872	318	99	71	5,043
公共政策学科	537	1,064	1,015	187	76	37	2,916
社会福祉学科	1,498	2,796	2,310	337	93	94	7,128
理学療法学科	344	428	286	45	15	3	1,121
作業療法学科	256	431	304	36	18	12	1,057
別 科	7	8	17	1	2	1	36
上 記 以 外 (科目履修生含む)	98	125	106	17	6	4	356



Q3-(4) 総合的にみてこの授業に満足をした

[単位：名(延べ)]

	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	113	188	169	27	9	11	517
日 本 文 学 科	553	659	392	71	38	26	1,739
中 国 学 科	436	464	259	36	32	22	1,249
英 米 学 科	761	900	486	129	57	31	2,364
人 文 学 科	1,701	2,003	1,170	186	112	63	5,235
歴 史 学 科	524	556	302	57	37	11	1,487
歴史文化学科	275	337	181	39	22	4	858
教 育 学 科	1,927	1,579	830	191	118	53	4,698
臨床心理学科	576	720	357	105	31	17	1,806
現代社会学科	1,313	1,919	1,340	282	114	75	5,043
公共政策学科	780	1,186	700	128	84	38	2,916
社会福祉学科	2,361	2,823	1,481	256	111	96	7,128
理学療法学科	501	371	177	39	31	2	1,121
作業療法学科	369	451	167	31	27	12	1,057
別 科	12	9	11	2	1	1	36
上 記 以 外 (科目履修生含む)	146	128	59	11	8	4	356



2010 年度 春学期 授業アンケート 開講科目種別集計

科目種別は以下の3分割で分類しています。

共通科目：全学共通科目の仏教・自校教育・リテラシー・キャリア・スポーツ・総合

外国語科目：全学共通科目の外国語科目

専門基礎科目：専門基礎科目

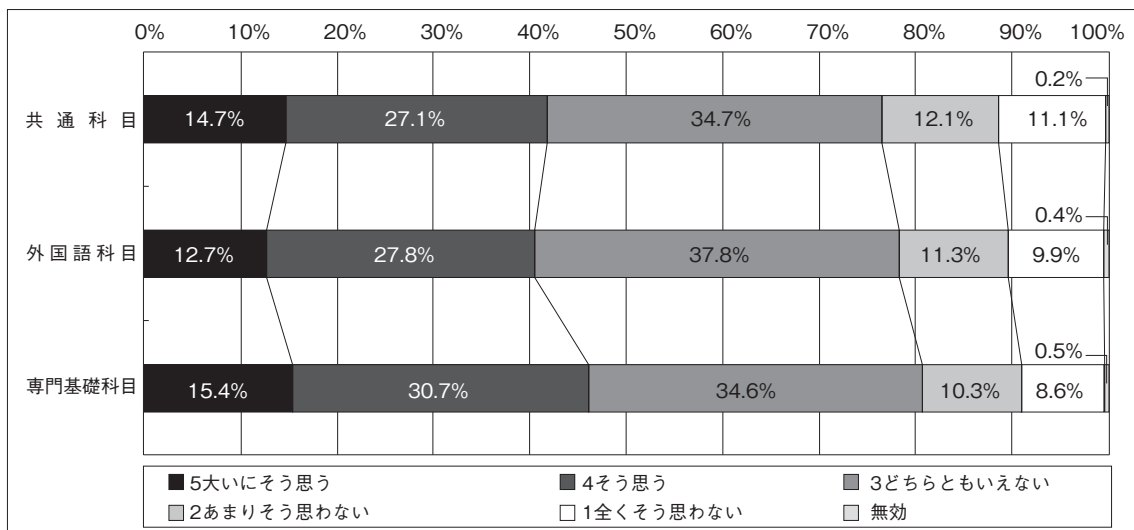
※学部基幹科目・学科基礎科目・コース科目・発展科目は学部集計で集計しています。

1. あなた自身の取り組みについて

Q1-(1) シラバスを読んで受講に備えた

[単位：名(延べ)]

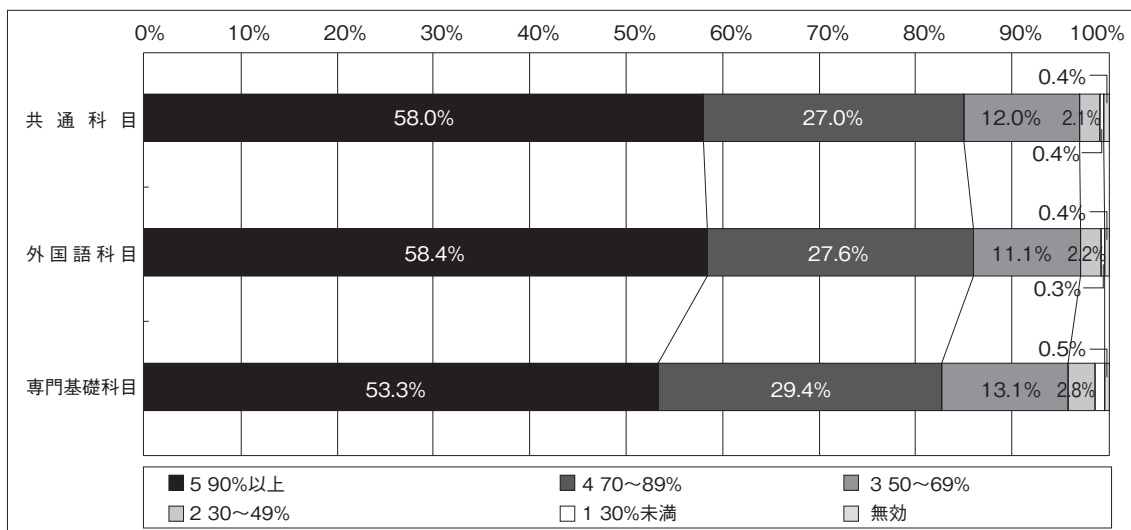
	5大いに思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
共通科目	401	739	944	329	303	6	2,722
外国語科目	762	1,672	2,270	679	596	25	6,004
専門基礎科目	605	1,207	1,361	406	338	19	3,936



Q1-(2) これまでの授業の出席率

[単位：名(延べ)]

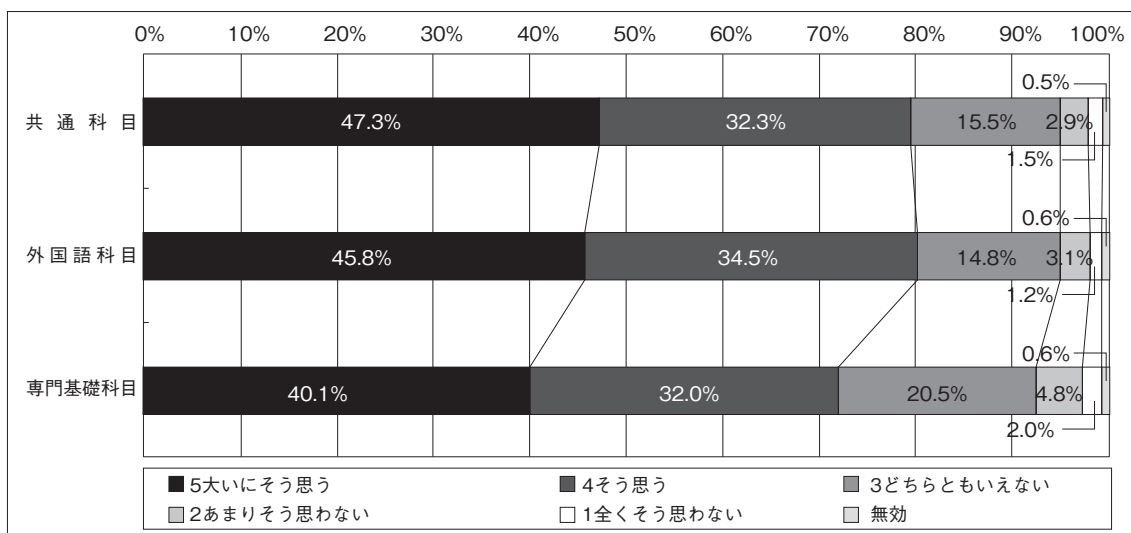
	5 90%以上	4 70～89%	3 50～69%	2 30～49%	1 30%未満	無効	合計
共通科目	1,580	734	327	58	12	11	2,722
外国語科目	3,508	1,657	666	134	16	23	6,004
専門基礎科目	2,096	1,157	514	110	38	21	3,936



Q1-(3) 授業を妨げる行為(私語・携帯の使用・遅刻・途中退出等)をしなかった

[単位：名(延べ)]

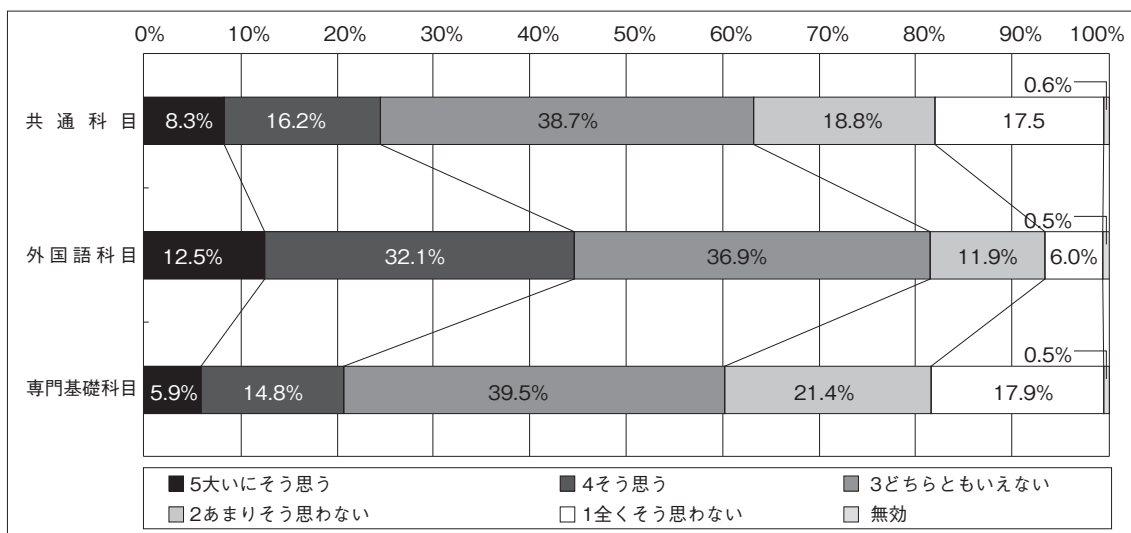
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
共通科目	1,287	878	422	79	42	14	2,722
外国語科目	2,748	2,071	887	186	74	38	6,004
専門基礎科目	1,579	1,261	805	187	79	25	3,936



Q1-(4) 1回の授業につき予習・復習をした

[単位：名(延べ)]

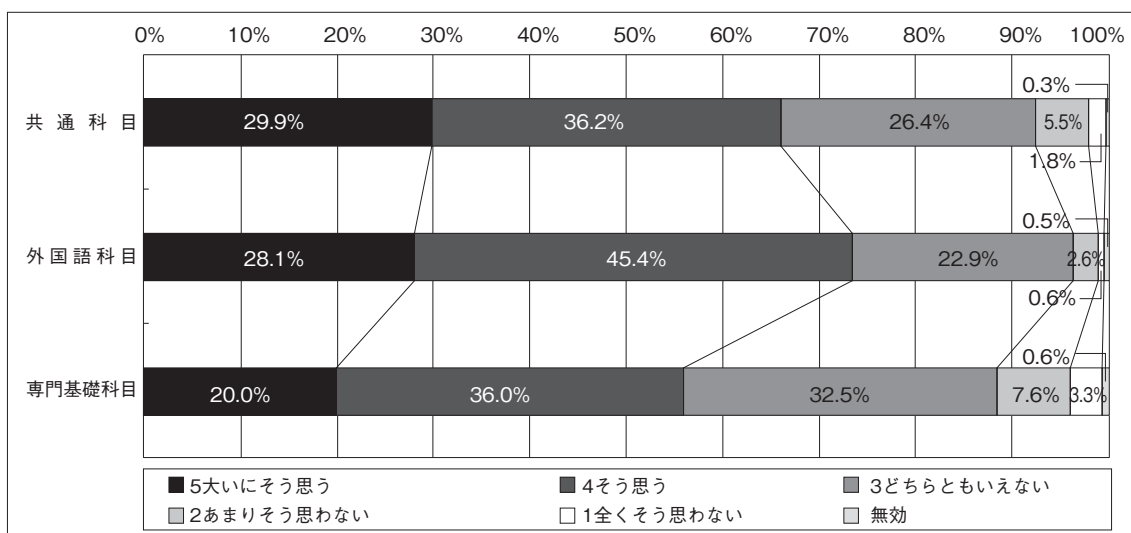
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
共通科目	225	440	1,054	511	477	15	2,722
外国語科目	749	1,929	2,214	717	362	33	6,004
専門基礎科目	233	582	1,553	843	704	21	3,936



Q1-(5) 熱心に授業に取り組んだ

[単位：名(延べ)]

	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
共通科目	814	985	718	150	48	7	2,722
外国語科目	1,687	2,724	1,372	154	35	32	6,004
専門基礎科目	788	1,417	1,280	299	128	24	3,936

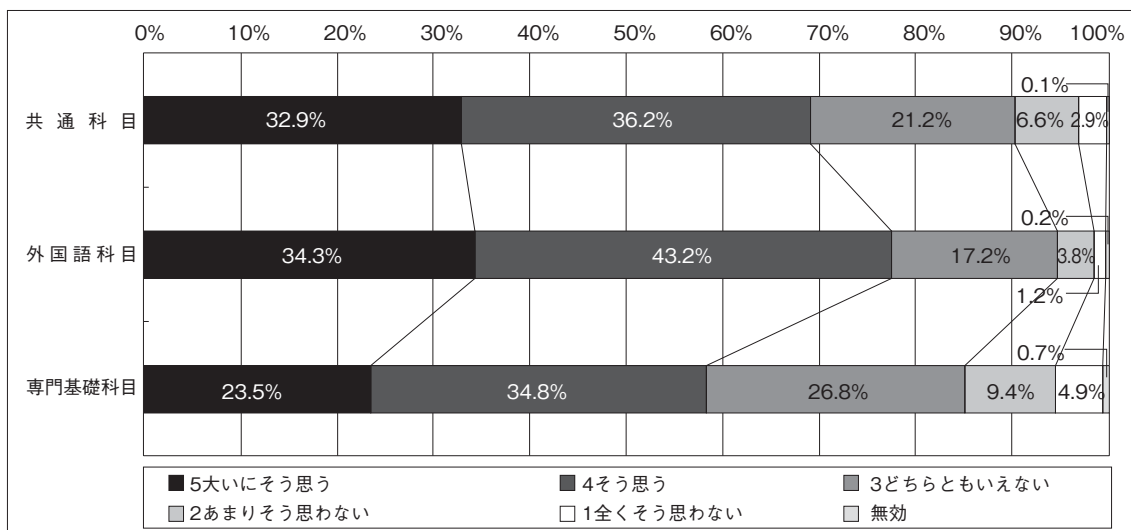


2. この授業の運営について

Q2-(1) わかりやすい授業であった

[単位：名(延べ)]

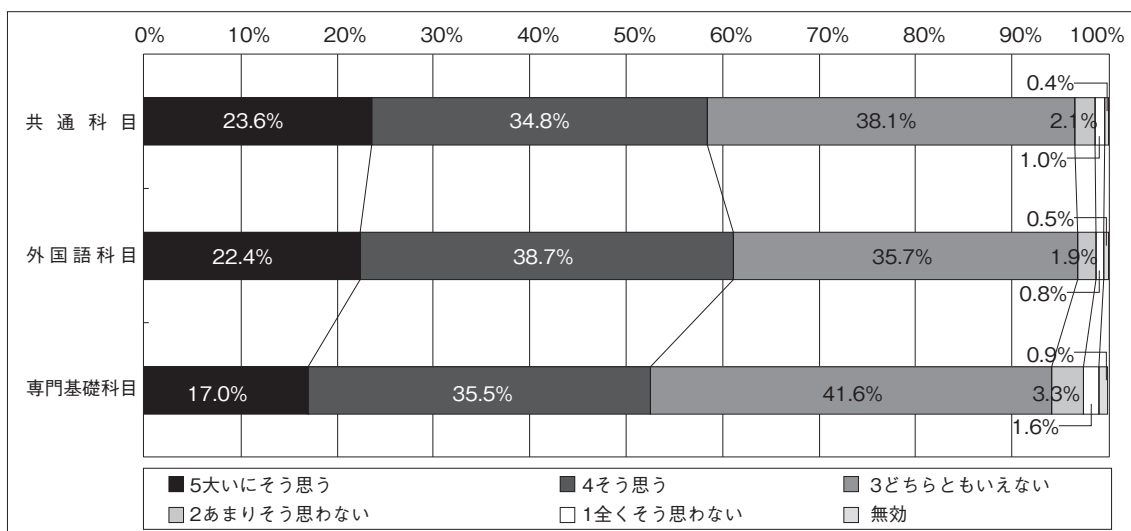
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
共通科目	896	985	578	179	80	4	2,722
外国語科目	2,057	2,594	1,035	230	74	14	6,004
専門基礎科目	923	1,370	1,056	370	191	26	3,936



Q2-(2) 授業はシラバス通りに進行していた

[単位：名(延べ)]

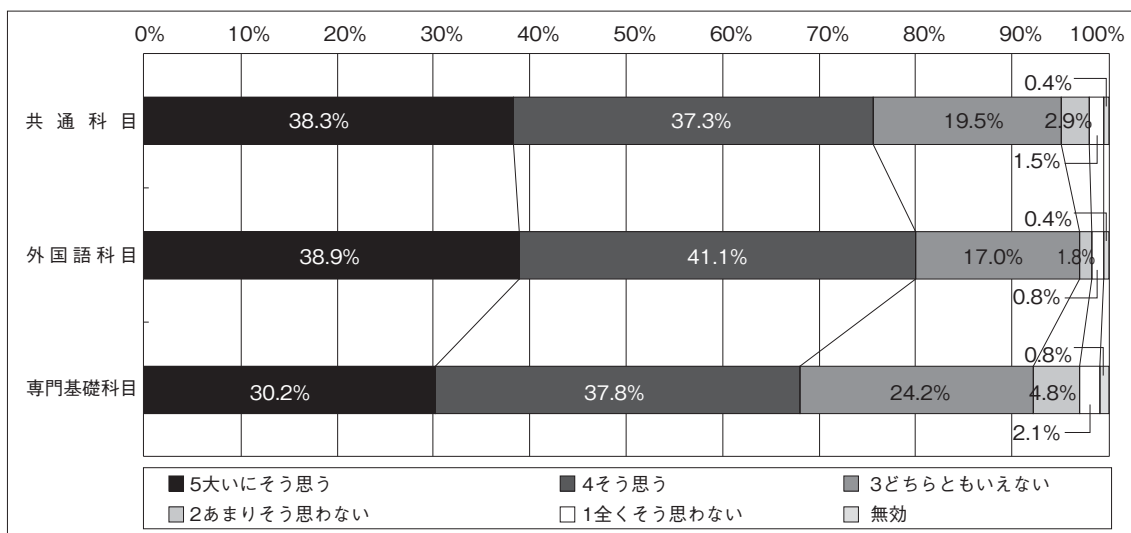
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
共通科目	643	947	1,037	57	28	10	2,722
外国語科目	1,347	2,324	2,144	113	48	28	6,004
専門基礎科目	668	1,399	1,639	130	64	36	3,936



Q2-(3) 教員の熱意が伝わってきた

[単位：名(延べ)]

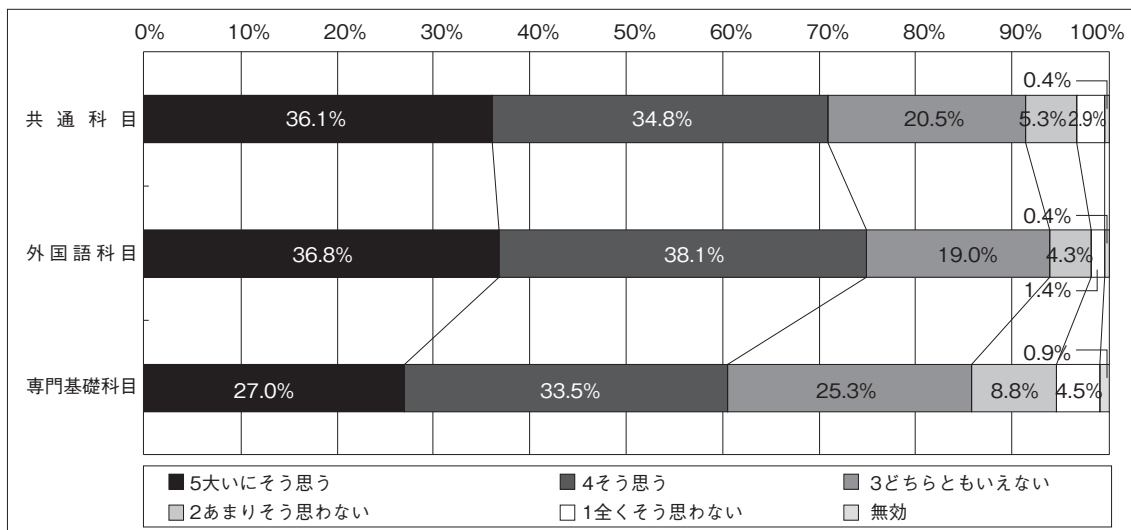
	5大いに思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
共通科目	1,042	1,016	532	78	42	12	2,722
外国語科目	2,333	2,465	1,021	111	47	27	6,004
専門基礎科目	1,190	1,486	954	189	84	33	3,936



Q2-(4) 聴きやすい話し方だった

[単位：名(延べ)]

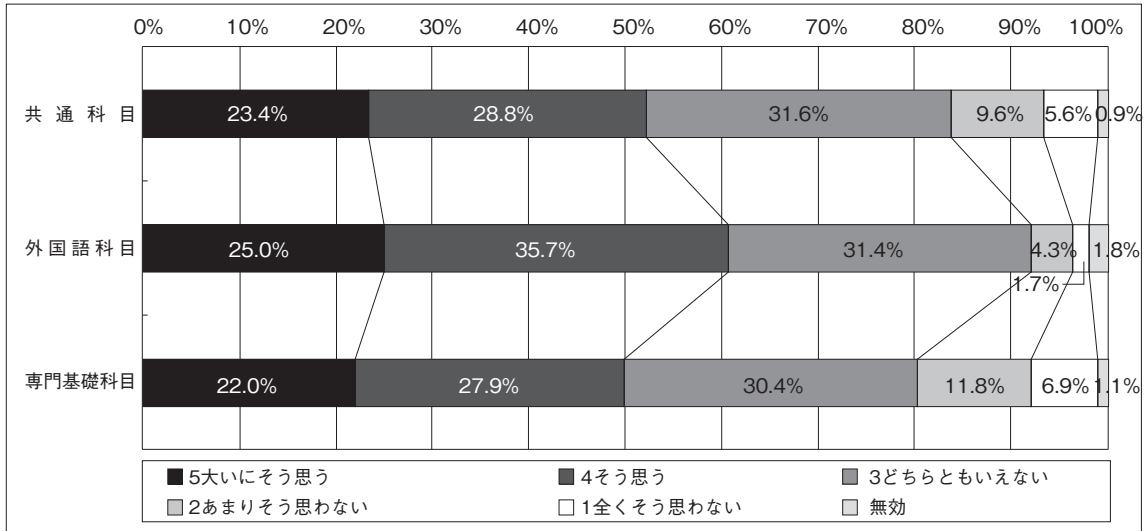
	5大いに思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
共通科目	984	947	557	143	80	11	2,722
外国語科目	2,209	2,289	1,143	256	85	22	6,004
専門基礎科目	1,062	1,320	997	346	177	34	3,936



Q2-(5) 板書（OHP、パワーポイント含む）は見やすかった

[単位：名（延べ）]

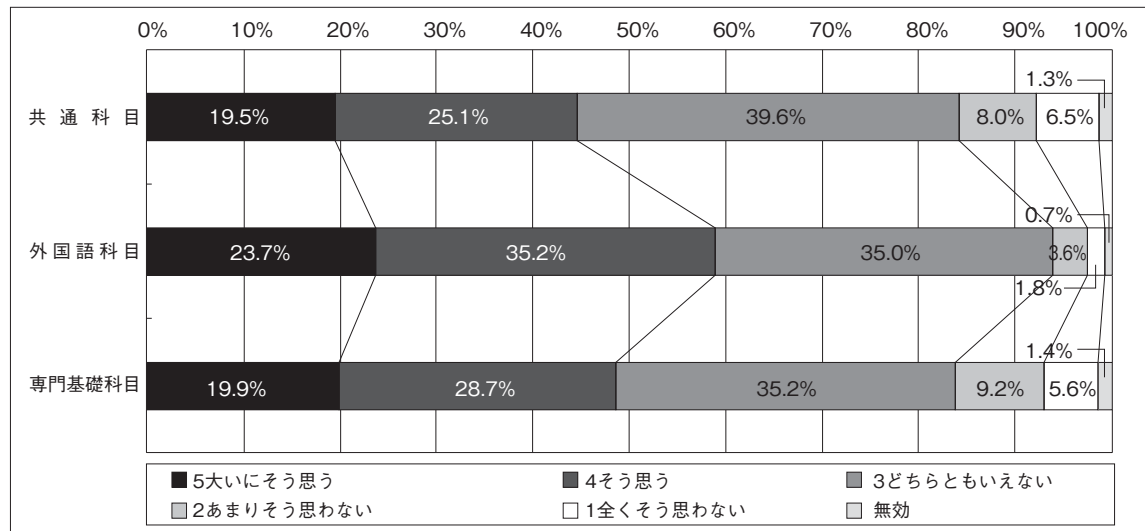
	5大いに思う	4 思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
共通科目	638	784	861	262	152	25	2,722
外国語科目	1,504	2,143	1,888	258	103	108	6,004
専門基礎科目	864	1,100	1,196	463	270	43	3,936



Q2-(6) 印刷教材（レジュメ・補助教材等）、視聴覚教材等が効果的だった

[単位：名（延べ）]

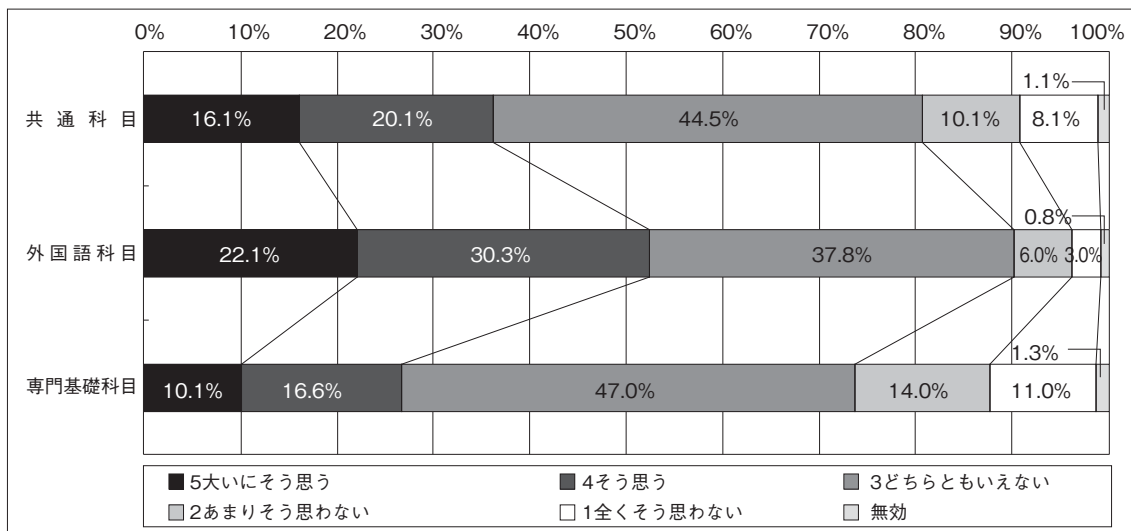
	5大いに思う	4 思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
共通科目	532	682	1,079	217	177	35	2,722
外国語科目	1,422	2,112	2,100	216	111	43	6,004
専門基礎科目	785	1,129	1,385	362	221	54	3,936



Q2-(7) 学習形態（グループ学習・発表、フィールドワーク等）に工夫がみられた

[単位：名（延べ）]

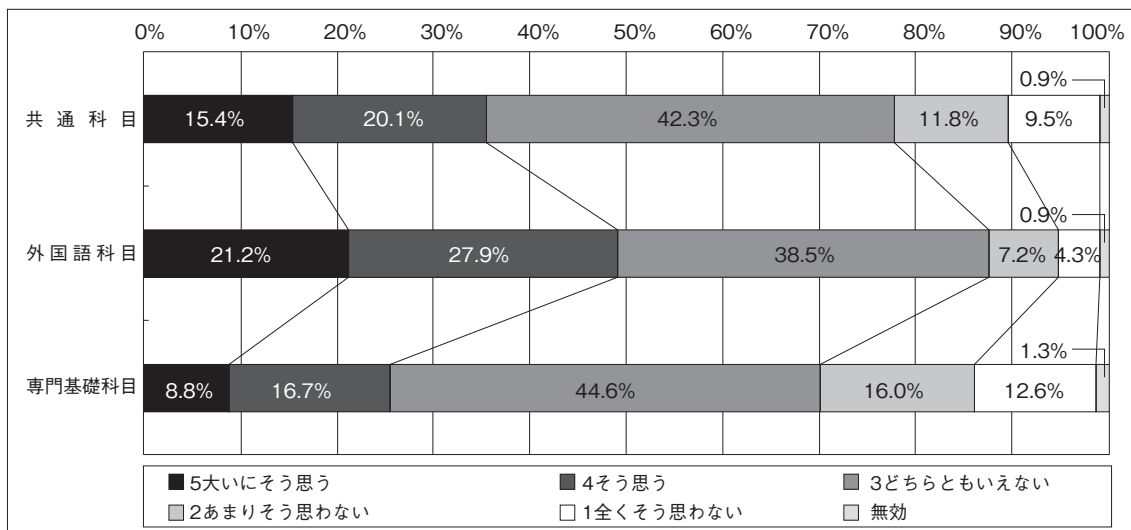
	5大いに思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
共通科目	439	548	1,211	275	220	29	2,722
外国語科目	1,329	1,819	2,271	358	180	47	6,004
専門基礎科目	399	653	1,850	550	431	53	3,936



Q2-(8) 教員や学生同士のコミュニケーション（e-learning “縁（えにし）”含む）に工夫がみられた

[単位：名（延べ）]

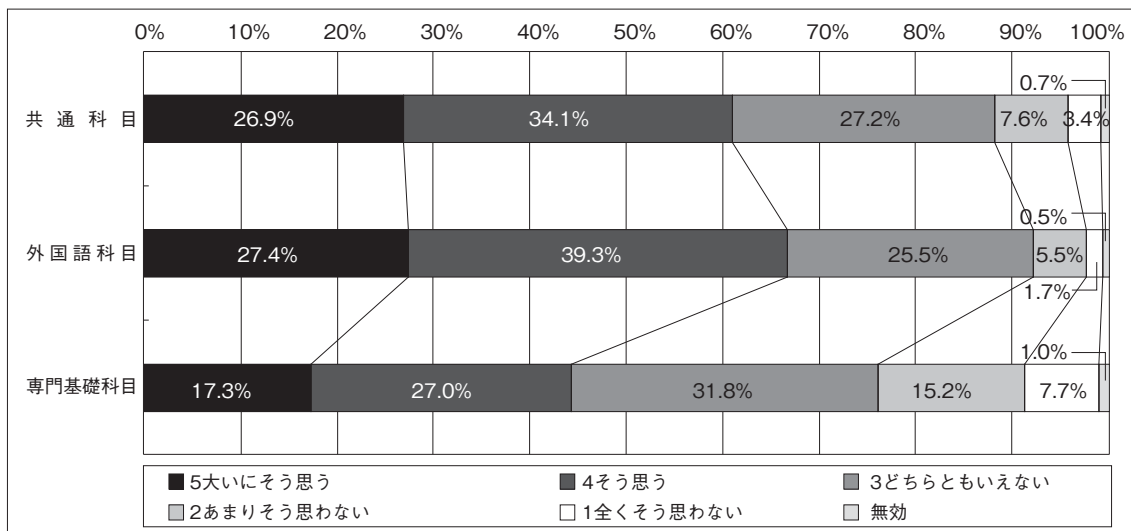
	5大いに思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
共通科目	420	547	1,151	321	258	25	2,722
外国語科目	1,275	1,676	2,310	430	261	52	6,004
専門基礎科目	346	657	1,756	630	497	50	3,936



Q2-(9) 授業は十分な静肅性が保たれていた

[単位：名(延べ)]

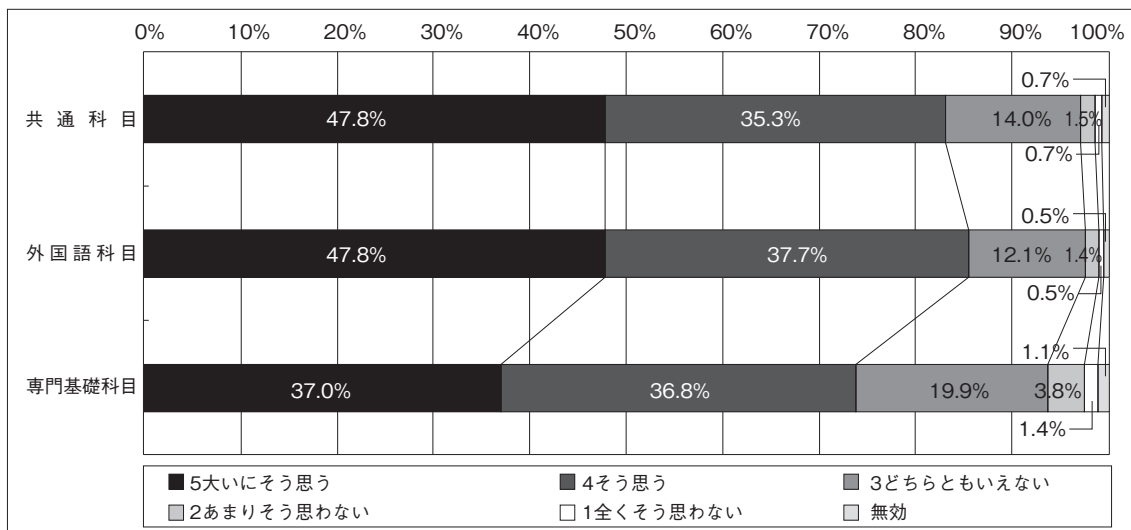
	5大いに思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう 思わない	1 全く そう 思わない	無効	合計
共通科目	733	928	740	208	93	20	2,722
外国語科目	1,644	2,362	1,534	331	100	33	6,004
専門基礎科目	680	1,063	1,250	600	305	38	3,936



Q2-(10) 授業時間が守られていた

[単位：名(延べ)]

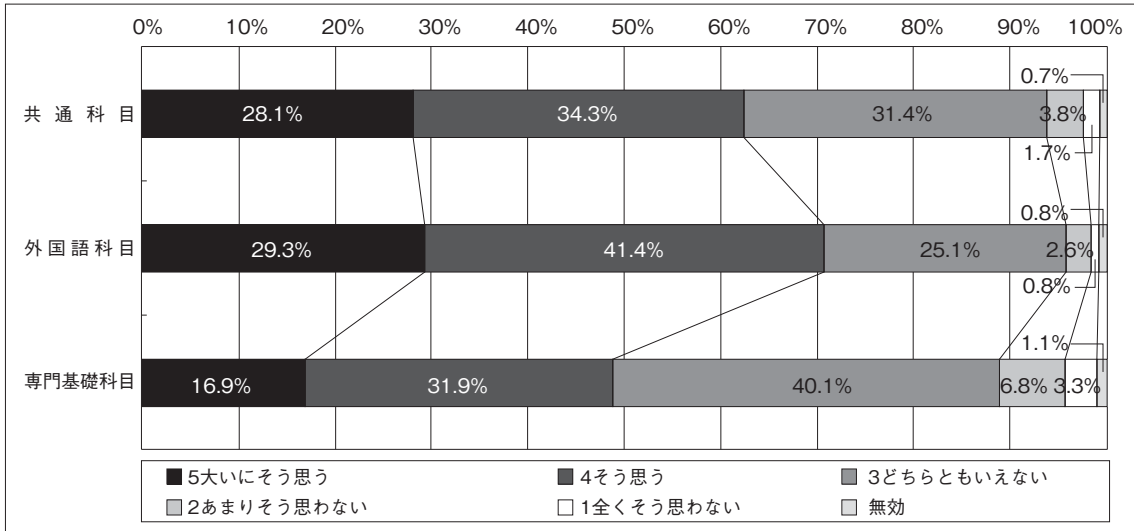
	5大いに思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう 思わない	1 全く そう 思わない	無効	合計
共通科目	1,301	961	381	42	18	19	2,722
外国語科目	2,870	2,262	726	85	29	32	6,004
専門基礎科目	1,455	1,447	782	151	57	44	3,936



Q2-(11) 授業に関する受講生の意見への対応が十分になされていた

[単位：名(延べ)]

	5大いに思う	4 思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう 思わない	1 全く そう 思わない	無効	合計
共通科目	765	933	854	103	47	20	2,722
外国語科目	1,760	2,487	1,506	157	48	46	6,004
専門基礎科目	664	1,255	1,579	266	128	44	3,936

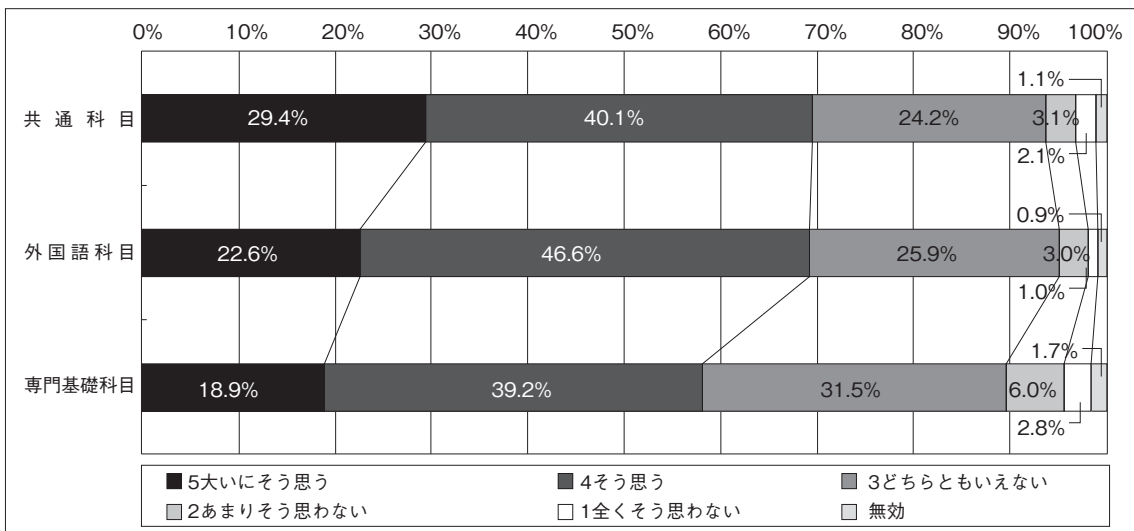


3. この授業からあなたが得たものについて

Q3-(1) 授業で扱った分野に関する専門知識・技術が身についた

[単位：名(延べ)]

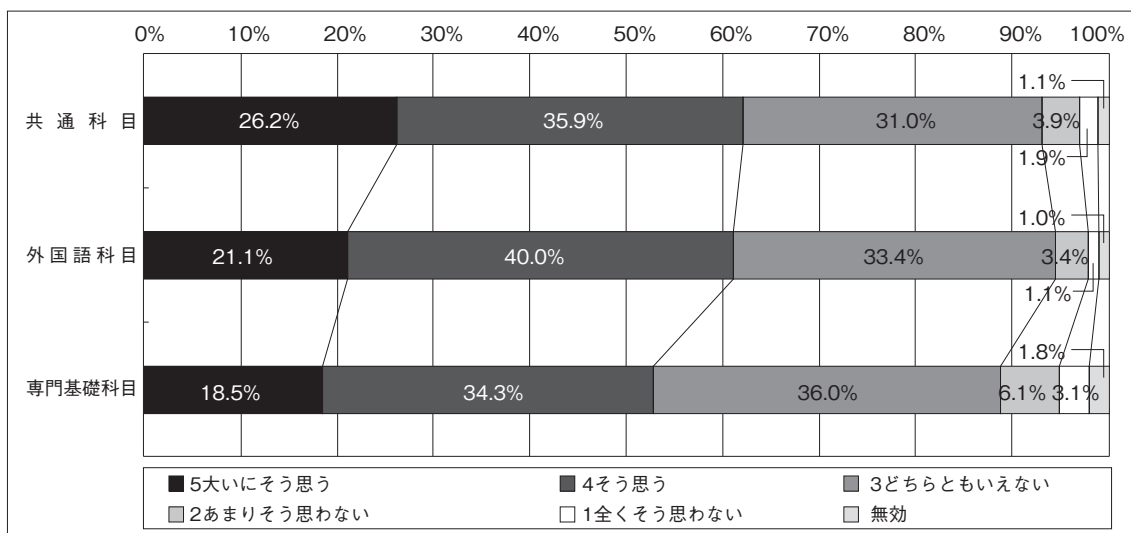
	5大いに思う	4 思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう 思わない	1 全く そう 思わない	無効	合計
共通科目	800	1,092	658	84	58	30	2,722
外国語科目	1,358	2,795	1,554	181	60	56	6,004
専門基礎科目	744	1,542	1,240	235	110	65	3,936



Q3-(2) 自分にとって有益な考え方・発想が身についた

[単位：名(延べ)]

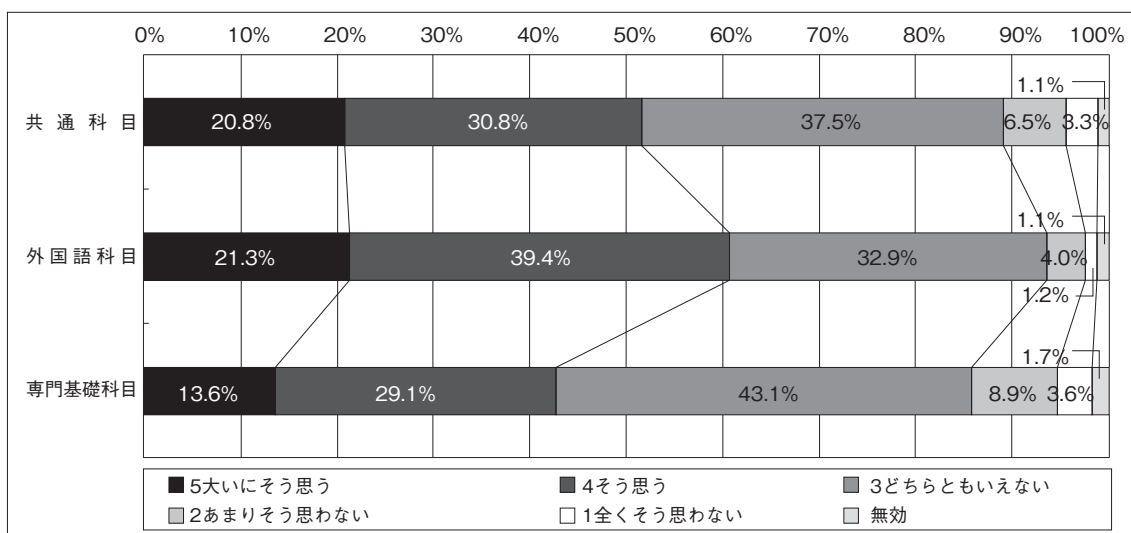
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
共通科目	713	977	843	106	52	31	2,722
外国語科目	1,269	2,401	2,003	202	69	60	6,004
専門基礎科目	729	1,352	1,418	242	123	72	3,936



Q3-(3) 自分で調べ、考える姿勢をもてた

[単位：名(延べ)]

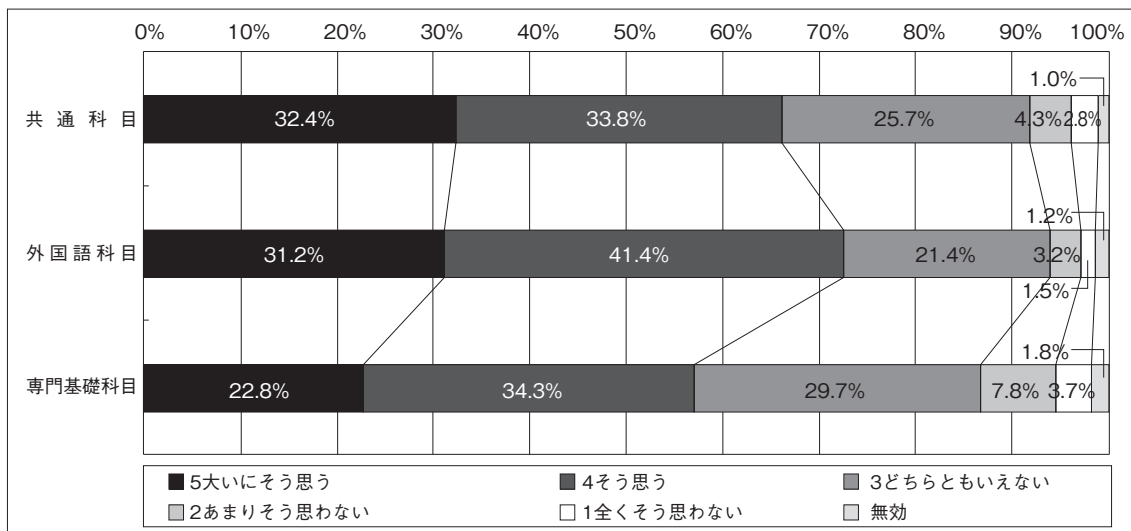
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
共通科目	565	839	1,021	178	90	29	2,722
外国語科目	1,280	2,367	1,974	243	75	65	6,004
専門基礎科目	534	1,144	1,696	352	142	68	3,936



Q3-(4) 総合的にみてこの授業に満足をした

[単位：名(延べ)]

	5大いに思う	4 思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
共通科目	882	921	700	117	75	27	2,722
外国語科目	1,876	2,488	1,282	195	90	73	6,004
専門基礎科目	896	1,349	1,168	306	147	70	3,936



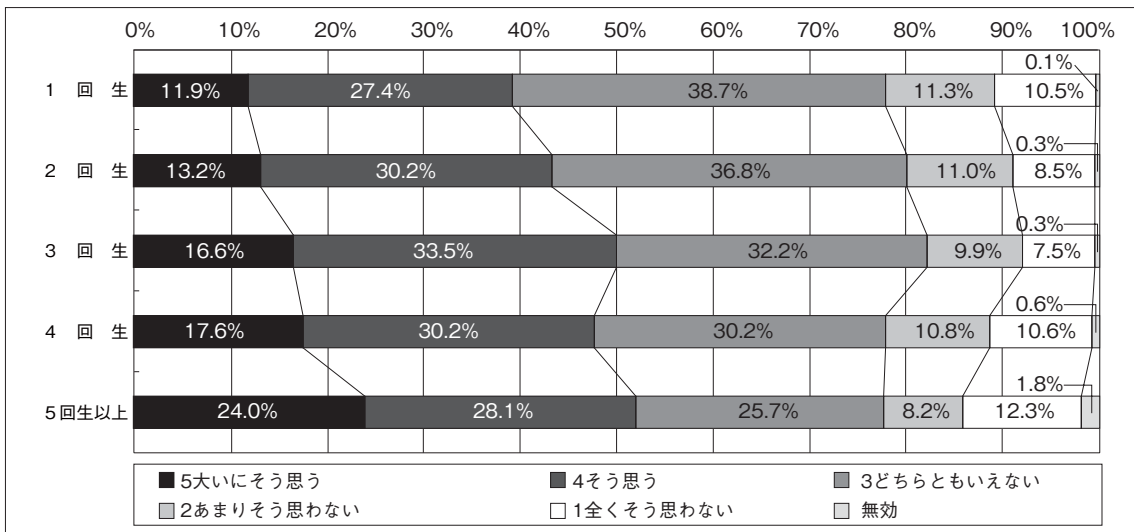
2010年度 春学期 授業アンケート 回生別集計

1. あなた自身の取り組みについて

Q1-(1) シラバスを読んで受講に備えた

[単位：名(延べ)]

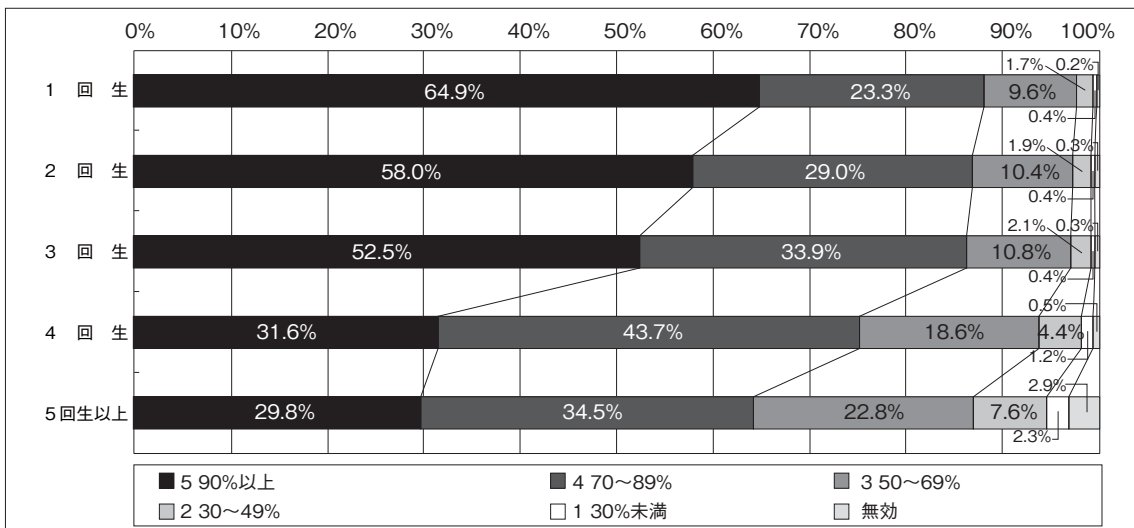
	5大いに思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
1 回 生	1,500	3,446	4,870	1,426	1,327	17	12,586
2 回 生	1,515	3,464	4,210	1,258	972	34	11,453
3 回 生	1,235	2,494	2,400	738	559	25	7,451
4 回 生	493	846	845	302	298	17	2,801
5 回生以上	41	48	44	14	21	3	171



Q1-(2) これまでの授業の出席率

[単位：名(延べ)]

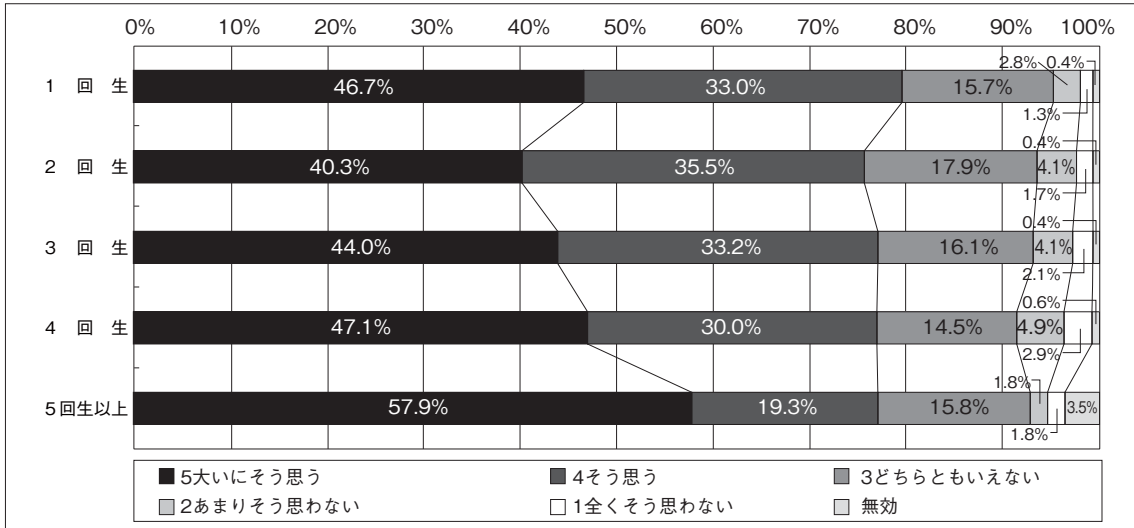
	590%以上	470～89%	350～69%	230～49%	130%未満	無効	合計
1 回 生	8,165	2,930	1,206	208	53	24	12,586
2 回 生	6,645	3,324	1,187	213	47	37	11,453
3 回 生	3,911	2,525	804	154	33	24	7,451
4 回 生	884	1,224	521	124	34	14	2,801
5 回生以上	51	59	39	13	4	5	171



Q1-(3) 授業を妨げる行為（私語・携帯の使用・遅刻・途中退出等）をしなかった

[単位：名（延べ）]

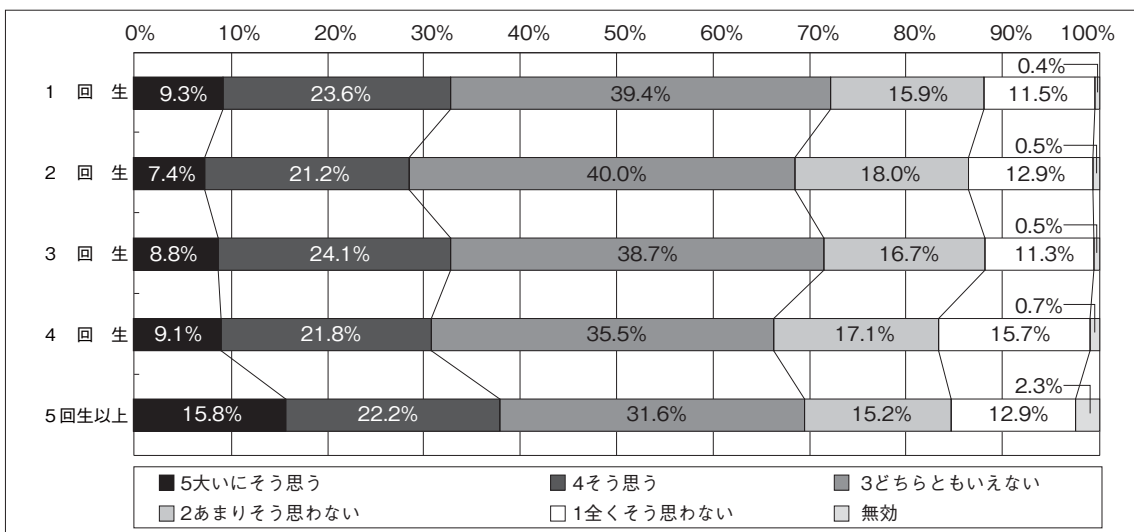
	5大にそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
1 回 生	5,881	4,159	1,982	351	166	47	12,586
2 回 生	4,620	4,069	2,053	468	196	47	11,453
3 回 生	3,278	2,477	1,199	308	157	32	7,451
4 回 生	1,318	839	407	137	82	18	2,801
5 回生以上	99	33	27	3	3	6	171



Q1-(4) 1回の授業につき予習・復習をした

[単位：名（延べ）]

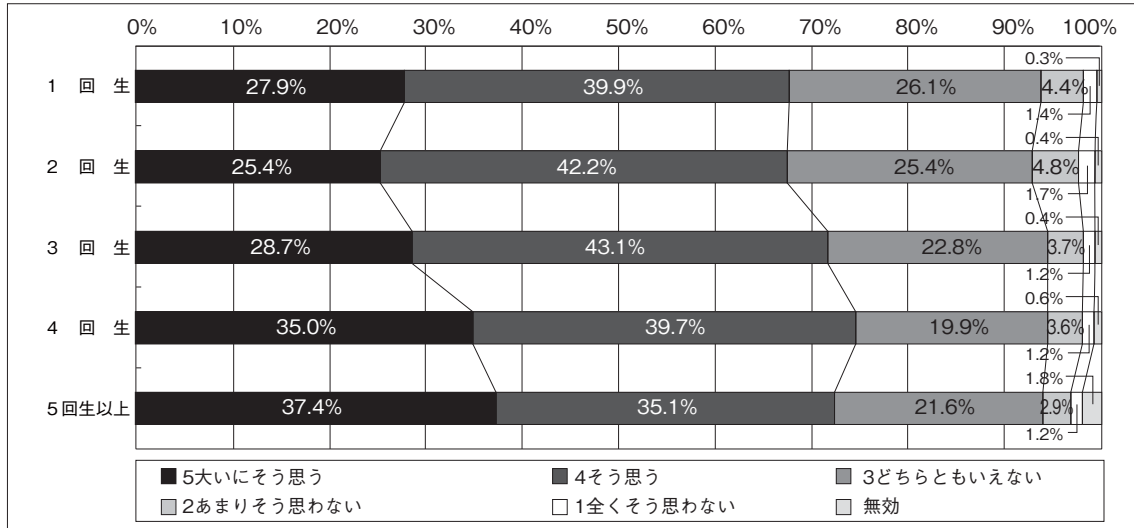
	5大にそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
1 回 生	1,171	2,969	4,959	1,995	1,447	45	12,586
2 回 生	847	2,423	4,586	2,062	1,483	52	11,453
3 回 生	654	1,795	2,882	1,245	841	34	7,451
4 回 生	256	611	995	480	440	19	2,801
5 回生以上	27	38	54	26	22	4	171



Q1-(5) 熱心に授業に取り組んだ

[単位：名(延べ)]

	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
1 回 生	3,515	5,026	3,280	554	173	38	12,586
2 回 生	2,913	4,836	2,906	554	196	48	11,453
3 回 生	2,140	3,211	1,701	275	92	32	7,451
4 回 生	980	1,113	558	100	34	16	2,801
5 回生以上	64	60	37	5	2	3	171

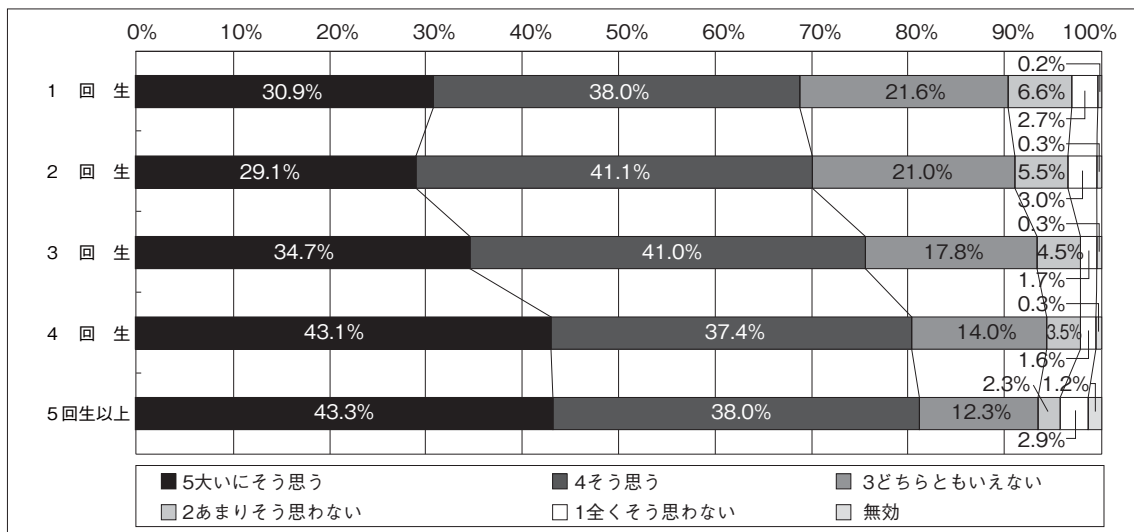


2. この授業の運営について

Q2-(1) わかりやすい授業であった

[単位：名(延べ)]

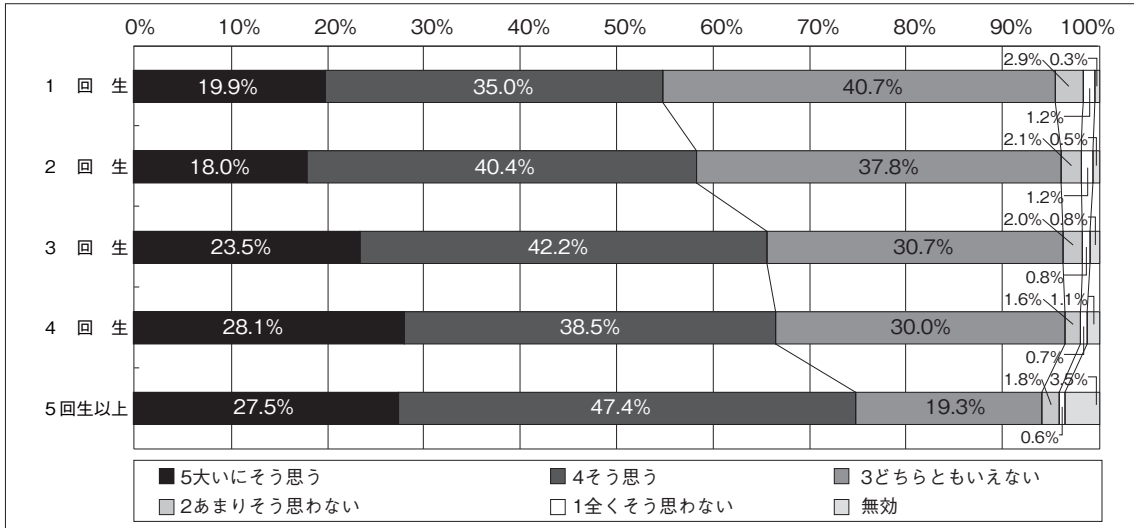
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
1 回 生	3,890	4,783	2,715	832	345	21	12,586
2 回 生	3,332	4,711	2,405	631	343	31	11,453
3 回 生	2,585	3,052	1,330	335	129	20	7,451
4 回 生	1,208	1,048	393	97	46	9	2,801
5 回生以上	74	65	21	4	5	2	171



Q2-(2) 授業はシラバス通りに進行していた

[単位：名(延べ)]

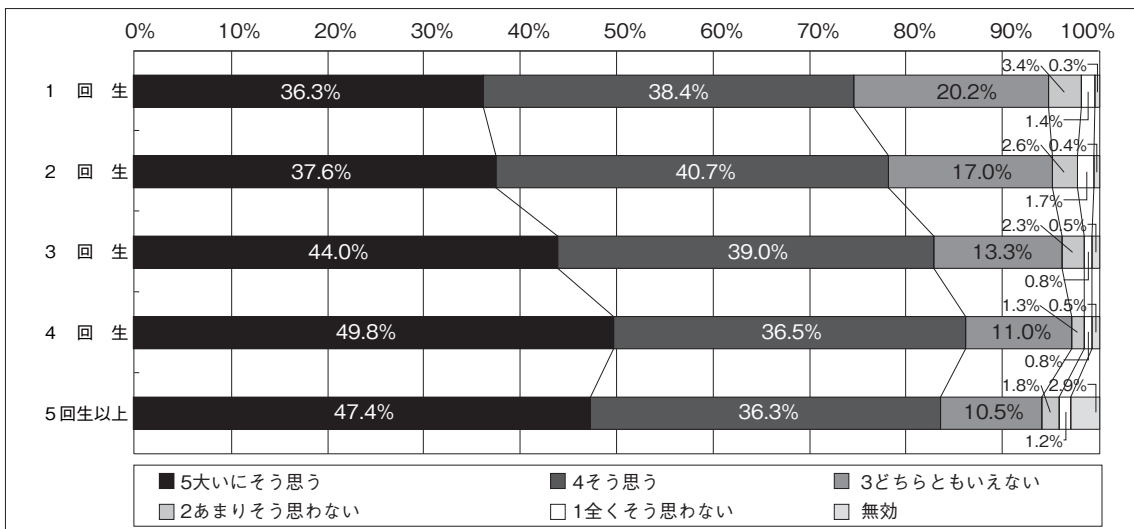
	5大いに思う	4 思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
1 回 生	2,506	4,409	5,117	364	150	40	12,586
2 回 生	2,065	4,626	4,327	239	134	62	11,453
3 回 生	1,754	3,142	2,287	151	60	57	7,451
4 回 生	786	1,078	841	45	20	31	2,801
5 回生以上	47	81	33	3	1	6	171



Q2-(3) 教員の熱意が伝わってきた

[単位：名(延べ)]

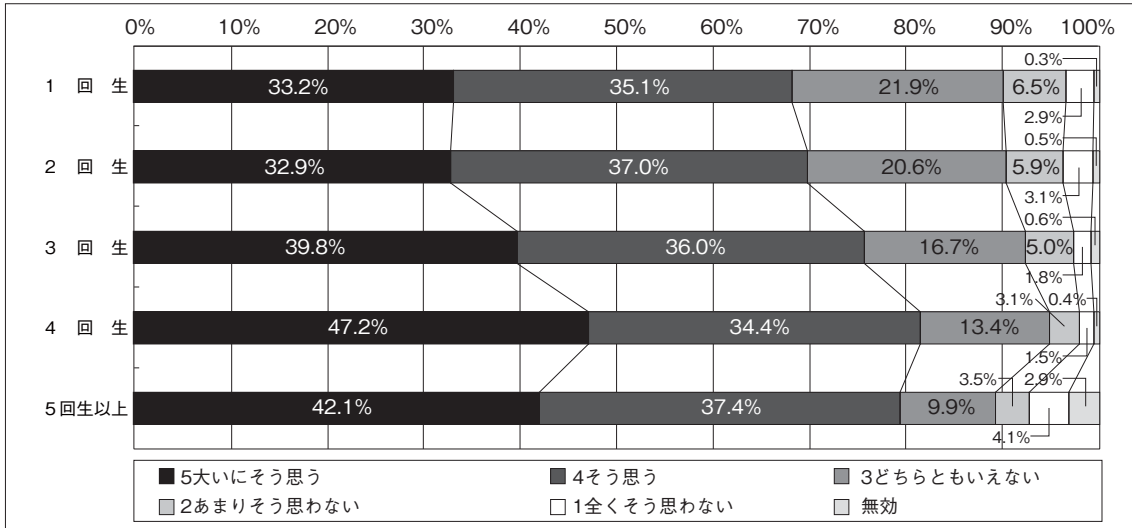
	5大いに思う	4 思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
1 回 生	4,566	4,829	2,546	432	174	39	12,586
2 回 生	4,303	4,667	1,946	300	189	48	11,453
3 回 生	3,282	2,904	994	172	59	40	7,451
4 回 生	1,396	1,023	309	37	22	14	2,801
5 回生以上	81	62	18	3	2	5	171



Q2-(4) 聴きやすい話し方だった

[単位：名(延べ)]

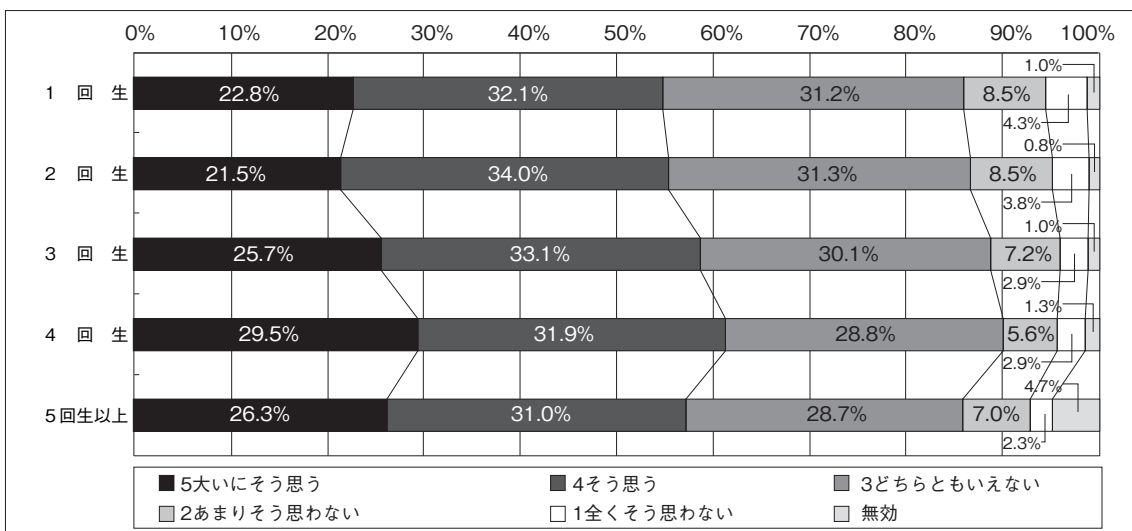
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
1 回 生	4,184	4,416	2,758	817	369	42	12,586
2 回 生	3,763	4,236	2,360	680	352	62	11,453
3 回 生	2,963	2,684	1,244	376	137	47	7,451
4 回 生	1,322	963	376	87	43	10	2,801
5 回生以上	72	64	17	6	7	5	171



Q2-(5) 板書 (OHP、パワーポイント含む) は見やすかった

[単位：名(延べ)]

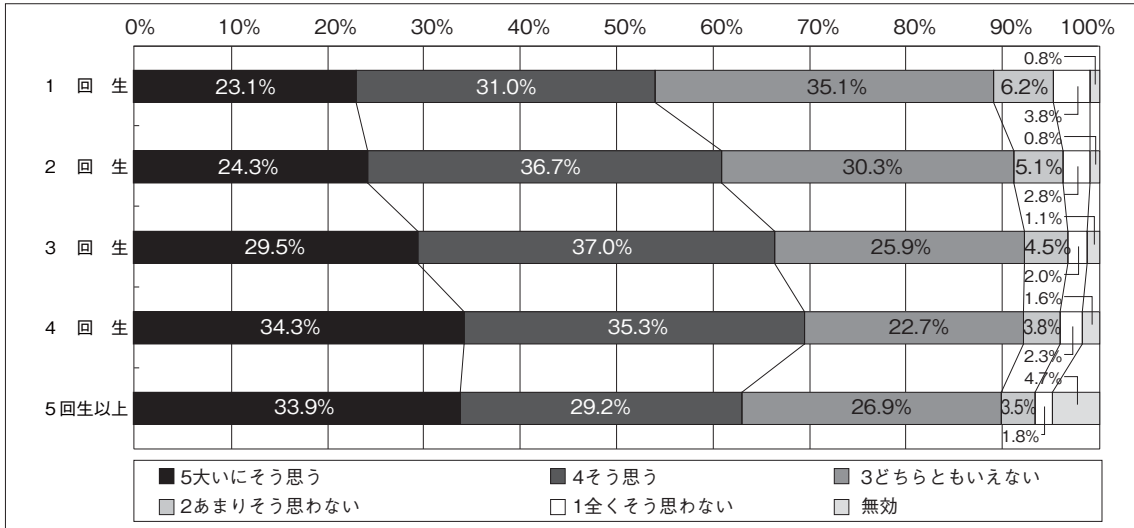
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
1 回 生	2,873	4,042	3,926	1,075	544	126	12,586
2 回 生	2,464	3,898	3,585	977	440	89	11,453
3 回 生	1,914	2,468	2,243	536	216	74	7,451
4 回 生	827	894	807	156	81	36	2,801
5 回生以上	45	53	49	12	4	8	171



Q2-(6) 印刷教材（レジメ・補助教材等）、視聴覚教材等が効果的だった

[単位：名（延べ）]

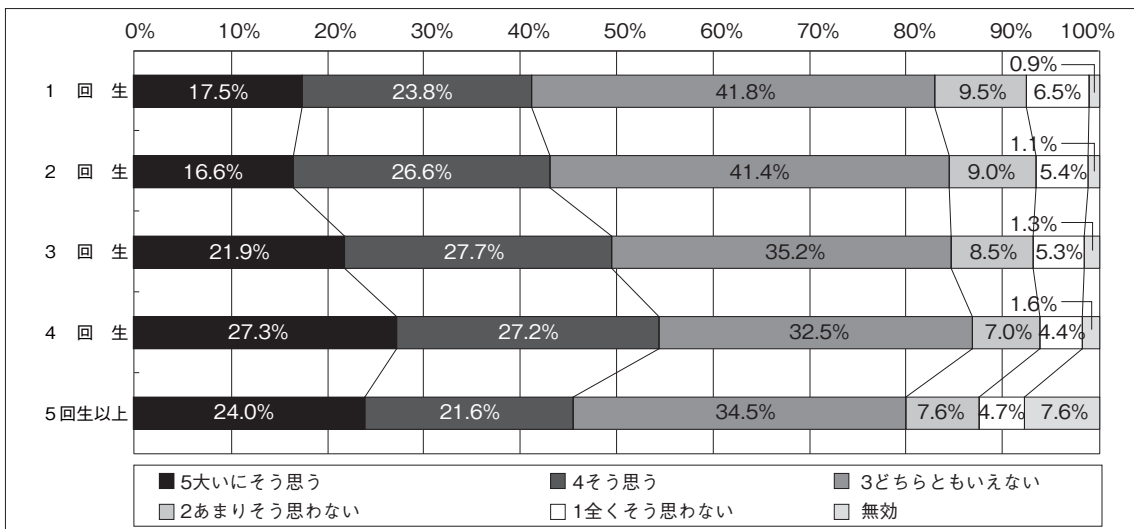
	5大いに思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
1 回 生	2,907	3,902	4,414	784	474	105	12,586
2 回 生	2,778	4,208	3,470	587	316	94	11,453
3 回 生	2,199	2,758	1,930	334	148	82	7,451
4 回 生	961	989	637	106	64	44	2,801
5 回生以上	58	50	46	6	3	8	171



Q2-(7) 学習形態（グループ学習・発表、フィールドワーク等）に工夫がみられた

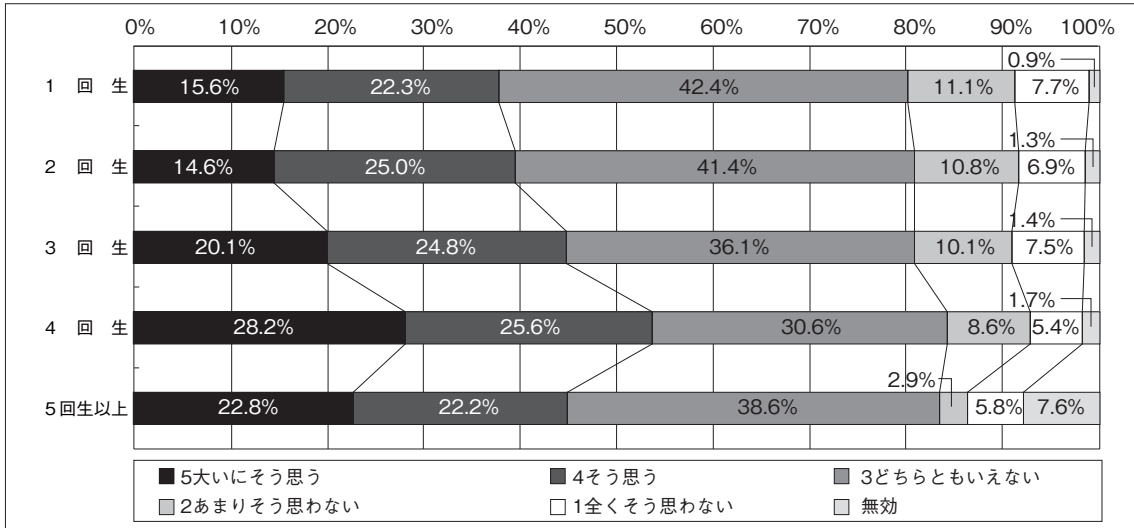
[単位：名（延べ）]

	5大いに思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
1 回 生	2,200	2,998	5,261	1,194	823	110	12,586
2 回 生	1,902	3,044	4,736	1,036	614	121	11,453
3 回 生	1,635	2,065	2,620	635	397	99	7,451
4 回 生	766	762	910	197	122	44	2,801
5 回生以上	41	37	59	13	8	13	171



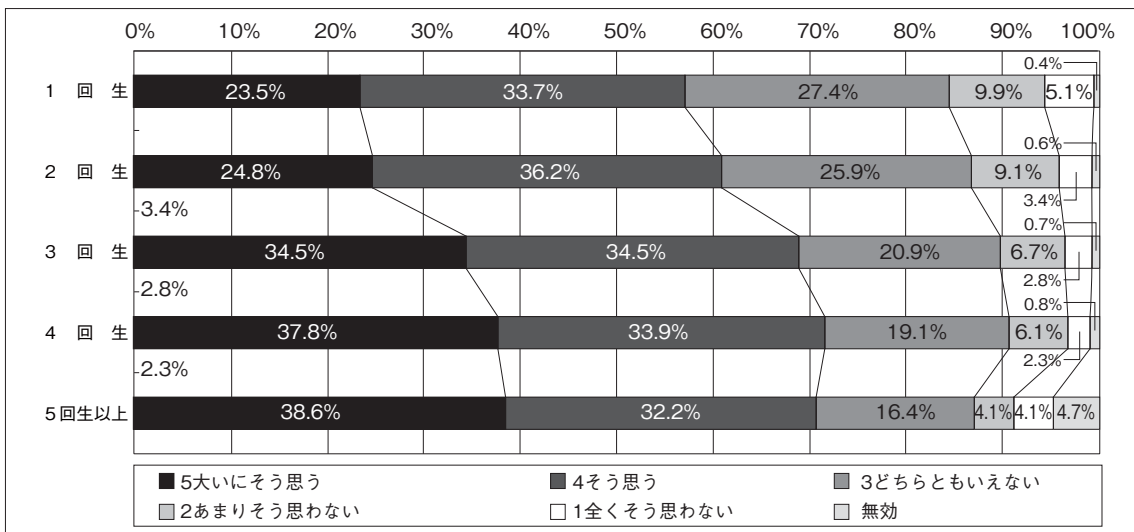
Q2-(8) 教員や学生同士のコミュニケーション (e-learning “縁(えにし)” 含む) に工夫がみられた [単位：名(延べ)]

	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
1 回 生	1,961	2,804	5,332	1,401	971	117	12,586
2 回 生	1,668	2,866	4,747	1,232	787	153	11,453
3 回 生	1,497	1,849	2,692	751	560	102	7,451
4 回 生	790	716	856	240	150	49	2,801
5 回生以上	39	38	66	5	10	13	171



Q2-(9) 授業は十分な静粛性が保たれていた [単位：名(延べ)]

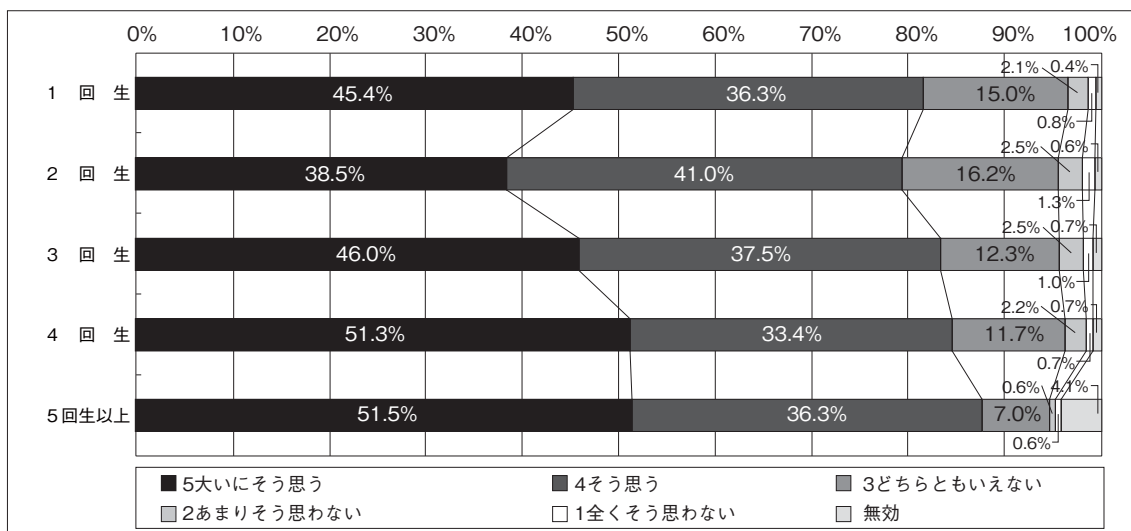
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
1 回 生	2,962	4,245	3,444	1,245	642	48	12,586
2 回 生	2,837	4,146	2,966	1,041	395	68	11,453
3 回 生	2,568	2,571	1,555	497	211	49	7,451
4 回 生	1,058	950	534	172	65	22	2,801
5 回生以上	66	55	28	7	7	8	171



Q2-(10) 授業時間が守られていた

[単位：名(延べ)]

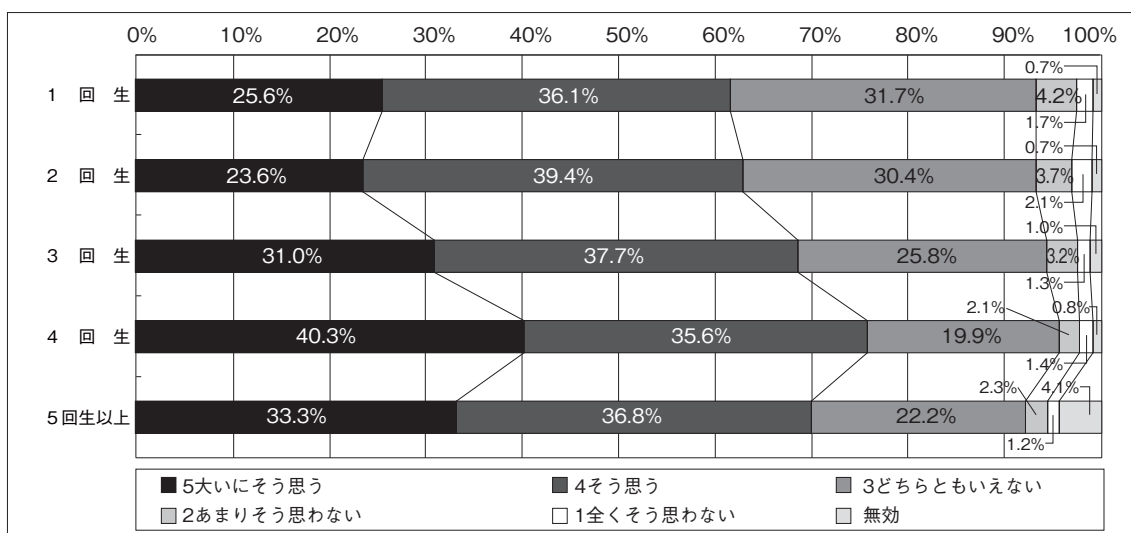
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
1 回 生	5,712	4,566	1,882	267	103	56	12,586
2 回 生	4,404	4,694	1,856	287	147	65	11,453
3 回 生	3,427	2,792	916	186	76	54	7,451
4 回 生	1,436	936	329	62	19	19	2,801
5 回生以上	88	62	12	1	1	7	171



Q2-(11) 授業に関する受講生の意見への対応が十分になされていた

[単位：名(延べ)]

	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
1 回 生	3,218	4,543	3,996	528	219	82	12,586
2 回 生	2,706	4,514	3,486	426	240	81	11,453
3 回 生	2,309	2,808	1,922	240	99	73	7,451
4 回 生	1,129	996	557	59	38	22	2,801
5 回生以上	57	63	38	4	2	7	171

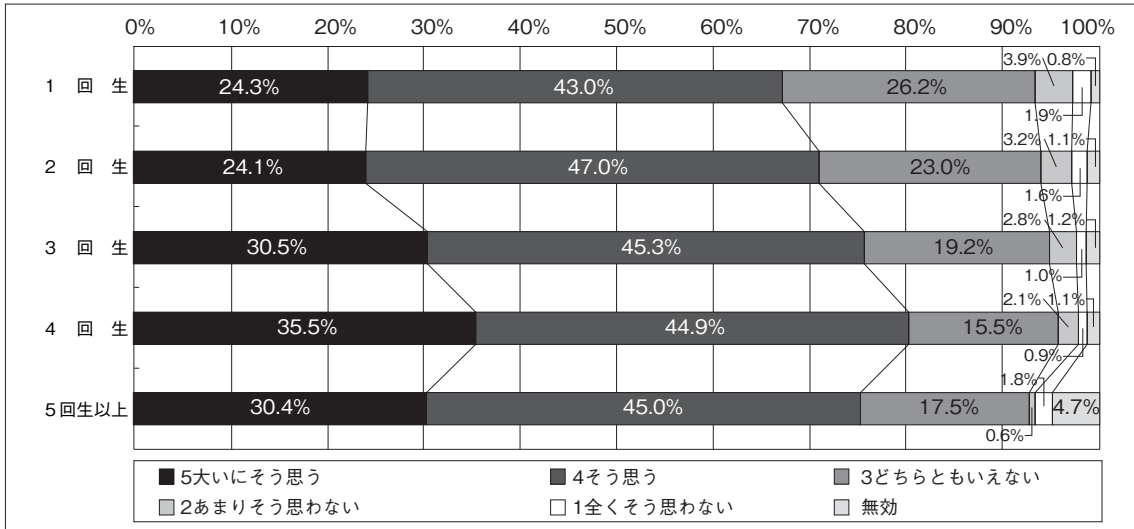


3. この授業からあなたが得たものについて

Q3-(1) 授業で扱った分野に関する専門知識・技術が身についた

[単位：名(延べ)]

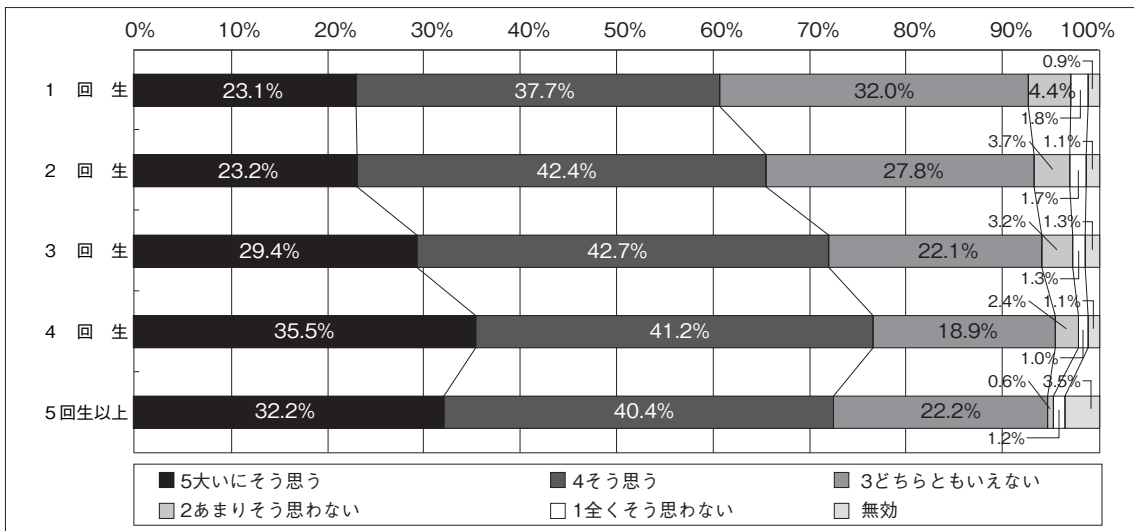
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
1 回 生	3,060	5,407	3,297	487	234	101	12,586
2 回 生	2,764	5,382	2,632	369	182	124	11,453
3 回 生	2,273	3,377	1,431	209	74	87	7,451
4 回 生	995	1,257	433	60	25	31	2,801
5 回生以上	52	77	30	1	3	8	171



Q3-(2) 自分にとって有益な考え方・発想が身についた

[単位：名(延べ)]

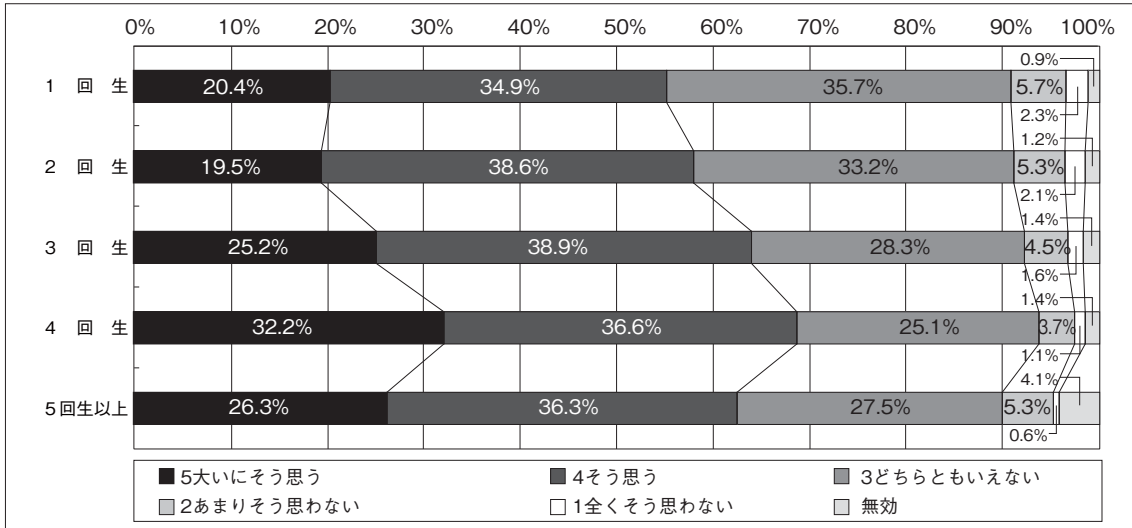
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
1 回 生	2,913	4,743	4,031	558	231	110	12,586
2 回 生	2,662	4,852	3,186	426	197	130	11,453
3 回 生	2,190	3,183	1,647	237	100	94	7,451
4 回 生	993	1,153	528	68	27	32	2,801
5 回生以上	55	69	38	1	2	6	171



Q3-(3) 自分で調べ、考える姿勢をもてた

[単位：名(延べ)]

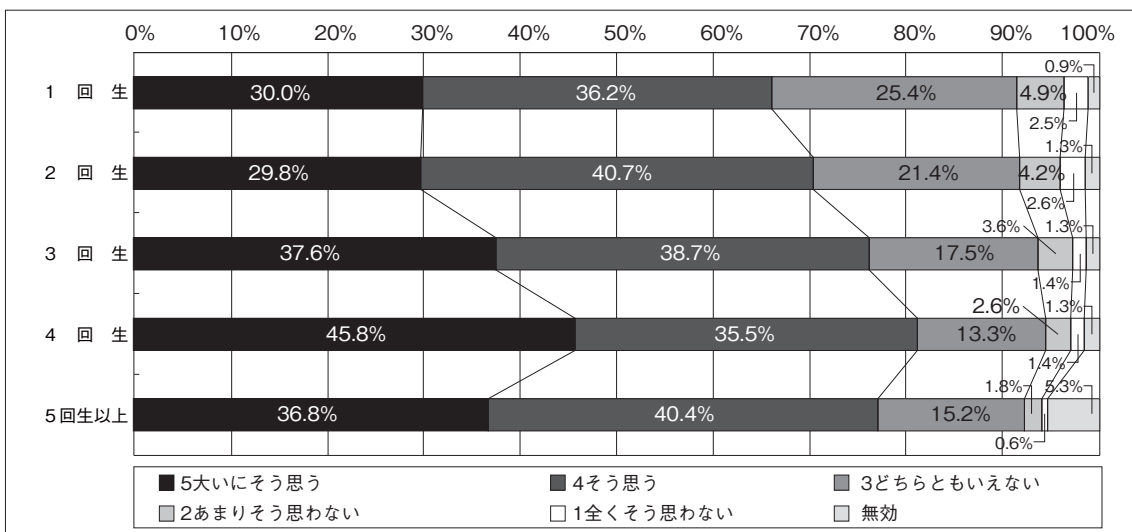
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
1 回 生	2,572	4,398	4,493	715	295	113	12,586
2 回 生	2,234	4,424	3,800	610	244	141	11,453
3 回 生	1,878	2,896	2,111	338	121	107	7,451
4 回 生	901	1,026	702	103	31	38	2,801
5 回生以上	45	62	47	9	1	7	171



Q3-(4) 総合的にみてこの授業に満足をした

[単位：名(延べ)]

	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
1 回 生	3,773	4,560	3,196	621	318	118	12,586
2 回 生	3,415	4,666	2,449	486	293	144	11,453
3 回 生	2,801	2,884	1,304	265	101	96	7,451
4 回 生	1,284	995	373	73	40	36	2,801
5 回生以上	63	69	26	3	1	9	171



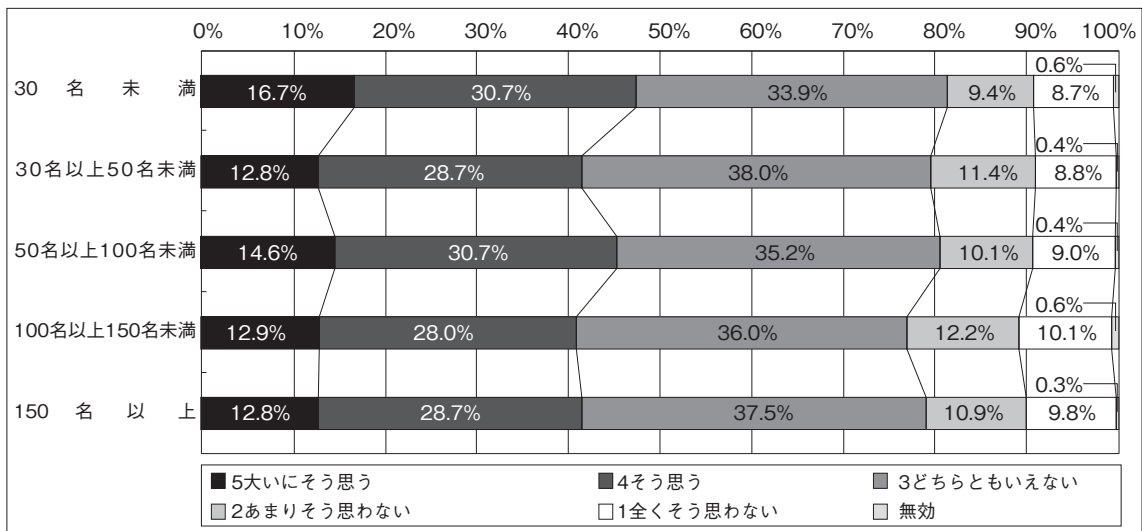
2010年度 春学期 授業アンケート クラス規模別集計

1. あなた自身の取り組みについて

Q1-(1) シラバスを読んで受講に備えた

[単位：名(延べ)]

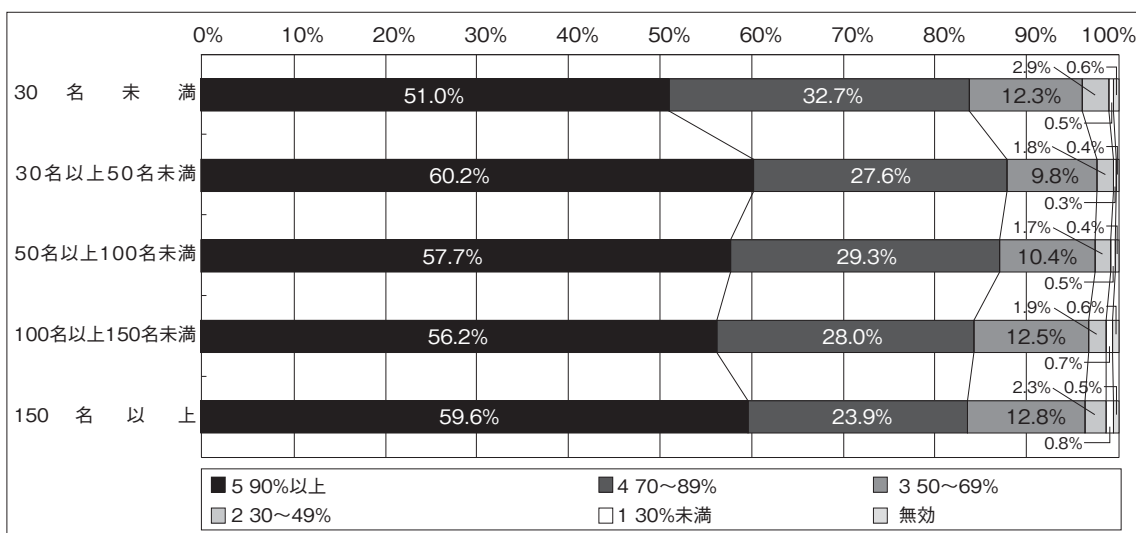
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
30名未満	1,455	2,682	2,960	822	761	50	8,730
30名以上 50名未満	1,380	3,089	4,094	1,227	950	39	10,779
50名以上 100名未満	1,525	3,199	3,674	1,054	935	45	10,432
100名以上 150名未満	738	1,599	2,051	698	578	37	5,701
150名以上	343	773	1,008	292	264	9	2,689



Q1-(2) これまでの授業の出席率

[単位：名(延べ)]

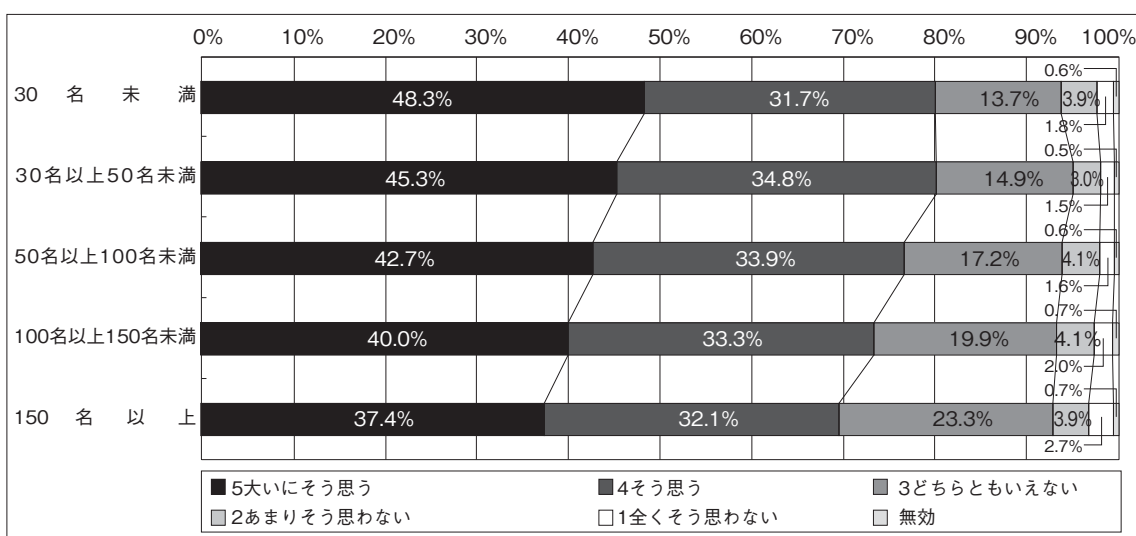
	5 90%以上	4 70～89%	3 50～69%	2 30～49%	1 30%未満	無効	合計
30名未満	4,449	2,857	1,076	254	43	51	8,730
30名以上50名未満	6,486	2,976	1,051	189	37	40	10,779
50名以上100名未満	6,023	3,054	1,083	173	54	45	10,432
100名以上150名未満	3,202	1,599	713	111	41	35	5,701
150名以上	1,603	643	345	62	22	14	2,689



Q1-(3) 授業を妨げる行為(私語・携帯の使用・遅刻・途中退出等)をしなかった

[単位：名(延べ)]

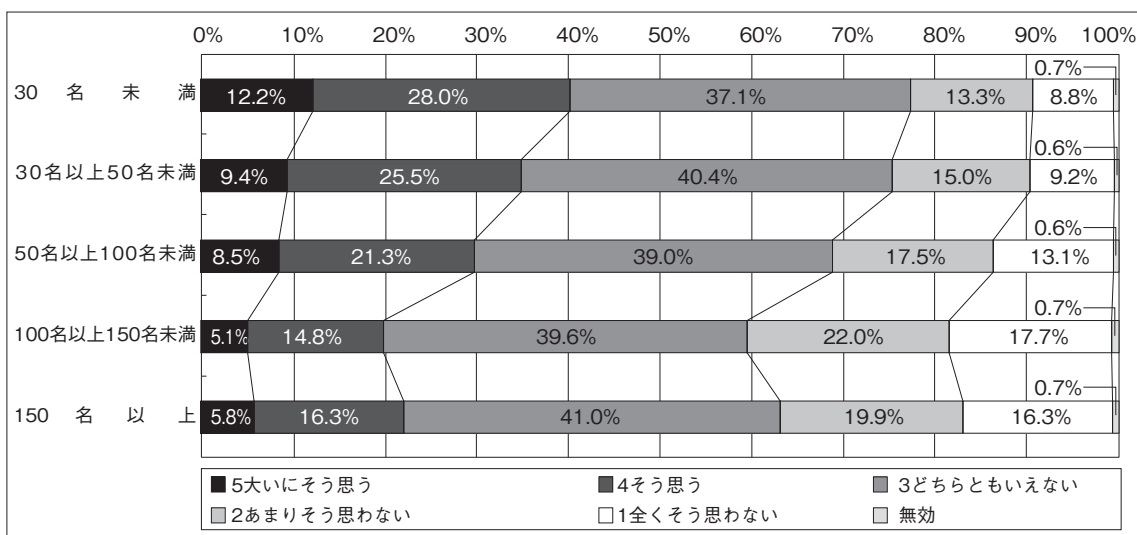
	5 大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
30名未満	4,215	2,771	1,193	337	159	55	8,730
30名以上50名未満	4,882	3,755	1,602	325	158	57	10,779
50名以上100名未満	4,456	3,532	1,794	423	167	60	10,432
100名以上150名未満	2,282	1,896	1,132	236	116	39	5,701
150名以上	1,006	862	626	105	72	18	2,689



Q1-(4) 1回の授業につき予習・復習をした

[単位：名(延べ)]

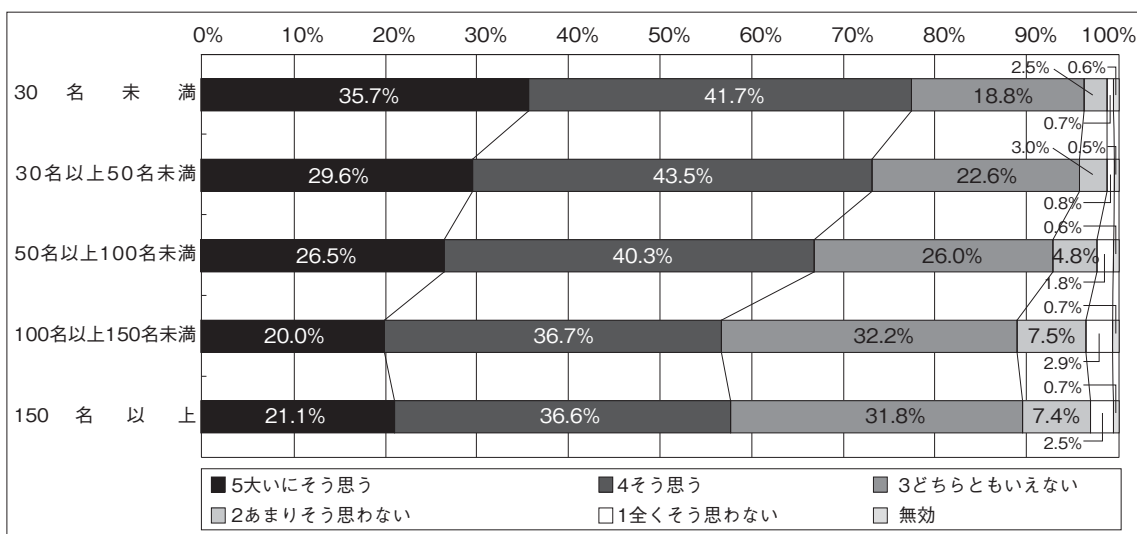
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
30名未満	1,066	2,444	3,235	1,158	770	57	8,730
30名以上 50名未満	1,013	2,744	4,353	1,619	989	61	10,779
50名以上 100名未満	884	2,222	4,066	1,830	1,364	66	10,432
100名以上 150名未満	293	842	2,260	1,257	1,011	38	5,701
150名以上	157	438	1,102	535	438	19	2,689



Q1-(5) 熱心に授業に取り組んだ

[単位：名(延べ)]

	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
30名未満	3,113	3,643	1,643	218	61	52	8,730
30名以上 50名未満	3,188	4,686	2,435	325	88	57	10,779
50名以上 100名未満	2,765	4,205	2,713	499	187	63	10,432
100名以上 150名未満	1,138	2,093	1,837	428	166	39	5,701
150名以上	567	984	854	199	67	18	2,689

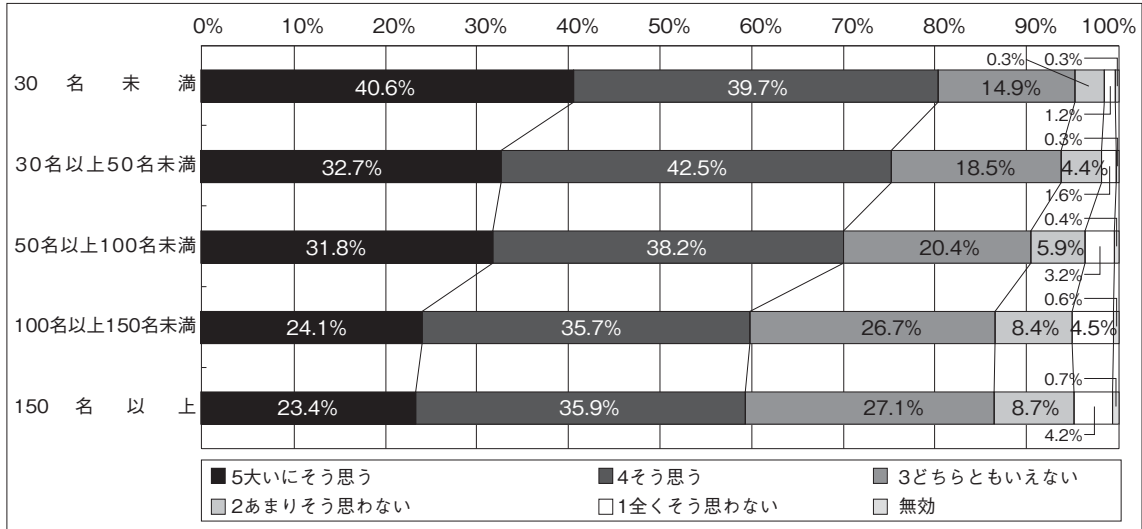


2. この授業の運営について

Q2-(1) わかりやすい授業であった

[単位：名(延べ)]

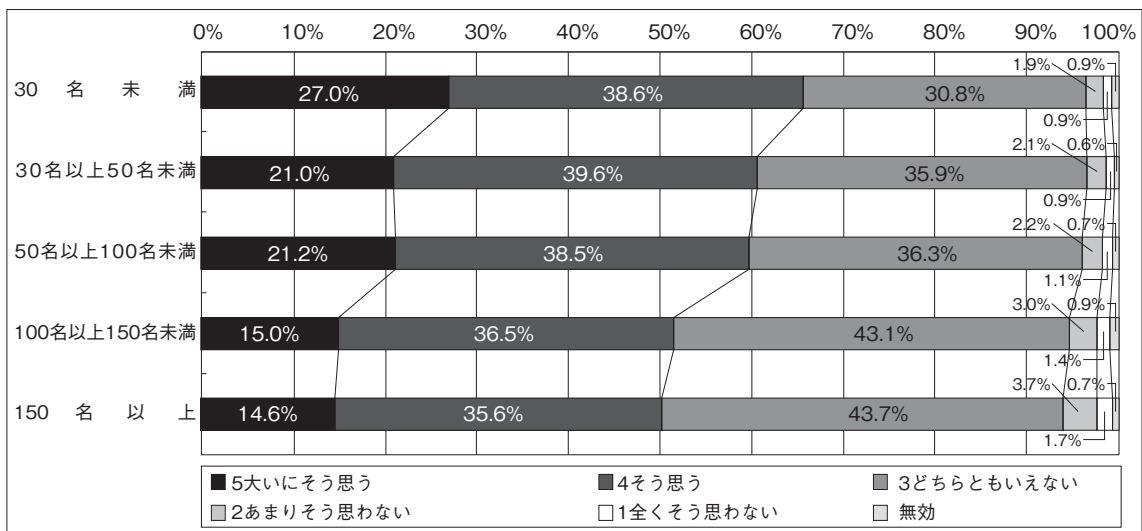
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
30名未満	3,541	3,469	1,304	283	104	29	8,730
30名以上 50名未満	3,526	4,581	1,989	479	173	31	10,779
50名以上 100名未満	3,321	3,980	2,128	620	338	45	10,432
100名以上 150名未満	1,373	2,034	1,525	481	254	34	5,701
150名以上	628	966	729	235	113	18	2,689



Q2-(2) 授業はシラバス通りに進行していた

[単位：名(延べ)]

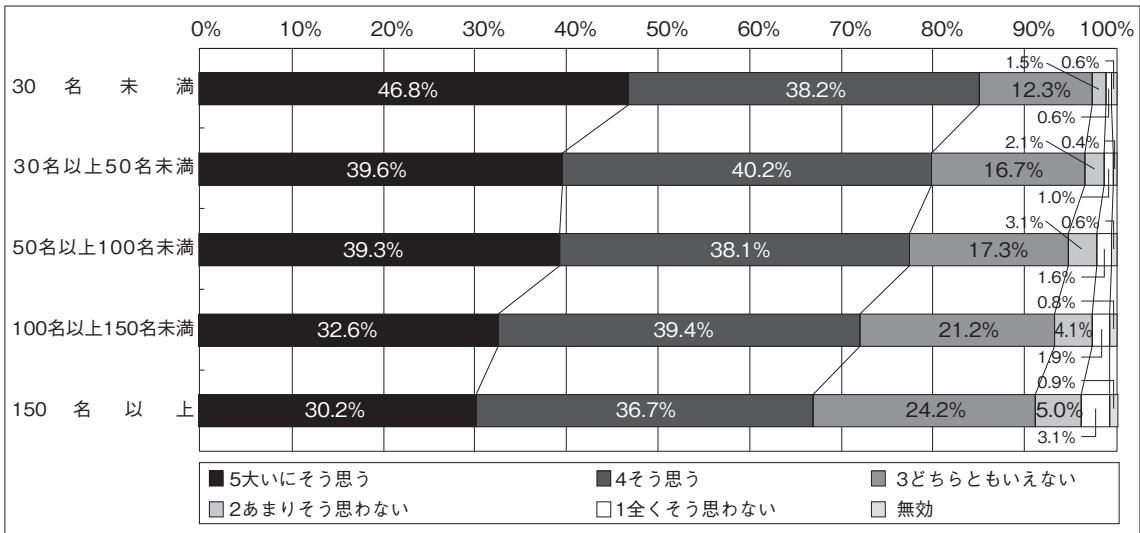
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
30名未満	2,354	3,371	2,687	165	78	75	8,730
30名以上 50名未満	2,259	4,267	3,874	223	92	64	10,779
50名以上 100名未満	2,211	4,012	3,790	229	119	71	10,432
100名以上 150名未満	856	2,080	2,459	172	81	53	5,701
150名以上	392	956	1,176	100	47	18	2,689



Q2-(3) 教員の熱意が伝わってきた

[単位：名(延べ)]

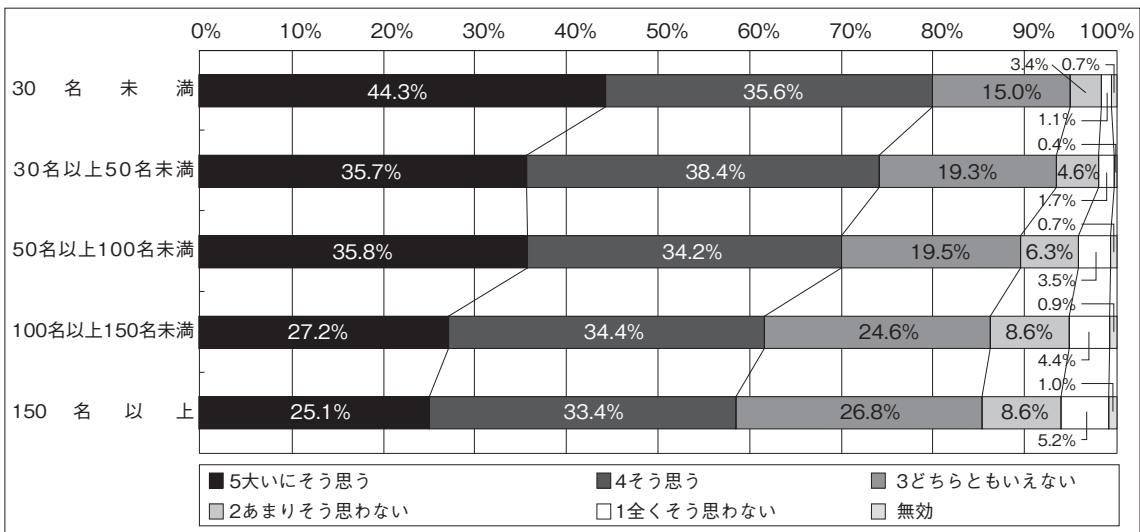
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
30名未満	4,087	3,335	1,076	127	50	55	8,730
30名以上50名未満	4,267	4,331	1,801	225	110	45	10,779
50名以上100名未満	4,100	3,977	1,809	325	162	59	10,432
100名以上150名未満	1,861	2,245	1,208	235	109	43	5,701
150名以上	811	986	650	135	83	24	2,689



Q2-(4) 聴きやすい話し方だった

[単位：名(延べ)]

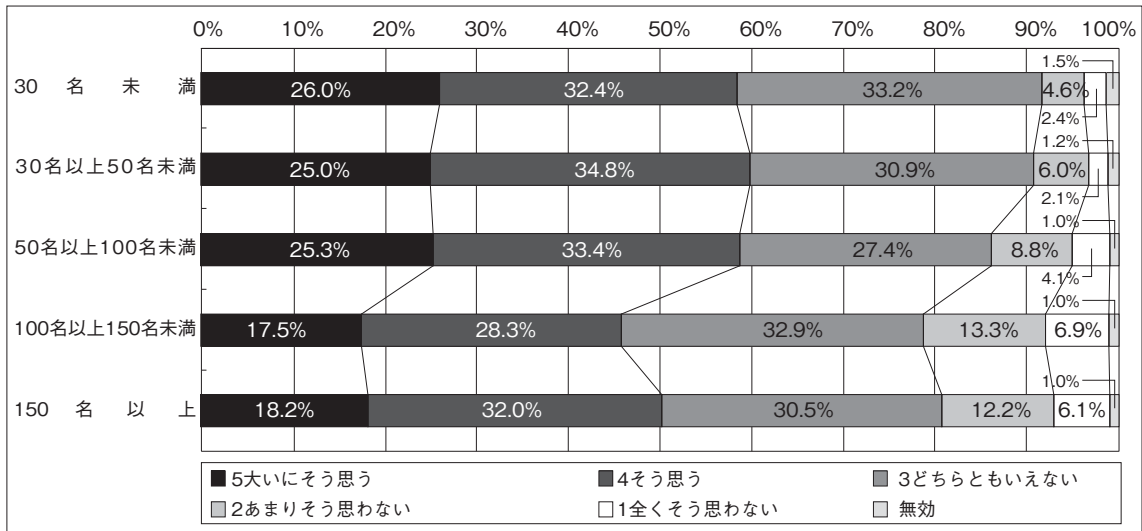
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
30名未満	3,868	3,104	1,308	295	95	60	8,730
30名以上50名未満	3,852	4,134	2,077	491	178	47	10,779
50名以上100名未満	3,731	3,565	2,036	662	364	74	10,432
100名以上150名未満	1,552	1,960	1,401	488	250	50	5,701
150名以上	674	898	720	230	140	27	2,689



Q2-(5) 板書（OHP、パワーポイント含む）は見やすかった

[単位：名（延べ）]

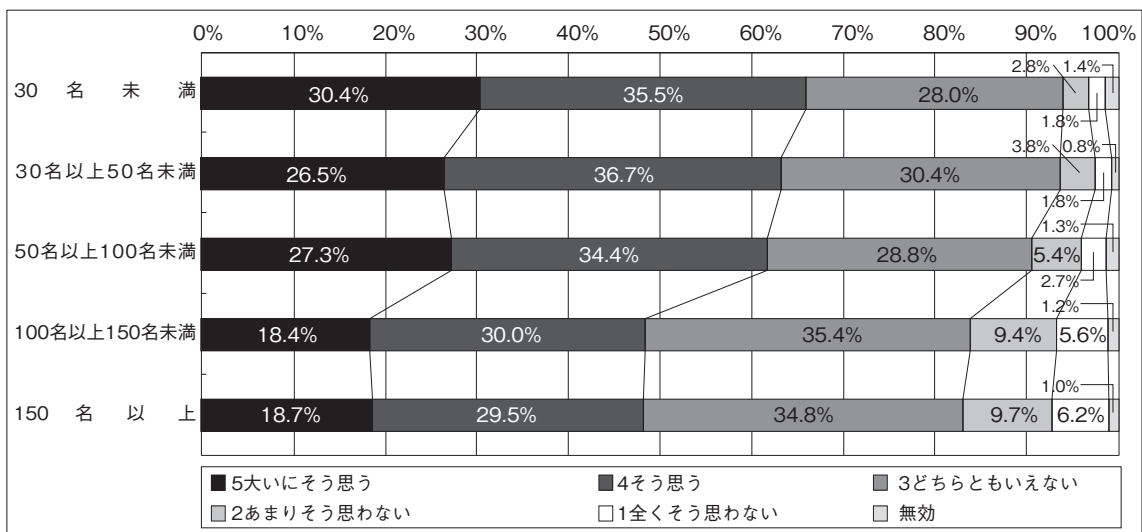
	5大にそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
30名未満	2,269	2,831	2,894	399	208	129	8,730
30名以上 50名未満	2,698	3,747	3,331	649	229	125	10,779
50名以上 100名未満	2,638	3,489	2,858	915	430	102	10,432
100名以上 150名未満	997	1,615	1,876	761	396	56	5,701
150名以上	489	860	821	328	164	27	2,689



Q2-(6) 印刷教材（レジュメ・補助教材等）、視聴覚教材等が効果的だった

[単位：名（延べ）]

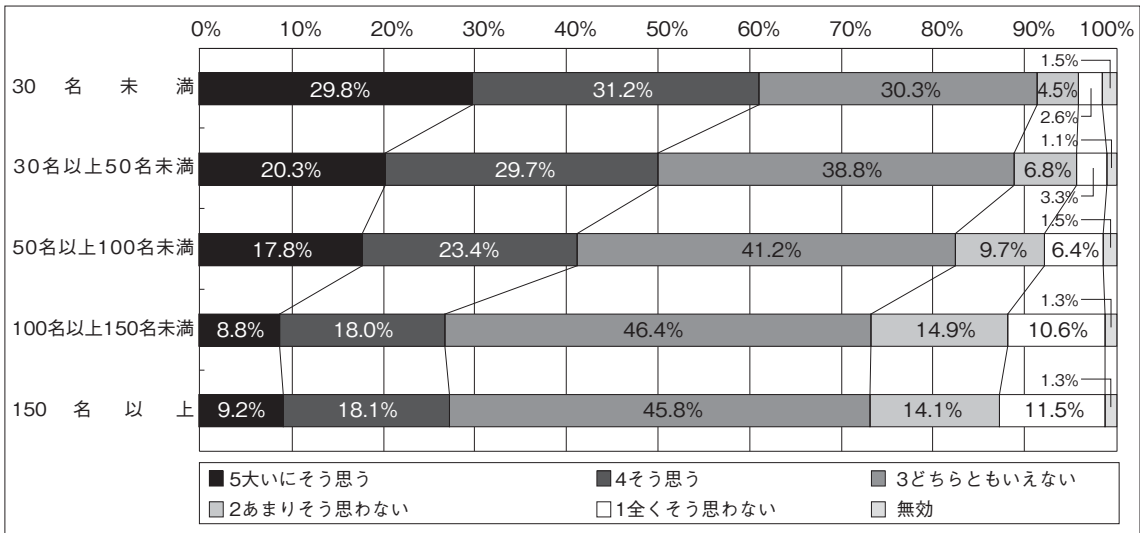
	5大にそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
30名未満	2,651	3,102	2,446	248	158	125	8,730
30名以上 50名未満	2,854	3,952	3,280	414	190	89	10,779
50名以上 100名未満	2,848	3,587	3,009	566	283	139	10,432
100名以上 150名未満	1,049	1,713	2,019	535	317	68	5,701
150名以上	503	794	937	260	168	27	2,689



Q2-(7) 学習形態（グループ学習・発表、フィールドワーク等）に工夫がみられた

[単位：名（延べ）]

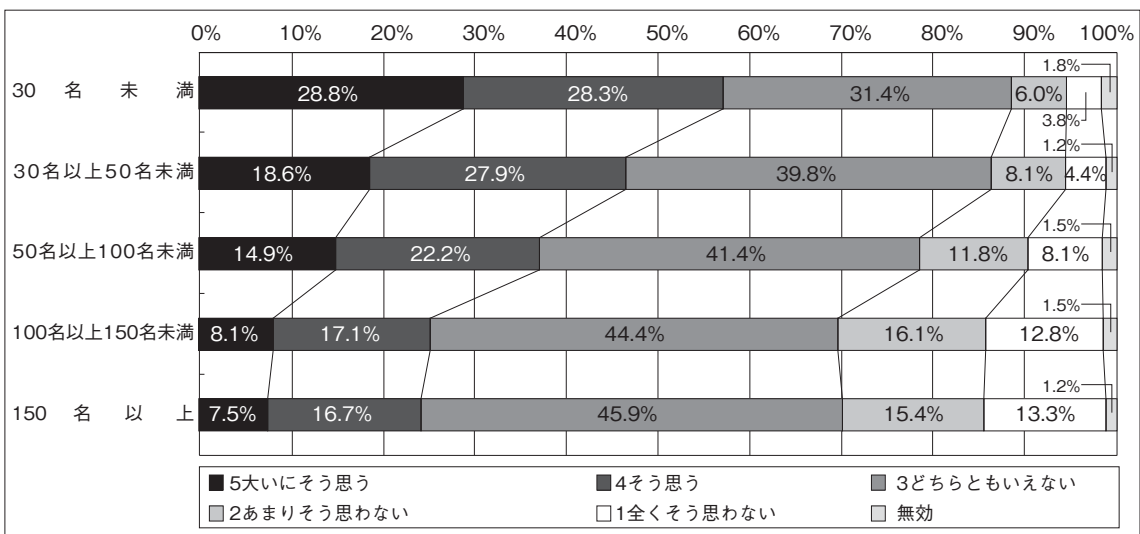
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
30名未満	2,603	2,728	2,647	390	229	133	8,730
30名以上 50名未満	2,187	3,206	4,181	730	359	116	10,779
50名以上 100名未満	1,853	2,442	4,296	1,013	671	157	10,432
100名以上 150名未満	499	1,029	2,643	849	606	75	5,701
150名以上	248	486	1,232	378	310	35	2,689



Q2-(8) 教員や学生同士のコミュニケーション（e-learning “縁（えにし）”含む）に工夫がみられた

[単位：名（延べ）]

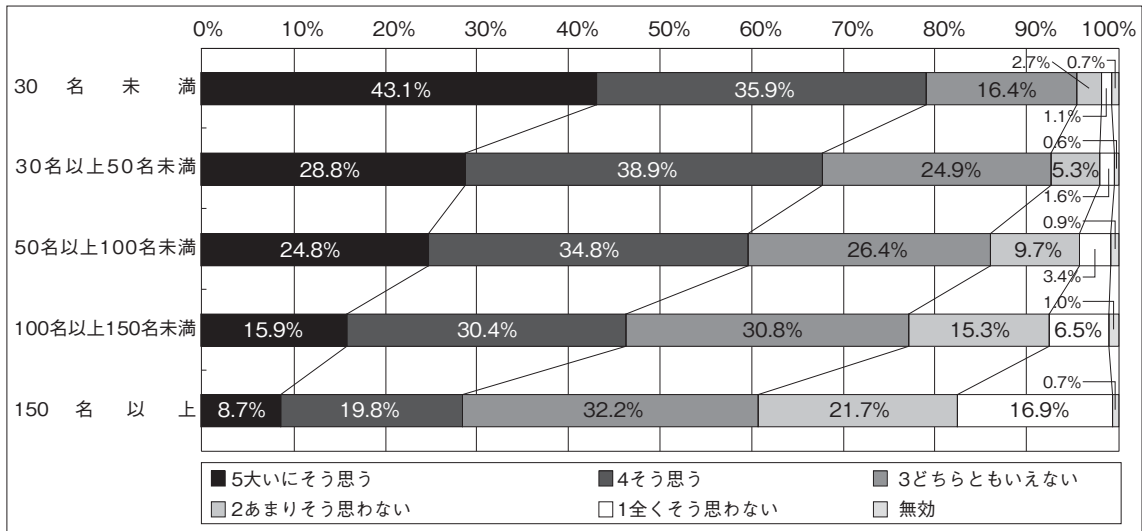
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
30名未満	2,510	2,469	2,740	527	331	153	8,730
30名以上 50名未満	2,005	3,004	4,286	876	476	132	10,779
50名以上 100名未満	1,559	2,315	4,315	1,234	848	161	10,432
100名以上 150名未満	464	974	2,531	920	728	84	5,701
150名以上	203	448	1,234	413	358	33	2,689



Q2-(9) 授業は十分な静肅性が保たれていた

[単位：名(延べ)]

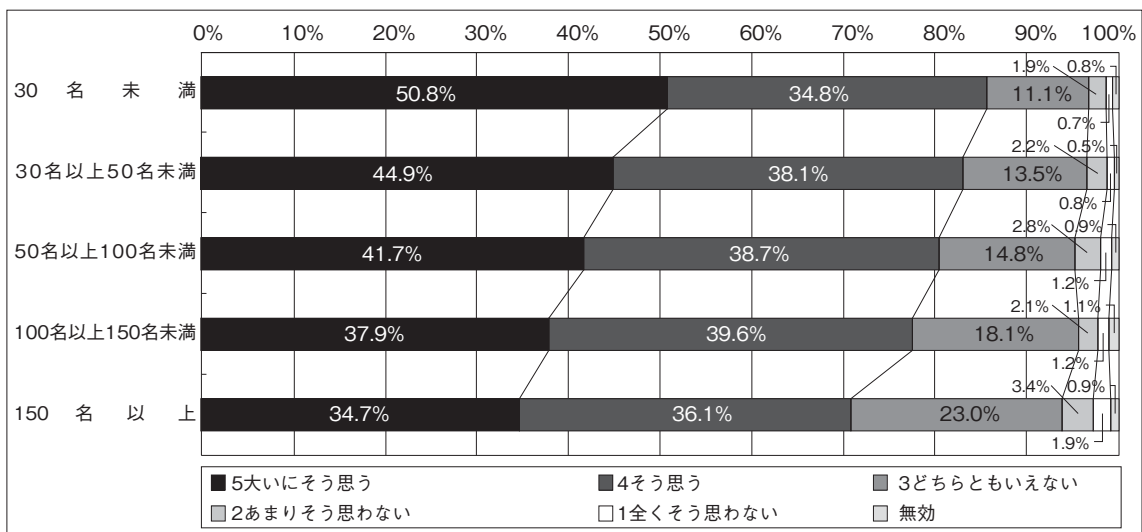
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
30名未満	3,759	3,136	1,436	237	97	65	8,730
30名以上 50名未満	3,102	4,189	2,681	575	171	61	10,779
50名以上 100名未満	2,583	3,627	2,758	1,016	358	90	10,432
100名以上 150名未満	908	1,735	1,755	873	373	57	5,701
150名以上	233	532	866	584	454	20	2,689



Q2-(10) 授業時間が守られていた

[単位：名(延べ)]

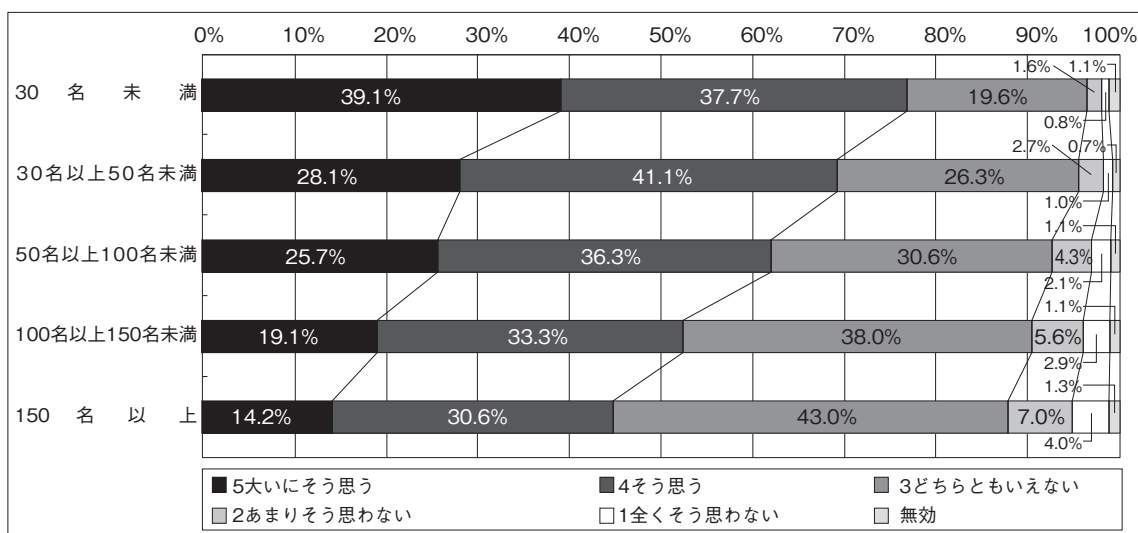
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
30名未満	4,431	3,042	965	166	60	66	8,730
30名以上 50名未満	4,838	4,102	1,455	239	89	56	10,779
50名以上 100名未満	4,347	4,035	1,547	287	122	94	10,432
100名以上 150名未満	2,162	2,259	1,032	120	68	60	5,701
150名以上	934	970	619	91	50	25	2,689



Q2-(11) 授業に関する受講生の意見への対応が十分になされていた

[単位：名(延べ)]

	5大にそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
30名未満	3,416	3,292	1,714	137	73	98	8,730
30名以上 50名未満	3,032	4,429	2,840	290	110	78	10,779
50名以上 100名未満	2,678	3,784	3,195	449	216	110	10,432
100名以上 150名未満	1,091	1,897	2,168	317	164	64	5,701
150名以上	382	822	1,155	189	107	34	2,689

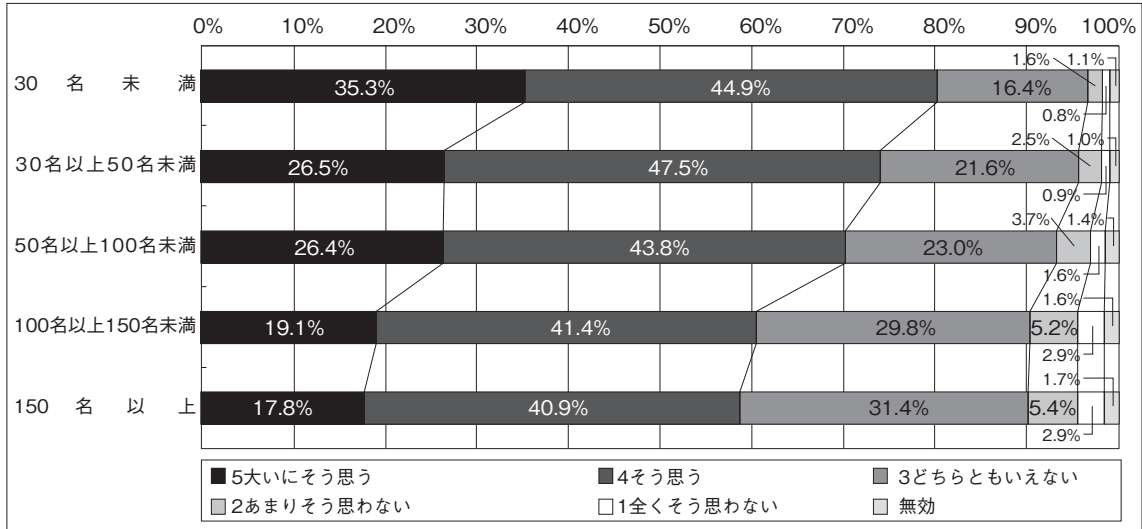


3. この授業からあなたが得たものについて

Q3-(1) 授業で扱った分野に関する専門知識・技術が身についた

[単位：名(延べ)]

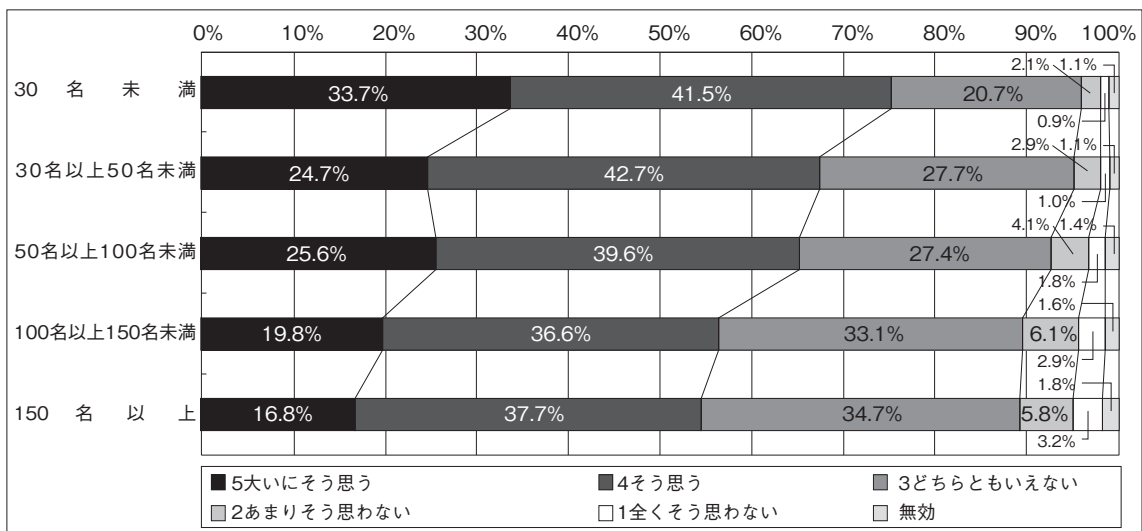
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
30名未満	3,079	3,916	1,430	144	69	92	8,730
30名以上 50名未満	2,857	5,115	2,331	274	95	107	10,779
50名以上 100名未満	2,752	4,572	2,399	390	172	147	10,432
100名以上 150名未満	1,091	2,359	1,697	297	167	90	5,701
150名以上	478	1,101	844	144	77	45	2,689



Q3-(2) 自分にとって有益な考え方・発想が身についた

[単位：名(延べ)]

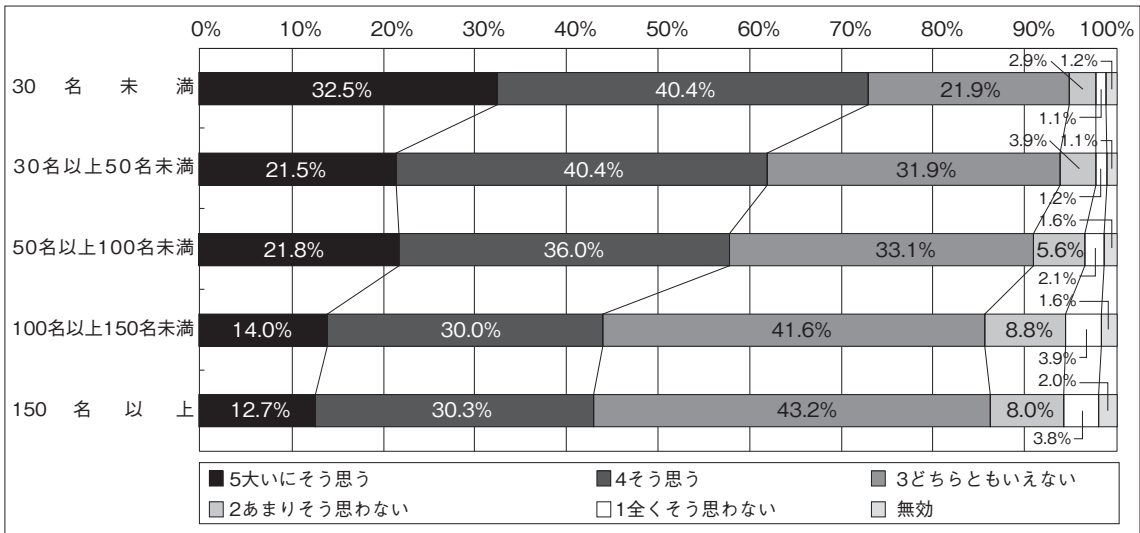
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
30名未満	2,946	3,625	1,804	181	75	99	8,730
30名以上 50名未満	2,665	4,599	2,983	312	106	114	10,779
50名以上 100名未満	2,670	4,132	2,862	431	190	147	10,432
100名以上 150名未満	1,128	2,086	1,885	347	163	92	5,701
150名以上	452	1,014	932	156	86	49	2,689



Q3-(3) 自分で調べ、考える姿勢をもてた

[単位：名(延べ)]

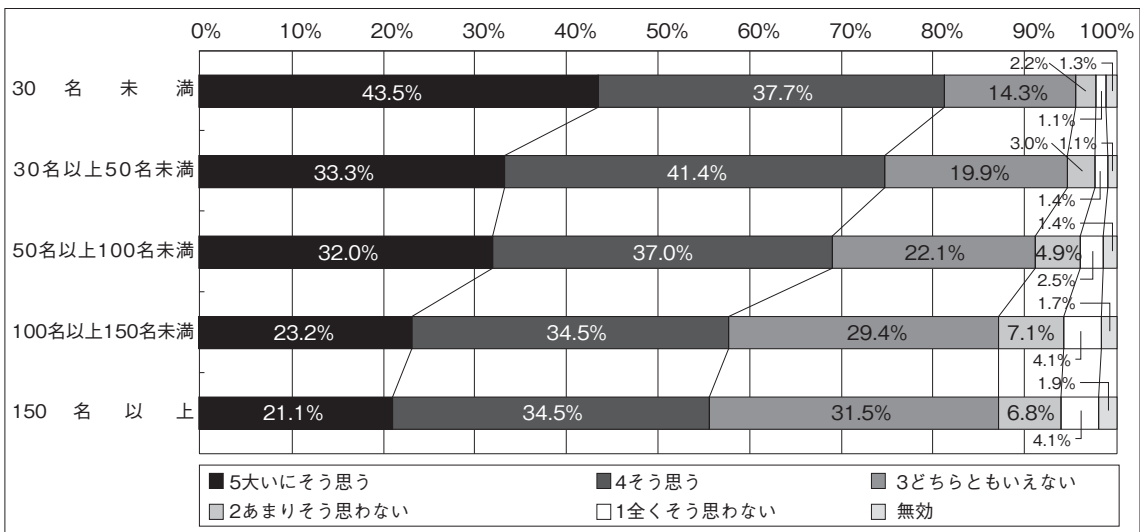
	5大にそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
30名未満	2,835	3,531	1,911	251	93	109	8,730
30名以上 50名未満	2,315	4,356	3,439	418	128	123	10,779
50名以上 100名未満	2,272	3,752	3,451	579	216	162	10,432
100名以上 150名未満	797	1,711	2,374	502	224	93	5,701
150名以上	342	814	1,161	216	103	53	2,689



Q3-(4) 総合的にみてこの授業に満足をした

[単位：名(延べ)]

	5大にそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
30名未満	3,797	3,288	1,247	189	93	116	8,730
30名以上 50名未満	3,586	4,458	2,146	319	147	123	10,779
50名以上 100名未満	3,340	3,864	2,303	513	262	150	10,432
100名以上 150名未満	1,322	1,969	1,674	407	231	98	5,701
150名以上	568	929	846	184	110	52	2,689



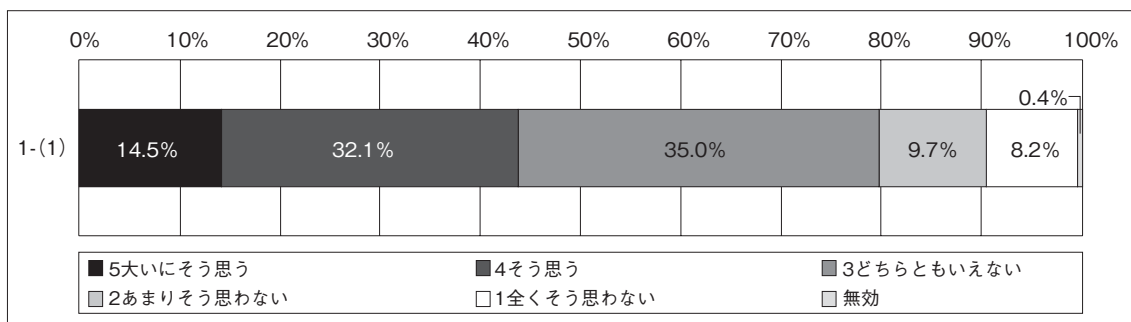
2010年度 秋学期 授業アンケート 全体集計

1. あなた自身の取り組みについて

Q1-(1) シラバスを読んで受講に備えた

[単位：名(延べ)]

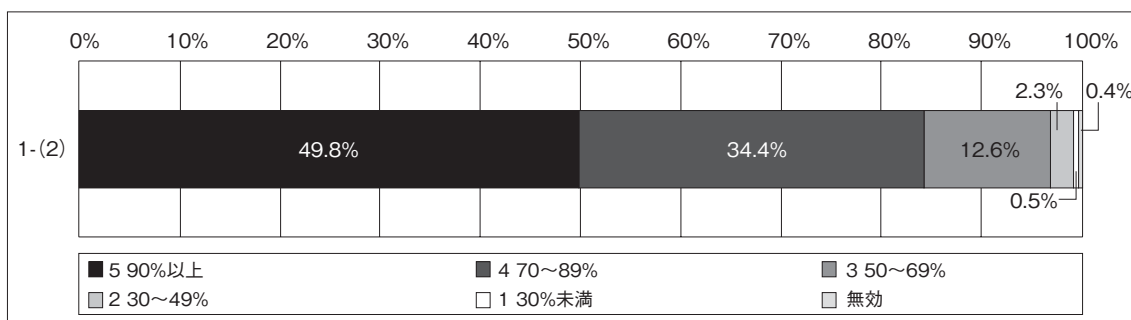
5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
4,513	9,982	10,868	3,015	2,556	132	31,066



Q1-(2) これまでの授業の出席率

[単位：名(延べ)]

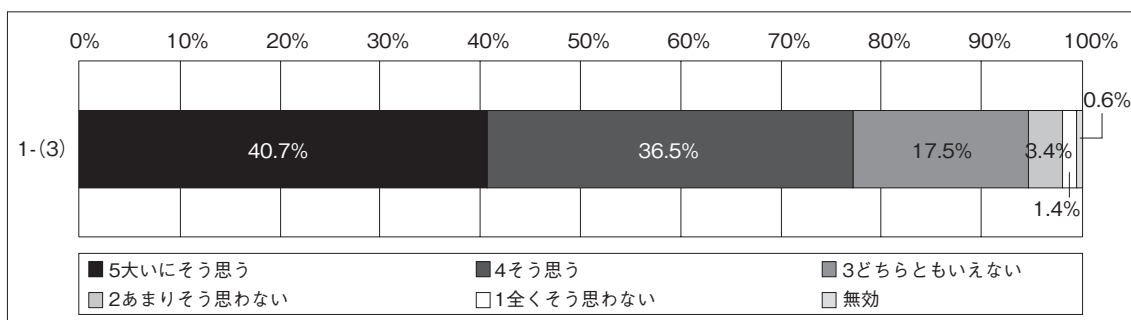
5 90%以上	4 70～89%	3 50～69%	2 30～49%	1 30%未満	無効	合計
15,486	10,698	3,900	702	142	138	31,066



Q1-(3) 授業を妨げる行為(私語・携帯の使用・遅刻・途中退出等)をしなかった

[単位：名(延べ)]

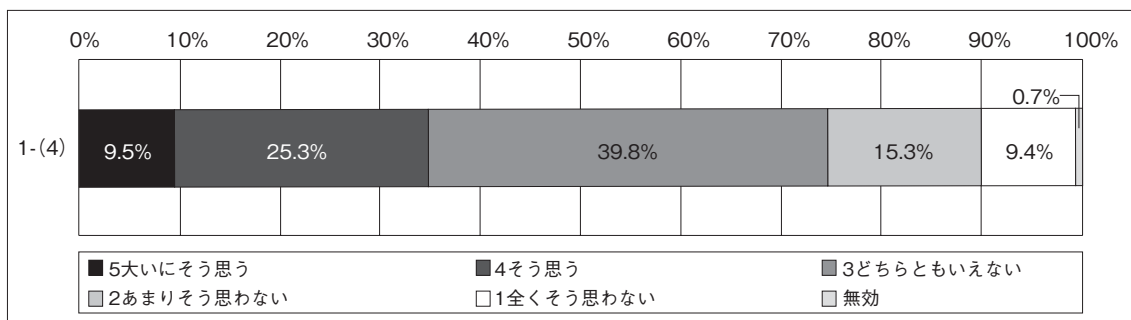
5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
12,632	11,338	5,430	1,044	449	173	31,066



Q1-(4) 1回の授業につき予習・復習をした

[単位：名(延べ)]

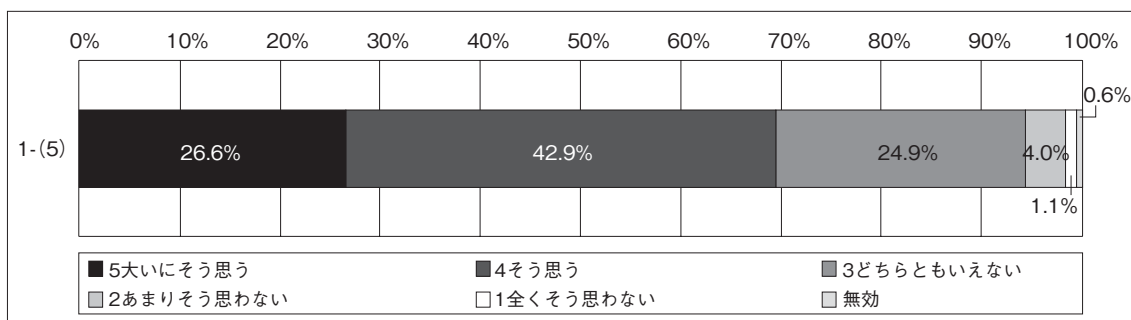
5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
2,951	7,875	12,368	4,758	2,906	208	31,066



Q1-(5) 熱心に授業に取り組んだ

[単位：名(延べ)]

5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
8,252	13,321	7,728	1,243	344	178	31,066

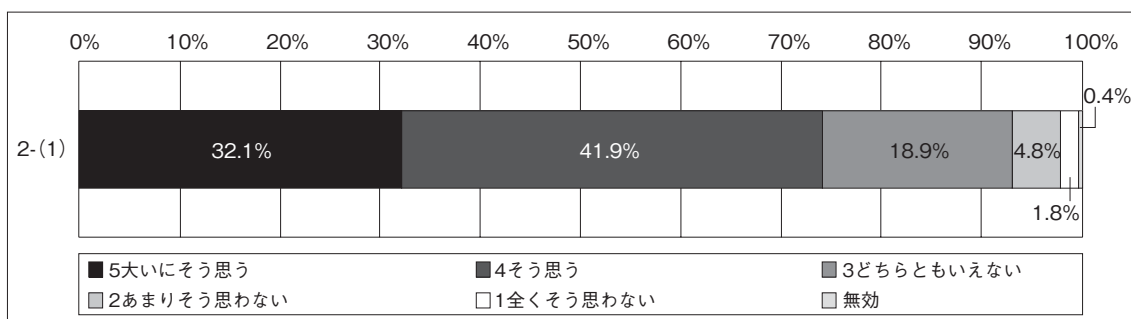


2. この授業の運営について

Q2-(1) わかりやすい授業であった

[単位：名(延べ)]

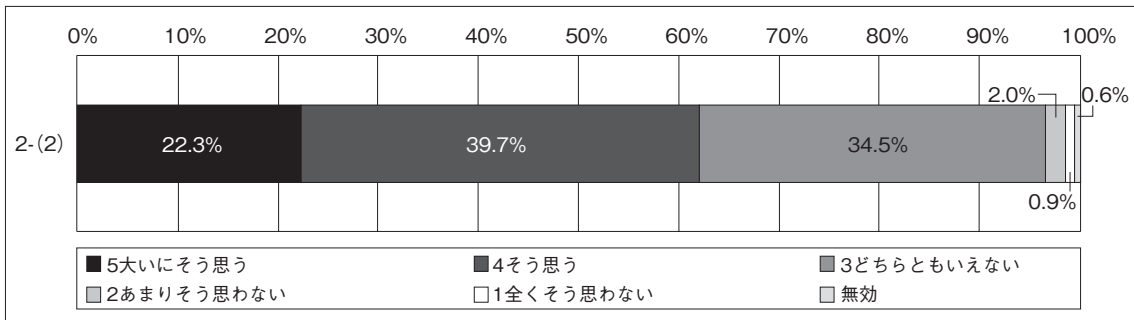
5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
9,976	13,024	5,878	1,495	574	119	31,066



Q2-(2) 授業はシラバス通りに進行していた

[単位：名(延べ)]

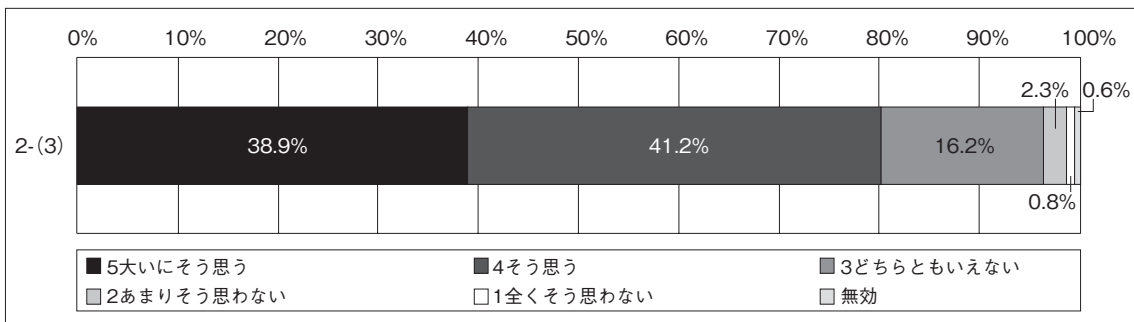
5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
6,936	12,343	10,730	611	270	176	31,066



Q2-(3) 教員の熱意が伝わってきた

[単位：名(延べ)]

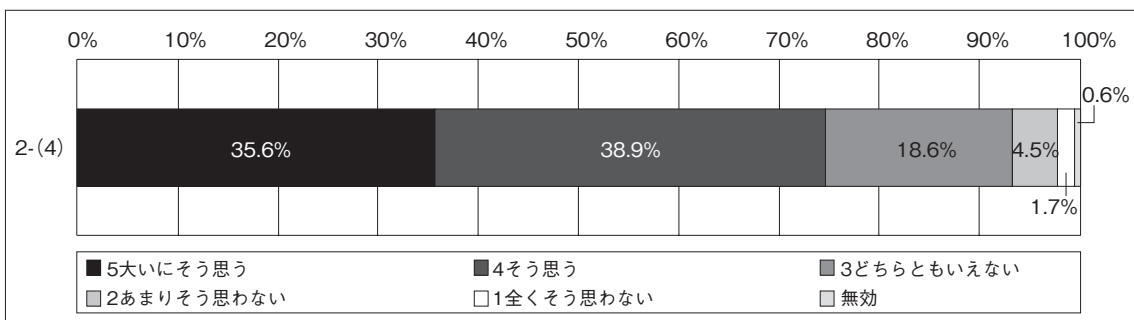
5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
12,086	12,805	5,020	715	254	186	31,066



Q2-(4) 聴きやすい話し方だった

[単位：名(延べ)]

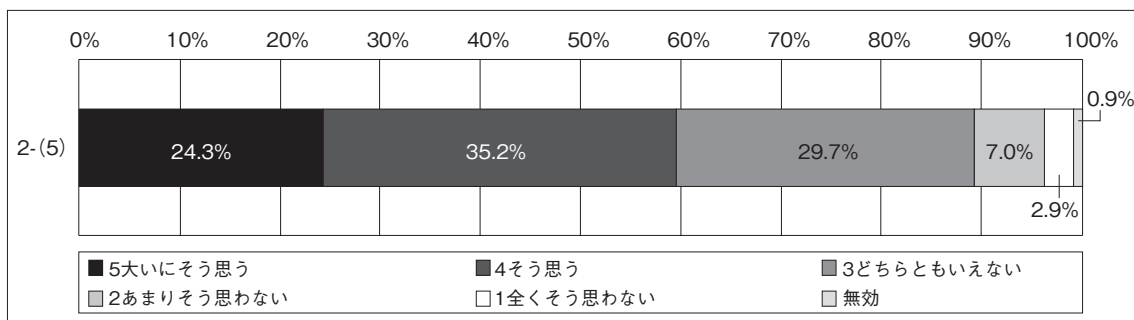
5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
11,075	12,086	5,775	1,402	536	192	31,066



Q2-(5) 板書（OHP、パワーポイント含む）は見やすかった

[単位：名（延べ）]

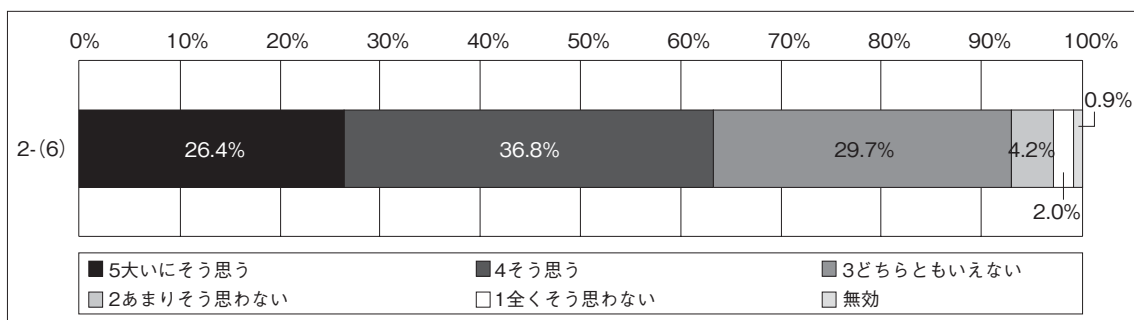
5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
7,545	10,937	9,228	2,182	890	284	31,066



Q2-(6) 印刷教材（レジュメ・補助教材等）、視聴覚教材等が効果的だった

[単位：名（延べ）]

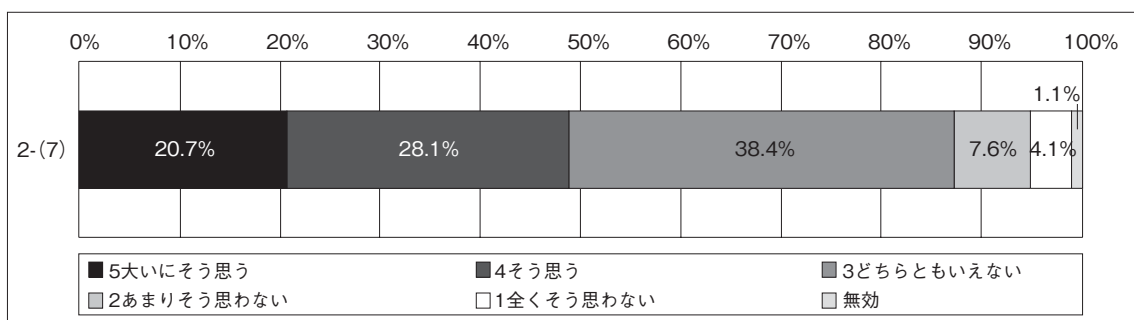
5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
8,200	11,441	9,225	1,319	606	275	31,066



Q2-(7) 学習形態（グループ学習・発表、フィールドワーク等）に工夫がみられた

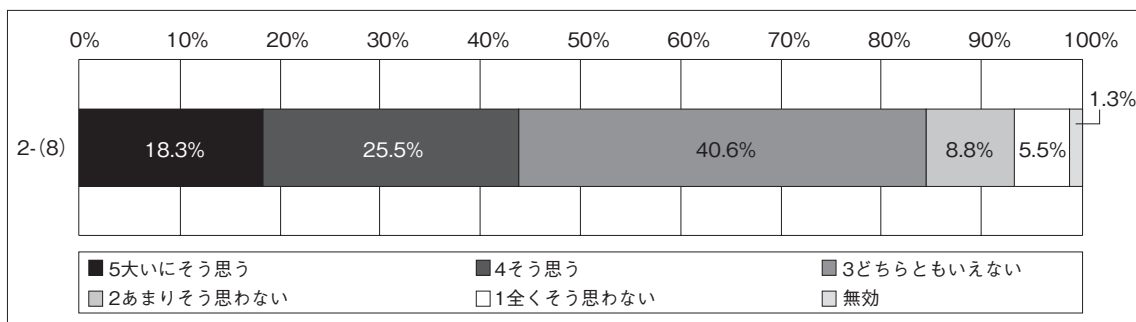
[単位：名（延べ）]

5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
6,435	8,731	11,939	2,360	1,263	338	31,066



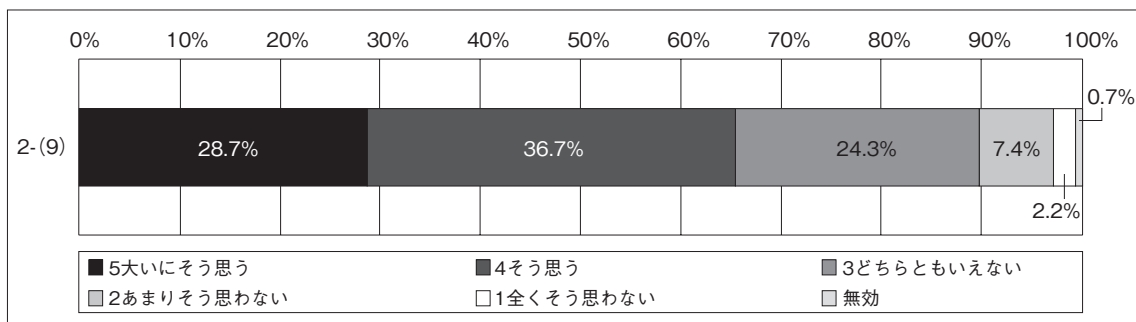
Q2-(8) 教員や学生同士のコミュニケーション (e-learning “縁 (えにし)” 含む) に工夫がみられた [単位：名 (延べ)]

5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
5,696	7,916	12,599	2,744	1,712	399	31,066



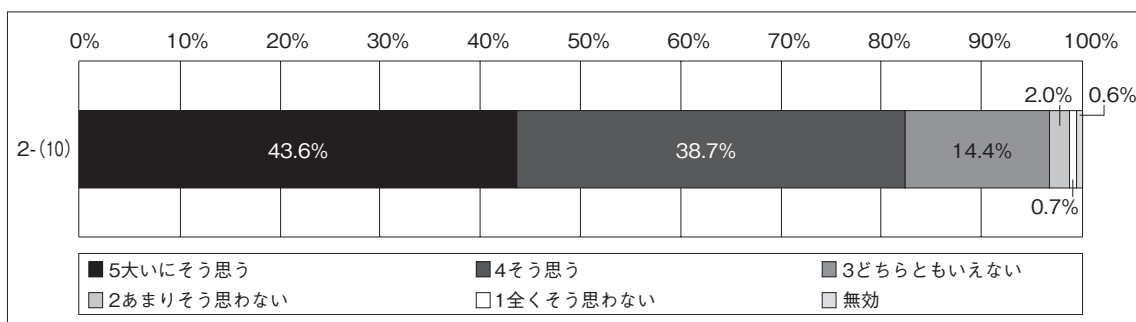
Q2-(9) 授業は十分な静粛性が保たれていた [単位：名 (延べ)]

5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
8,909	11,413	7,537	2,293	687	227	31,066



Q2-(10) 授業時間が守られていた [単位：名 (延べ)]

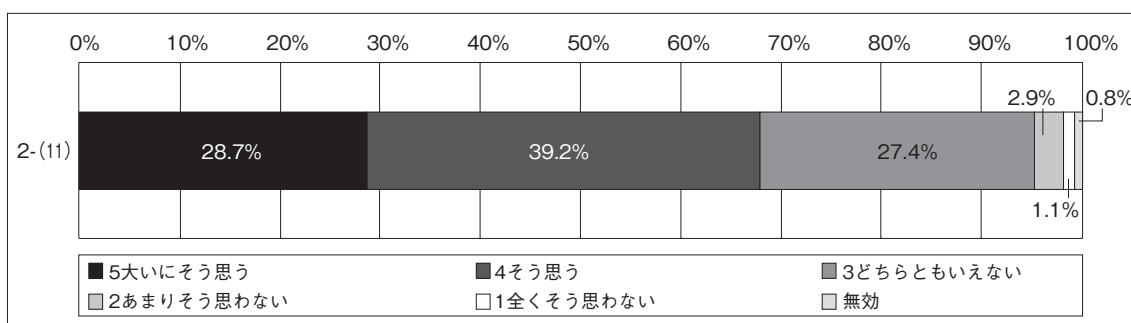
5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
13,546	12,014	4,482	617	206	201	31,066



Q2-(11) 授業に関する受講生の意見への対応が十分になされていた

[単位：名(延べ)]

5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
8,911	12,170	8,497	894	349	245	31,066

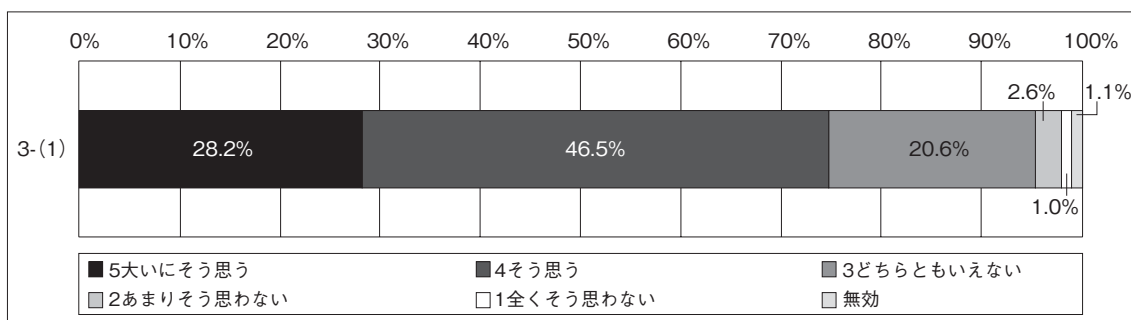


3. この授業からあなたが得たものについて

Q3-(1) 授業で扱った分野に関する専門知識・技術が身についた

[単位：名(延べ)]

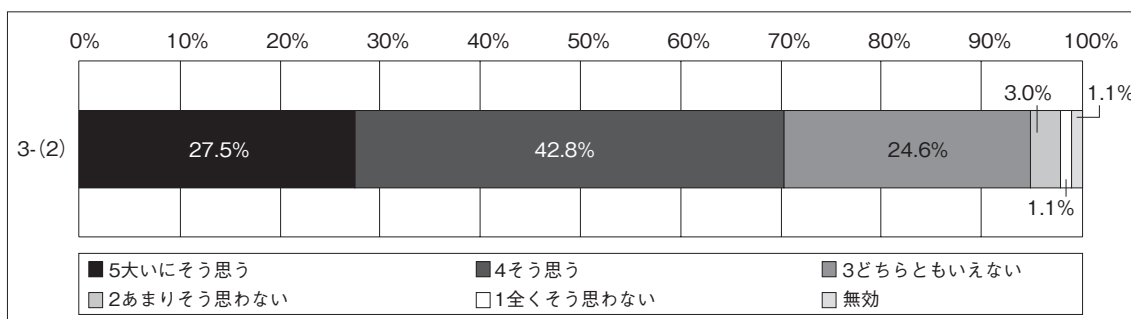
5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
8,746	14,455	6,391	815	324	335	31,066



Q3-(2) 自分にとって有益な考え方・発想が身についた

[単位：名(延べ)]

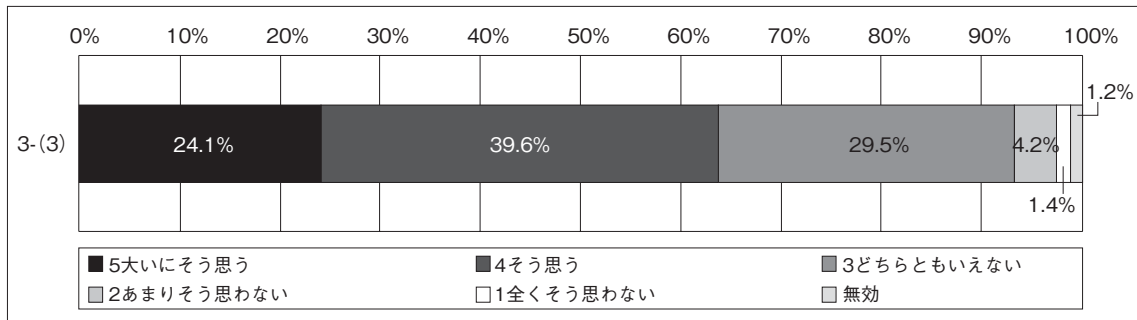
5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
8,529	13,282	7,629	917	352	357	31,066



Q3-(3) 自分で調べ、考える姿勢をもてた

[単位：名(延べ)]

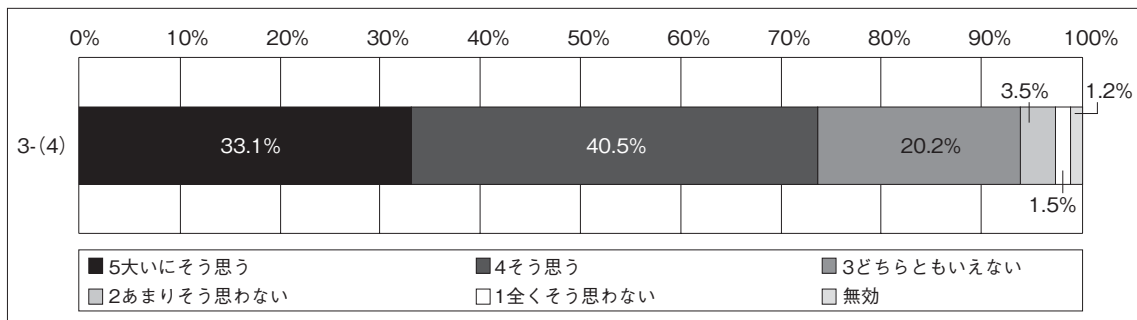
5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
7,483	12,302	9,171	1,298	441	371	31,066



Q3-(4) 総合的にみてこの授業に満足をした

[単位：名(延べ)]

5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
10,271	12,593	6,278	1,076	468	380	31,066



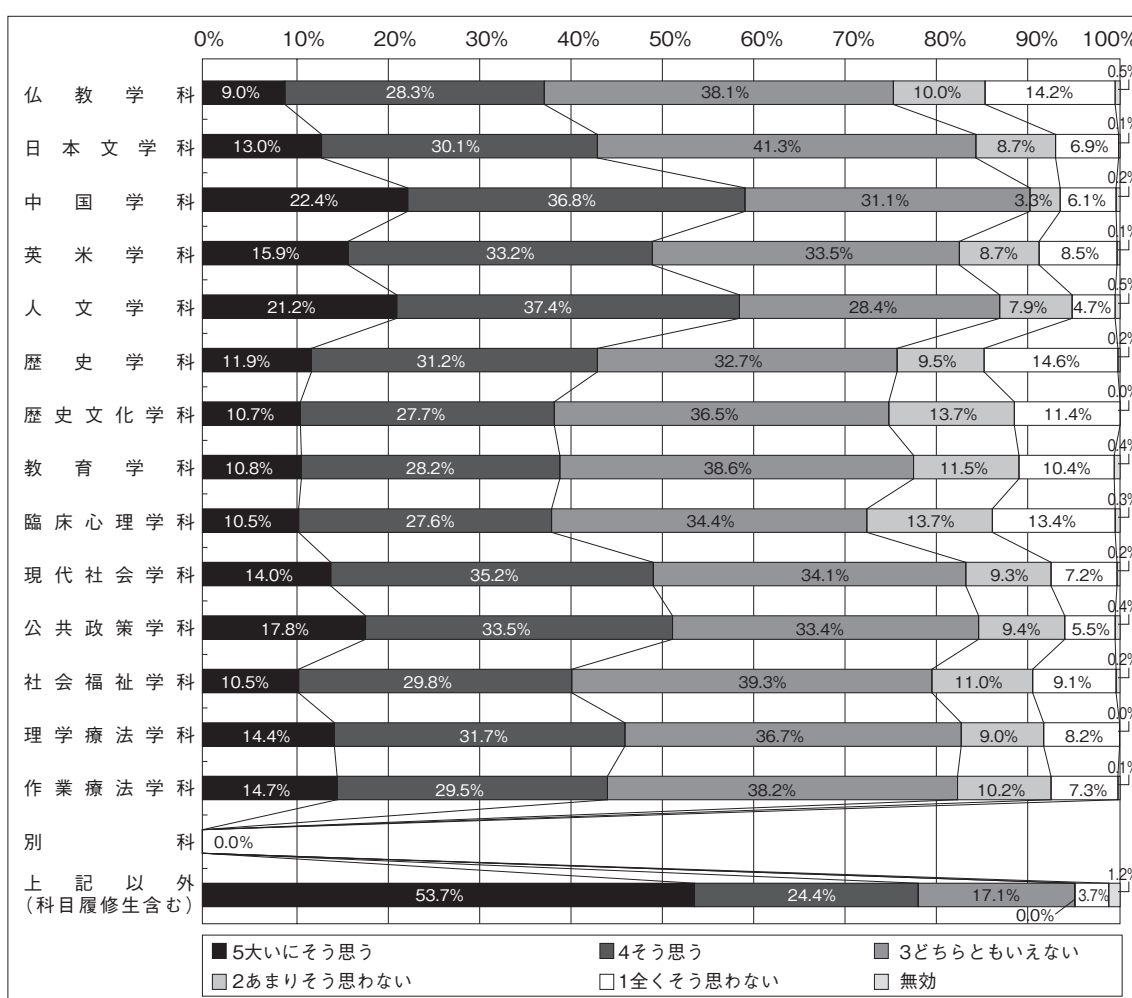
2010年度 秋学期 授業アンケート マーク学科別集計

1. あなた自身の取り組みについて

Q1-(1) シラバスを読んで受講に備えた

[単位：名(延べ)]

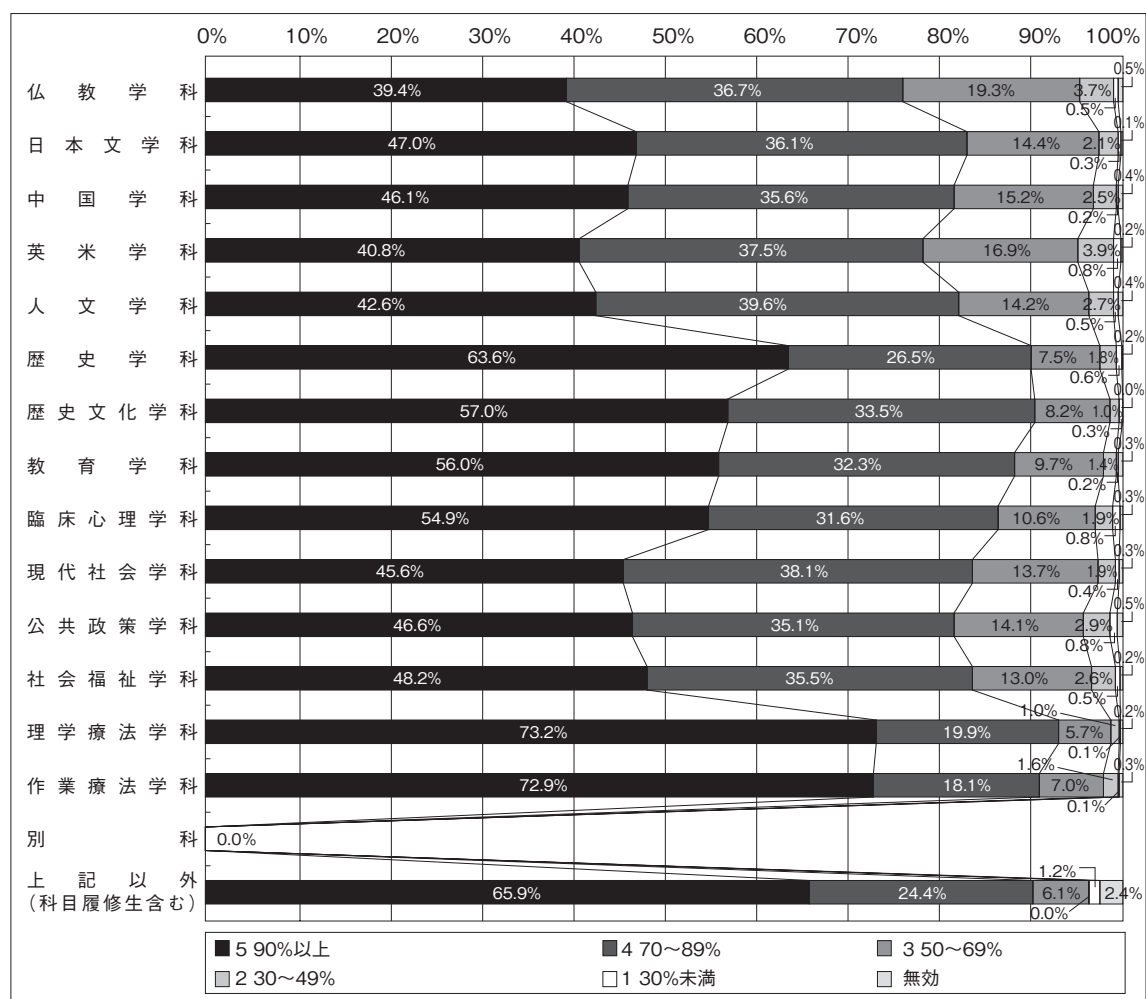
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	39	122	164	43	61	2	431
日 本 文 学 科	142	329	451	95	75	1	1,093
中 国 学 科	190	312	264	28	52	2	848
英 米 学 科	298	621	626	163	159	2	1,869
人 文 学 科	1,016	1,793	1,361	381	224	23	4,798
歴 史 学 科	148	389	407	118	182	2	1,246
歴史文化学科	74	192	253	95	79	0	693
教 育 学 科	365	950	1,300	387	350	13	3,365
臨床心理学科	162	426	531	212	206	5	1,542
現代社会学科	569	1,429	1,386	376	292	7	4,059
公共政策学科	423	797	795	224	131	10	2,380
社会福祉学科	627	1,781	2,346	659	544	11	5,968
理学療法学科	177	389	450	110	100	0	1,226
作業療法学科	137	274	355	95	68	1	930
別 科	0	0	0	0	0	0	0
上記以外 (科目履修生含む)	44	20	14	0	3	1	82



Q1-(2) これまでの授業の出席率

[単位：名(延べ)]

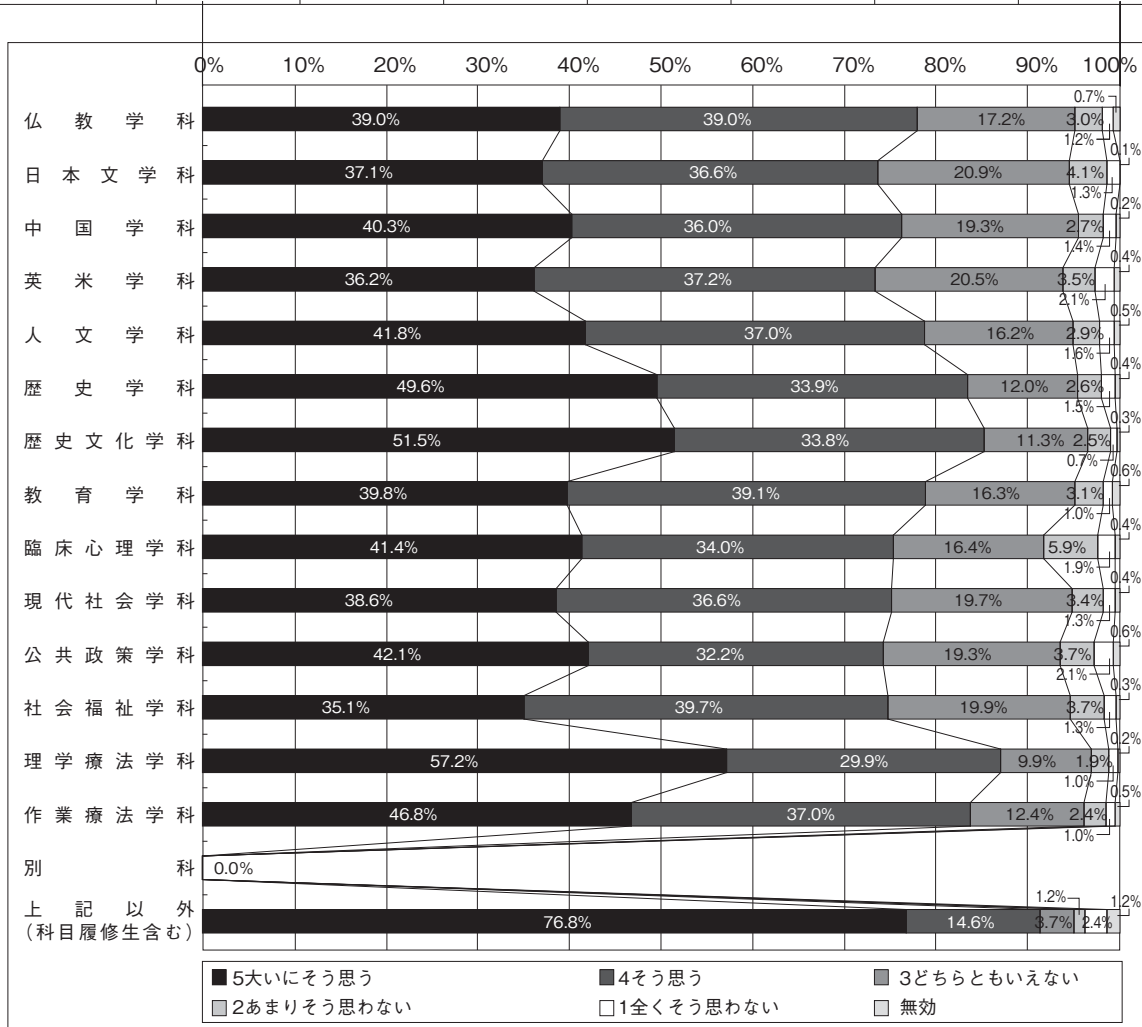
	590%以上	470~89%	350~69%	230~49%	130%未満	無効	合計
仏 教 学 科	170	158	83	16	2	2	431
日 本 文 学 科	514	395	157	23	3	1	1,093
中 国 学 科	391	302	129	21	2	3	848
英 米 学 科	763	700	315	73	15	3	1,869
人 文 学 科	2,046	1,901	680	129	22	20	4,798
歴 史 学 科	792	330	93	22	7	2	1,246
歴 史 文 化 学 科	395	232	57	7	2	0	693
教 育 学 科	1,886	1,087	327	47	7	11	3,365
臨 床 心 理 学 科	846	487	163	29	12	5	1,542
現 代 社 会 学 科	1,851	1,545	555	78	18	12	4,059
公 共 政 策 学 科	1,109	836	336	70	18	11	2,380
社 会 福 祉 学 科	2,878	2,120	777	155	27	11	5,968
理 学 療 法 学 科	897	244	70	12	1	2	1,226
作 業 療 法 学 科	678	168	65	15	1	3	930
別 科	0	0	0	0	0	0	0
上 記 以 外 (科目履修生含む)	54	20	5	0	1	2	82



Q1-(3) 授業を妨げる行為（私語・携帯の使用・遅刻・途中退出等）をしなかった

[単位：名（延べ）]

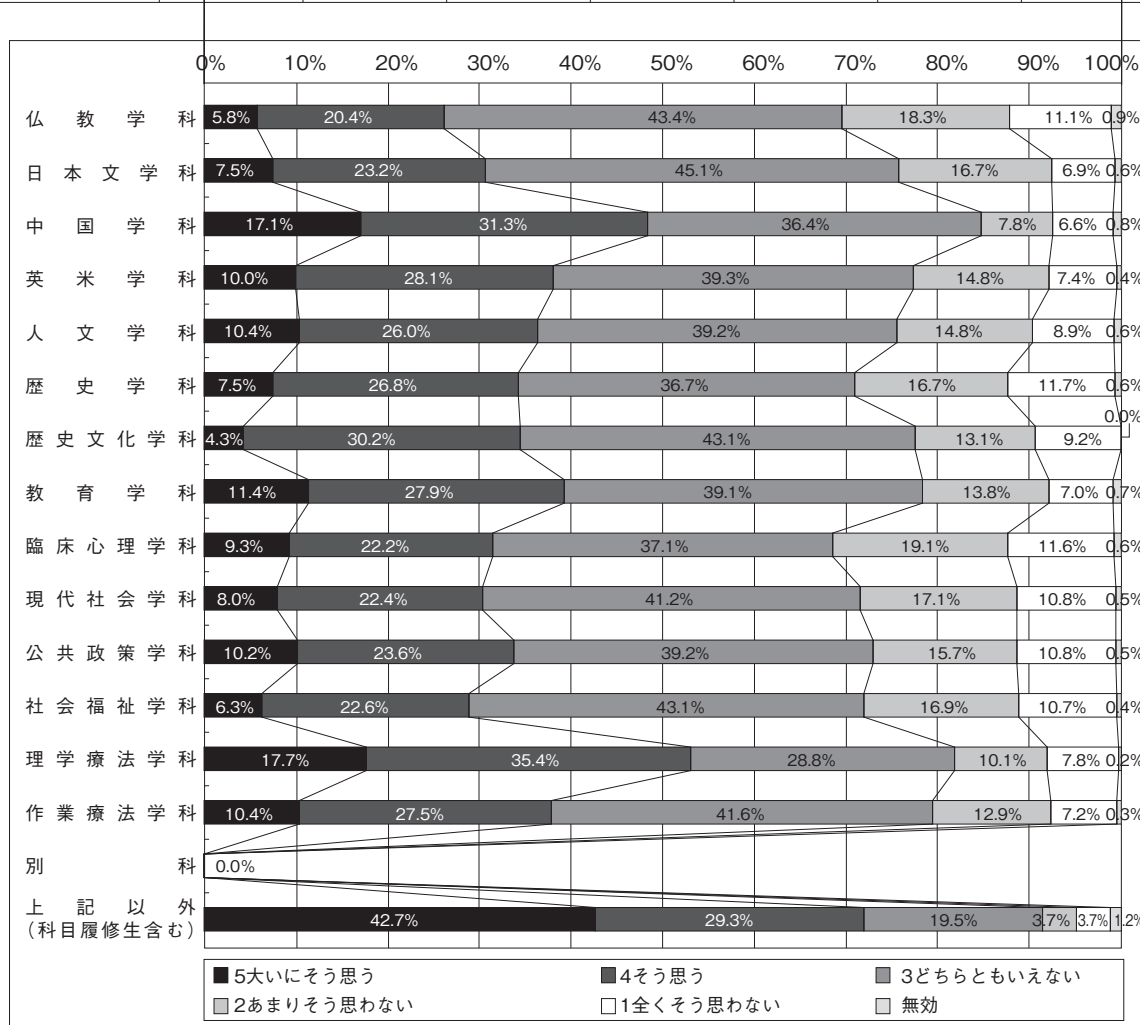
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	168	168	74	13	5	3	431
日 本 文 学 科	405	400	228	45	14	1	1,093
中 国 学 科	342	305	164	23	12	2	848
英 米 学 科	677	695	383	66	40	8	1,869
人 文 学 科	2,004	1,776	776	140	77	25	4,798
歴 史 学 科	618	422	150	32	19	5	1,246
歴史文化学科	357	234	78	17	5	2	693
教 育 学 科	1,340	1,317	549	105	34	20	3,365
臨床心理学科	638	525	253	91	29	6	1,542
現代社会学科	1,566	1,484	800	140	53	16	4,059
公共政策学科	1,003	766	460	87	50	14	2,380
社会福祉学科	2,097	2,369	1,187	220	79	16	5,968
理学療法学科	701	367	121	23	12	2	1,226
作業療法学科	435	344	115	22	9	5	930
別 科	0	0	0	0	0	0	0
上 記 以 外 (科目履修生含む)	63	12	3	1	2	1	82



Q1-(4) 1回の授業につき予習・復習をした

[単位：名(延べ)]

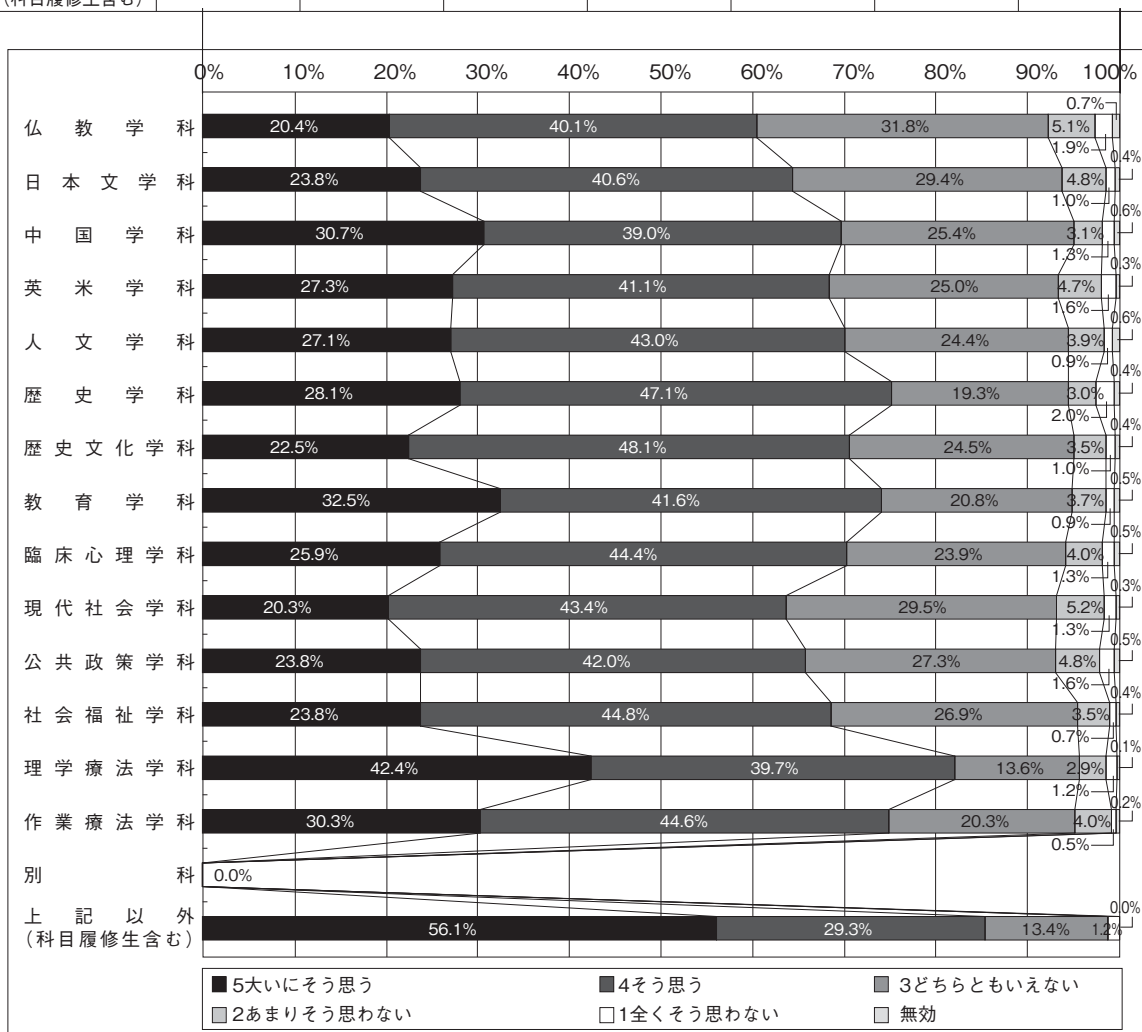
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	25	88	187	79	48	4	431
日 本 文 学 科	82	254	493	182	75	7	1,093
中 国 学 科	145	265	309	66	56	7	848
英 米 学 科	186	525	734	277	139	8	1,869
人 文 学 科	500	1,247	1,882	711	429	29	4,798
歴 史 学 科	94	334	457	208	146	7	1,246
歴史文化学科	30	209	299	91	64	0	693
教 育 学 科	385	938	1,316	466	237	23	3,365
臨床心理学科	143	343	572	295	179	10	1,542
現代社会学科	326	908	1,671	696	439	19	4,059
公共政策学科	242	562	932	373	258	13	2,380
社会福祉学科	375	1,350	2,573	1,009	639	22	5,968
理学療法学科	217	434	353	124	96	2	1,226
作業療法学科	97	256	387	120	67	3	930
別 科	0	0	0	0	0	0	0
上 記 以 外 (科目履修生含む)	35	24	16	3	3	1	82



Q1-(5) 熱心に授業に取り組んだ

[単位：名(延べ)]

	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	88	173	137	22	8	3	431
日 本 文 学 科	260	444	321	53	11	4	1,093
中 国 学 科	260	331	215	26	11	5	848
英 米 学 科	511	769	468	87	29	5	1,869
人 文 学 科	1,301	2,065	1,172	188	45	27	4,798
歴 史 学 科	350	587	241	38	25	5	1,246
歴史文化学科	156	333	170	24	7	3	693
教 育 学 科	1,094	1,401	701	124	29	16	3,365
臨床心理学科	399	684	369	62	20	8	1,542
現代社会学科	825	1,761	1,197	211	51	14	4,059
公共政策学科	566	1,000	649	114	39	12	2,380
社会福祉学科	1,418	2,672	1,603	207	44	24	5,968
理学療法学科	520	487	167	36	15	1	1,226
作業療法学科	282	415	189	37	5	2	930
別 科	0	0	0	0	0	0	0
上 記 以 外 (科目履修生含む)	46	24	11	0	1	0	82

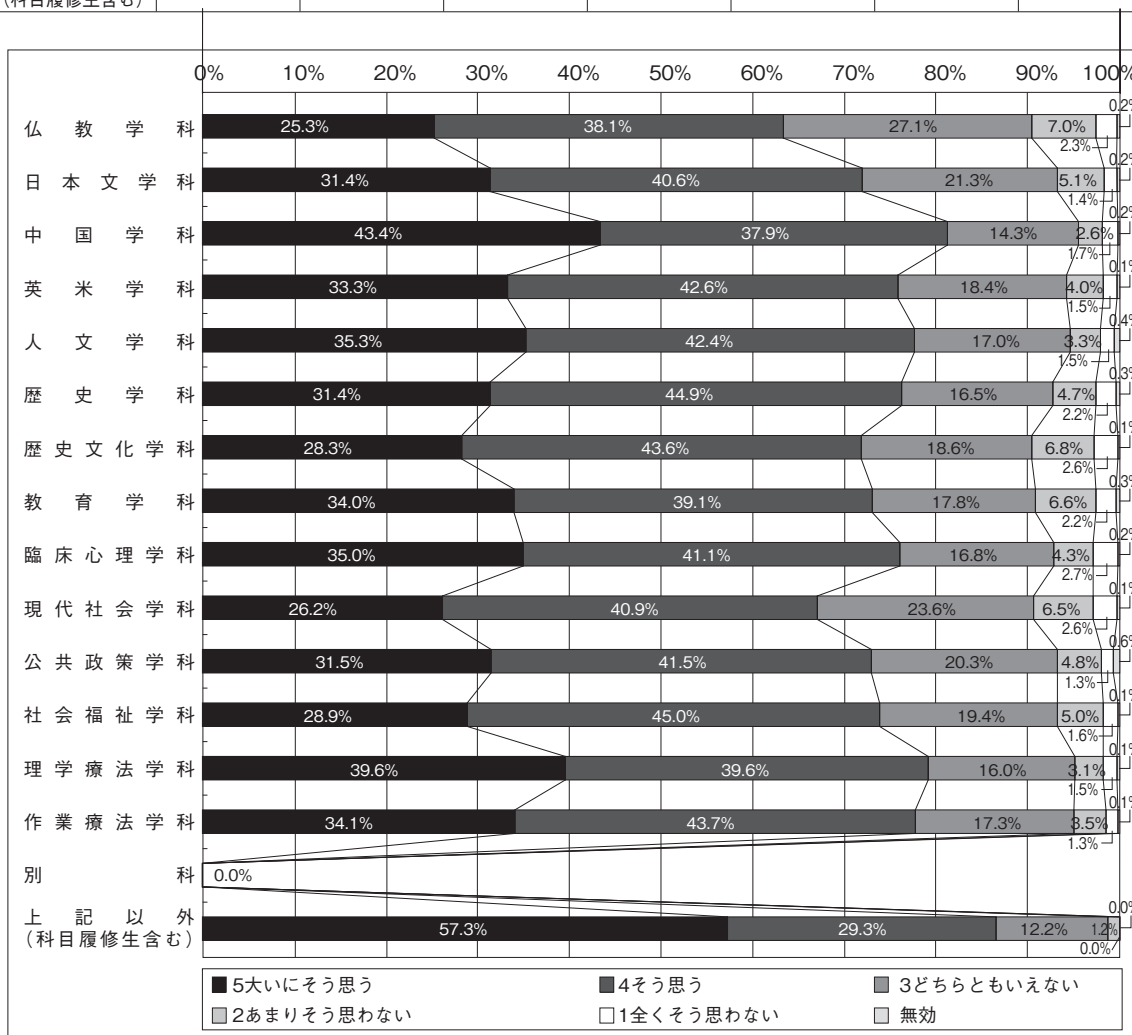


2. この授業の運営について

Q2-(1) わかりやすい授業であった

[単位：名(延べ)]

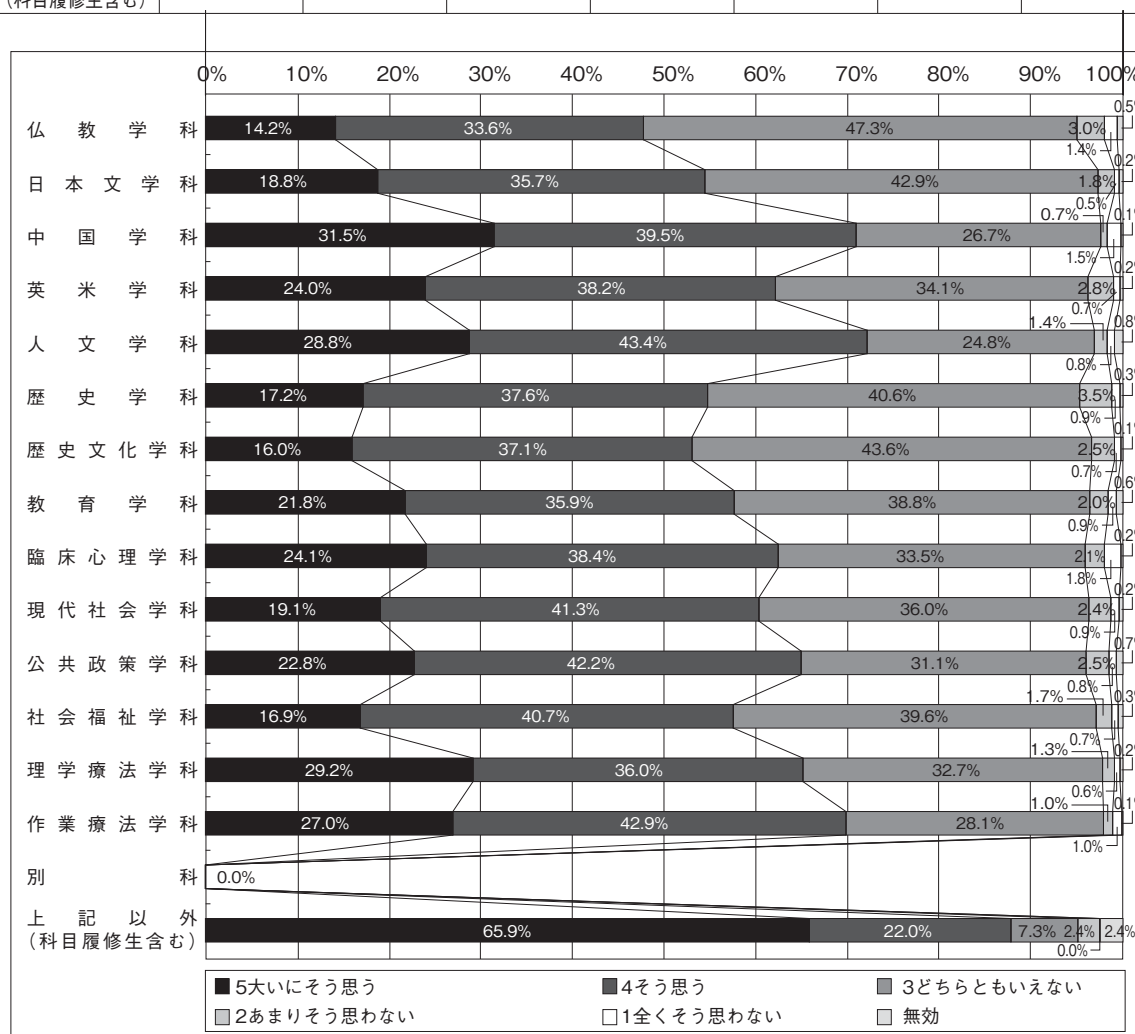
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	109	164	117	30	10	1	431
日 本 文 学 科	343	444	233	56	15	2	1,093
中 国 学 科	368	321	121	22	14	2	848
英 米 学 科	623	797	344	75	28	2	1,869
人 文 学 科	1,695	2,036	818	158	72	19	4,798
歴 史 学 科	391	559	206	59	27	4	1,246
歴史文化学科	196	302	129	47	18	1	693
教 育 学 科	1,143	1,317	600	222	74	9	3,365
臨床心理学科	540	633	259	66	41	3	1,542
現代社会学科	1,063	1,662	959	262	107	6	4,059
公共政策学科	749	988	483	115	31	14	2,380
社会福祉学科	1,722	2,687	1,160	296	97	6	5,968
理学療法学科	486	486	196	38	19	1	1,226
作業療法学科	317	406	161	33	12	1	930
別 科	0	0	0	0	0	0	0
上記以外 (科目履修生含む)	47	24	10	1	0	0	82



Q2-(2) 授業はシラバス通りに進行していた

[単位：名(延べ)]

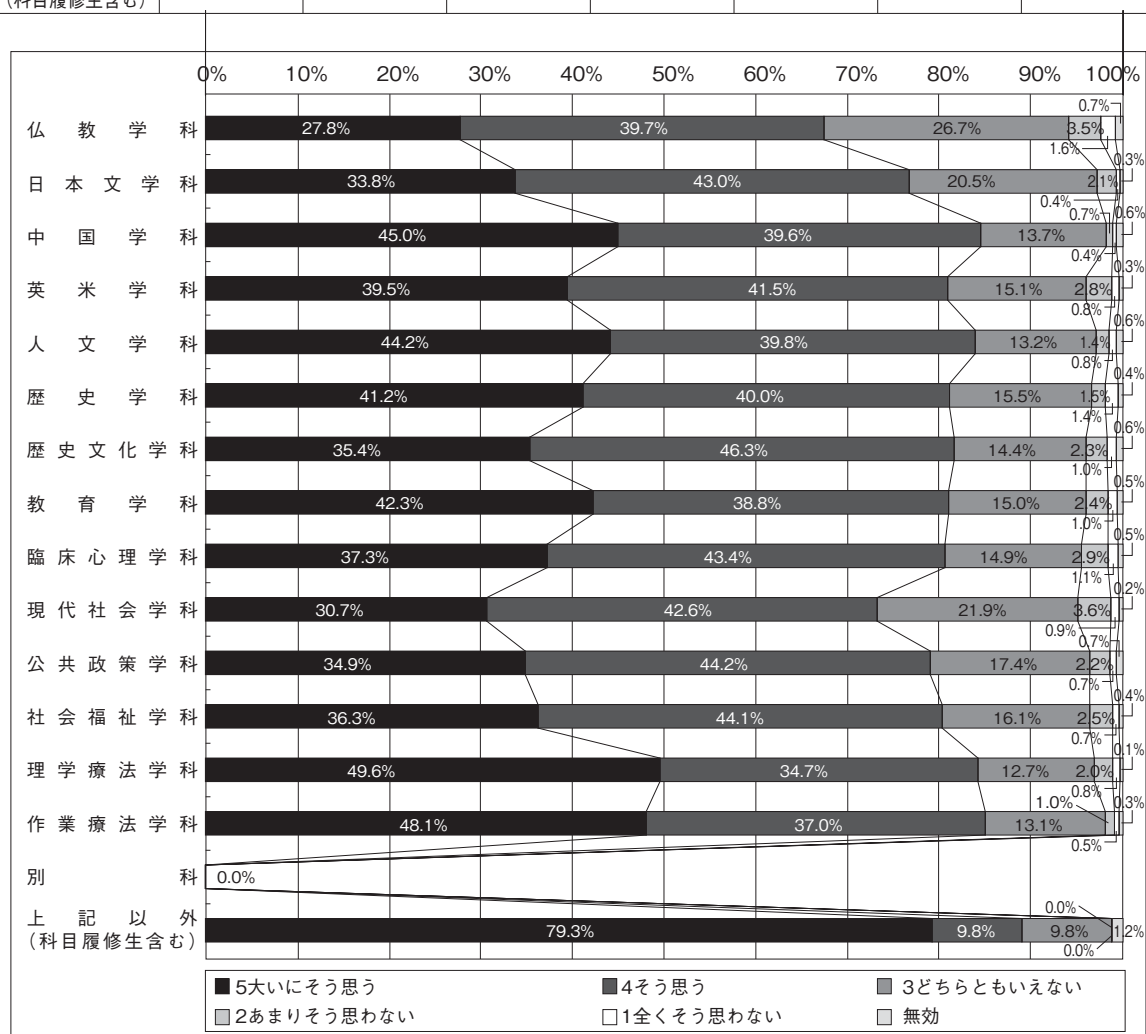
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	61	145	204	13	6	2	431
日 本 文 学 科	206	390	469	20	6	2	1,093
中 国 学 科	267	335	226	6	13	1	848
英 米 学 科	449	714	637	53	13	3	1,869
人 文 学 科	1,381	2,080	1,189	68	40	40	4,798
歴 史 学 科	214	468	506	43	11	4	1,246
歴史文化学科	111	257	302	17	5	1	693
教 育 学 科	735	1,207	1,306	66	30	21	3,365
臨床心理学科	371	592	516	32	28	3	1,542
現代社会学科	776	1,677	1,463	99	35	9	4,059
公共政策学科	543	1,004	739	59	18	17	2,380
社会福祉学科	1,011	2,431	2,364	103	43	16	5,968
理学療法学科	358	441	401	16	7	3	1,226
作業療法学科	251	399	261	9	9	1	930
別 科	0	0	0	0	0	0	0
上 記 以 外 (科目履修生含む)	54	18	6	2	0	2	82



Q2-(3) 教員の熱意が伝わってきた

[単位：名(延べ)]

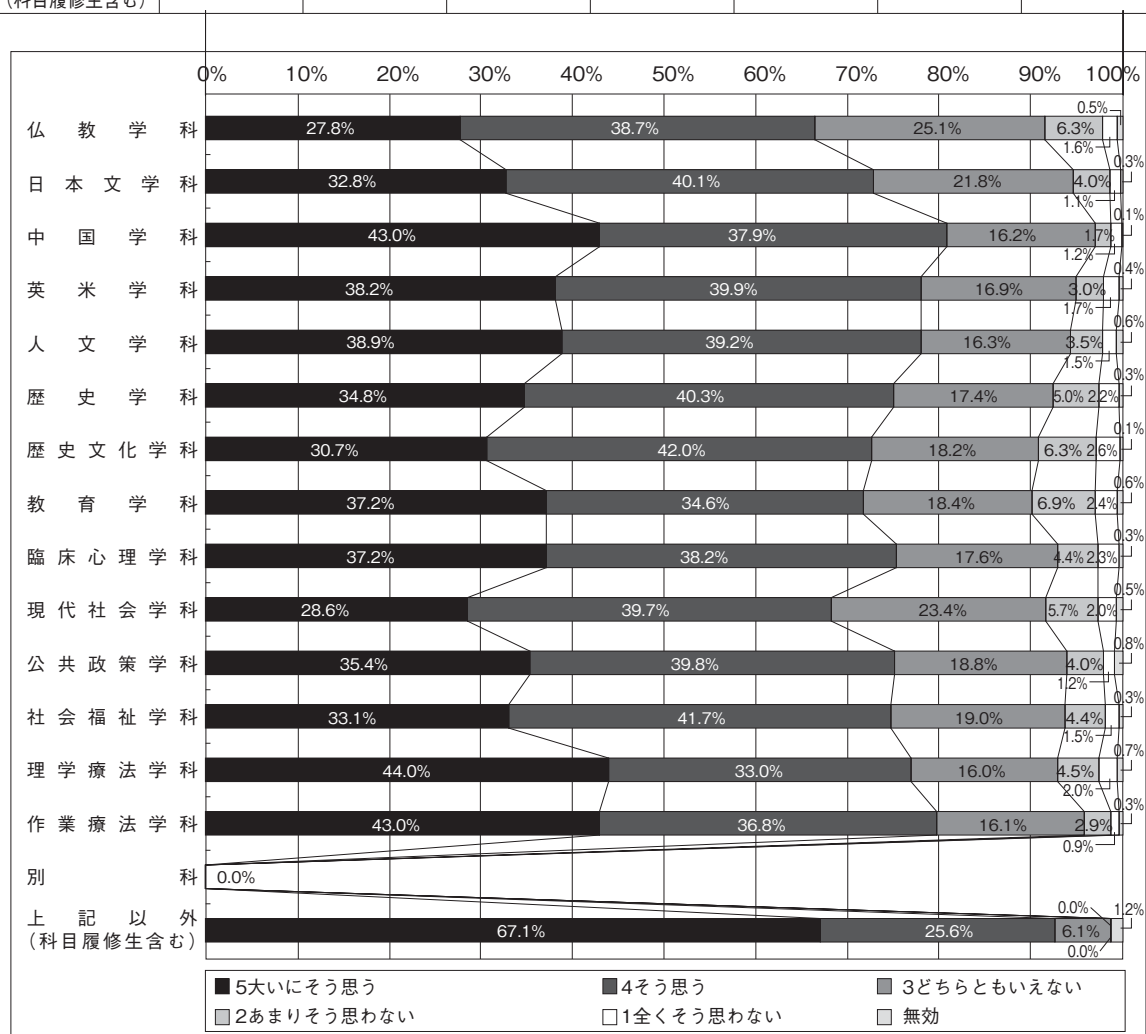
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	120	171	115	15	7	3	431
日 本 文 学 科	369	470	224	23	4	3	1,093
中 国 学 科	382	336	116	6	3	5	848
英 米 学 科	738	775	282	53	15	6	1,869
人 文 学 科	2,122	1,911	631	67	37	30	4,798
歴 史 学 科	513	498	193	19	18	5	1,246
歴史文化学科	245	321	100	16	7	4	693
教 育 学 科	1,423	1,306	505	82	32	17	3,365
臨床心理学科	575	669	229	45	17	7	1,542
現代社会学科	1,248	1,729	888	148	36	10	4,059
公共政策学科	831	1,051	413	53	16	16	2,380
社会福祉学科	2,166	2,631	958	148	42	23	5,968
理学療法学科	608	426	156	25	10	1	1,226
作業療法学科	447	344	122	9	5	3	930
別 科	0	0	0	0	0	0	0
上 記 以 外 (科目履修生含む)	65	8	8	0	0	1	82



Q2-(4) 聴きやすい話し方だった

[単位：名(延べ)]

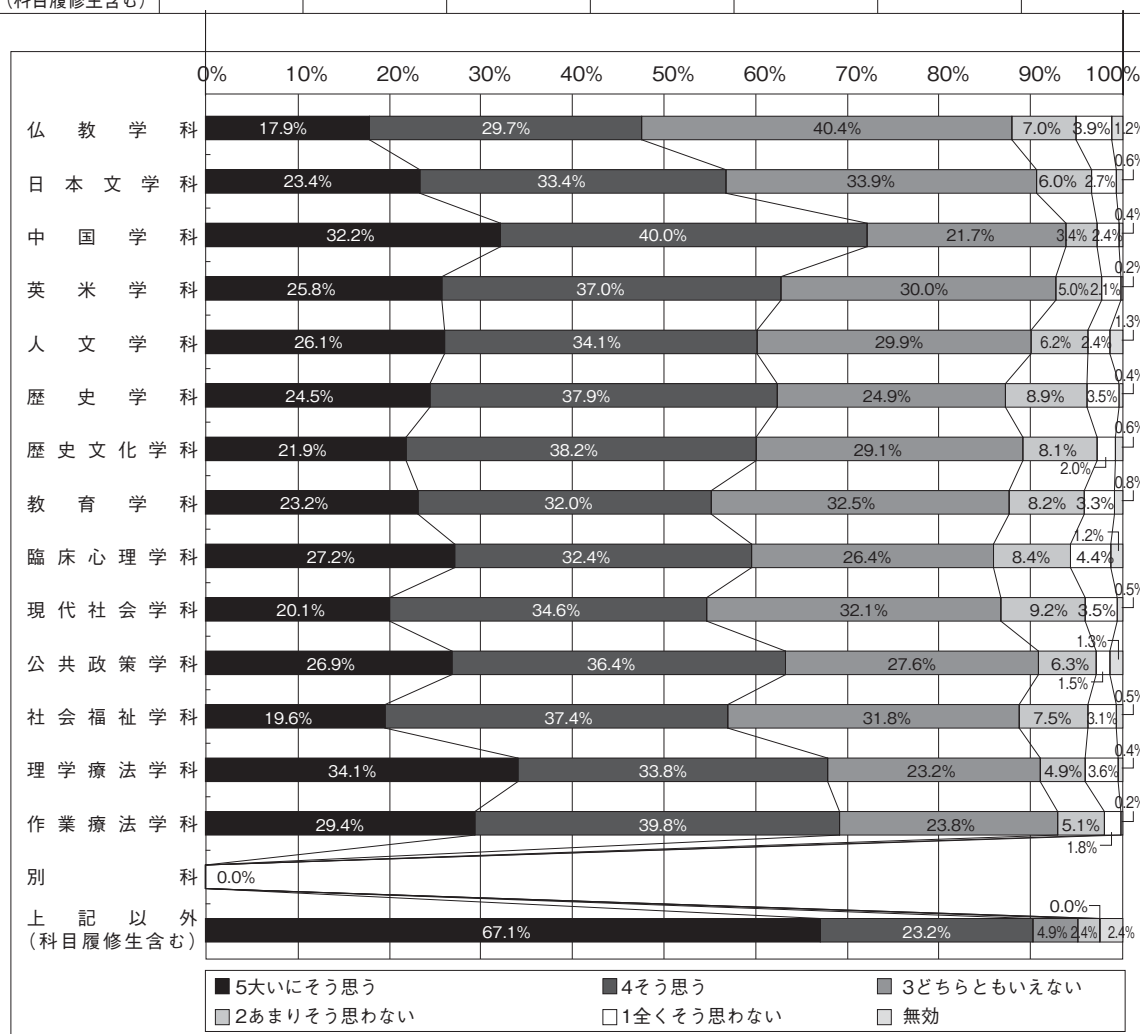
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	120	167	108	27	7	2	431
日 本 文 学 科	358	438	238	44	12	3	1,093
中 国 学 科	365	321	137	14	10	1	848
英 米 学 科	714	745	316	56	31	7	1,869
人 文 学 科	1,865	1,879	783	167	73	31	4,798
歴 史 学 科	434	502	217	62	27	4	1,246
歴史文化学科	213	291	126	44	18	1	693
教 育 学 科	1,251	1,163	619	232	81	19	3,365
臨床心理学科	573	589	272	68	35	5	1,542
現代社会学科	1,162	1,611	948	233	83	22	4,059
公共政策学科	842	948	448	96	28	18	2,380
社会福祉学科	1,973	2,490	1,133	264	92	16	5,968
理学療法学科	539	404	196	55	24	8	1,226
作業療法学科	400	342	150	27	8	3	930
別 科	0	0	0	0	0	0	0
上 記 以 外 (科目履修生含む)	55	21	5	0	0	1	82



Q2-(5) 板書 (OHP、パワーポイント含む) は見やすかった

[単位：名 (延べ)]

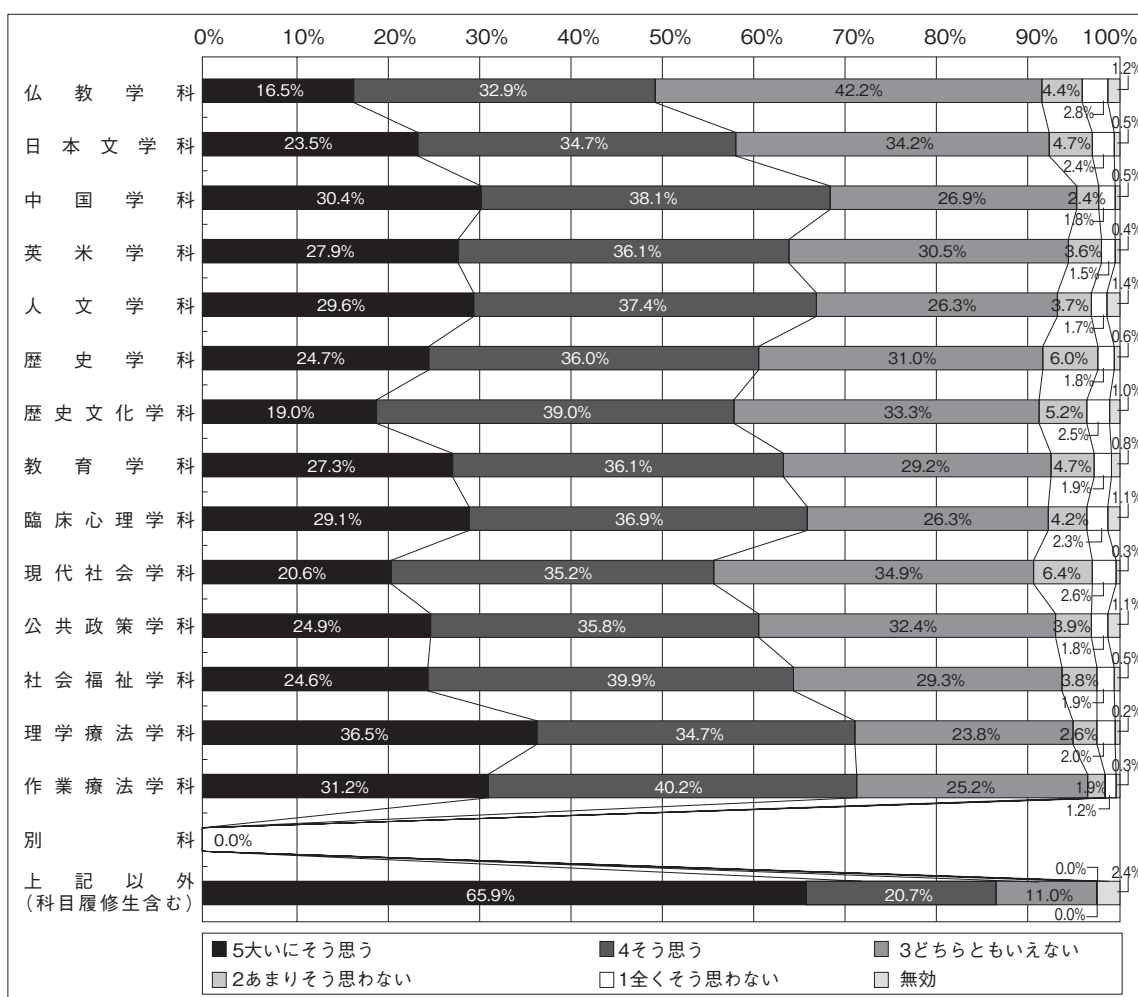
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	77	128	174	30	17	5	431
日 本 文 学 科	256	365	370	66	29	7	1,093
中 国 学 科	273	339	184	29	20	3	848
英 米 学 科	483	691	560	93	39	3	1,869
人 文 学 科	1,253	1,637	1,433	297	114	64	4,798
歴 史 学 科	305	472	310	111	43	5	1,246
歴史文化学科	152	265	202	56	14	4	693
教 育 学 科	781	1,078	1,092	275	112	27	3,365
臨床心理学科	420	499	407	129	68	19	1,542
現代社会学科	816	1,404	1,303	372	142	22	4,059
公共政策学科	641	867	656	149	35	32	2,380
社会福祉学科	1,172	2,235	1,896	449	184	32	5,968
理学療法学科	418	415	284	60	44	5	1,226
作業療法学科	273	370	221	47	17	2	930
別 科	0	0	0	0	0	0	0
上 記 以 外 (科目履修生含む)	55	19	4	2	0	2	82



Q2-(6) 印刷教材(レジュメ・補助教材等)、視聴覚教材等が効果的だった

[単位:名(延べ)]

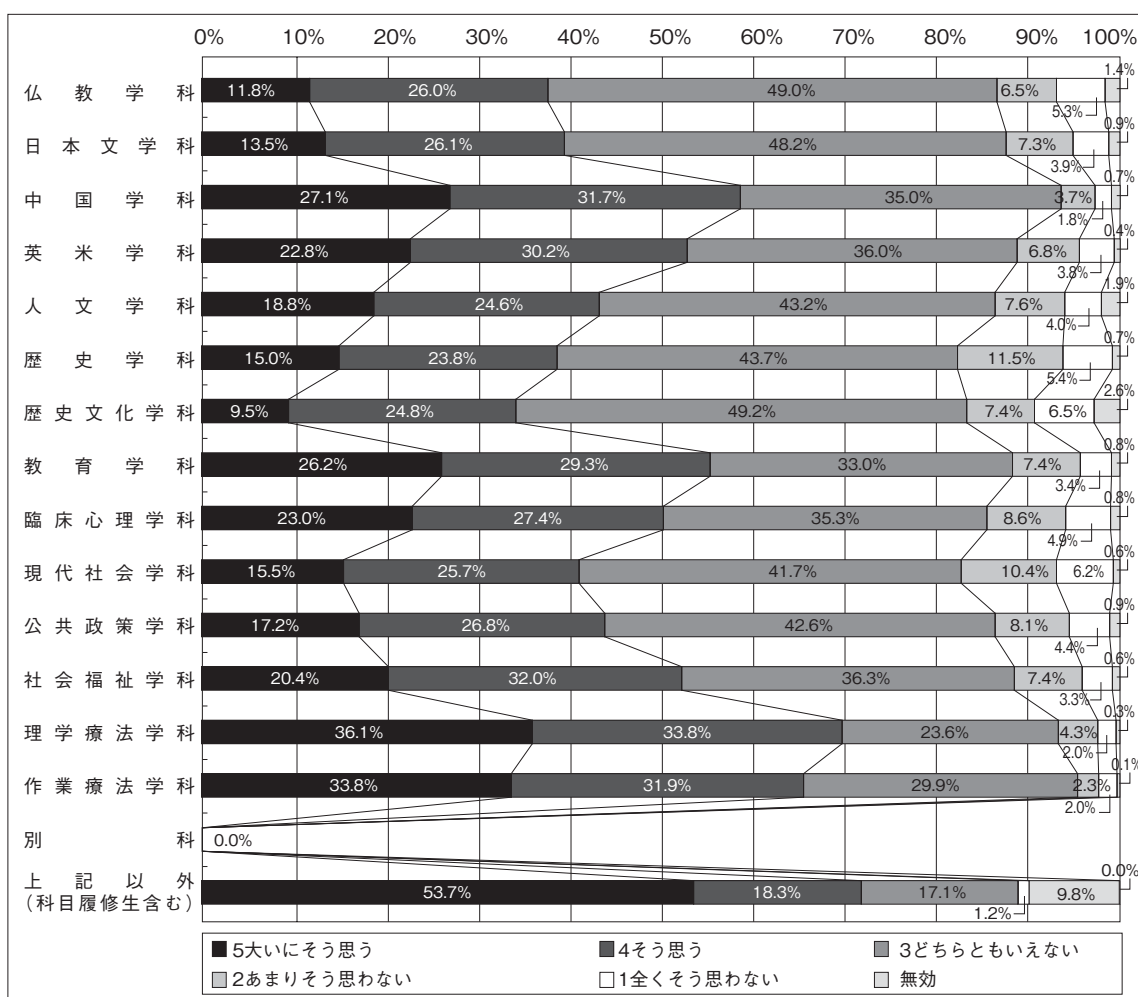
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	71	142	182	19	12	5	431
日 本 文 学 科	257	379	374	51	26	6	1,093
中 国 学 科	258	323	228	20	15	4	848
英 米 学 科	521	674	570	68	28	8	1,869
人 文 学 科	1,418	1,794	1,262	177	81	66	4,798
歴 史 学 科	308	448	386	75	22	7	1,246
歴史文化学科	132	270	231	36	17	7	693
教 育 学 科	919	1,214	984	159	63	26	3,365
臨床心理学科	449	569	406	65	36	17	1,542
現代社会学科	835	1,428	1,416	260	106	14	4,059
公共政策学科	592	851	772	94	44	27	2,380
社会福祉学科	1,471	2,381	1,746	229	113	28	5,968
理学療法学科	448	426	292	32	25	3	1,226
作業療法学科	290	374	234	18	11	3	930
別 科	0	0	0	0	0	0	0
上 記 以 外 (科目履修生含む)	54	17	9	0	0	2	82



Q2-(7) 学習形態（グループ学習・発表、フィールドワーク等）に工夫がみられた

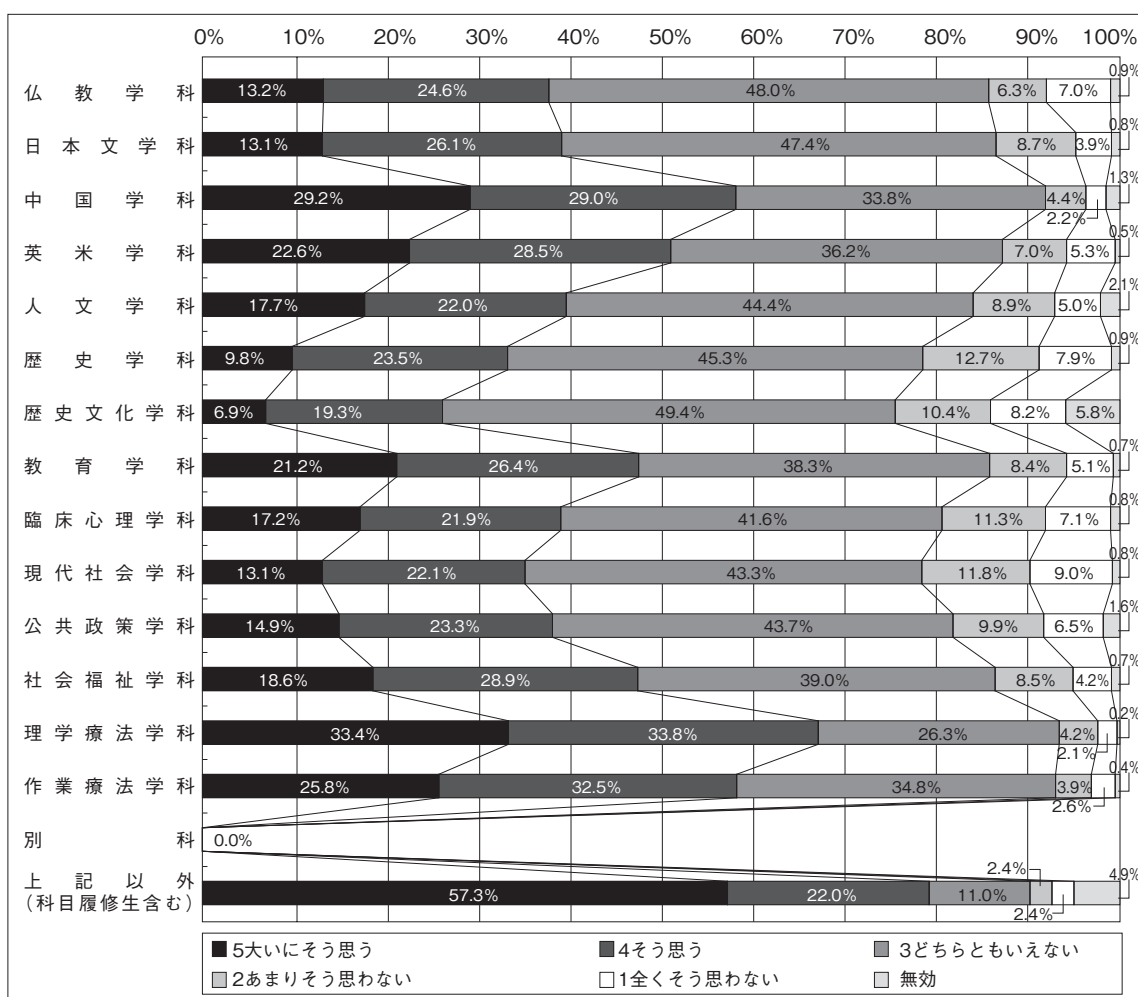
[単位：名（延べ）]

	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	51	112	211	28	23	6	431
日 本 文 学 科	148	285	527	80	43	10	1,093
中 国 学 科	230	269	297	31	15	6	848
英 米 学 科	427	564	672	127	71	8	1,869
人 文 学 科	900	1,179	2,073	363	190	93	4,798
歴 史 学 科	187	296	544	143	67	9	1,246
歴史文化学科	66	172	341	51	45	18	693
教 育 学 科	880	987	1,110	248	114	26	3,365
臨床心理学科	354	422	545	133	75	13	1,542
現代社会学科	628	1,043	1,691	421	253	23	4,059
公共政策学科	410	638	1,014	192	105	21	2,380
社会福祉学科	1,216	1,911	2,167	440	199	35	5,968
理学療法学科	442	414	289	53	24	4	1,226
作業療法学科	314	297	278	21	19	1	930
別 科	0	0	0	0	0	0	0
上 記 以 外 (科目履修生含む)	44	15	14	0	1	8	82



Q2-(8) 教員や学生同士のコミュニケーション (e-learning “縁 (えにし)” 含む) に工夫がみられた [単位: 名 (延べ)]

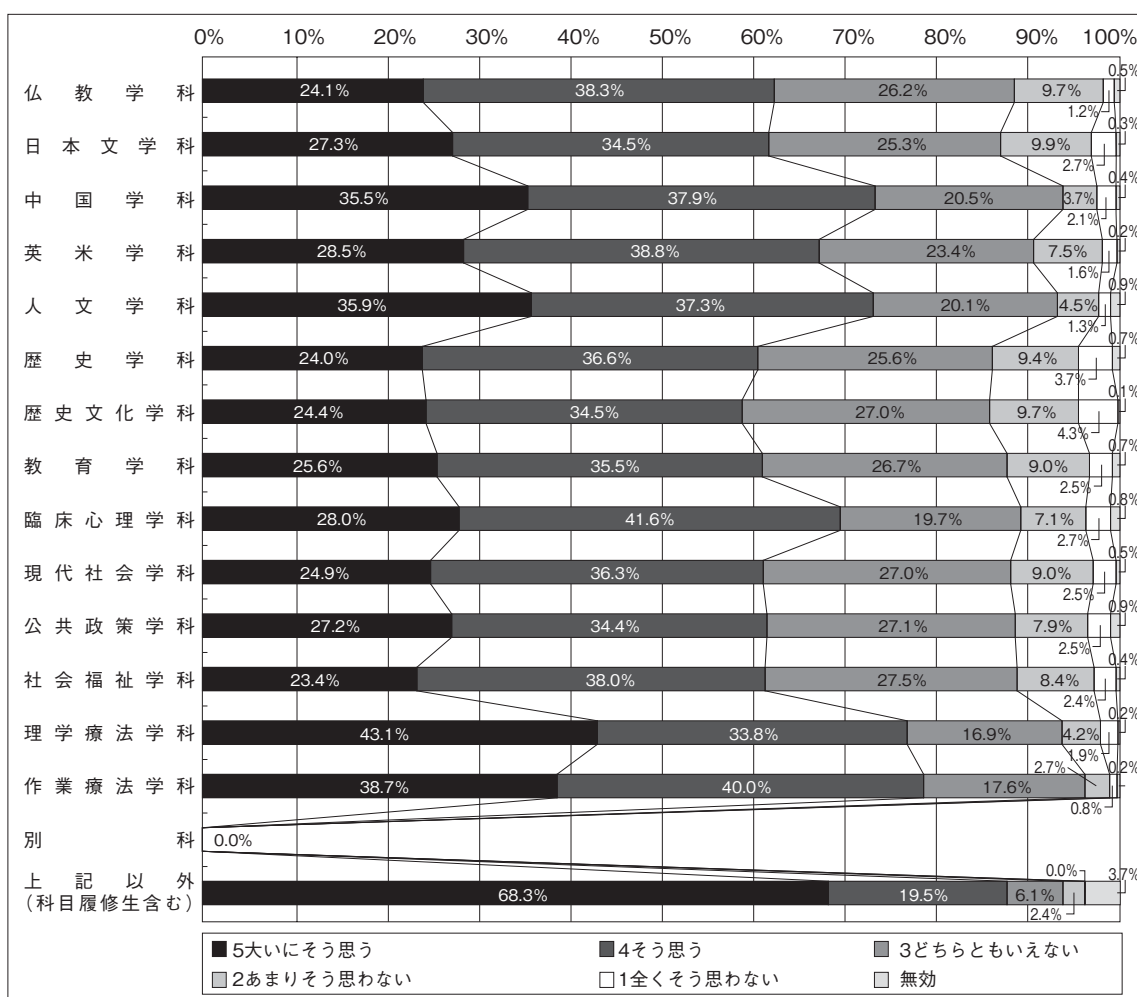
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	57	106	207	27	30	4	431
日 本 文 学 科	143	285	518	95	43	9	1,093
中 国 学 科	248	246	287	37	19	11	848
英 米 学 科	422	532	676	130	99	10	1,869
人 文 学 科	848	1,055	2,129	425	242	99	4,798
歴 史 学 科	122	293	564	158	98	11	1,246
歴史文化学科	48	134	342	72	57	40	693
教 育 学 科	712	887	1,290	282	171	23	3,365
臨床心理学科	265	337	642	175	110	13	1,542
現代社会学科	532	896	1,758	478	364	31	4,059
公共政策学科	355	555	1,041	236	154	39	2,380
社会福祉学科	1,113	1,726	2,327	509	250	43	5,968
理学療法学科	409	415	322	52	26	2	1,226
作業療法学科	240	302	324	36	24	4	930
別 科	0	0	0	0	0	0	0
上 記 以 外 (科目履修生含む)	47	18	9	2	2	4	82



Q2-(9) 授業は十分な静肅性が保たれていた

[単位：名(延べ)]

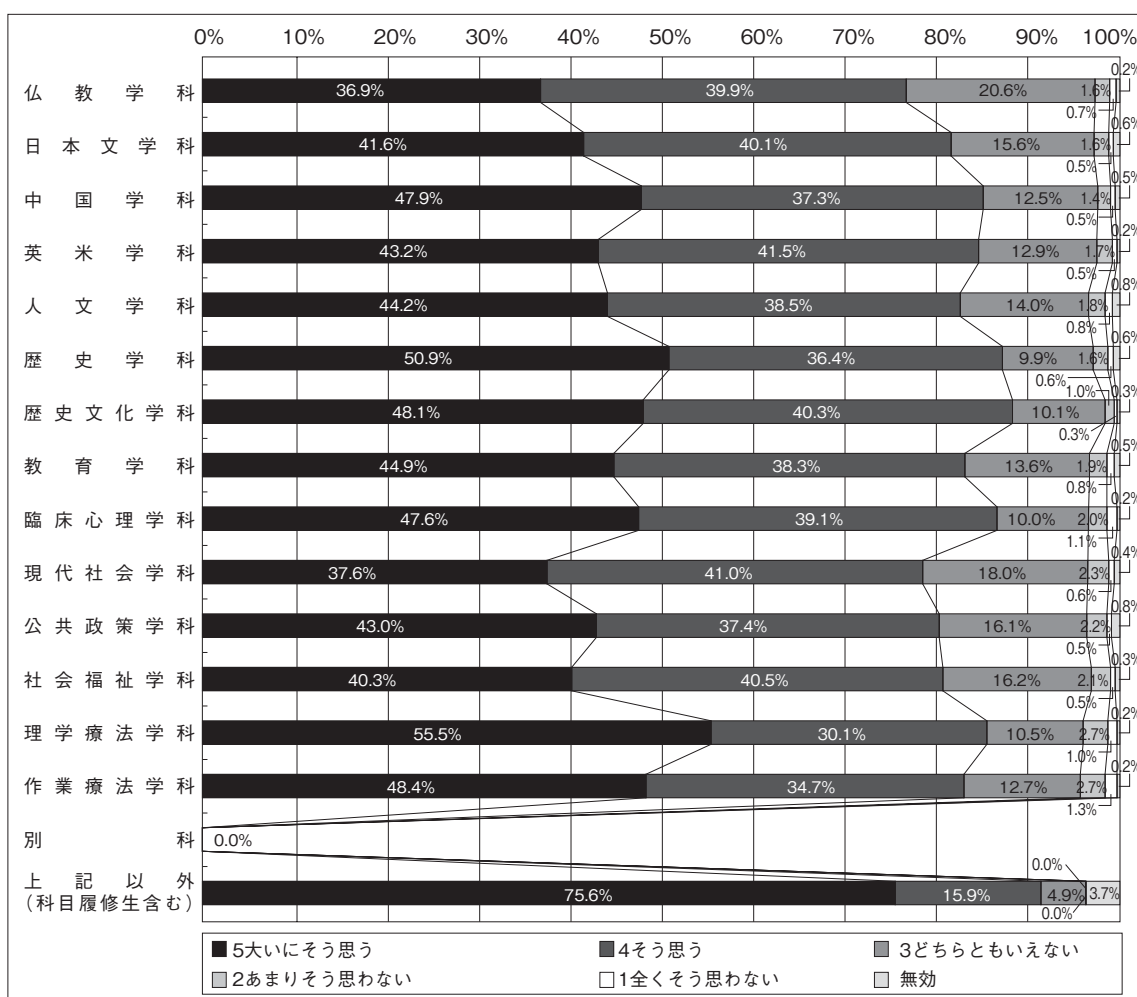
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	104	165	113	42	5	2	431
日 本 文 学 科	298	377	277	108	30	3	1,093
中 国 学 科	301	321	174	31	18	3	848
英 米 学 科	532	726	438	140	29	4	1,869
人 文 学 科	1,723	1,790	962	217	61	45	4,798
歴 史 学 科	299	456	319	117	46	9	1,246
歴史文化学科	169	239	187	67	30	1	693
教 育 学 科	861	1,196	897	303	85	23	3,365
臨床心理学科	432	641	304	110	42	13	1,542
現代社会学科	1,009	1,472	1,095	364	100	19	4,059
公共政策学科	648	819	645	187	60	21	2,380
社会福祉学科	1,396	2,266	1,639	502	141	24	5,968
理学療法学科	528	415	207	51	23	2	1,226
作業療法学科	360	372	164	25	7	2	930
別 科	0	0	0	0	0	0	0
上 記 以 外 (科目履修生含む)	56	16	5	2	0	3	82



Q2-(10) 授業時間が守られていた

[単位：名(延べ)]

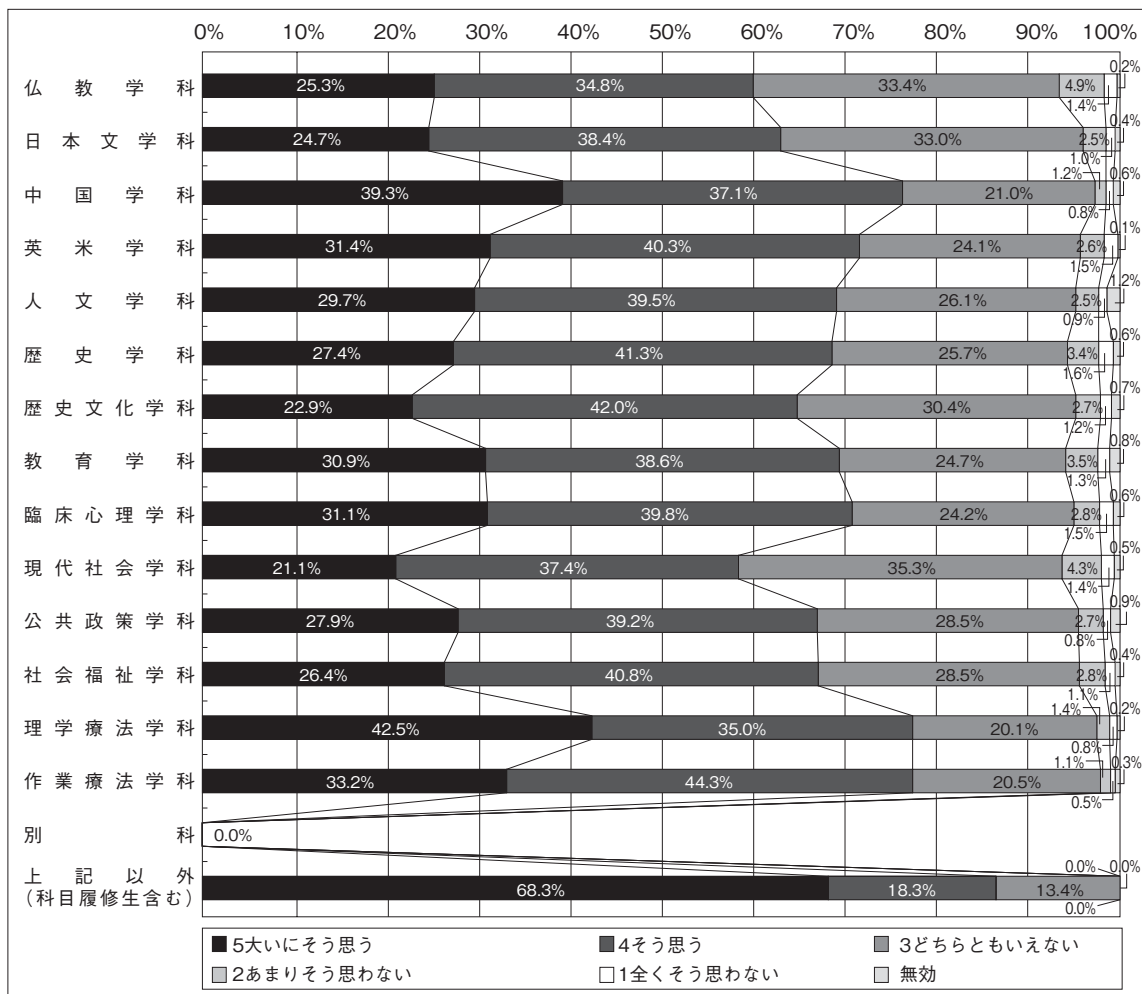
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	159	172	89	7	3	1	431
日 本 文 学 科	455	438	171	17	5	7	1,093
中 国 学 科	406	316	106	12	4	4	848
英 米 学 科	807	775	242	31	10	4	1,869
人 文 学 科	2,121	1,845	670	87	37	38	4,798
歴 史 学 科	634	453	123	20	8	8	1,246
歴史文化学科	333	279	70	7	2	2	693
教 育 学 科	1,512	1,289	456	63	27	18	3,365
臨床心理学科	734	603	154	31	17	3	1,542
現代社会学科	1,526	1,666	732	94	23	18	4,059
公共政策学科	1,024	889	384	52	11	20	2,380
社会福祉学科	2,407	2,420	968	125	30	18	5,968
理学療法学科	681	369	129	33	12	2	1,226
作業療法学科	450	323	118	25	12	2	930
別 科	0	0	0	0	0	0	0
上 記 以 外 (科目履修生含む)	62	13	4	0	0	3	82



Q2-(11) 授業に関する受講生の意見への対応が十分になされていた

[単位：名(延べ)]

	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	109	150	144	21	6	1	431
日 本 文 学 科	270	420	361	27	11	4	1,093
中 国 学 科	333	315	178	10	7	5	848
英 米 学 科	586	754	450	49	28	2	1,869
人 文 学 科	1,427	1,896	1,253	121	43	58	4,798
歴 史 学 科	341	515	320	42	20	8	1,246
歴史文化学科	159	291	211	19	8	5	693
教 育 学 科	1,041	1,300	832	119	45	28	3,365
臨床心理学科	480	613	373	43	23	10	1,542
現代社会学科	858	1,518	1,434	175	55	19	4,059
公共政策学科	664	933	678	64	19	22	2,380
社会福祉学科	1,574	2,437	1,700	167	64	26	5,968
理学療法学科	521	429	247	17	10	2	1,226
作業療法学科	309	412	191	10	5	3	930
別 科	0	0	0	0	0	0	0
上 記 以 外 (科目履修生含む)	56	15	11	0	0	0	82

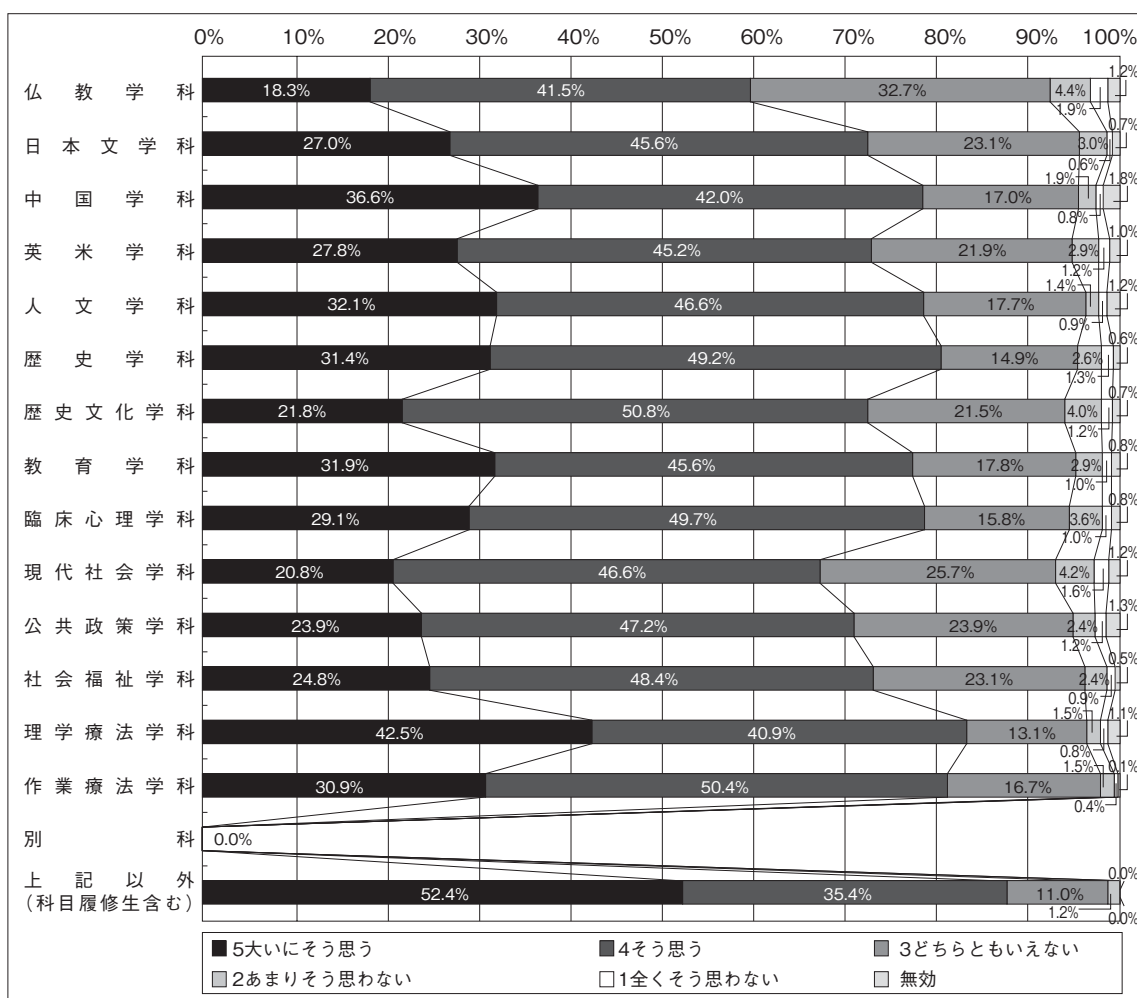


3. この授業からあなたが得たものについて

Q3-(1) 授業で扱った分野に関する専門知識・技術が身についた

[単位：名(延べ)]

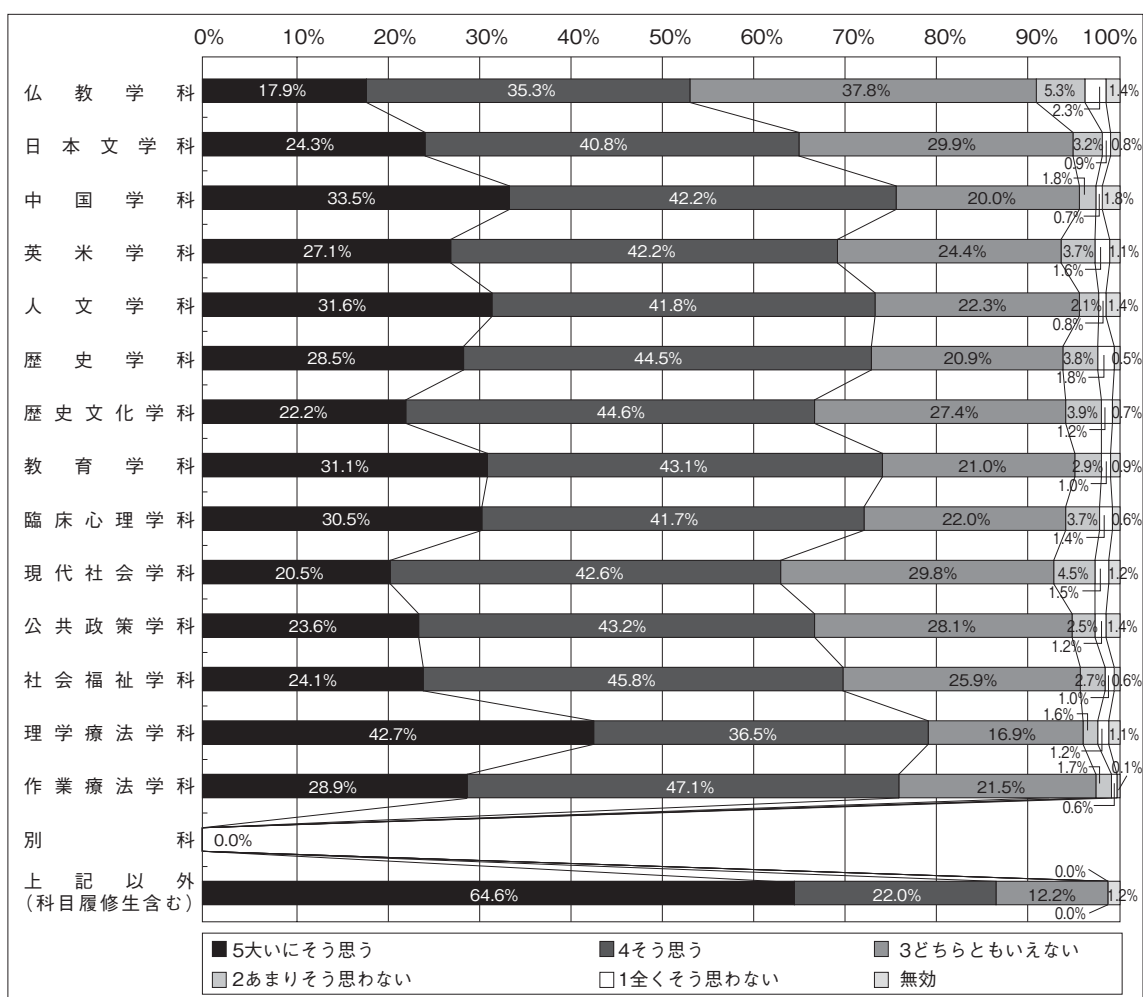
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	79	179	141	19	8	5	431
日 本 文 学 科	295	498	252	33	7	8	1,093
中 国 学 科	310	356	144	16	7	15	848
英 米 学 科	520	845	410	54	22	18	1,869
人 文 学 科	1,541	2,238	851	69	41	58	4,798
歴 史 学 科	391	613	186	33	16	7	1,246
歴史文化学科	151	352	149	28	8	5	693
教 育 学 科	1,073	1,535	599	98	34	26	3,365
臨床心理学科	448	766	244	55	16	13	1,542
現代社会学科	843	1,890	1,045	169	65	47	4,059
公共政策学科	570	1,124	569	56	29	32	2,380
社会福祉学科	1,481	2,886	1,377	141	51	32	5,968
理学療法学科	521	502	161	19	10	13	1,226
作業療法学科	287	469	155	14	4	1	930
別 科	0	0	0	0	0	0	0
上記以外 (科目履修生含む)	43	29	9	1	0	0	82



Q3-(2) 自分にとって有益な考え方・発想が身についた

[単位：名(延べ)]

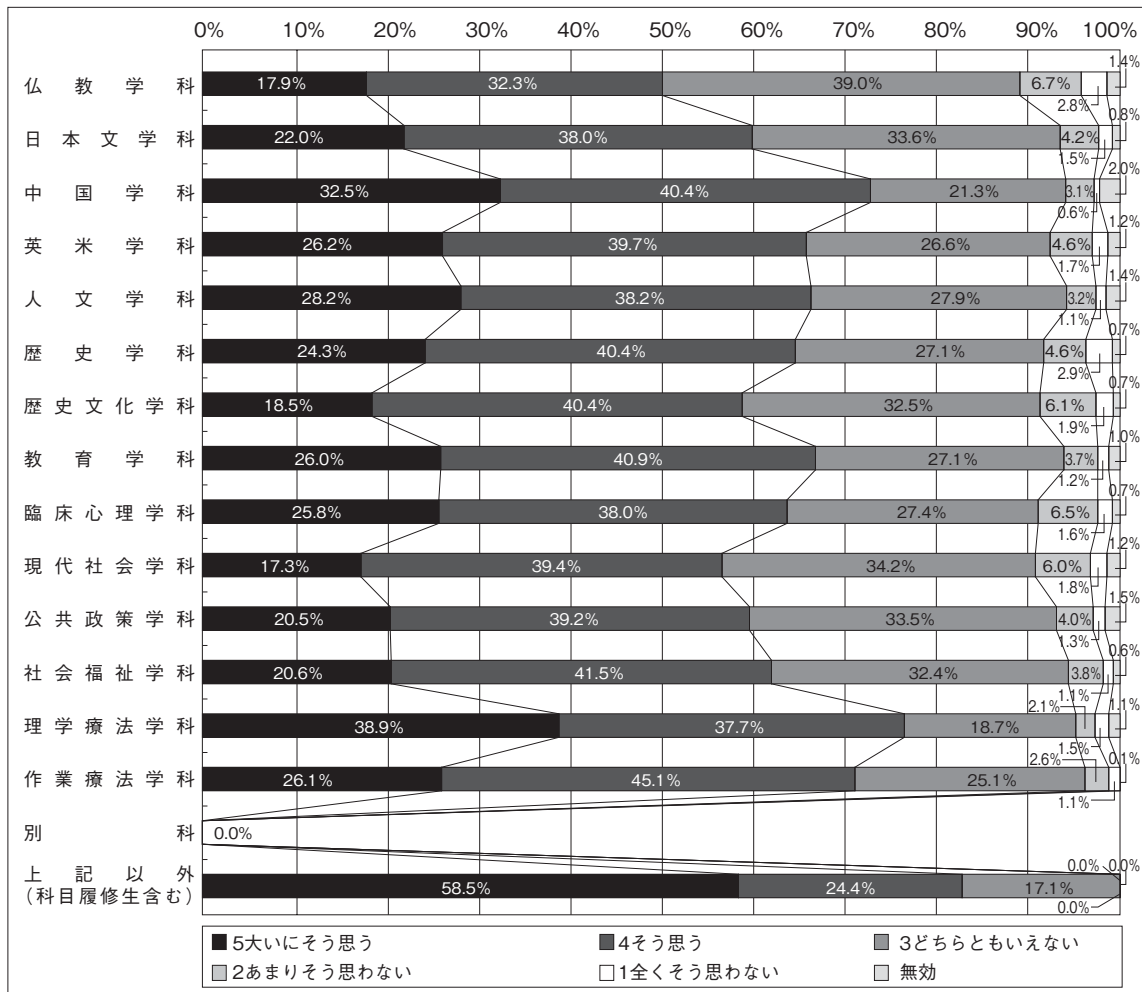
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	77	152	163	23	10	6	431
日 本 文 学 科	266	446	327	35	10	9	1,093
中 国 学 科	284	358	170	15	6	15	848
英 米 学 科	506	788	456	69	30	20	1,869
人 文 学 科	1,514	2,007	1,072	101	37	67	4,798
歴 史 学 科	355	555	261	47	22	6	1,246
歴史文化学科	154	309	190	27	8	5	693
教 育 学 科	1,047	1,451	706	98	33	30	3,365
臨床心理学科	471	643	339	57	22	10	1,542
現代社会学科	832	1,729	1,208	181	61	48	4,059
公共政策学科	562	1,029	668	59	28	34	2,380
社会福祉学科	1,437	2,733	1,545	159	59	35	5,968
理学療法学科	523	448	207	20	15	13	1,226
作業療法学科	269	438	200	16	6	1	930
別 科	0	0	0	0	0	0	0
上 記 以 外 (科目履修生含む)	53	18	10	0	0	1	82



Q3-(3) 自分で調べ、考える姿勢をもてた

[単位：名(延べ)]

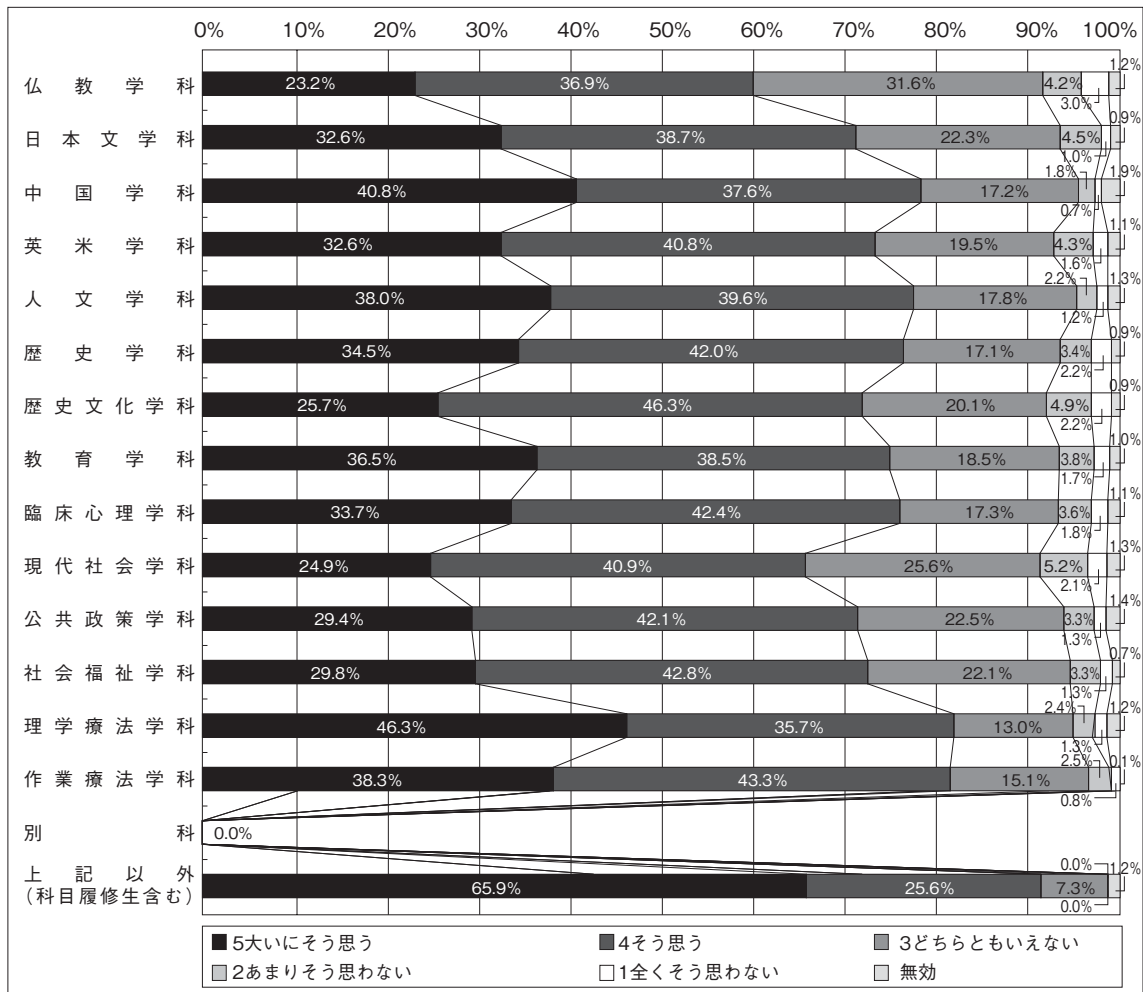
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	77	139	168	29	12	6	431
日 本 文 学 科	240	415	367	46	16	9	1,093
中 国 学 科	276	343	181	26	5	17	848
英 米 学 科	489	742	498	86	32	22	1,869
人 文 学 科	1,355	1,835	1,337	152	53	66	4,798
歴 史 学 科	303	503	338	57	36	9	1,246
歴史文化学科	128	280	225	42	13	5	693
教 育 学 科	875	1,377	911	126	42	34	3,365
臨床心理学科	398	586	422	100	25	11	1,542
現代社会学科	701	1,601	1,388	245	75	49	4,059
公共政策学科	489	934	797	95	30	35	2,380
社会福祉学科	1,229	2,475	1,933	228	66	37	5,968
理学療法学科	477	462	229	26	18	14	1,226
作業療法学科	243	419	233	24	10	1	930
別 科	0	0	0	0	0	0	0
上 記 以 外 (科目履修生含む)	48	20	14	0	0	0	82



Q3-(4) 総合的にみてこの授業に満足をした

[単位：名(延べ)]

	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
仏 教 学 科	100	159	136	18	13	5	431
日 本 文 学 科	356	423	244	49	11	10	1,093
中 国 学 科	346	319	146	15	6	16	848
英 米 学 科	610	762	365	81	30	21	1,869
人 文 学 科	1,821	1,902	854	105	56	60	4,798
歴 史 学 科	430	523	213	42	27	11	1,246
歴史文化学科	178	321	139	34	15	6	693
教 育 学 科	1,228	1,297	623	127	58	32	3,365
臨床心理学科	520	654	267	56	28	17	1,542
現代社会学科	1,011	1,659	1,040	210	86	53	4,059
公共政策学科	700	1,001	536	79	30	34	2,380
社会福祉学科	1,778	2,552	1,321	195	78	44	5,968
理学療法学科	568	438	159	30	16	15	1,226
作業療法学科	356	403	140	23	7	1	930
別 科	0	0	0	0	0	0	0
上 記 以 外 (科目履修生含む)	54	21	6	0	0	1	82



2010 年度 秋学期 授業アンケート 開講科目種別集計

科目種別は以下の3分割で分類しています。

共通科目：全学共通科目の仏教・自校教育・リテラシー・キャリア・スポーツ・総合

外国語科目：全学共通科目の外国語科目

専門基礎科目：専門基礎科目

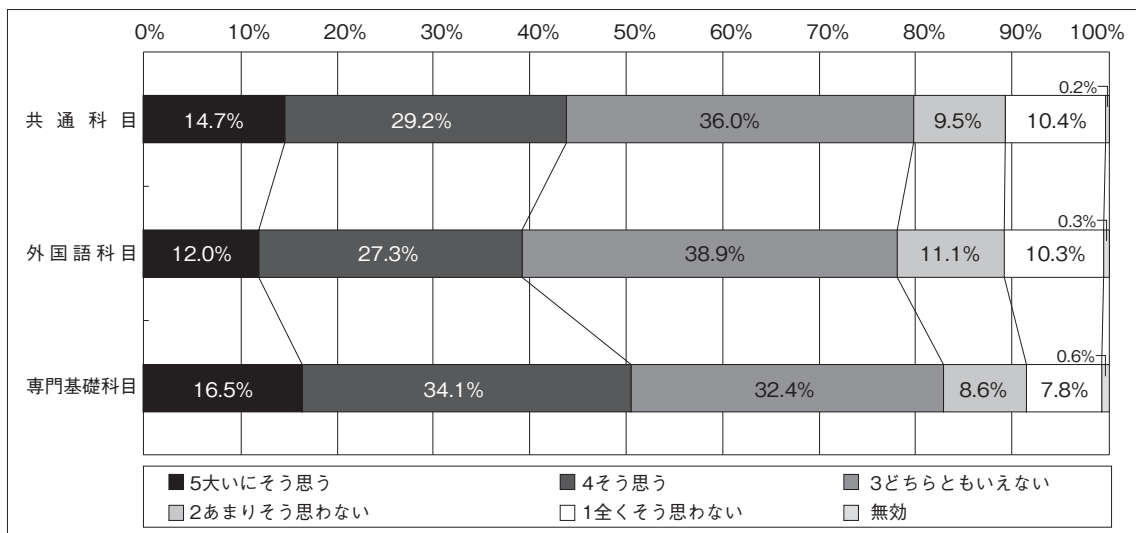
※学部基幹科目・学科基礎科目・コース科目・発展科目は学部集計で集計しています。

1. あなた自身の取り組みについて

Q1-(1) シラバスを読んで受講に備えた

[単位：名(延べ)]

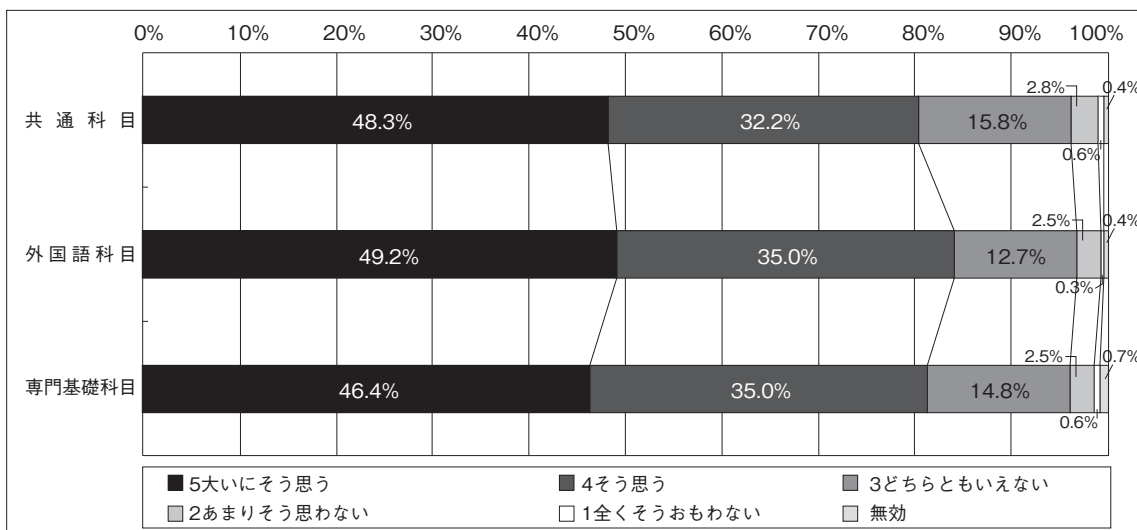
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
共通科目	362	719	887	234	255	6	2,463
外国語科目	533	1,210	1,725	494	455	14	4,431
専門基礎科目	557	1,152	1,097	292	264	20	3,382



Q1 - (2) これまでの授業の出席率

[単位：名 (延べ)]

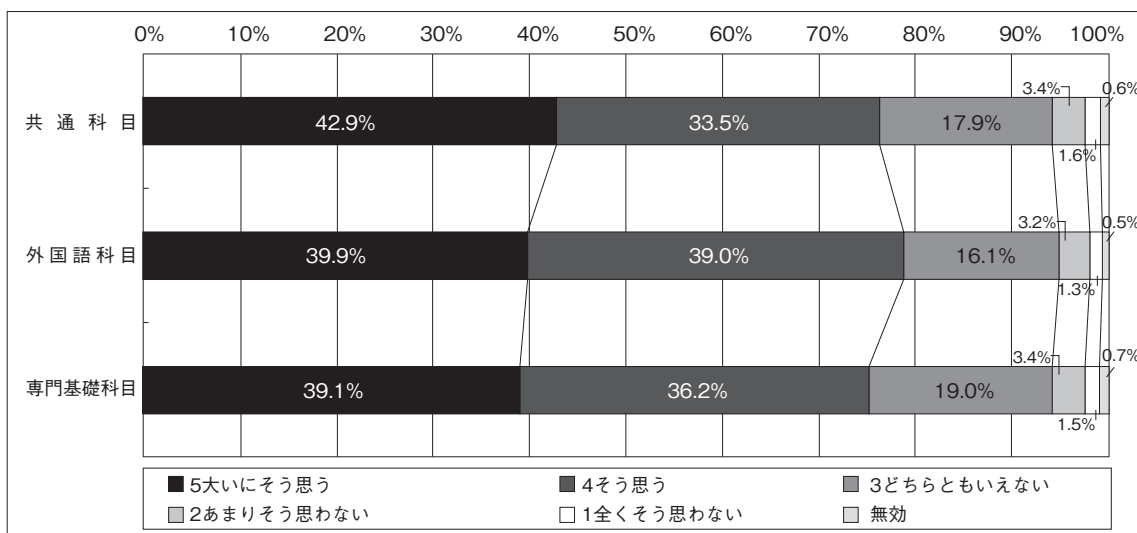
	5 90% 以上	4 70 ~ 89%	3 50 ~ 69%	2 30 ~ 49%	1 30% 未満	無効	合計
共通科目	1,190	793	388	69	14	9	2,463
外国語科目	2,178	1,549	563	109	15	17	4,431
専門基礎科目	1,570	1,183	500	86	21	22	3,382



Q1 - (3) 授業を妨げる行為 (私語・携帯の使用・遅刻・途中退出等) をしなかった

[単位：名 (延べ)]

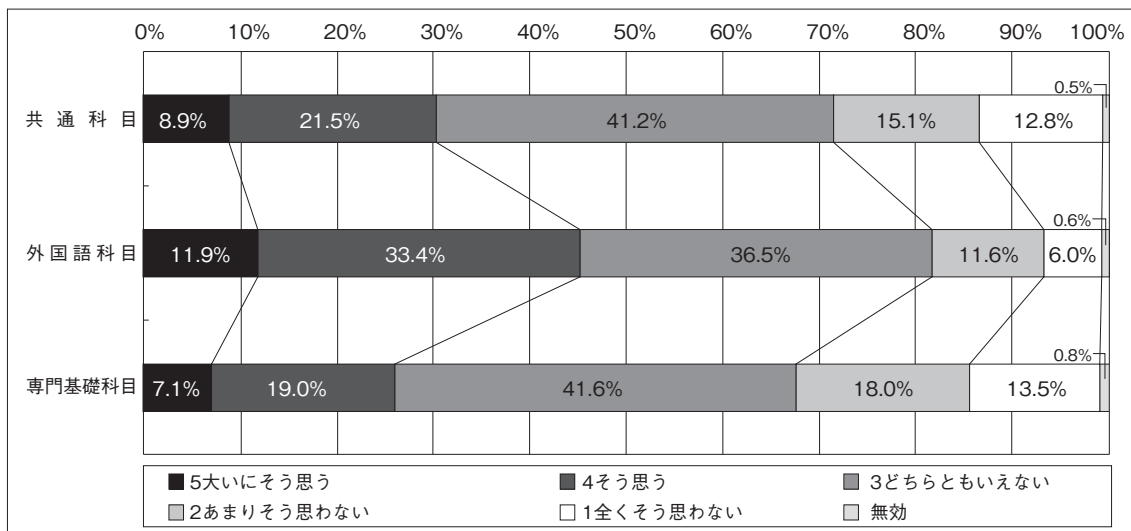
	5大いにそう思う	4そう思う	3どちらともいえない	2あまりそう思わない	1全くそう思わない	無効	合計
共通科目	1,057	826	441	84	40	15	2,463
外国語科目	1,769	1,729	715	140	56	22	4,431
専門基礎科目	1,323	1,223	644	116	51	25	3,382



Q1-(4) 1回の授業につき予習・復習をした

[単位：名(延べ)]

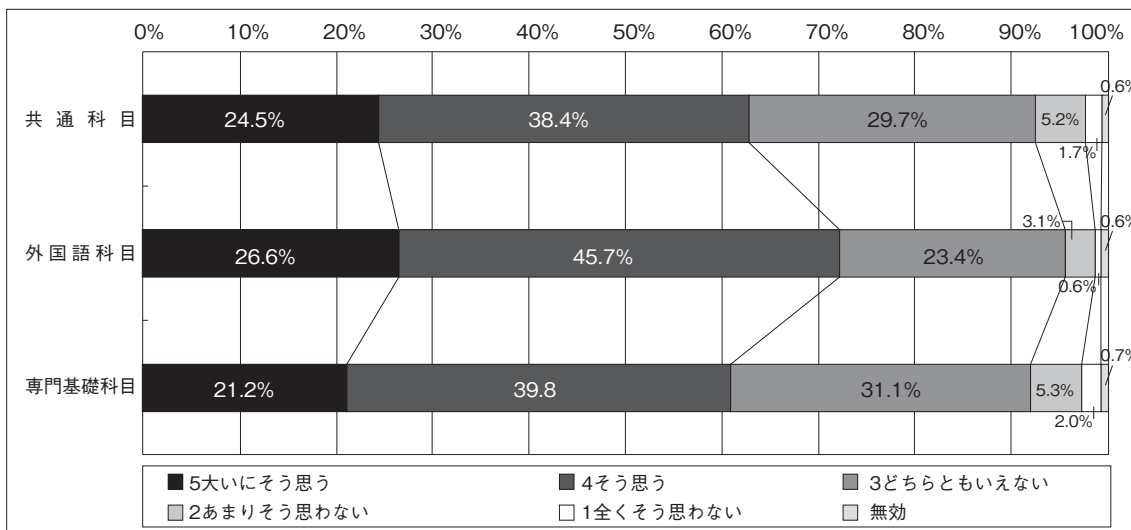
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
共通科目	219	529	1,015	372	315	13	2,463
外国語科目	529	1,482	1,618	512	265	25	4,431
専門基礎科目	239	641	1,407	610	458	27	3,382



Q1-(5) 熱心に授業に取り組んだ

[単位：名(延べ)]

	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
共通科目	603	945	731	127	41	16	2,463
外国語科目	1,178	2,023	1,039	139	27	25	4,431
専門基礎科目	717	1,345	1,051	178	66	25	3,382

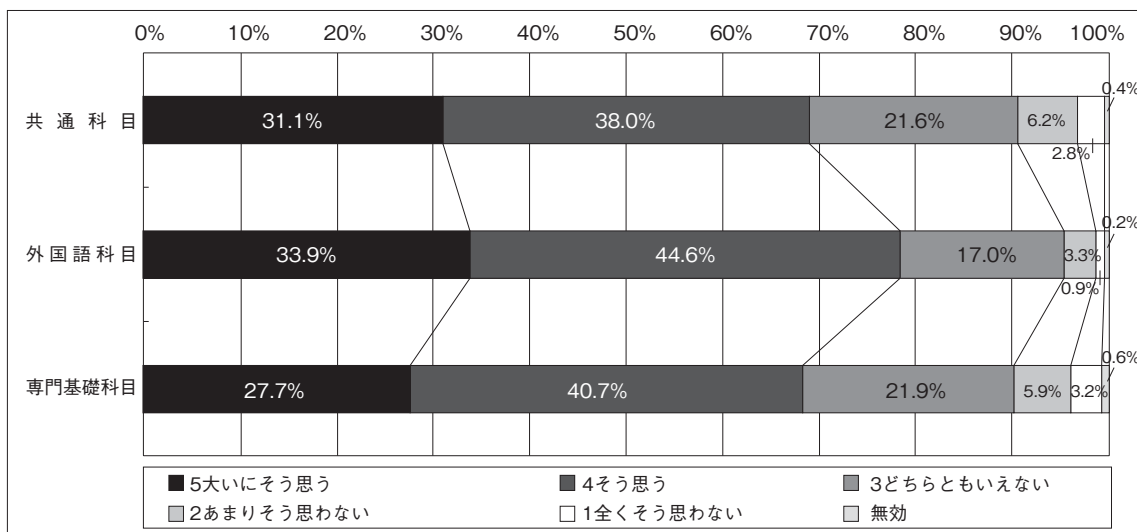


2. この授業の運営について

Q2-(1) わかりやすい授業であった

[単位：名(延べ)]

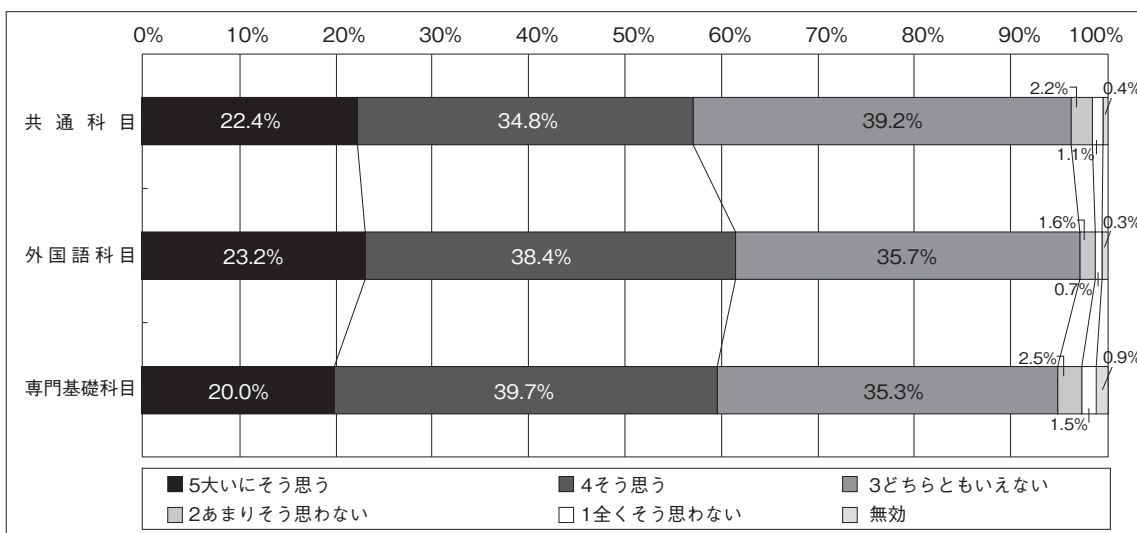
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
共通科目	766	935	532	153	68	9	2,463
外国語科目	1,501	1,977	754	148	40	11	4,431
専門基礎科目	938	1,375	741	200	108	20	3,382



Q2-(2) 授業はシラバス通りに進行していた

[単位：名(延べ)]

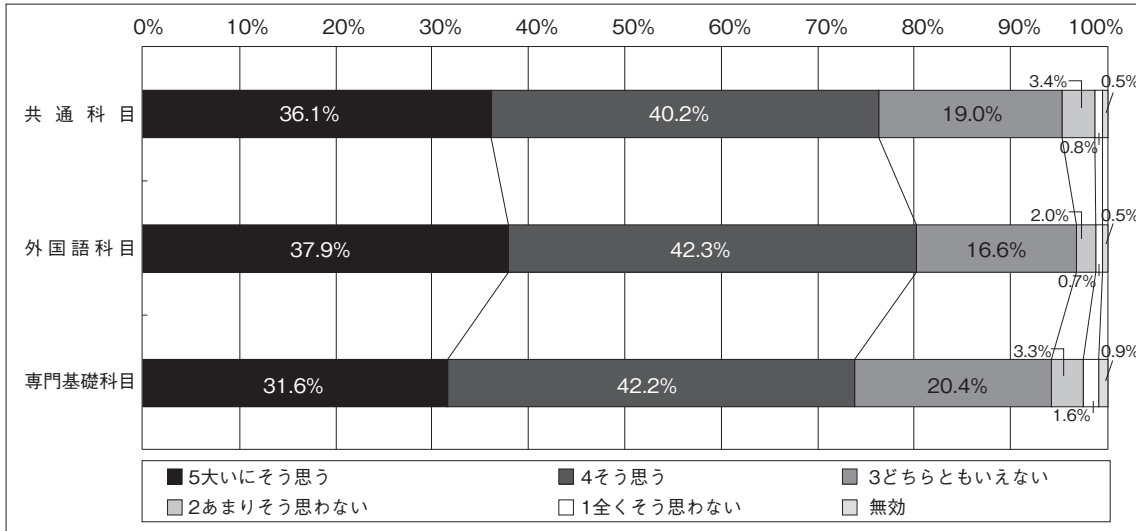
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
共通科目	552	857	965	53	26	10	2,463
外国語科目	1,029	1,702	1,582	72	32	14	4,431
専門基礎科目	678	1,342	1,193	86	51	32	3,382



Q2-(3) 教員の熱意が伝わってきた

[単位：名(延べ)]

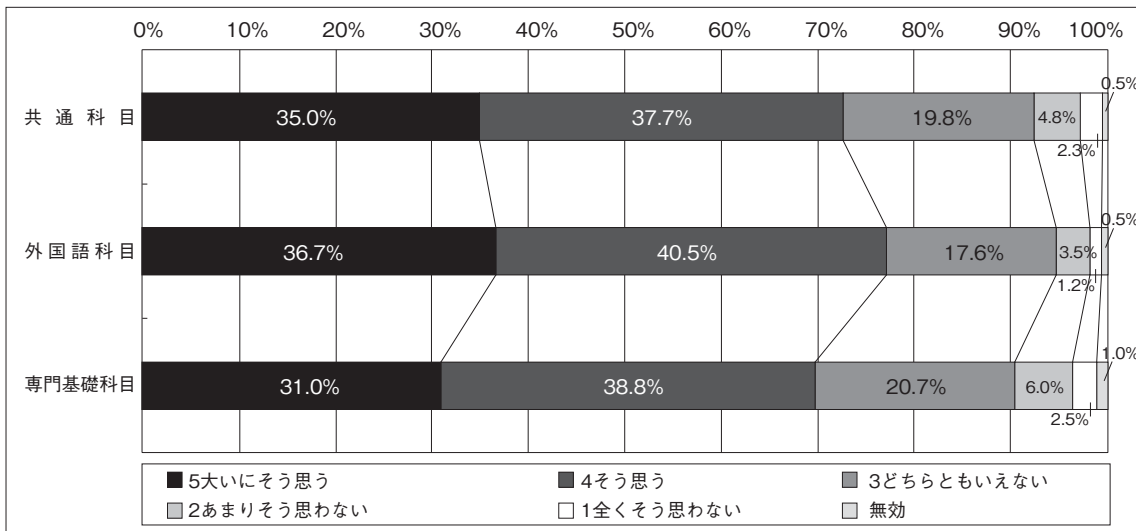
	5大いに思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう 思わない	1 全く そう 思わない	無効	合計
共通科目	890	989	468	83	20	13	2,463
外国語科目	1,678	1,875	736	90	32	20	4,431
専門基礎科目	1,069	1,428	689	111	53	32	3,382



Q2-(4) 聴きやすい話し方だった

[単位：名(延べ)]

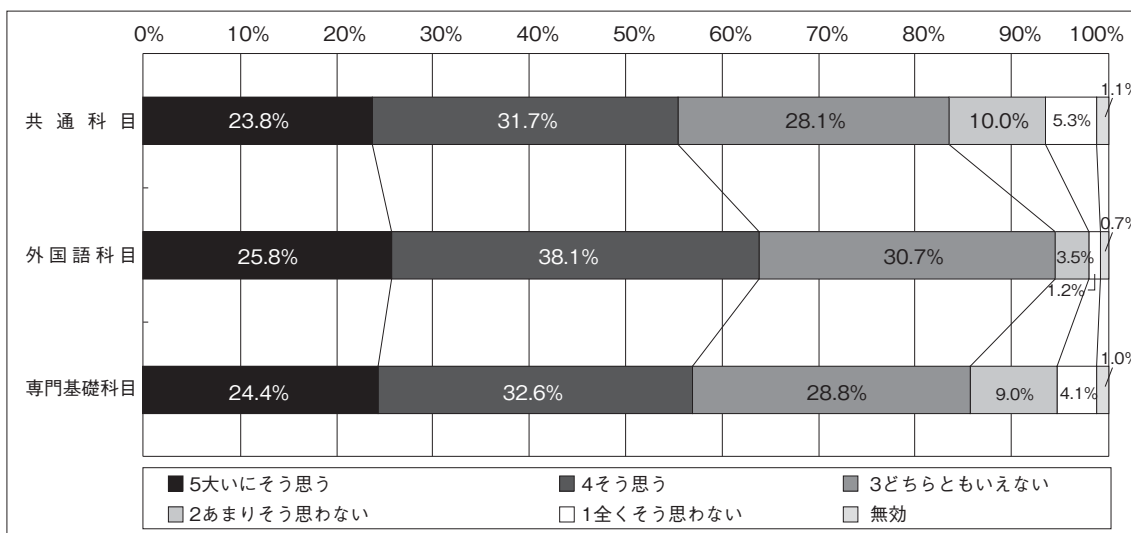
	5大いに思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう 思わない	1 全く そう 思わない	無効	合計
共通科目	861	928	488	118	56	12	2,463
外国語科目	1,625	1,796	782	156	52	20	4,431
専門基礎科目	1,049	1,311	700	203	86	33	3,382



Q2-(5) 板書（OHP、パワーポイント含む）は見やすかった

[単位：名（延べ）]

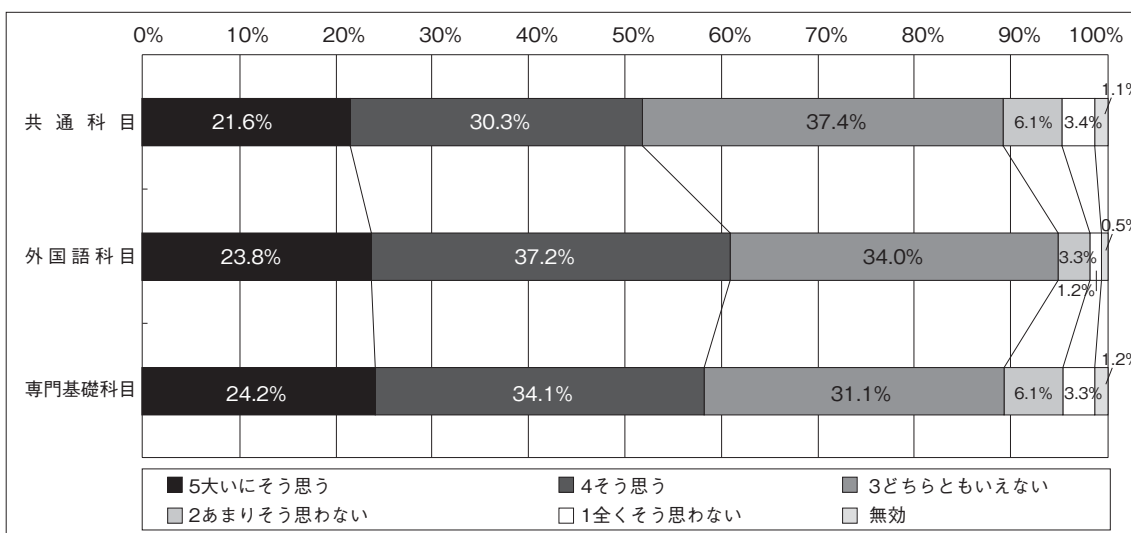
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
共通科目	587	780	693	247	130	26	2,463
外国語科目	1,143	1,686	1,360	156	55	31	4,431
専門基礎科目	826	1,102	975	306	138	35	3,382



Q2-(6) 印刷教材（レジュメ・補助教材等）、視聴覚教材等が効果的だった

[単位：名（延べ）]

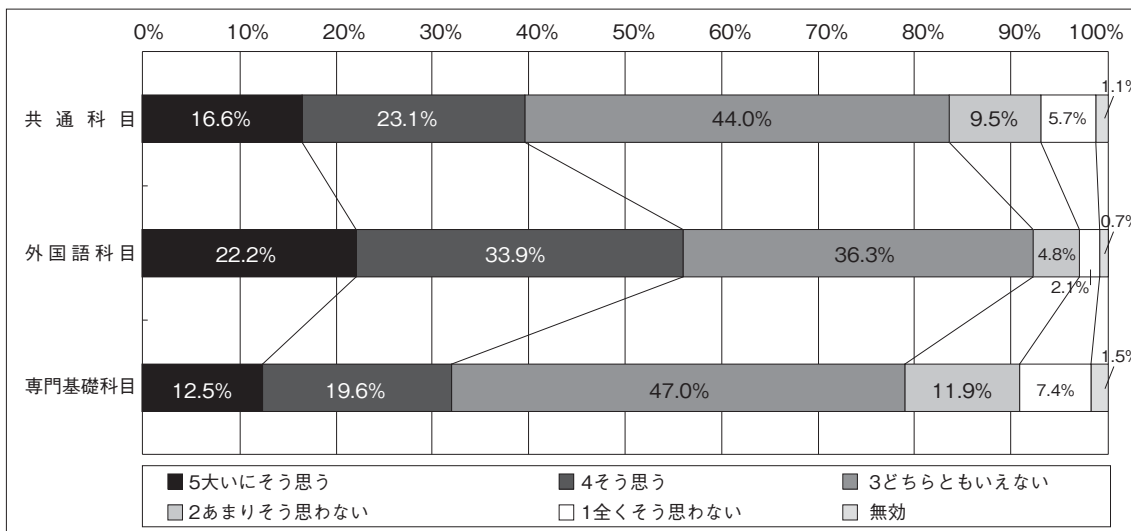
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
共通科目	532	747	922	151	84	27	2,463
外国語科目	1,055	1,649	1,505	148	54	20	4,431
専門基礎科目	820	1,152	1,053	207	110	40	3,382



Q2-(7) 学習形態（グループ学習・発表、フィールドワーク等）に工夫がみられた

[単位：名（延べ）]

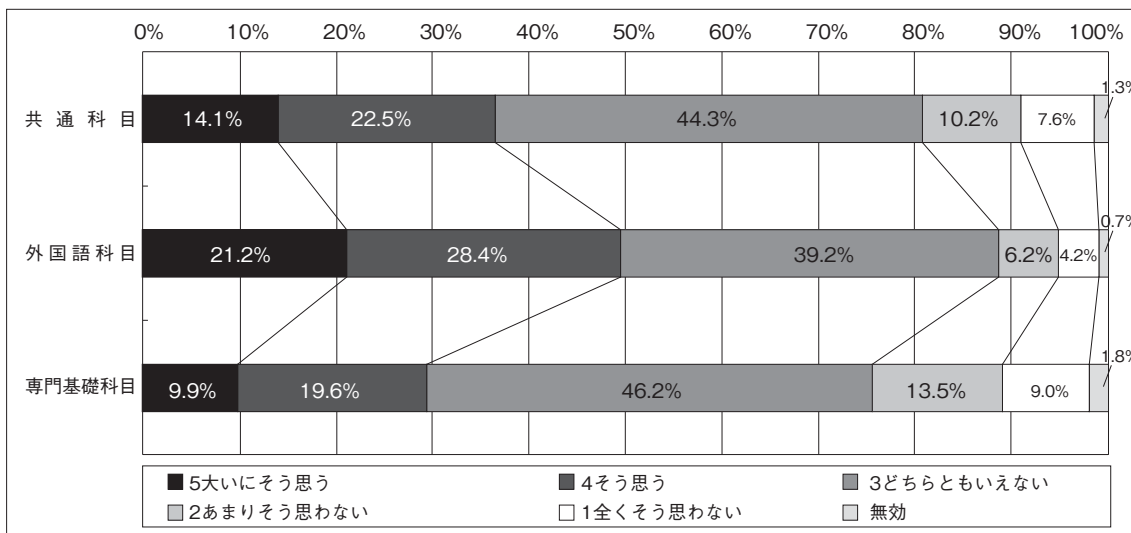
	5大いに思う	4 思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう 思わない	1 全く そう 思わない	無効	合計
共通科目	409	568	1,083	234	141	28	2,463
外国語科目	982	1,502	1,610	213	95	29	4,431
専門基礎科目	424	664	1,590	402	250	52	3,382



Q2-(8) 教員や学生同士のコミュニケーション（e-learning “縁（えにし）”含む）に工夫がみられた

[単位：名（延べ）]

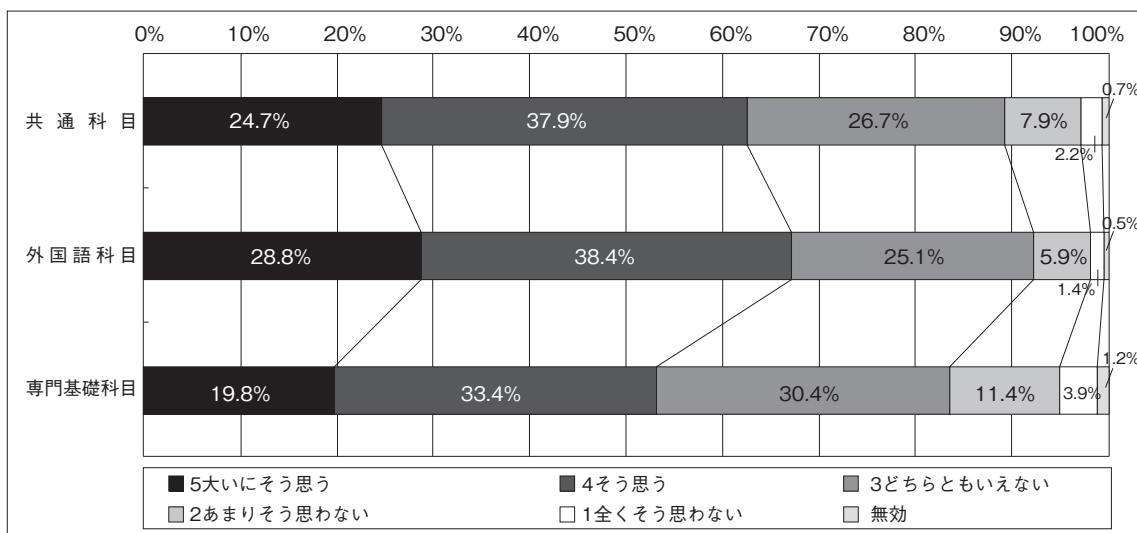
	5大いに思う	4 思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう 思わない	1 全く そう 思わない	無効	合計
共通科目	348	554	1,091	250	187	33	2,463
外国語科目	940	1,259	1,739	275	185	33	4,431
専門基礎科目	336	662	1,562	455	305	62	3,382



Q2-(9) 授業は十分な静肅性が保たれていた

[単位：名(延べ)]

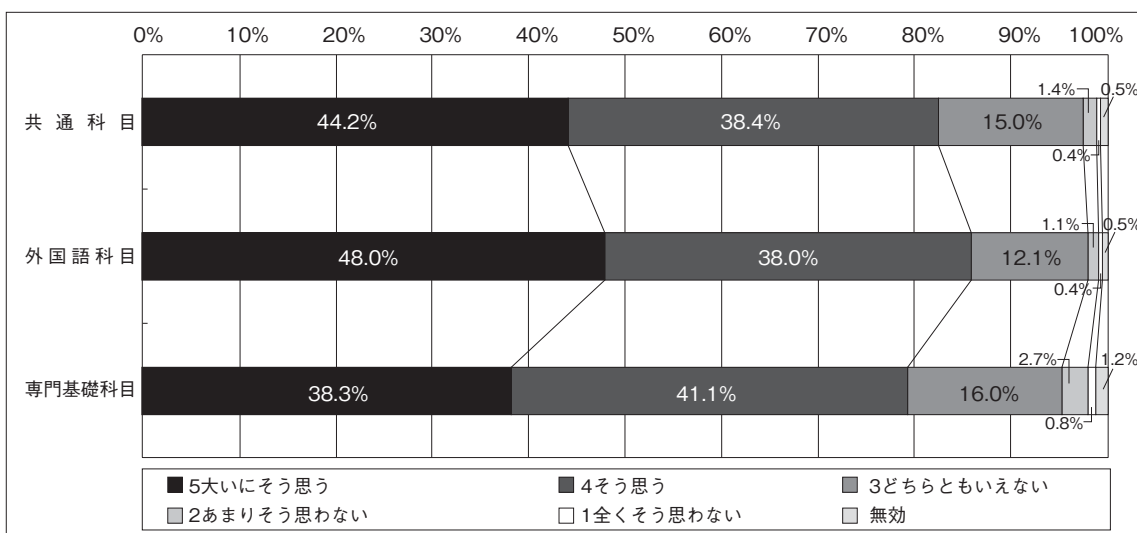
	5大いに思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
共通科目	609	933	657	194	53	17	2,463
外国語科目	1,274	1,702	1,112	263	60	20	4,431
専門基礎科目	668	1,129	1,028	386	131	40	3,382



Q2-(10) 授業時間が守られていた

[単位：名(延べ)]

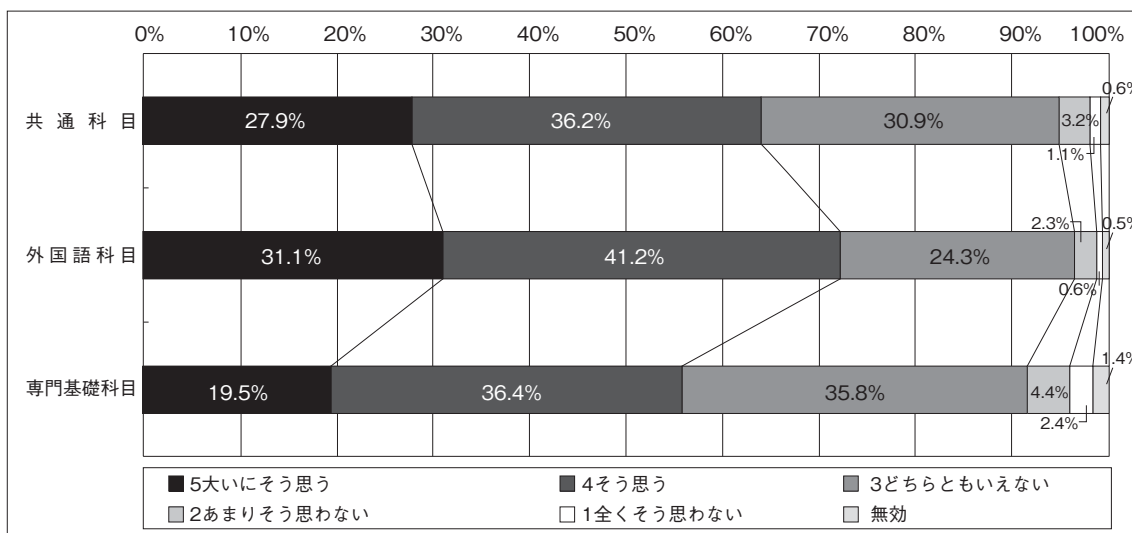
	5大いに思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
共通科目	1,089	946	370	35	10	13	2,463
外国語科目	2,128	1,682	535	48	16	22	4,431
専門基礎科目	1,294	1,391	540	90	27	40	3,382



Q2-(11) 授業に関する受講生の意見への対応が十分になされていた

[単位：名(延べ)]

	5大いに思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
共通科目	688	892	761	78	28	16	2,463
外国語科目	1,376	1,825	1,077	102	27	24	4,431
専門基礎科目	661	1,230	1,211	150	81	49	3,382

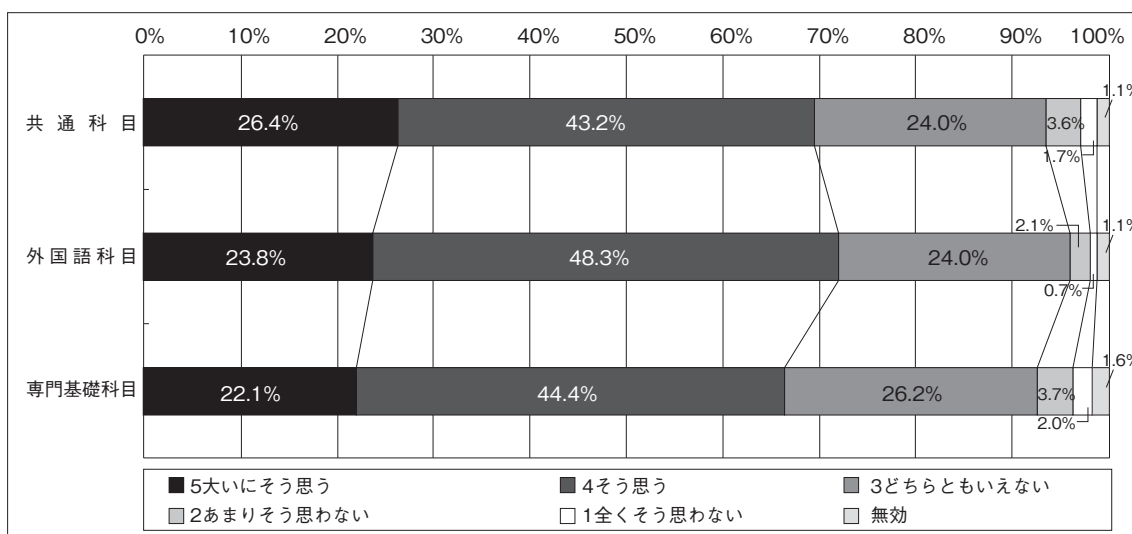


3. この授業からあなたが得たものについて

Q3-(1) 授業で扱った分野に関する専門知識・技術が身についた

[単位：名(延べ)]

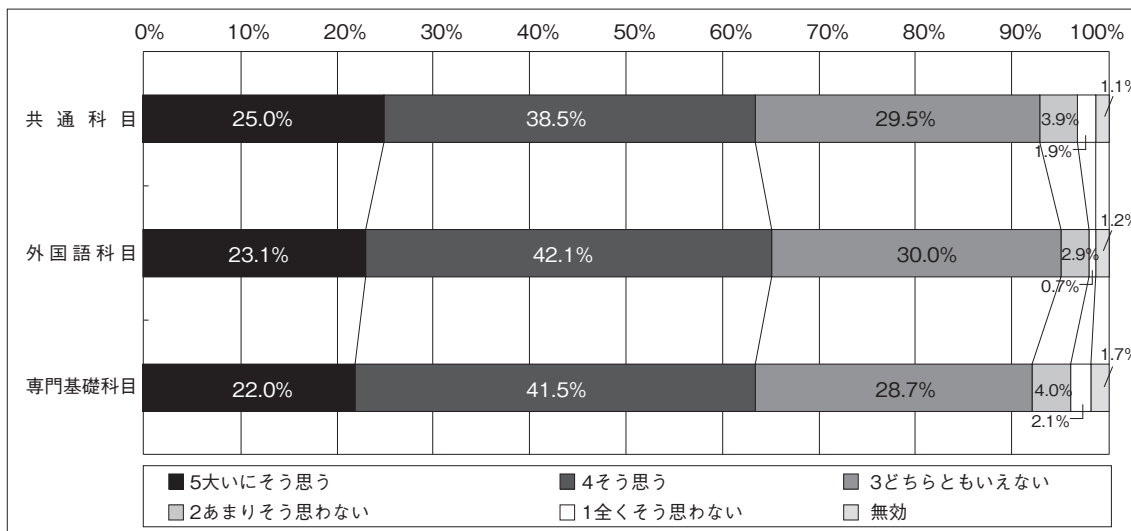
	5大いに思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
共通科目	651	1,065	591	89	41	26	2,463
外国語科目	1,056	2,142	1,063	92	30	48	4,431
専門基礎科目	747	1,503	886	125	68	53	3,382



Q3-(2) 自分にとって有益な考え方・発想が身についた

[単位：名(延べ)]

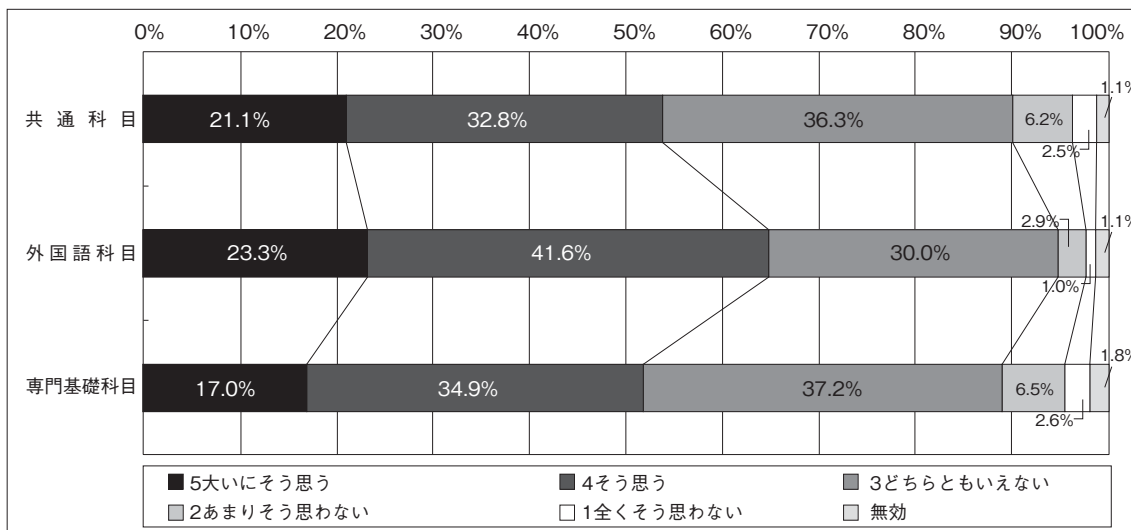
	5大いに思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
共通科目	616	948	727	97	48	27	2,463
外国語科目	1,025	1,864	1,331	129	31	51	4,431
専門基礎科目	744	1,404	972	135	71	56	3,382



Q3-(3) 自分で調べ、考える姿勢をもてた

[単位：名(延べ)]

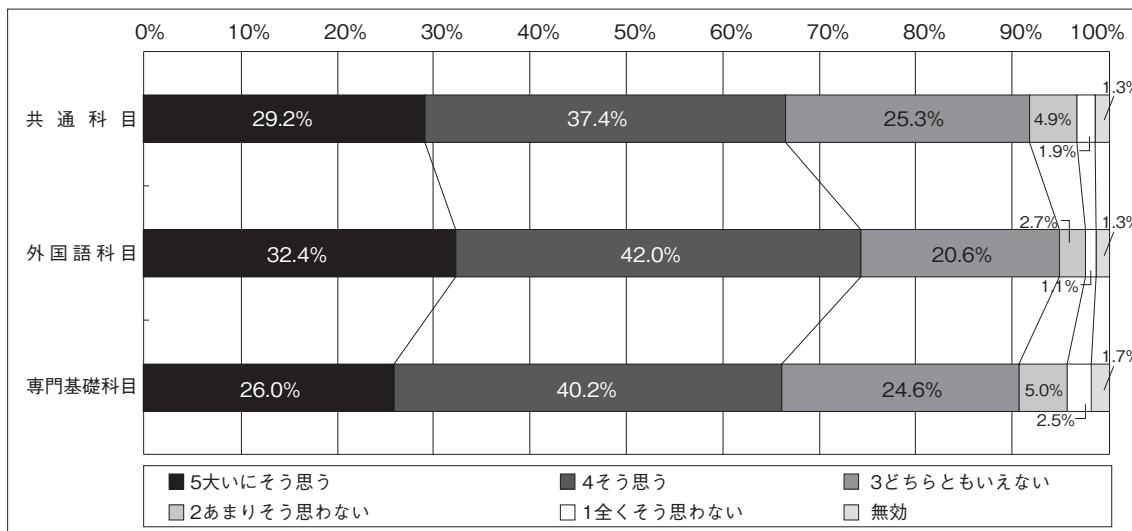
	5大いに思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
共通科目	519	809	894	152	61	28	2,463
外国語科目	1,032	1,842	1,331	130	46	50	4,431
専門基礎科目	576	1,180	1,259	219	87	61	3,382



Q3-(4) 総合的にみてこの授業に満足をした

[単位：名(延べ)]

	5大いに思う	4 思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
共通科目	718	922	624	121	46	32	2,463
外国語科目	1,434	1,862	914	118	47	56	4,431
専門基礎科目	880	1,360	831	170	83	58	3,382



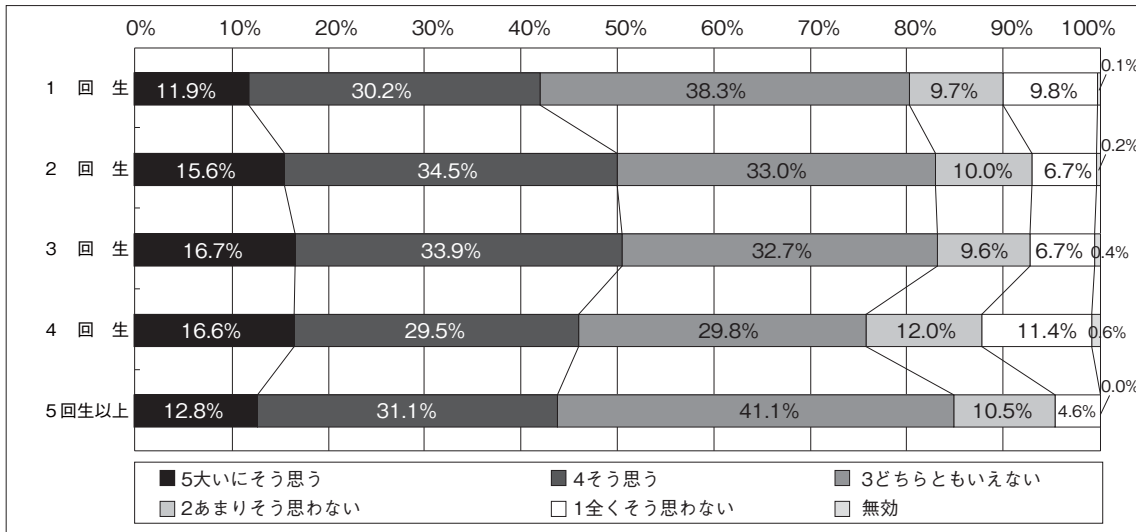
2010年度 秋学期 授業アンケート 回生別集計

1. あなた自身の取り組みについて

Q1-(1) シラバスを読んで受講に備えた

[単位：名(延べ)]

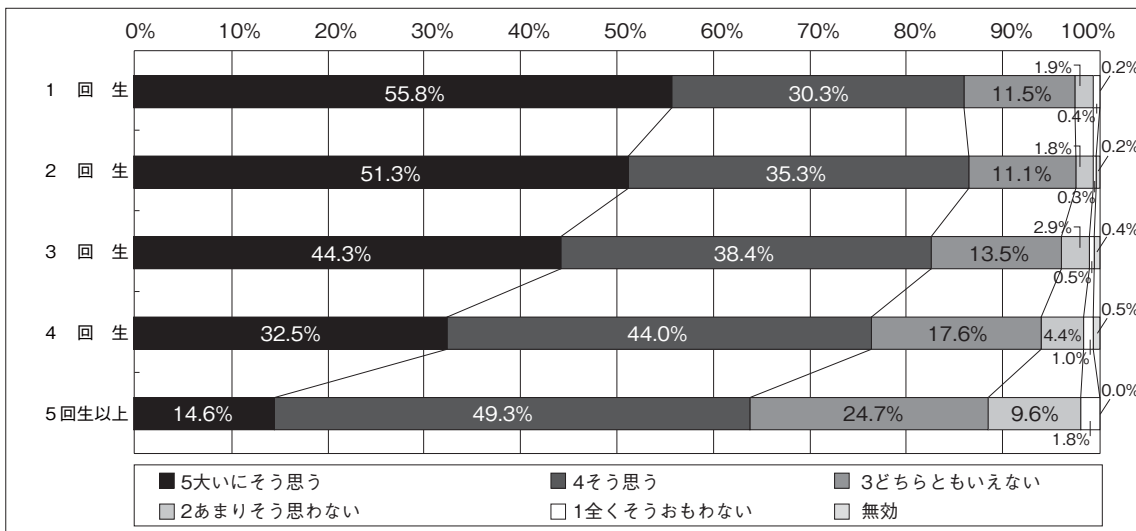
	5大いに思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
1 回 生	1,356	3,450	4,365	1,108	1,115	16	11,410
2 回 生	1,432	3,169	3,024	918	613	19	9,175
3 回 生	877	1,777	1,715	506	352	20	5,247
4 回 生	326	579	584	236	224	11	1,960
5 回生以上	28	68	90	23	10	0	219



Q1-(2) これまでの授業の出席率

[単位：名(延べ)]

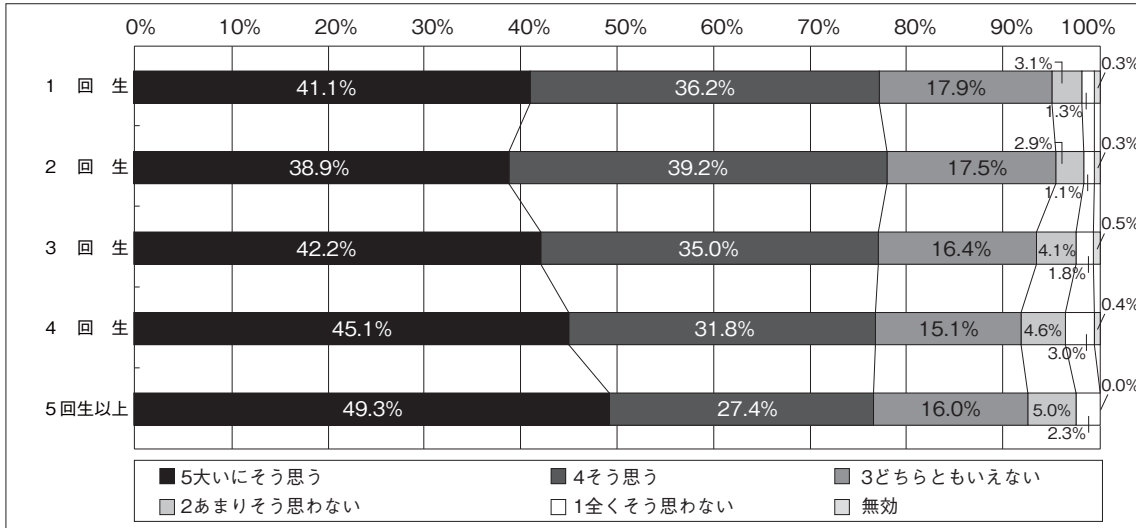
	5 90% 以上	4 70～89%	3 50～69%	2 30～49%	1 30% 未満	無効	合計
1 回 生	6,367	3,460	1,310	212	40	21	11,410
2 回 生	4,703	3,242	1,021	162	27	20	9,175
3 回 生	2,326	2,013	710	150	27	21	5,247
4 回 生	637	863	344	87	19	10	1,960
5 回生以上	32	108	54	21	4	0	219



Q1-(3) 授業を妨げる行為（私語・携帯の使用・遅刻・途中退出等）をしなかった

[単位：名（延べ）]

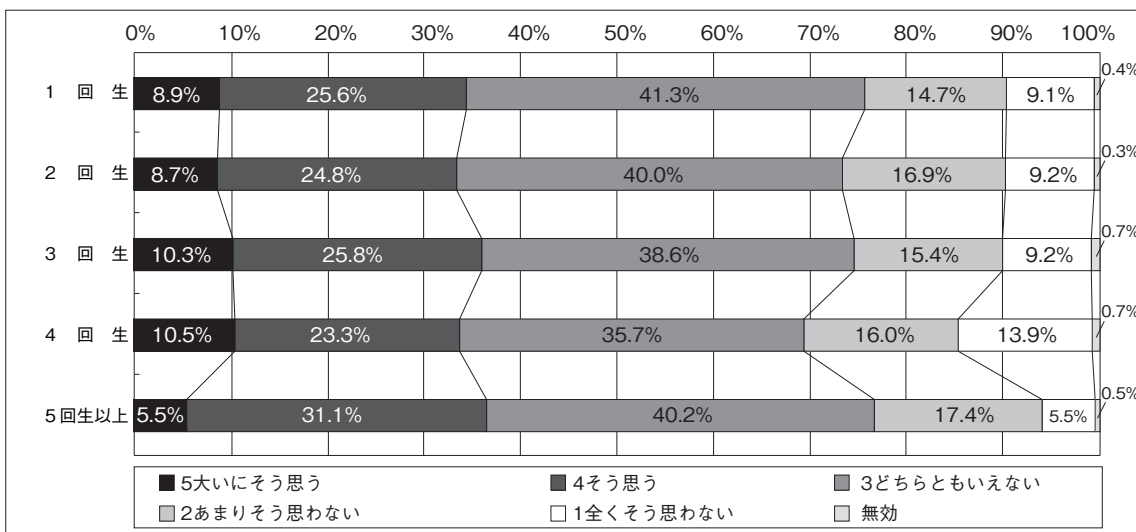
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
1 回 生	4,690	4,135	2,047	355	146	37	11,410
2 回 生	3,570	3,601	1,609	266	102	27	9,175
3 回 生	2,215	1,837	861	214	93	27	5,247
4 回 生	884	623	296	91	58	8	1,960
5 回生以上	108	60	35	11	5	0	219



Q1-(4) 1回の授業につき予習・復習をした

[単位：名（延べ）]

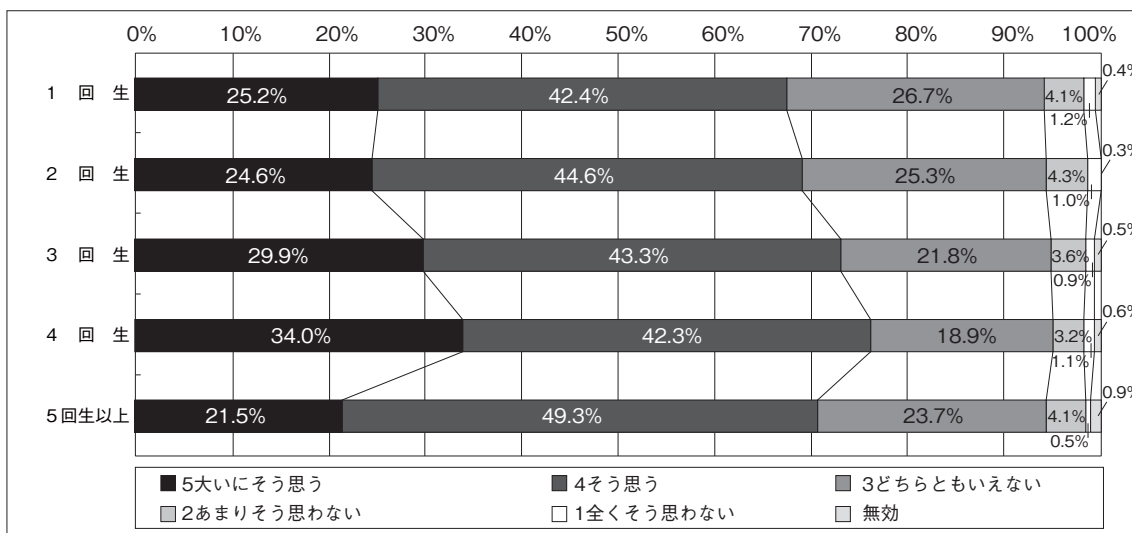
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
1 回 生	1,021	2,920	4,710	1,679	1,036	44	11,410
2 回 生	801	2,279	3,674	1,548	841	32	9,175
3 回 生	540	1,352	2,024	809	485	37	5,247
4 回 生	205	456	699	314	273	13	1,960
5 回生以上	12	68	88	38	12	1	219



Q1-(5) 熱心に授業に取り組んだ

[単位：名(延べ)]

	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
1 回 生	2,874	4,836	3,049	464	141	46	11,410
2 回 生	2,258	4,092	2,317	392	88	28	9,175
3 回 生	1,569	2,272	1,144	189	46	27	5,247
4 回 生	666	829	370	62	21	12	1,960
5 回生以上	47	108	52	9	1	2	219

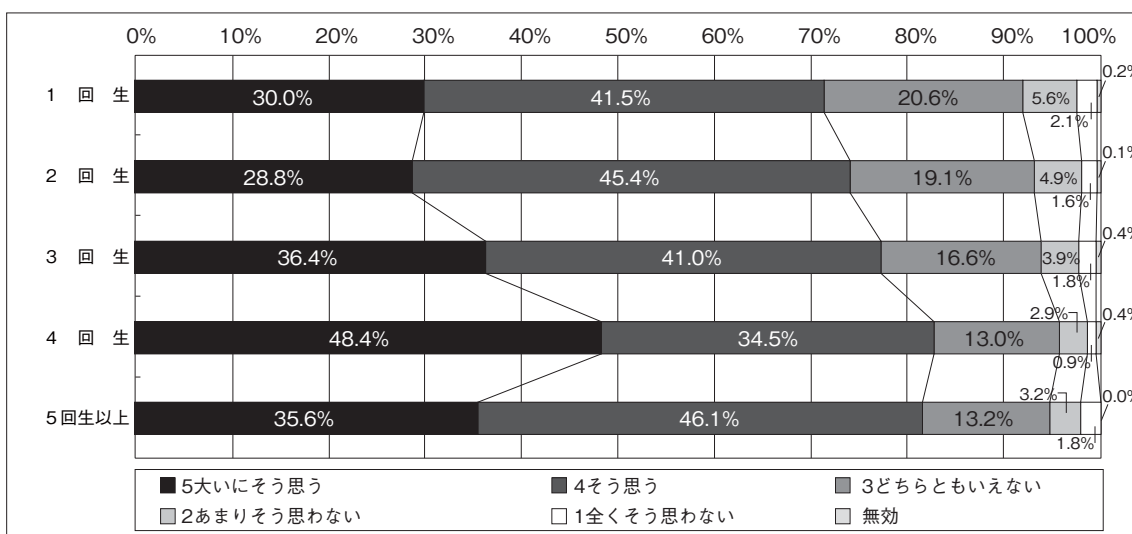


2. この授業の運営について

Q2-(1) わかりやすい授業であった

[単位：名(延べ)]

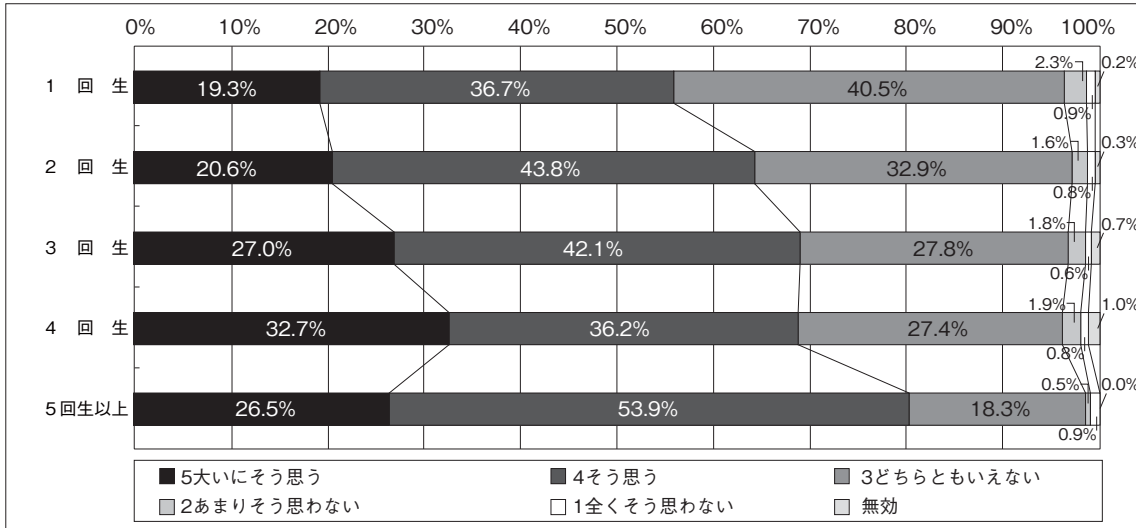
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
1 回 生	3,420	4,735	2,353	641	238	23	11,410
2 回 生	2,643	4,167	1,757	446	149	13	9,175
3 回 生	1,911	2,151	870	203	93	19	5,247
4 回 生	948	676	254	57	18	7	1,960
5 回生以上	78	101	29	7	4	0	219



Q2-(2) 授業はシラバス通りに進行していた

[単位：名(延べ)]

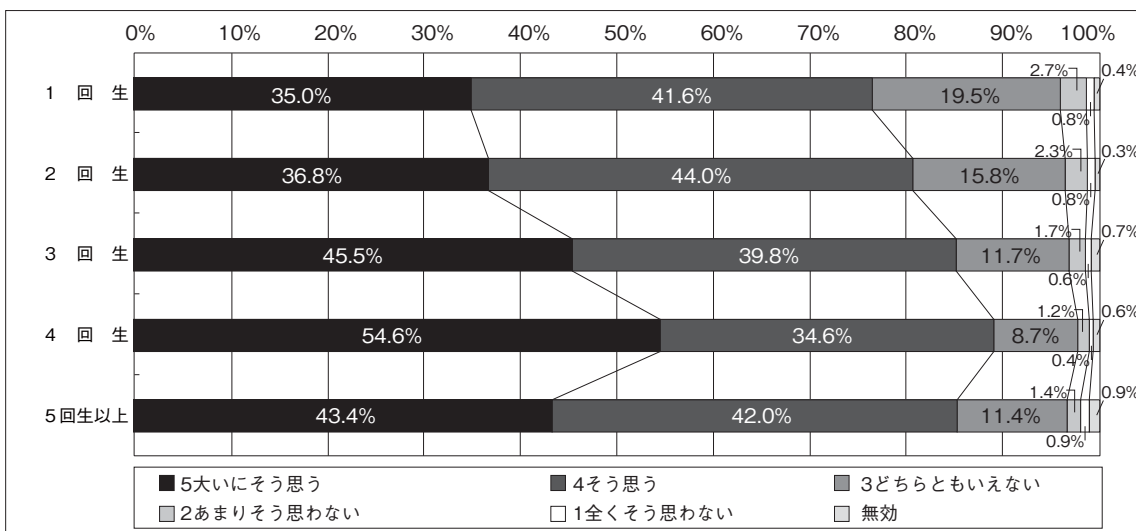
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
1 回 生	2,200	4,191	4,622	264	108	25	11,410
2 回 生	1,889	4,016	3,019	151	69	31	9,175
3 回 生	1,417	2,209	1,459	92	34	36	5,247
4 回 生	640	710	537	37	16	20	1,960
5 回生以上	58	118	40	1	2	0	219



Q2-(3) 教員の熱意が伝わってきた

[単位：名(延べ)]

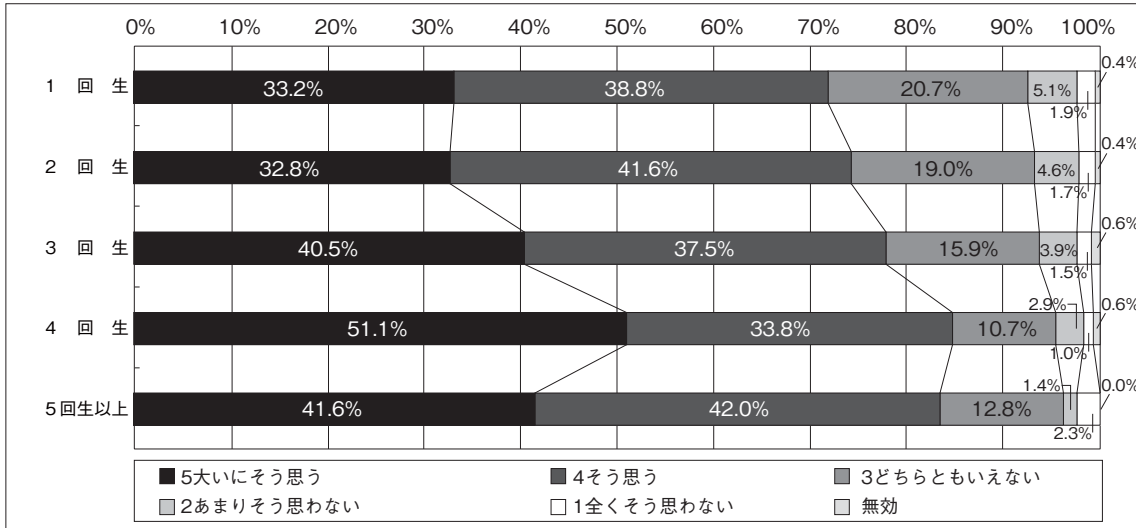
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
1 回 生	3,988	4,748	2,223	308	96	47	11,410
2 回 生	3,374	4,035	1,451	215	75	25	9,175
3 回 生	2,388	2,087	616	87	33	36	5,247
4 回 生	1,070	678	170	23	7	12	1,960
5 回生以上	95	92	25	3	2	2	219



Q2-(4) 聴きやすい話し方だった

[単位：名(延べ)]

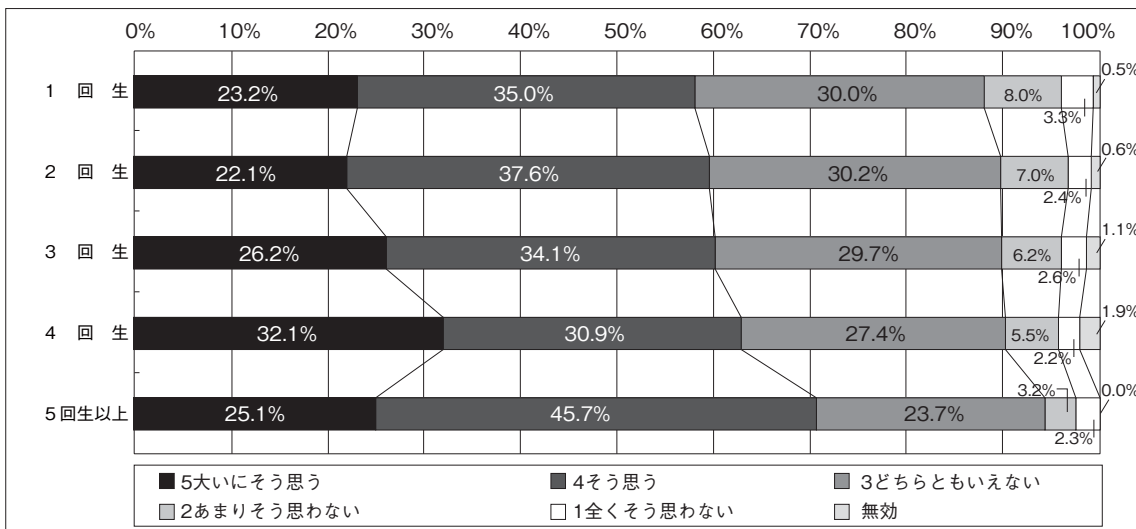
	5大にそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
1 回 生	3,786	4,430	2,360	577	215	42	11,410
2 回 生	3,005	3,818	1,744	420	152	36	9,175
3 回 生	2,127	1,970	832	205	79	34	5,247
4 回 生	1,001	663	210	56	19	11	1,960
5 回生以上	91	92	28	3	5	0	219



Q2-(5) 板書 (OHP、パワーポイント含む) は見やすかった

[単位：名(延べ)]

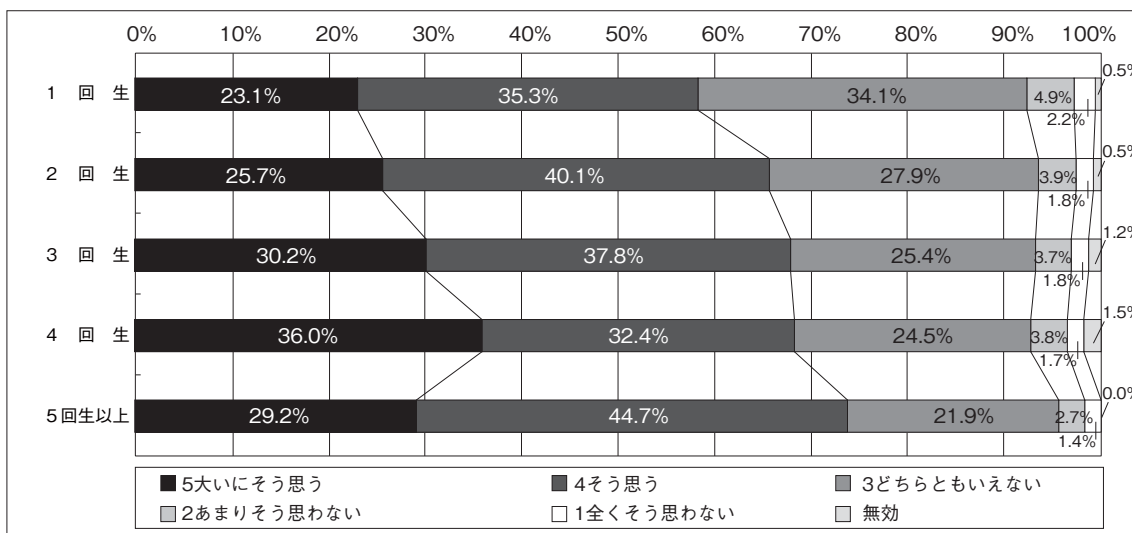
	5大にそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
1 回 生	2,646	3,992	3,428	910	378	56	11,410
2 回 生	2,029	3,451	2,772	646	223	54	9,175
3 回 生	1,377	1,788	1,559	324	139	60	5,247
4 回 生	629	606	538	107	43	37	1,960
5 回生以上	55	100	52	7	5	0	219



Q2-(6) 印刷教材（レジュメ・補助教材等）、視聴覚教材等が効果的だった

[単位：名（延べ）]

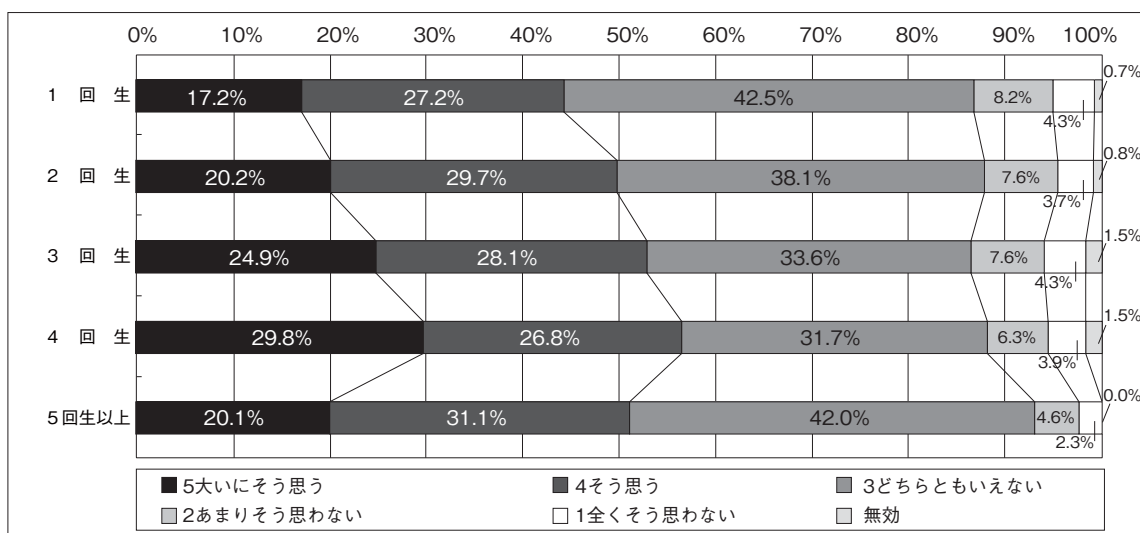
	5大にそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
1 回 生	2,635	4,024	3,893	556	249	53	11,410
2 回 生	2,357	3,680	2,561	362	167	48	9,175
3 回 生	1,585	1,982	1,331	193	94	62	5,247
4 回 生	706	636	480	74	34	30	1,960
5 回生以上	64	98	48	6	3	0	219



Q2-(7) 学習形態（グループ学習・発表、フィールドワーク等）に工夫がみられた

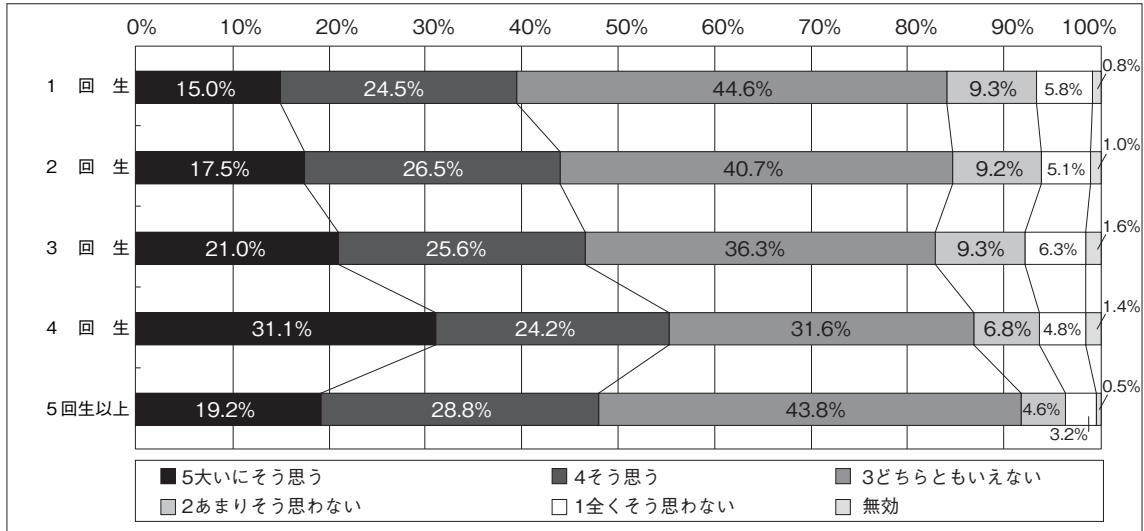
[単位：名（延べ）]

	5大にそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
1 回 生	1,960	3,098	4,853	933	490	76	11,410
2 回 生	1,851	2,725	3,495	696	339	69	9,175
3 回 生	1,308	1,475	1,761	401	224	78	5,247
4 回 生	584	525	622	124	76	29	1,960
5 回生以上	44	68	92	10	5	0	219



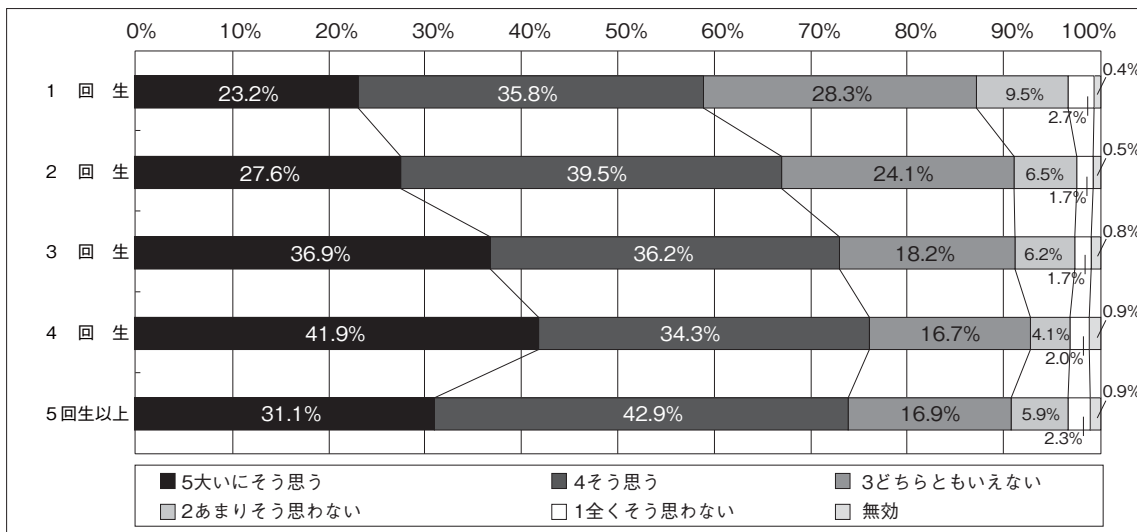
Q2-(8) 教員や学生同士のコミュニケーション (e-learning “縁(えにし)” 含む) に工夫がみられた [単位：名(延べ)]

	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
1 回 生	1,711	2,800	5,085	1,063	657	94	11,410
2 回 生	1,604	2,435	3,732	843	469	92	9,175
3 回 生	1,102	1,344	1,903	487	329	82	5,247
4 回 生	610	474	619	134	95	28	1,960
5 回生以上	42	63	96	10	7	1	219



Q2-(9) 授業は十分な静粛性が保たれていた [単位：名(延べ)]

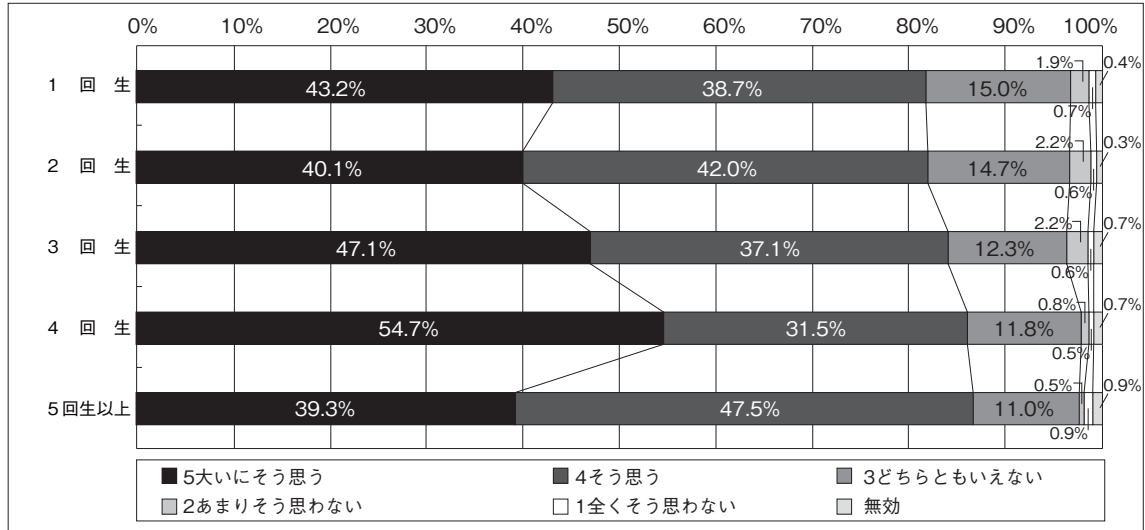
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
1 回 生	2,652	4,087	3,230	1,081	312	48	11,410
2 回 生	2,535	3,628	2,207	600	159	46	9,175
3 回 生	1,937	1,901	953	326	90	40	5,247
4 回 生	822	673	328	80	39	18	1,960
5 回生以上	68	94	37	13	5	2	219



Q2-(10) 授業時間が守られていた

[単位：名(延べ)]

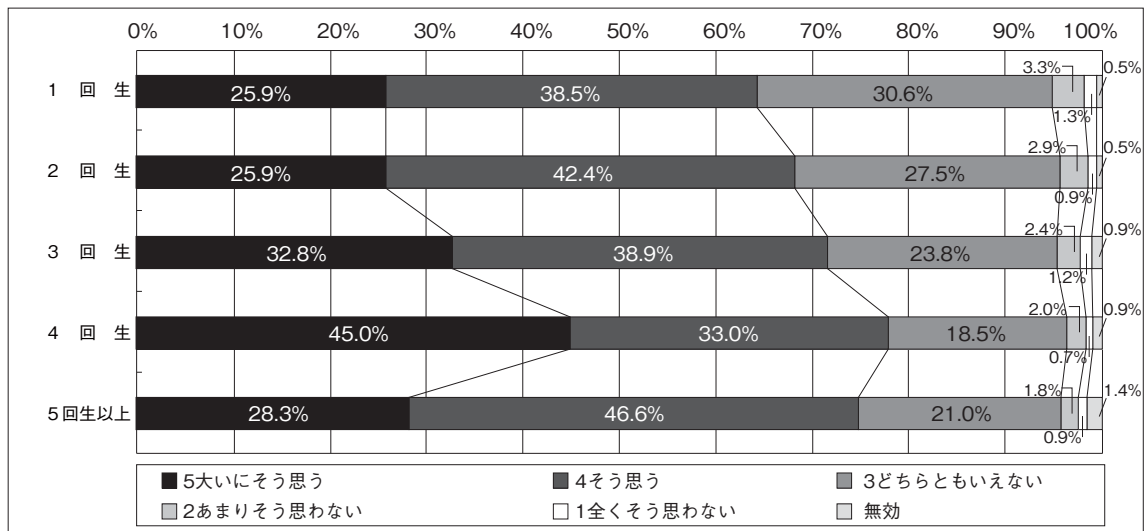
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
1 回 生	4,931	4,421	1,713	221	77	47	11,410
2 回 生	3,682	3,853	1,350	201	57	32	9,175
3 回 生	2,469	1,949	643	117	34	35	5,247
4 回 生	1,073	618	232	15	9	13	1,960
5 回生以上	86	104	24	1	2	2	219



Q2-(11) 授業に関する受講生の意見への対応が十分になされていた

[単位：名(延べ)]

	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
1 回 生	2,956	4,390	3,488	372	148	56	11,410
2 回 生	2,380	3,888	2,519	262	80	46	9,175
3 回 生	1,720	2,039	1,248	128	64	48	5,247
4 回 生	882	647	362	39	13	17	1,960
5 回生以上	62	102	46	4	2	3	219

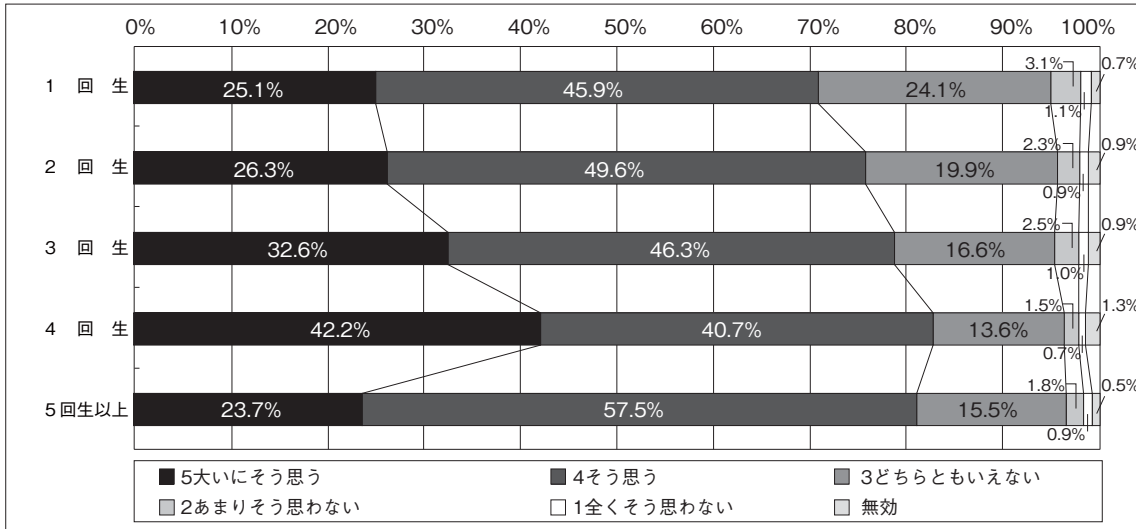


3. この授業からあなたが得たものについて

Q3-(1) 授業で扱った分野に関する専門知識・技術が身についた

[単位：名(延べ)]

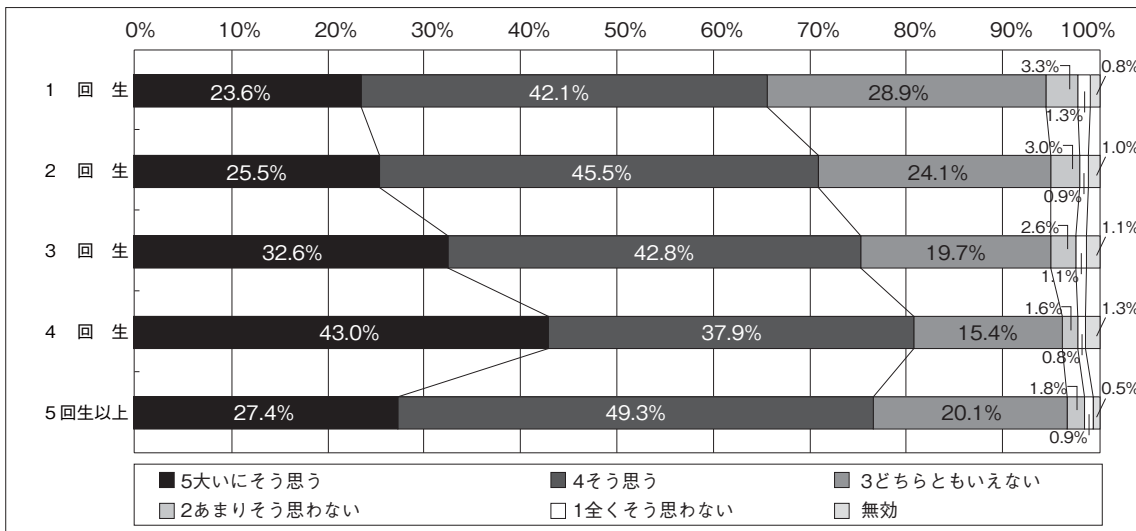
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
1 回 生	2,865	5,234	2,747	353	129	82	11,410
2 回 生	2,413	4,554	1,826	215	83	84	9,175
3 回 生	1,712	2,430	870	131	55	49	5,247
4 回 生	827	798	266	30	14	25	1,960
5 回生以上	52	126	34	4	2	1	219



Q3-(2) 自分にとって有益な考え方・発想が身についた

[単位：名(延べ)]

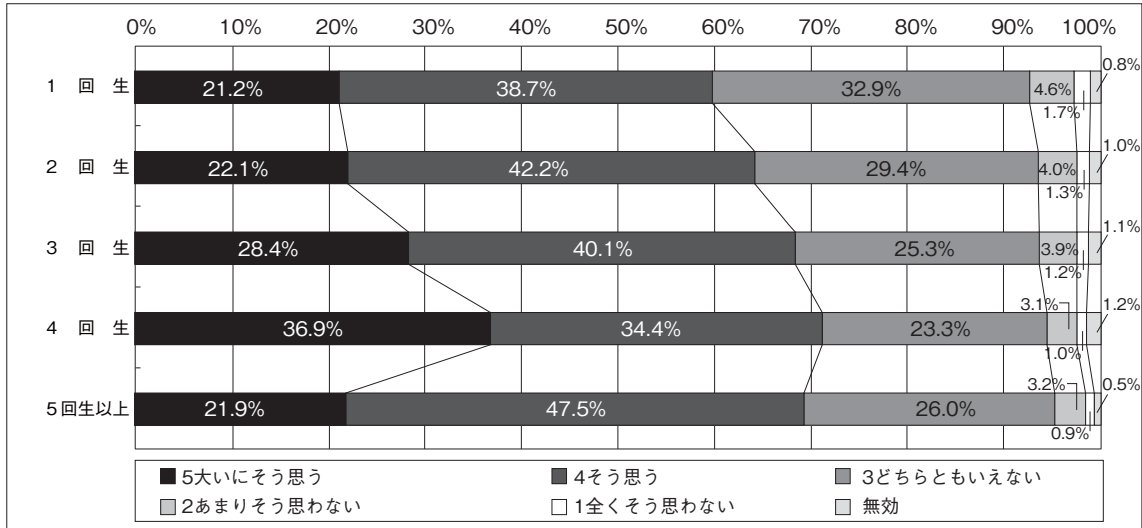
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
1 回 生	2,691	4,804	3,299	378	152	86	11,410
2 回 生	2,341	4,179	2,213	272	82	88	9,175
3 回 生	1,712	2,246	1,036	138	56	59	5,247
4 回 生	843	743	302	31	16	25	1,960
5 回生以上	60	108	44	4	2	1	219



Q3-(3) 自分で調べ、考える姿勢をもてた

[単位：名(延べ)]

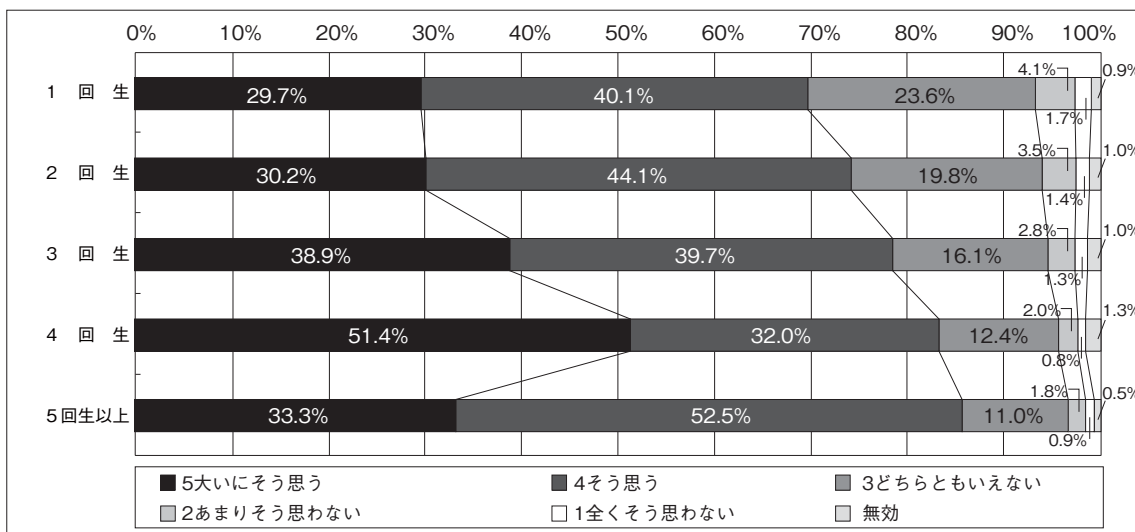
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
1 回 生	2,422	4,418	3,759	527	193	91	11,410
2 回 生	2,027	3,872	2,695	370	116	95	9,175
3 回 生	1,491	2,104	1,326	206	62	58	5,247
4 回 生	724	675	457	61	20	23	1,960
5 回生以上	48	104	57	7	2	1	219



Q3-(4) 総合的にみてこの授業に満足をした

[単位：名(延べ)]

	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
1 回 生	3,387	4,571	2,689	468	193	102	11,410
2 回 生	2,770	4,044	1,820	319	129	93	9,175
3 回 生	2,042	2,084	847	149	70	55	5,247
4 回 生	1,008	627	244	40	15	26	1,960
5 回生以上	73	115	24	4	2	1	219



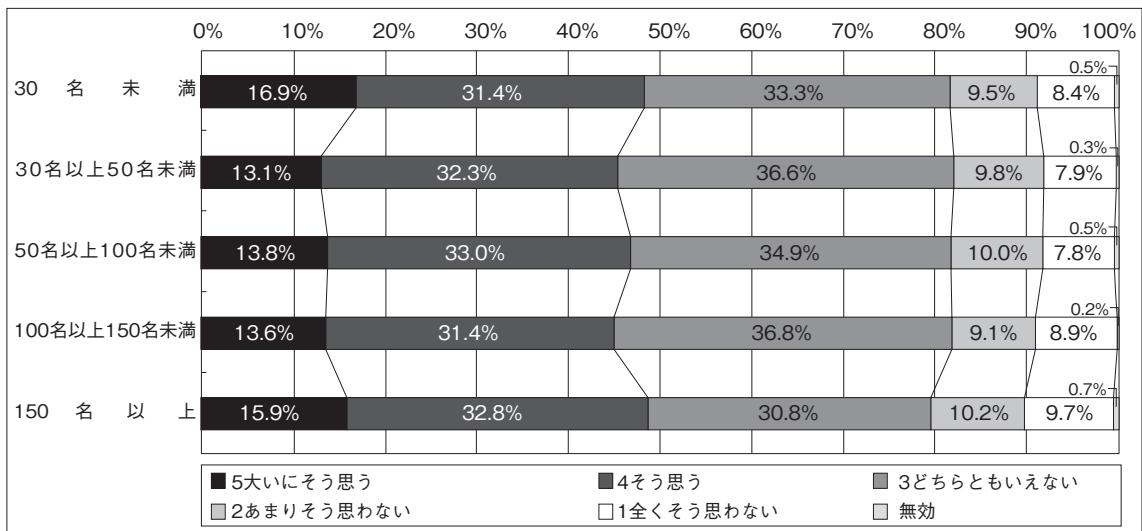
2010年度 秋学期 授業アンケート クラス規模別集計

1. あなた自身の取り組みについて

Q1-(1) シラバスを読んで受講に備えた

[単位：名(延べ)]

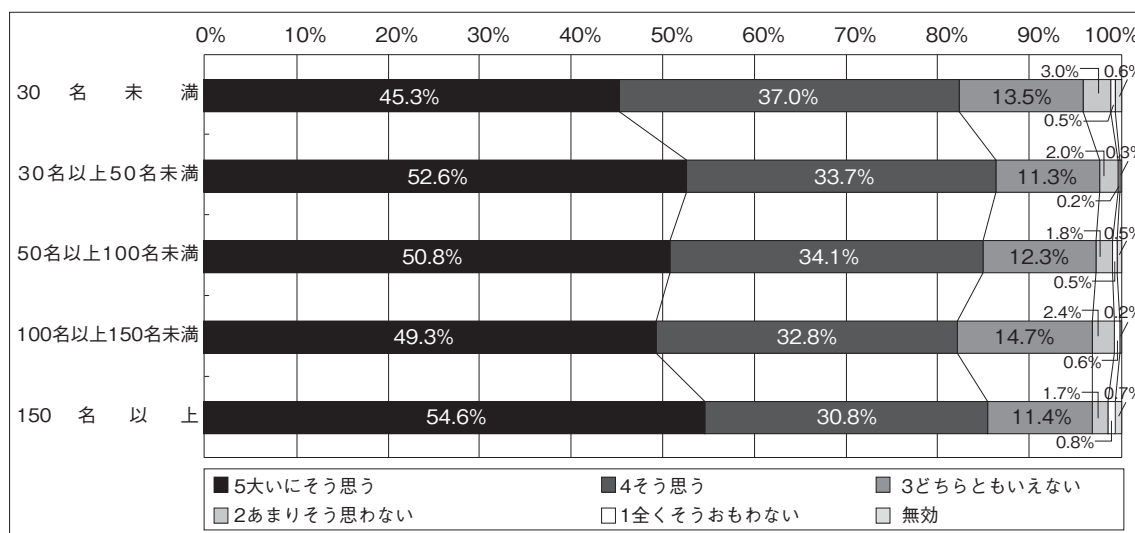
	5大いに思う	4 思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
30名未満	1,438	2,664	2,826	805	713	46	8,492
30名以上 50名未満	1,225	3,010	3,410	917	738	25	9,325
50名以上 100名未満	1,109	2,658	2,810	805	631	44	8,057
100名以上 150名未満	504	1,160	1,362	335	329	7	3,697
150名以上	237	490	460	153	145	10	1,495



Q1-(2) これまでの授業の出席率

[単位：名(延べ)]

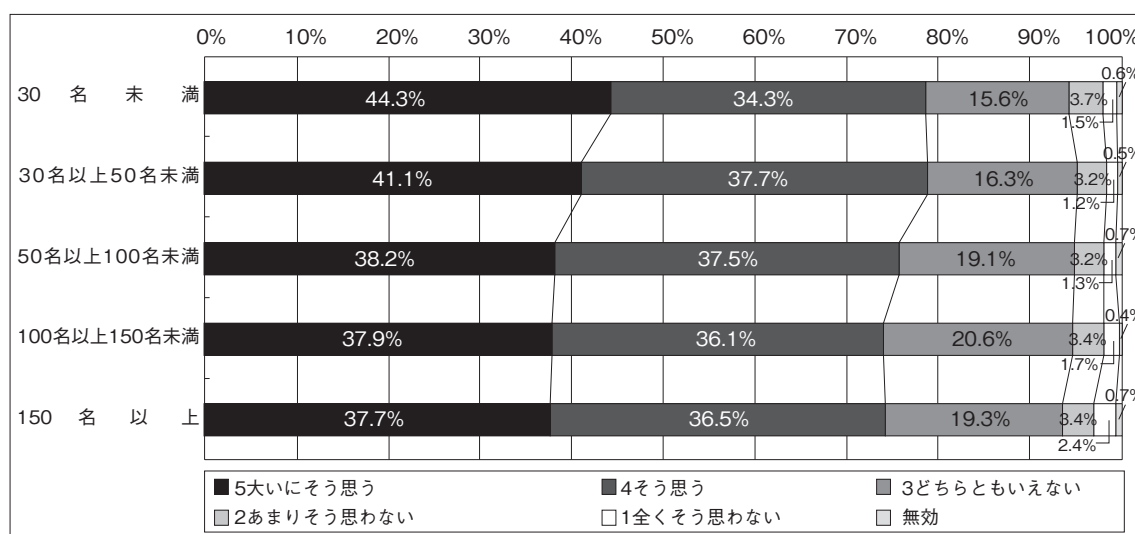
	5 90%以上	4 70～89%	3 50～69%	2 30～49%	1 30%未満	無効	合計
30名未満	3,851	3,143	1,144	258	46	50	8,492
30名以上50名未満	4,905	3,138	1,051	182	23	26	9,325
50名以上100名未満	4,090	2,745	992	149	37	44	8,057
100名以上150名未満	1,823	1,212	542	88	24	8	3,697
150名以上	817	460	171	25	12	10	1,495



Q1-(3) 授業を妨げる行為(私語・携帯の使用・遅刻・途中退出等)をしなかった

[単位：名(延べ)]

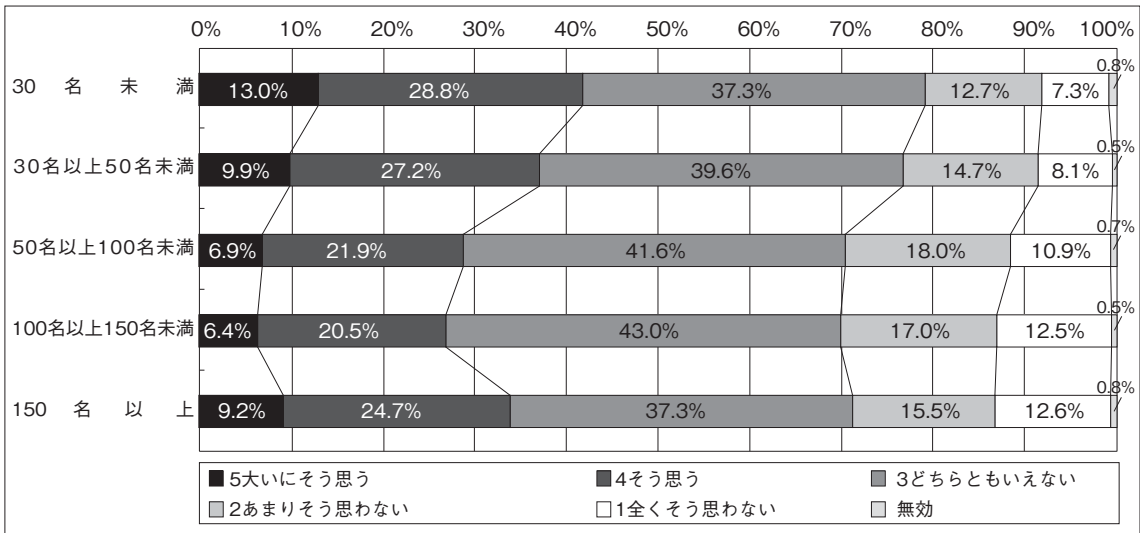
	5大いにそう思う	4そう思う	3どちらともいえない	2あまりそう思わない	1全くそう思わない	無効	合計
30名未満	3,763	2,917	1,321	316	126	49	8,492
30名以上50名未満	3,830	3,519	1,520	297	116	43	9,325
50名以上100名未満	3,076	3,022	1,539	256	108	56	8,057
100名以上150名未満	1,400	1,334	761	124	63	15	3,697
150名以上	563	546	289	51	36	10	1,495



Q1-(4) 1回の授業につき予習・復習をした

[単位：名(延べ)]

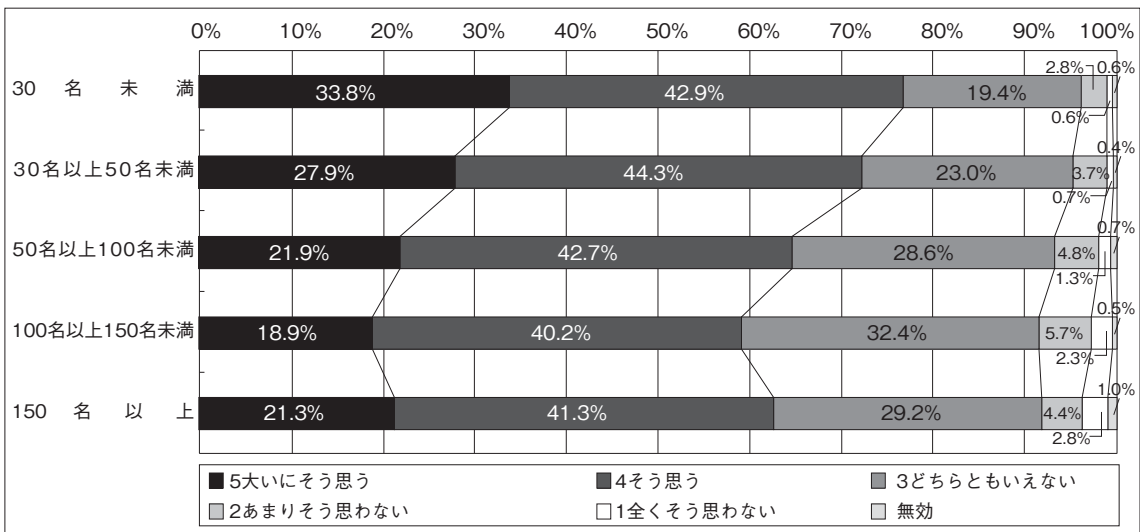
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
30名未満	1,104	2,447	3,171	1,080	623	67	8,492
30名以上 50名未満	919	2,539	3,697	1,368	752	50	9,325
50名以上 100名未満	552	1,762	3,352	1,451	881	59	8,057
100名以上 150名未満	238	758	1,591	628	462	20	3,697
150名以上	138	369	557	231	188	12	1,495



Q1-(5) 熱心に授業に取り組んだ

[単位：名(延べ)]

	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
30名未満	2,869	3,643	1,644	235	50	51	8,492
30名以上 50名未満	2,599	4,135	2,148	344	66	33	9,325
50名以上 100名未満	1,766	3,440	2,303	387	101	60	8,057
100名以上 150名未満	700	1,486	1,196	211	85	19	3,697
150名以上	318	617	437	66	42	15	1,495

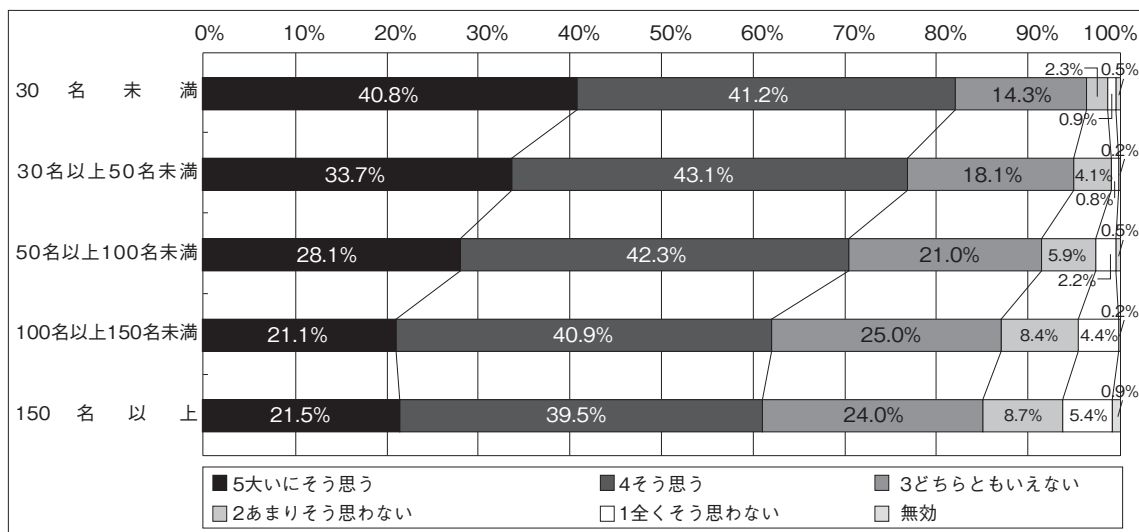


2. この授業の運営について

Q2-(1) わかりやすい授業であった

[単位：名(延べ)]

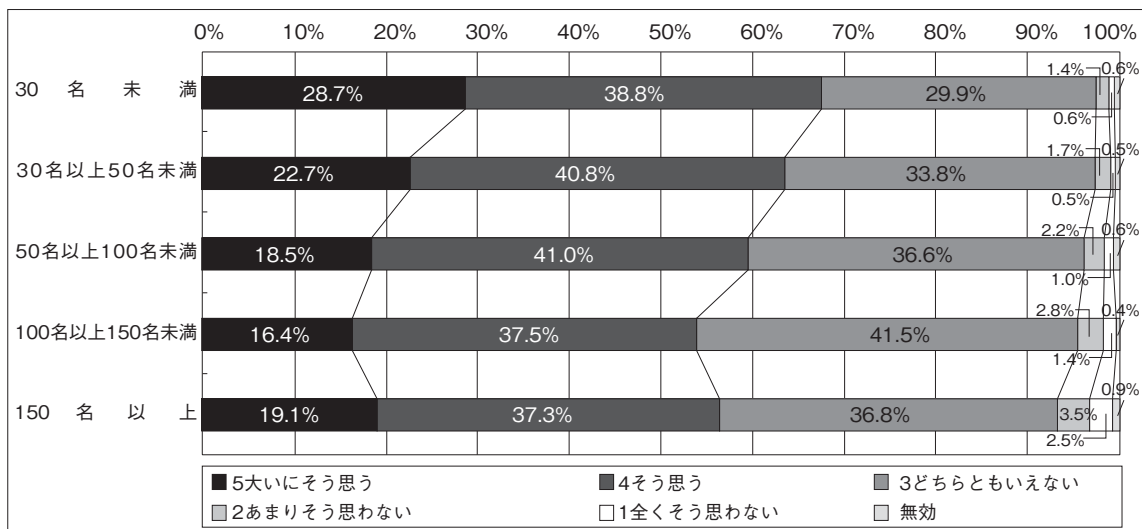
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
30名未満	3,465	3,497	1,215	196	78	41	8,492
30名以上 50名未満	3,143	4,017	1,684	385	78	18	9,325
50名以上 100名未満	2,266	3,407	1,695	475	175	39	8,057
100名以上 150名未満	780	1,513	925	309	162	8	3,697
150名以上	322	590	359	130	81	13	1,495



Q2-(2) 授業はシラバス通りに進行していた

[単位：名(延べ)]

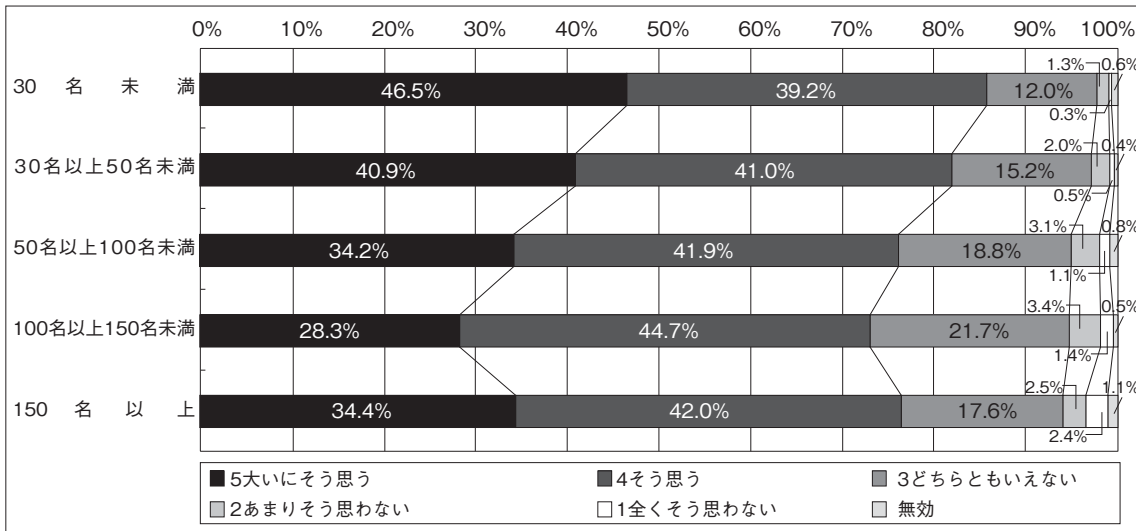
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
30名未満	2,436	3,291	2,538	123	55	49	8,492
30名以上 50名未満	2,116	3,800	3,156	155	51	47	9,325
50名以上 100名未満	1,494	3,307	2,950	179	77	50	8,057
100名以上 150名未満	605	1,388	1,536	102	50	16	3,697
150名以上	285	557	550	52	37	14	1,495



Q2-(3) 教員の熱意が伝わってきた

[単位：名(延べ)]

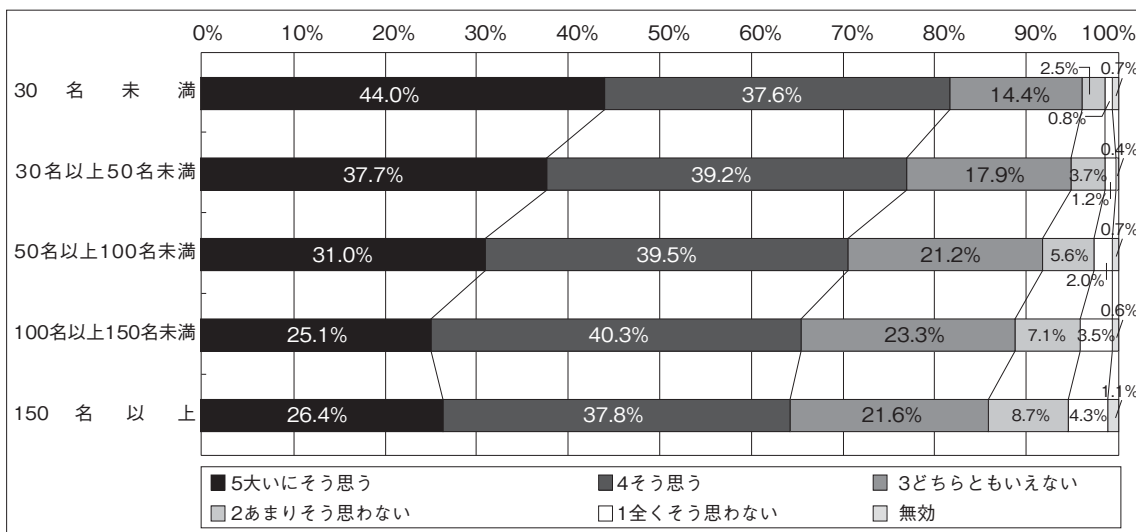
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
30名未満	3,952	3,327	1,020	113	28	52	8,492
30名以上50名未満	3,816	3,820	1,418	190	45	36	9,325
50名以上100名未満	2,757	3,378	1,517	250	92	63	8,057
100名以上150名未満	1,047	1,652	802	125	53	18	3,697
150名以上	514	628	263	37	36	17	1,495



Q2-(4) 聴きやすい話し方だった

[単位：名(延べ)]

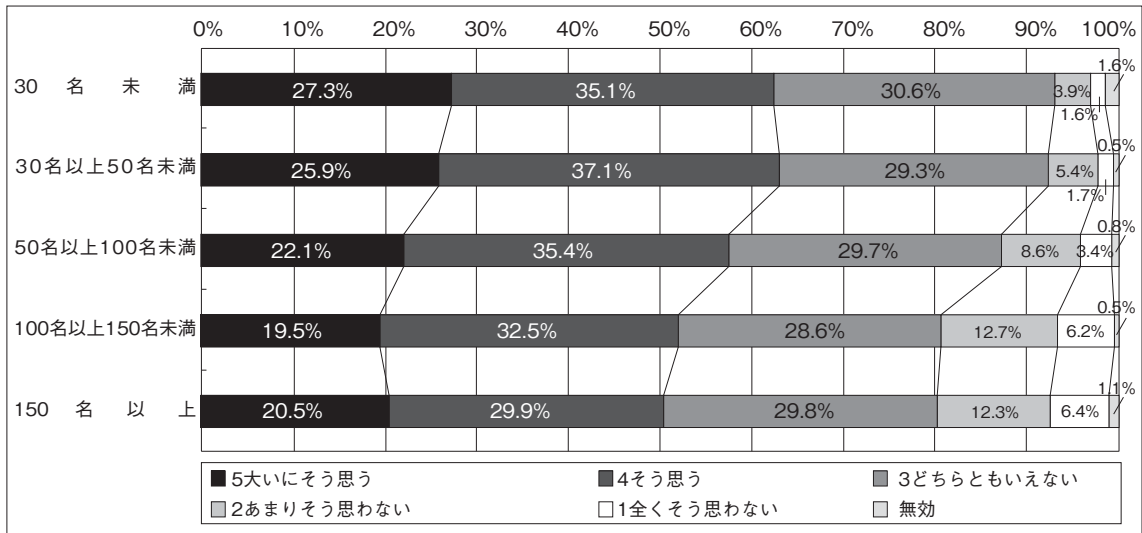
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
30名未満	3,738	3,197	1,219	213	64	61	8,492
30名以上50名未満	3,516	3,652	1,665	343	115	34	9,325
50名以上100名未満	2,497	3,182	1,706	453	161	58	8,057
100名以上150名未満	929	1,490	862	263	131	22	3,697
150名以上	395	565	323	130	65	17	1,495



Q2-(5) 板書（OHP、パワーポイント含む）は見やすかった

[単位：名（延べ）]

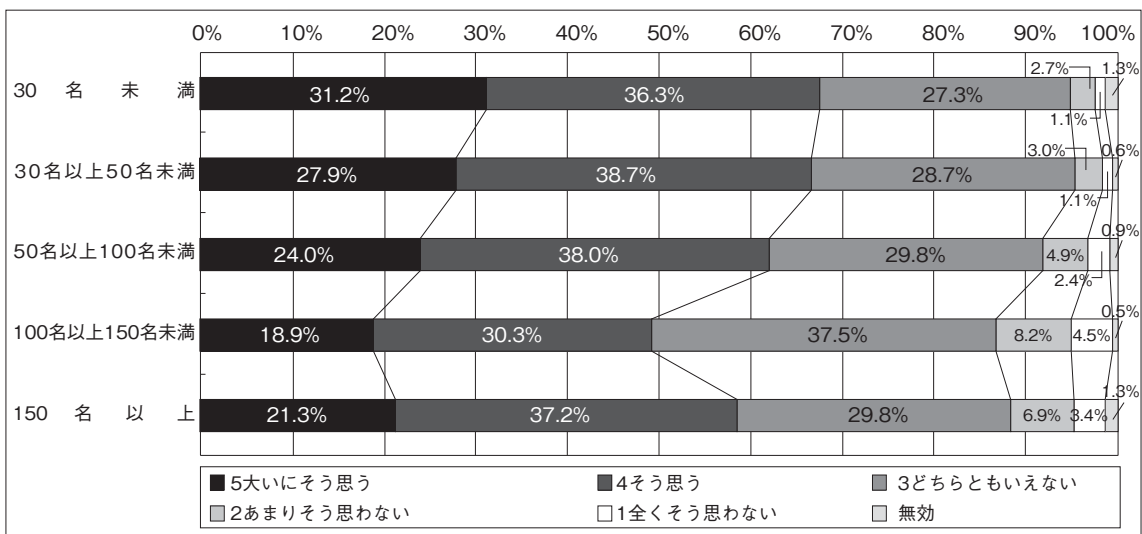
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
30名未満	2,321	2,977	2,595	331	133	135	8,492
30名以上 50名未満	2,416	3,460	2,736	505	160	48	9,325
50名以上 100名未満	1,782	2,851	2,394	693	272	65	8,057
100名以上 150名未満	720	1,202	1,057	469	229	20	3,697
150名以上	306	447	446	184	96	16	1,495



Q2-(6) 印刷教材（レジュメ・補助教材等）、視聴覚教材等が効果的だった

[単位：名（延べ）]

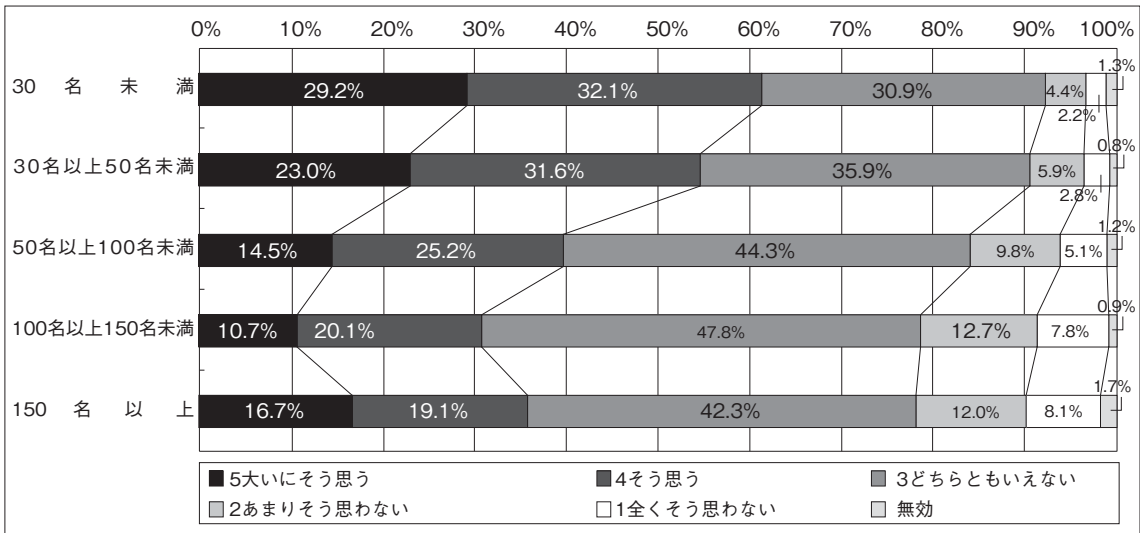
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
30名未満	2,650	3,086	2,319	232	93	112	8,492
30名以上 50名未満	2,600	3,613	2,674	281	105	52	9,325
50名以上 100名未満	1,933	3,065	2,398	398	190	73	8,057
100名以上 150名未満	698	1,121	1,388	305	167	18	3,697
150名以上	319	556	446	103	51	20	1,495



Q2-(7) 学習形態（グループ学習・発表、フィールドワーク等）に工夫がみられた

[単位：名（延べ）]

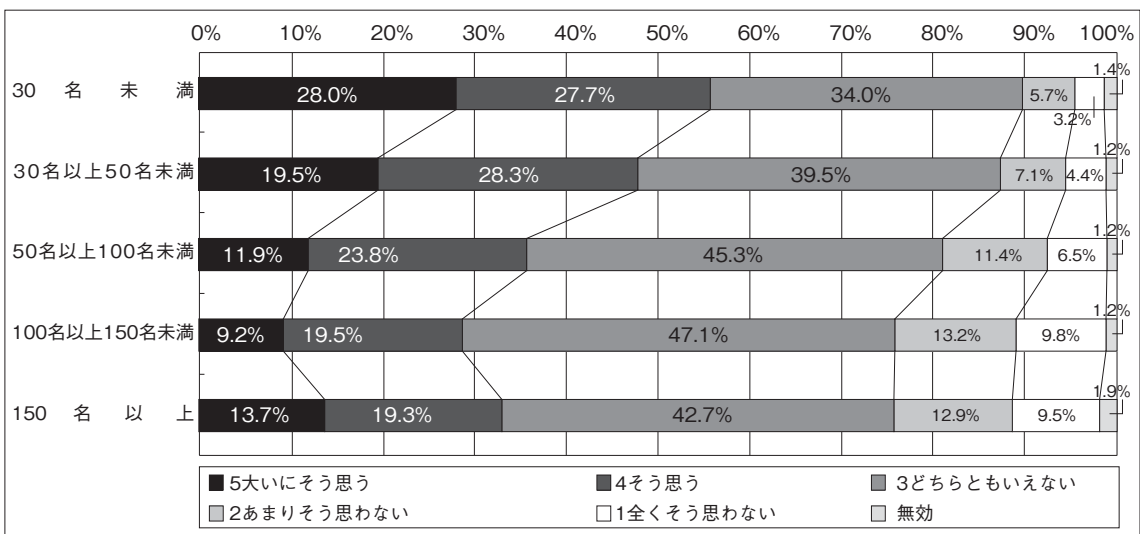
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
30名未満	2,483	2,725	2,621	370	184	109	8,492
30名以上 50名未満	2,143	2,946	3,348	553	259	76	9,325
50名以上 100名未満	1,165	2,030	3,568	787	412	95	8,057
100名以上 150名未満	395	744	1,769	470	287	32	3,697
150名以上	249	286	633	180	121	26	1,495



Q2-(8) 教員や学生同士のコミュニケーション（e-learning “縁（えにし）”含む）に工夫がみられた

[単位：名（延べ）]

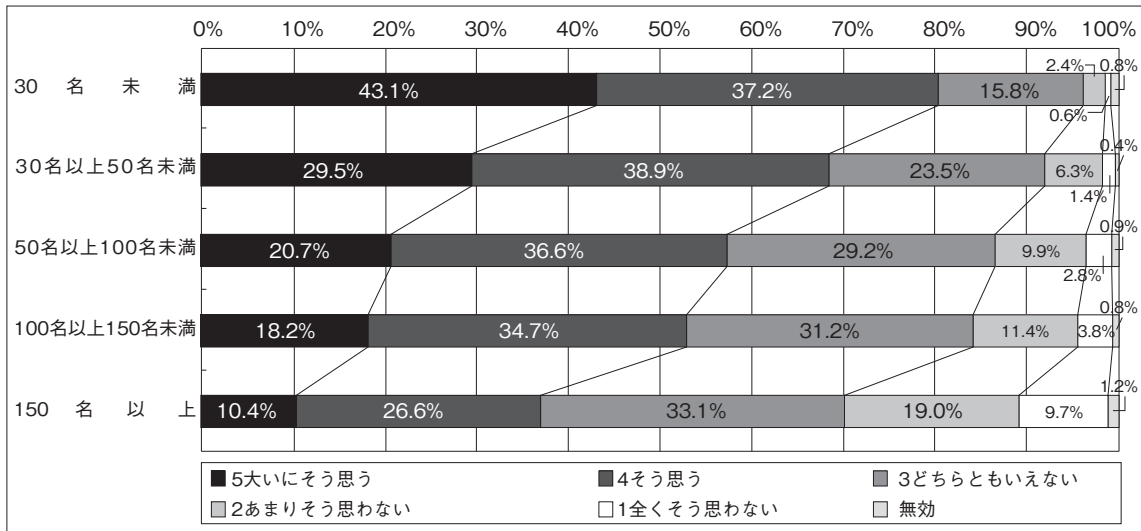
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
30名未満	2,377	2,350	2,891	488	271	115	8,492
30名以上 50名未満	1,817	2,638	3,680	661	414	115	9,325
50名以上 100名未満	957	1,919	3,649	915	523	94	8,057
100名以上 150名未満	340	721	1,741	487	362	46	3,697
150名以上	205	288	638	193	142	29	1,495



Q2-(9) 授業は十分な静肅性が保たれていた

[単位：名(延べ)]

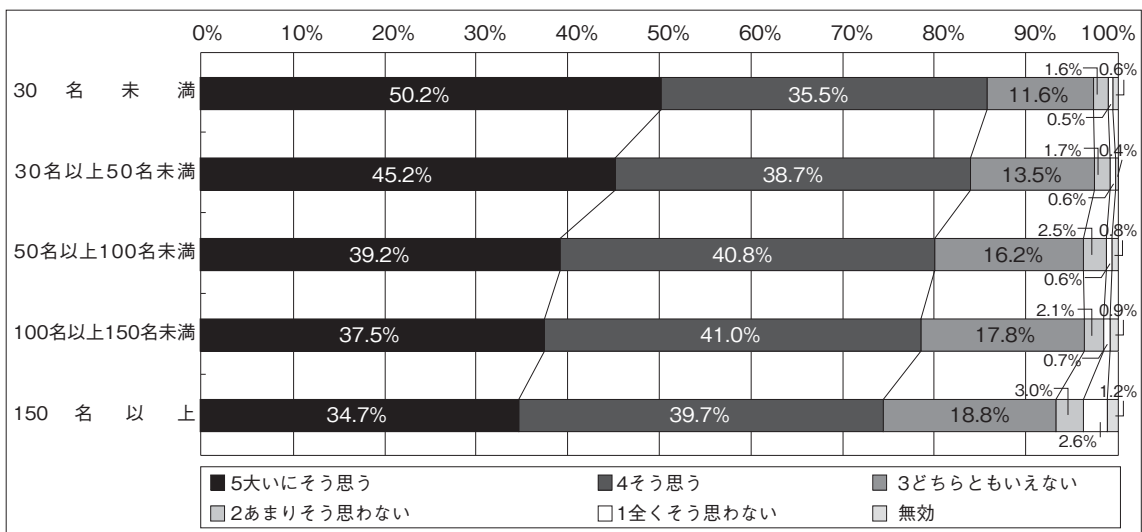
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
30名未満	3,662	3,161	1,345	203	53	68	8,492
30名以上50名未満	2,753	3,626	2,194	586	127	39	9,325
50名以上100名未満	1,665	2,947	2,349	800	222	74	8,057
100名以上150名未満	673	1,282	1,154	420	140	28	3,697
150名以上	156	397	495	284	145	18	1,495



Q2-(10) 授業時間が守られていた

[単位：名(延べ)]

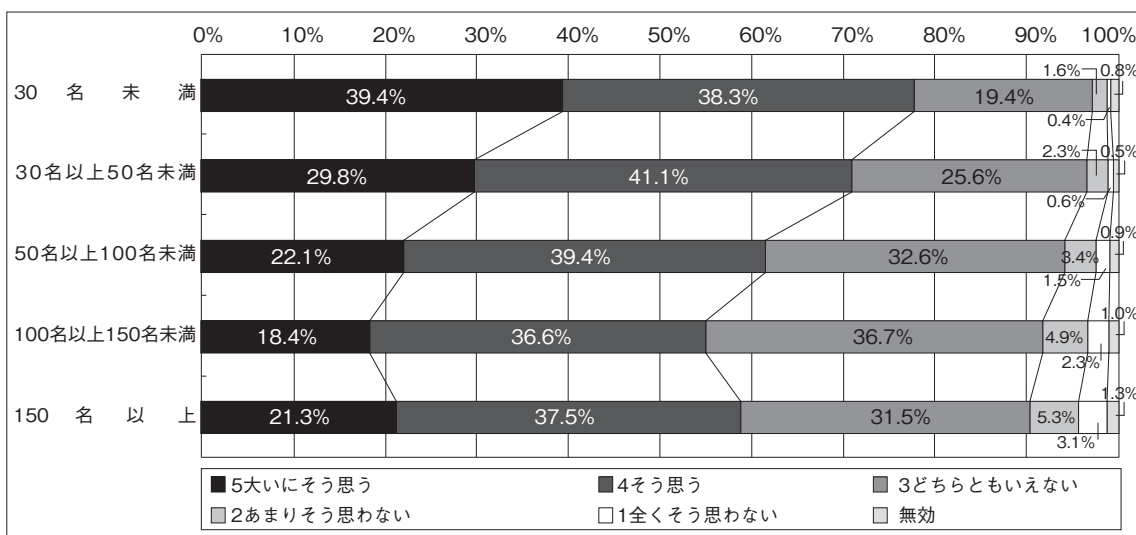
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
30名未満	4,266	3,014	985	136	40	51	8,492
30名以上50名未満	4,217	3,605	1,257	155	52	39	9,325
50名以上100名未満	3,156	3,285	1,302	205	48	61	8,057
100名以上150名未満	1,388	1,517	657	76	27	32	3,697
150名以上	519	593	281	45	39	18	1,495



Q2-(11) 授業に関する受講生の意見への対応が十分になされていた

[単位：名(延べ)]

	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらとも いえない	2 あまり そう思わない	1 全く そう思わない	無効	合計
30名未満	3,350	3,249	1,650	138	35	70	8,492
30名以上 50名未満	2,777	3,835	2,389	219	59	46	9,325
50名以上 100名未満	1,784	3,173	2,629	275	123	73	8,057
100名以上 150名未満	682	1,352	1,358	183	85	37	3,697
150名以上	318	561	471	79	47	19	1,495

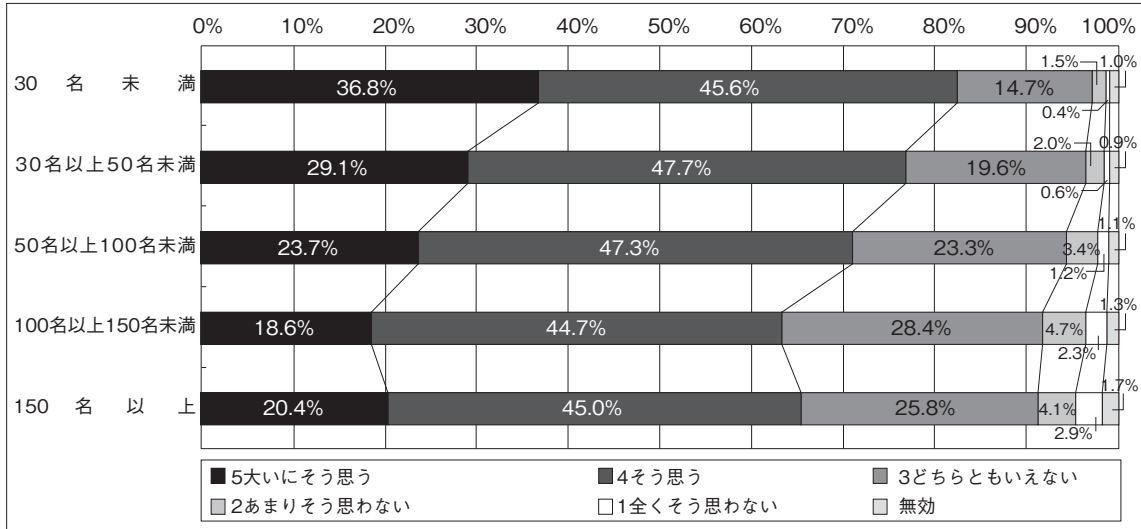


3. この授業からあなたが得たものについて

Q3-(1) 授業で扱った分野に関する専門知識・技術が身についた

[単位：名(延べ)]

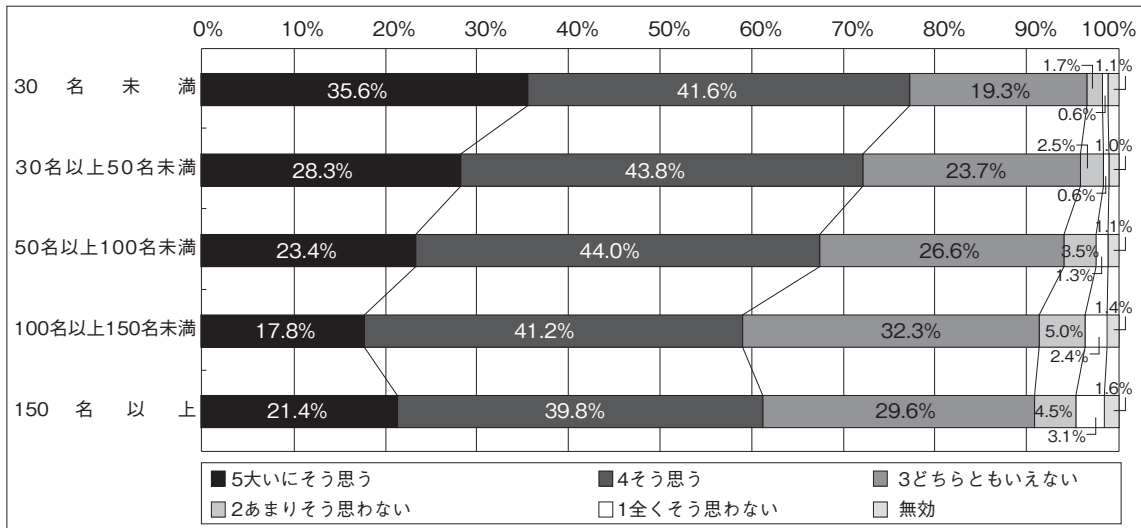
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
30名未満	3,124	3,870	1,247	125	38	88	8,492
30名以上50名未満	2,716	4,447	1,832	184	58	88	9,325
50名以上100名未満	1,913	3,812	1,876	270	100	86	8,057
100名以上150名未満	688	1,653	1,050	174	84	48	3,697
150名以上	305	673	386	62	44	25	1,495



Q3-(2) 自分にとって有益な考え方・発想が身についた

[単位：名(延べ)]

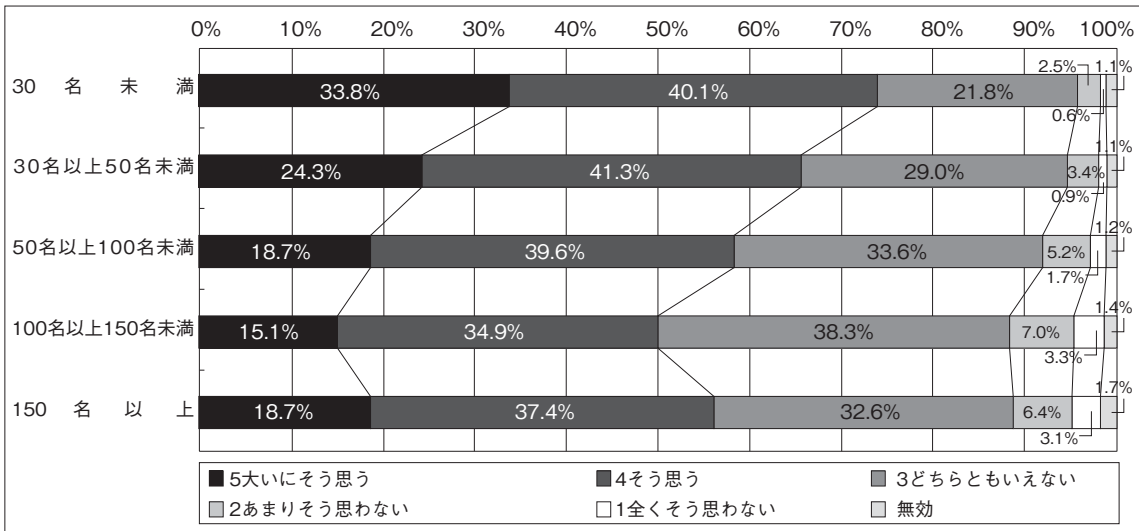
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
30名未満	3,026	3,535	1,636	148	50	97	8,492
30名以上50名未満	2,642	4,080	2,213	236	59	95	9,325
50名以上100名未満	1,884	3,548	2,145	282	107	91	8,057
100名以上150名未満	657	1,524	1,193	184	89	50	3,697
150名以上	320	595	442	67	47	24	1,495



Q3-(3) 自分で調べ、考える姿勢をもてた

[単位：名(延べ)]

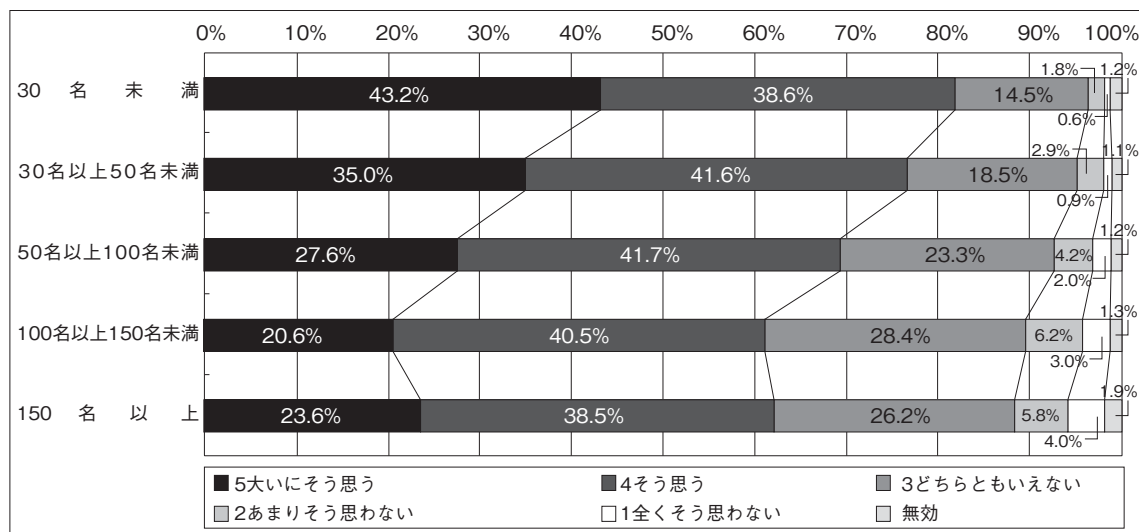
	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
30名未満	2,874	3,408	1,855	210	51	94	8,492
30名以上50名未満	2,264	3,854	2,707	315	84	101	9,325
50名以上100名未満	1,507	3,191	2,704	417	139	99	8,057
100名以上150名未満	558	1,290	1,417	260	121	51	3,697
150名以上	280	559	488	96	46	26	1,495



Q3-(4) 総合的にみてこの授業に満足をした

[単位：名(延べ)]

	5大いにそう思う	4 そう思う	3 どちらともいえない	2 あまりそう思わない	1 全くそう思わない	無効	合計
30名未満	3,669	3,278	1,233	155	55	102	8,492
30名以上50名未満	3,268	3,880	1,728	268	80	101	9,325
50名以上100名未満	2,220	3,360	1,876	338	163	100	8,057
100名以上150名未満	761	1,499	1,050	228	110	49	3,697
150名以上	353	576	391	87	60	28	1,495



科目名 _____ 担当教員名 _____

曜日 月曜日 火曜日 水曜日 木曜日 金曜日 土曜日

講時 1講時 2講時 3講時 4講時 5講時

●あなたの所属について下記から選んでください。

学科 人文 仏教 日文 中国 英米 歴史 歴史
教育 臨床 現社 公共 社福 理学 作業
別科 大学院修士課程 大学院博士後期課程 上記以外(科目履修生含む)

回生 1回生 2回生 3回生 4回生 5回生以上

【注意事項】

- 記入はHBの鉛筆またはシャープペンシルを使用してください。
- 訂正する場合はプラスチック消しゴムで丁寧に消してください。
- 用紙を折り曲げたり、汚したりしないでください。



●以下の項目に対して、あなたにとって当てはまる項目をマークしてください。

1. あなた自身の取り組みについて

	大いに その思う	その思う	どちらとも いえない	あまりその 思わない	全くその 思わない
	90%以上	70~89%	50~69%	30~49%	30%未満
(1) シラバスを読んで受講に備えた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(2) これまでの授業の出席率	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(3) 授業を妨げる行為(私話・携帯の使用・遅刻・途中退出等)をしなかった	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(4) 1回の授業につき予習・復習をした	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(5) 熱心に授業に取り組んだ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

2. この授業の運営について

(1) わかりやすい授業であった	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(2) 授業はシラバス通りに進行していた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(3) 教員の熱意が伝わってきた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(4) 聞きやすい話し方だった	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(5) 板書(OHP、パワーポイント含む)は見やすかった	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(6) 印刷教材(レジュメ・補助教材等)、視聴覚教材等が効果的だった	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(7) 学習形態(グループ学習・発表、フィールドワーク等)に工夫がみられた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(8) 教員や学生同士のコミュニケーション(e-learning"縁(えにし)"含む)に工夫がみられた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(9) 授業は十分な静業性が保たれていた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(10) 授業時間が守られていた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(11) 授業に関する受講生の意見への対応が十分になされていた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

3. この授業からあなたが得たものについて

(1) 授業で扱った分野に関する専門知識・技能が身についた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(2) 自分にとって有益な考え方・発想が身についた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(3) 自分で調べ、考える姿勢をもてた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(4) 総合的にみてこの授業に満足を与えた	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

4. 自由記述

(1) この授業をよりよくするために参考になることがあれば、具体的に書いてください。

(2) 担当教員からの設問 設問メモ欄

(3) 担当教員へのメッセージ等を自由に記述してください。

FD Review

FD Review

e-Learning

e-Learning

教授法開発室員 達富洋二
協力：教育研究連携調査課

2010年度のe-Learning活用の概要を紹介する。アンケートは教育研究連携調査課が実施したもので、ここではアンケートの実数とそのグラフを載せる。

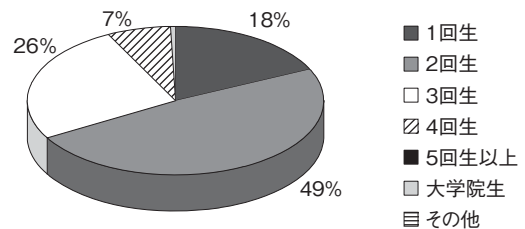
1. 春学期のアンケート結果

回答	1,579
のべ人数	4,582
のべ回答率	34.5%

1.1 あなたは何回生ですか？

回生	人数	比率
1回生	285	18%
2回生	768	49%
3回生	406	26%
4回生	108	7%
5回生以上	3	0%
大学院生	7	0%
その他	0	0%
合計	1,577	

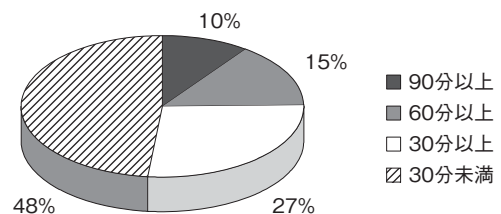
未回答2人



1.2 この科目について予習・復習はどれくらいしましたか？

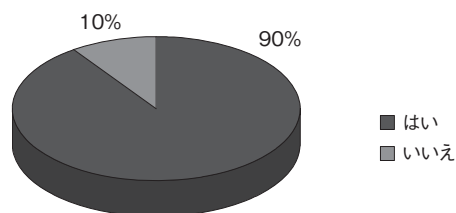
時間	人数	比率
90分以上	159	10%
60分以上	229	15%
30分以上	425	27%
30分未満	764	48%
合計	1,577	

未回答2人



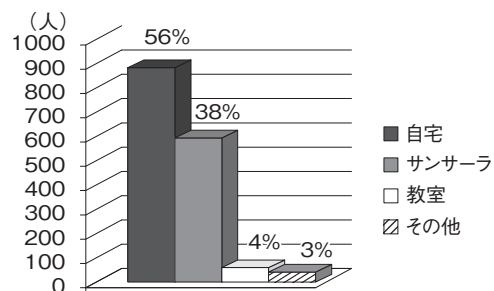
1.3 あなたの自宅にインターネット環境はありますか？

有無	人数	比率
はい	1,410	90%
いいえ	151	10%
合計	1,561	

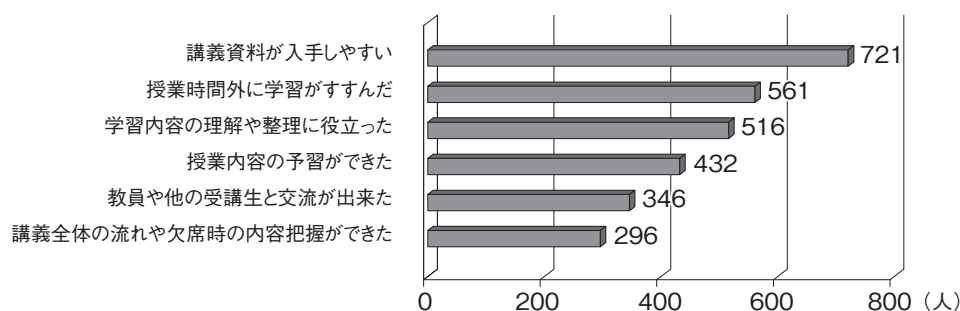


1.4 e-Learningは主にどこでやってますか？

場所	人数	比率
自宅	883	56%
サンサーラ	593	38%
教室	59	4%
その他	41	3%
合計	1,576	



1.5 e-Learningを活用することで学習効果があったことは何ですか？（複数回答可）



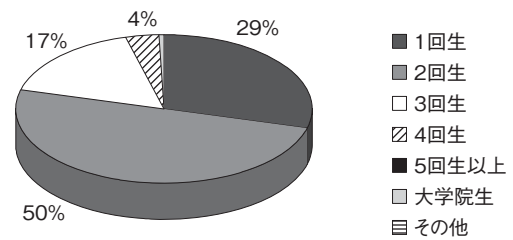
学習効果	人数	比率
講義資料が入手しやすい	721	25%
授業時間外に学習がすすんだ	561	20%
学習内容の理解や整理に役立った	516	18%
授業内容の予習ができた	432	15%
教員や他の受講生と交流が出来た	346	12%
講義全体の流れや欠席時の内容把握ができた	296	10%
合計	2,872	

2. 秋学期のアンケート結果

回答	1,430
のべ人数	5,041
のべ回答率	28.4%

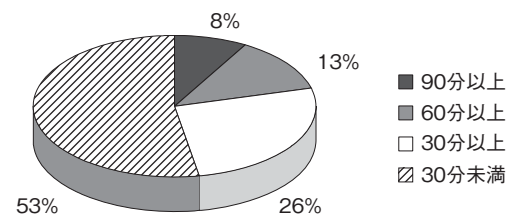
2.1 あなたは何回生ですか？

回生	人数	比率
1回生	417	29%
2回生	715	50%
3回生	239	17%
4回生	52	4%
5回生以上	1	0%
大学院生	6	0%
その他	0	0%
合計	1,430	



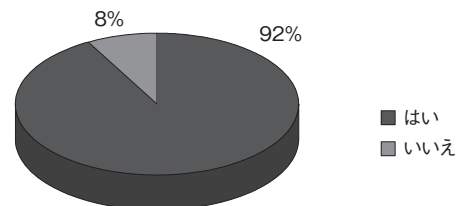
2.2 この科目について予習・復習はどれくらいしましたか？

時間	人数	比率
90分以上	120	8%
60分以上	179	13%
30分以上	376	26%
30分未満	755	53%
合計	1,430	



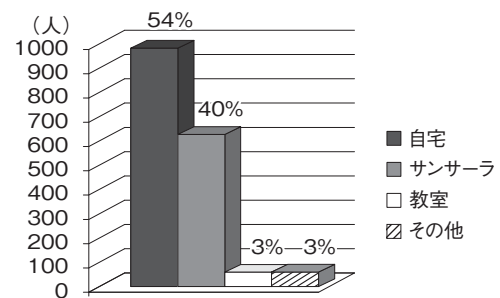
2.3 あなたの自宅にインターネット環境はありますか？

有無	人数	比率
はい	1,315	92%
いいえ	115	8%
合計	1,430	

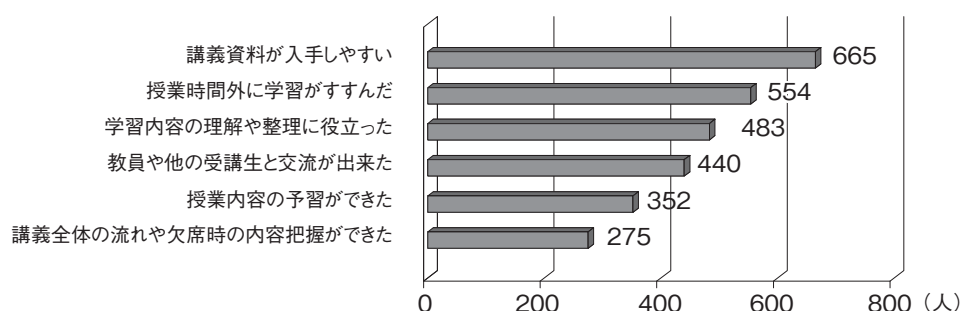


2.4 e-Learningは主にどこでやってますか？

場所	人数	比率
自宅	971	54%
サンサーラ	724	40%
教室	45	3%
その他	48	3%
合計	1,788	



2.5 e-Learning を活用することで学習効果があったことは何ですか？（複数回答可）



	人数	比率
講義資料が入手しやすい	665	24%
授業時間外に学習がすすんだ	554	20%
学習内容の理解や整理に役立った	483	17%
教員や他の受講生と交流が出来た	440	16%
授業内容の予習ができた	352	13%
講義全体の流れや欠席時の内容把握ができた	275	10%
合計	2,769	

3. 傾向

2009年度と同様、春学期と秋学期とでは時間割が異なるため、両学期の活用人数を比べることはできない。また、授業ごとに教授法が異なるため、活用の目的や状況を比べることもできないが、ここでは、本学における e-Learning のおおむねの活用状況及び傾向について記述する。

(1) e-Learning を活用している回生

e-Learning を活用している授業は2回生の科目に多い。

(2) 1回の授業の予習復習の時間

両学期ともに1科目あたりの予習復習時間が30分未満である学生が50パーセント程度をしめる。予復習をすることが少ない傾向があると言われる最近の学生にとって、本学の e-Learning がどのくらい有効なものであるかという効果の測定をする必要があると考えられる。

(3) 自宅のインターネット環境の有無

90パーセント程度の学生が自宅にインターネット環境を有している。これは昨年度と同じ傾向である。

(4) e-Learning を行う場所

自宅とサンサーラで e-Learning を行っていることが多い。

(5) e-Learning と情報収集

春学期では 24 パーセント、秋学期では 25 パーセントの学生が、講義資料の入手のために e-Learning を活用していることが分かる。デジタルコンテンツ・教材箱の活用は教員にとっても、学生にとっても有効であるが、著作権等にも配慮が必要である。

(6) e-Learning と授業時間外の学習

20 パーセント以上の学生が授業時間外の学習に e-Learning を活用している。学生が自身のスケジュールによって e-Learning を有効に活用していると考えられる。

謝辞

本稿執筆にあたっては、教育研究連携調査課の協力を得た。感謝致します。

FD Review

FD Review

活動報告

FD

クリッカーの試用経験

教授法開発室員 漆 葉 成 彦

クリッカーについて

クリッカーとは、配付されたりモコンを使って学生が授業に参加する、参加型授業支援ツールである。教員の質問に対する答を学生がリモコンで送信すると、その結果が教員のコンピュータで即時に集計されるというものである。今回京都FD開発推進センターの指導の下、クリッカー（EduClick3.0）を用いる機会があったので、その試用経験について報告する。

試用の動機

保健医療技術学部の授業の多くは資格取得のための科目であり、知識と技術を確実に獲得することがその目的となる。技術の獲得を目的とする科目の多くは演習あるいは実習形式で行なわれるので、授業中に個々の学生の理解度を評価することは比較的容易である。しかし知識の獲得を主な目的とする科目の多くは一方向的な授業であるため、授業中に随時学生の理解度を評価し、これを授業に反映させることは難しい。従来は小テストあるいは学生への質問という形でこの欠点を補ってきたが、いずれも十分とはいえない。小テストは個々の学生の理解度を容易に評価することができるが、その結果によってその場でただちに更なる説明を加えることは難しい。授業の中で学生にマイクを向ける、あるいは挙手をさせるといった方法は、その結果を授業に反映させることは容易であるが、質問に答えられない、あるいは挙手しない学生が多いため、理解度の正確な評価は困難である。

知識の獲得を主な目的とする授業におけるクリッカーの有用性を確かめるために、今回クリッカー（EduClick3.0）を試用してみた。

科目の概要

授業科目 精神医学

登録学生数 88名

授業の概要

保健医療技術学部第2学年秋学期に開講される卒業必修科目である。理学療法学科・作業療法学科両方の学生にとって、国家試験受験の際に必要な知識を学ぶ機会である。

また作業療法学科の学生にとっては、精神医学の十分な知識がなければ精神科医療機関における臨床実習が困難なものとなる。

授業の内容は、精神医学および精神科リハビリテーション学の知識から精神保健行政の基礎まで含まれる非常に幅広いものであり、15回の授業回数は十分ではない。一部の内容について深く講義し、他の内容については学生の自習で補うという授業形式も可能ではあるが、国家試験に直結する科目であるため「すべての範囲について授業してほしい」というのが多くの学生の希望である。教科書を指定しているが、必要な内容を要約したレジュメを中心に授業を行っている。

クラスの状況

理学療法学科、作業療法学科合同の授業である。いずれの授業にも共通することであるが、意欲が高く積極的に学習する群と、意欲の低い群の差は大きい。またこの授業では学科により学習の意味が異なる（理学療法学科の学生にとってはあくまで国家試験対策、作業療法学科の学生にとっては国家試験対策以外に臨床実習と将来の職場に必要な知識の獲得）という特徴がある。

クリッカーの使用状況

使用機器

- ノートパソコン
- 赤外線レシーバー
- 学生用リモコン
- 教員用リモコン
- プロジェクター

使用目的

使用目的は、(1) 小テストの形で前回の授業を復習する、(2) 授業中の理解度を確認し追加の説明を行なう、(3) 出席を確認する、(4) 学生の集中度を高める、の4点とした。

授業への利用

レジュメにそった授業の中で、教員が適宜4～5者択一の質問をし、それに対し学生が自分のリモコンで答える。その結果によって教員が追加の説明を行なう、という形で授業を運営した。質問は、あらかじめ作成しておいたもの（通常クイズ形式）と、授業の流れでその場で作成したもの（即問即答形式）の両方を用いた。

授業の進め方

(1) 各学生にあらかじめ割り当てた番号のリモコンを配布する。当初はこのために10分

以上の時間を要したが、学生が慣れてくると5分程度で終わった。

- (2) 授業開始直後に、出席確認の意味でいくつかの質問をした（「前回の授業の内容はよく理解できましたか?」、「前回の授業の復習をしましたか?」といった内容）。
- (3) 前回の授業の内容から作成した質問（4～5者択一、10問を5分程度で）を、小テストとして行なった。すべての質問が終了した後に、質問項目を中心とした復習を10分程度で行なった。小テストの項目を印刷物として配布はしなかった。
- (4) 授業の小項目毎に1～2問の質問をし、理解度を確認し、その場で学生に結果を返す。
- (5) 学生の集中度が落ちてきたと思われる時に、適宜「即問即答」形式の質問をする。
- (6) 授業終了後、リモコンを回収する。当初は、学生がリモコンをばらばらに返却してくるため整理に時間を要したが、次第に数人の学生が並べ方を指示してくれるようになり、短時間での回収が可能となった。

結果の解析

EduClick3.0であらかじめ作成しておいた質問は自動的に採点でき、その結果はCSV形式での保存が可能である。

使用結果

教員としての感想

授業の準備は、当初は20分程度かかるが、教員・学生の双方が慣れてくると5分程度で可能である。ティーチング・アシスタントの必要性は感じなかった。

出席の管理は、楽にできる。ただし今回の試用では、出席をとる時刻を学生にきっちり告知していなかったことと、一人の学生が複数のリモコンを持ちいわゆる代返行為を行なうこともあったことから、学生の間では多少の不公平感もあったかもしれない。

小テストとしての使用は、準備、採点とも従来の紙で行なう方法よりもはるかに楽である。またその場で結果が返せるという利点がある。

小項目毎に確認の質問をしていると、授業の進度は遅くなる。

遅刻者、途中退室者は減る。居眠りする学生は、かなり減る。ただし、特にクリッカー使用時に私語が増える。

総じて、授業管理のためには非常に便利な道具であるといえる。

学生の感想

授業評価アンケートでクリッカーの感想を尋ねた。学生の感想は好意的なものが多かったが、否定的なものも少なからずみられた。

好意的な意見としては、

- ・面白い。
- ・ゲーム感覚で勉強できる。
- ・眠くなりにくい。
- ・答えがすぐにわかるので勉強しやすい。

- ・経験したことがない機器に興味を持てた。
- それに対し、否定的な意見としては、
- ・リモコンの配布・回収が面倒。
 - ・小テストの質問項目が印刷物として返却されないので、復習がしにくい。
 - ・リモコンで答えるよりも紙に直接手で答えを書く方が覚えやすい。
 - ・小テストの際にレジメを見たりする不正行為が多い。
 - ・私語が多い。
 - ・理解の程度をみるためだけなら、挙手させればよいことであり、あえてクリッカーを使う必要は感じない。
 - ・毎回使われると飽きる。
- といったようなものであった。

授業の達成度

授業の進度は、クリッカーを使用することによって遅くなった。最終的にはシラバスで予定していた進度より遅れたため、数回の授業は2回分の内容を1講時で行なわざるを得なくなった。

小テストの成績と定期試験の成績との間には明確な相関関係がなかった。ただし、授業中の受講態度と小テストの成績との間には、相関があるように思われる。

定期試験の成績は、昨年度とほぼ同程度であった。

考察

知識の獲得を主な目的とする授業で、クリッカーを試用してみた。

教員の立場から、クラスを管理するための道具としては、クリッカーは大変便利なものである。従来出席管理や小テストの採点・返却等に要した時間はほとんど不要となる。しかし、学生の感想（授業アンケートの自由記述欄からのものなので、実際に答えた学生の数は半数に満たなかったのであるが）が、思いの外教員の予想と乖離していたことからみて、今回の方式でのクリッカー使用が直ちに学生の満足度を上げるとは言えないだろう。また、授業の達成度を試験の成績のみで評価するわけにはいかないというものの、少なくとも今回の試用ではクリッカーが学生の知識獲得に有用であったと結論することはできない。

知識の獲得を目的とする授業において、クラス管理の道具としての便利さに流されてクリッカーを漫然と使用することにはあまり意味がないようである。クリッカーを単に便利な道具ではなく教員、学生の双方にとって有益な道具とするためには、知識伝達中心の授業であってもまず学生の学習態度を養成する様々な試みをした後に使用すべきものであると考える。

育
教
前
學
入

FD Review

FD Review

入学前教育

教授法開発室員 小林 隆

1. はじめに

本学では、2003年度入試より早期に合格が決定した入学予定者に対し、大学に対する理解や学習への不安緩和を目的に入学前教育を実施している。入学前教育のプログラム内容は教授法開発室を中心に検討がなされ、毎年少しずつではあるが改善を図っている。2011年度入学予定者を対象とする入学前教育は、基礎学力調査の結果や本学教員の意見を参考として更なる改善を加え、在宅での学習（レポート学習や教材学習）と本学キャンパスで実施する授業体験（名称：エンジョイ！キャンパスライフ）をバランス良く組み合わせることで「基礎学力の向上」だけでなく「学習意欲の向上」や「入学への不安解消」を可能とするプログラムとした。

2. 入学前授業の目的

今年度の入学前教育の実施にあたり、まず目的の確認を行った。

【表 1：入学前教育の目的】

	2010年度	2011年度
入学前教育の目的	①本学に対する理解 ②学科に対する理解 ③学習意欲の向上 ④学習に対する意識づけ ⑤学習への不安緩和	左の5点に加え ⑥リメディアル教育 ⑦入学前の学生間ネットワークの構築
プログラム	統一プログラム	学力別に3プログラムを用意
学習サポート コミュニケーションツール	特に無し	縁 SNS

【表 2：コース毎の重点的課題】

	基本的な目的	重点的課題
Aコース 課外・ス強・ 宗門	①本学に対する理解の向上 ②学部（学科）に対する理解の向上。 ③学習意欲の向上 ④学習に対する意識づけ ⑤学習への不安緩和	①リメディアル教育 ②入学前の学生間ネットワークの構築
Bコース AO・指定 連携・同窓 帰国		①入学前の学生間ネットワークの構築

※課外＝特別推薦入試＜課外活動＞、ス強＝特別推薦入試＜スポーツ強化枠＞、宗門＝宗門後継者入試、AO＝AO選抜、指定＝特別推薦入試＜指定校＞、連携＝特別推薦入試＜教育連携校＞、同窓＝同窓入試、帰国＝帰国生徒入試。

大学における導入教育の目的は様々であるが、本学では表1のように目的を整理した。2010年度の入試種別毎に「基礎学力調査」等の結果を追跡した結果、それぞれの課題が明らかとなった。特にAコースでは「リメディアル教育」の必要性が指摘され、本年度の目的に明確に位置づけた。また、入学後の「縁プログラム」への円滑な導入をねらい、SNSを利用した「入学前の学生間ネットワークの構築」を加えた。入学前教育の基本的な目的とグループ毎の重点的課題は表2の通りである。

3. 入学前授業の実施

(1) プログラムの概要とスケジュール

【表3：プログラムの概要】

		エンジョイ！キャンパス ライフ 2011（授業体験）	自宅学習課題		
			レポート課題	国語教材（上級）	国語教材（初級）
A コ ー ス	特別推薦入試 ＜課外活動＞	◎（3回）		◎ ← プレスメントテストで判定 → ◎	
	特別推薦入試 ＜スポーツ強化枠＞	◎（3回）		◎ ← プレスメントテストで判定 → ◎	
	宗門後継者入試	◎（3回）		◎ ← プレスメントテストで判定 → ◎	
B コ ー ス	AO選抜	◎（2回）	◎		
	特別推薦入試 ＜指定校＞	◎（2回）	◎		
	特別推薦入試 ＜教育連携校＞	◎（2回）	◎		
	同窓入試	◎（2回）	◎		
	帰国生徒入試	◎（2回）	◎		
	特別推薦 ＜法人系列校＞	◎（2回）	◎		

Aコース（特別推薦入試＜課外活動・スポーツ強化枠＞、宗門後継者入試）の自宅学習課題は、事前にプレスメントテストを行い、その習熟度によって「初級」と「上級」に分けて教材を選定した。この取り組みは今年度より始めた。

Bコース（AO選抜・特別推薦入試＜指定校・教育連携校・法人系列校＞、同窓入試、帰国生徒入試）では「学習に対する意識づけ」を目的に、各学科の担当教員が入学予定生徒に課題を与え、在宅でのレポート作成と添削によって実施した。この取り組みは、昨年度は全グループで実施した。

さらに、3グループ全ての入学予定生徒に対する「本学に対する理解」「学科に対する理解」「学習意欲の向上」「学習に対する意識づけ」「学習への不安緩和」「入学前の学生間

ネットワークの構築」のために、2度の授業体験（「エンジョイ！キャンパスライフ 2011」）を行った。この取り組みも今年度より始めた。

これらのコースの具体的なスケジュールは、表4の通りである。

【表4：プログラムのスケジュール】

	12月	1月	2月	3月
Aコース 特別推薦入試 <課外活動> <スポーツ強化枠> 宗門後継者入試	プレ・エンジョイ！ キャンパスライフ	①テキスト課題の提出は郵送で。 ②テキスト課題の中での問題点(つまづきは)録1で教員に相談。 ③支援上回生にSNSで相談可。 自宅学習課題(国語教材)	第1回エンジョイ！ キャンパスライフ	自宅学習課題(国語教材) 第2回エンジョイ！キャンパスライフ (講演会・授業体験) ※学科別
Bコース AO選抜 特別推薦入試 <指定校> <教育連携校> 同窓入試 帰国生徒入試		①学科毎のレポート課題を課す ②課題の提出は期限までに郵送 ③課題の中での問題点(つまづきは)録1で教員に相談。 ④支援上回生にSNSで相談可。 自宅学習課題(レポート課題①)	第1回エンジョイ！キャンパスライフ (自校・学科面談・上回生交流)	自宅学習課題(レポート課題②) 第2回エンジョイ！キャンパスライフ (講演会・授業体験) ※学科別
Bコース 特別推薦入試 <法人系列校>			自宅学習課題(レポート課題②) 第1回エンジョイ！キャンパスライフ (自校・学科面談・上回生交流)	自宅学習課題(レポート課題②) 第2回エンジョイ！キャンパスライフ (講演会・授業体験) ※学科別

(3) 授業体験

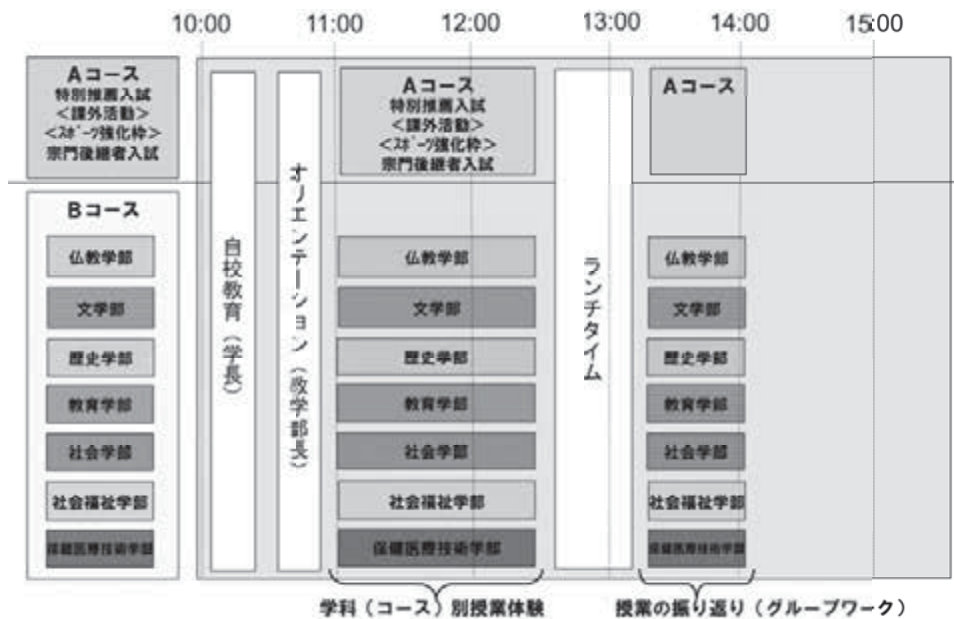
授業体験では、まずAコースの生徒が、自宅学習課題に取り組むにあたって高校での学習到達度を測る（プレメントテスト）ために「プレ・エンジョイ！キャンパスライフ 2011」をおこなった。詳細は、表5の通りである。

【表5：プレ「エンジョイ！キャンパスライフ 2011」 = (Aコースのみ)】

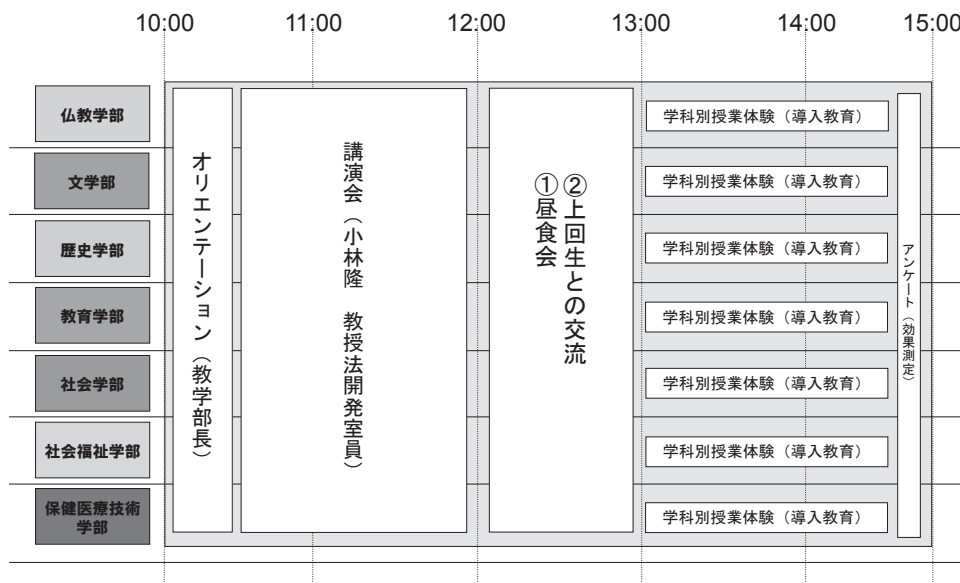
	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00
Aコース 特別推薦入試 <課外活動> <スポーツ強化枠> 宗門後継者入試	①オリエンテーション	②課題説明	プレメントテスト	①録SNS要録説明会 ②先輩学生との交流会 ③昼食	①何でも質問コーナー ②先輩学生との交流	
Bコース AO選抜 特別推薦入試 <指定校> <教育連携校> 同窓入試 帰国生徒入試	Bグループ対象外。 自宅学習課題(レポート課題)					
Bコース 特別推薦入試 <法人系列校>	合格発表前につき対象外。					

全コース対象の第1回・第2回「エンジョイ！キャンパスライフ2011」は、学長による「自校教育」と教学部長によるオリエンテーション、室員と学科教員による授業体験を内容とした。さらに、「入学前の学生間ネットワークの構築」をねらい、入学予定生徒同士の交流や上回生との昼食を兼ねた交流と縁 SNS への登録を行った。詳細は表6・表7の通りである。また、教育学部への入学予定の教育連携校生徒（平城・高田・塔南）は高校での専門研究の更なる深化をねらい、一部別日程で入学前教育を行った。

【表6：第1回「エンジョイ！キャンパスライフ2011」】



【表7：第2回「エンジョイ！キャンパスライフ2011」】



4. 入学前教育の成果と課題

入学前授業の目的は、次の7点であった。今年度の入学前授業で果たしてこれらの目的は達せたのだろうか。

- ① 本学に対する理解
- ② 学科に対する理解
- ③ 学習意欲の向上
- ④ 学習に対する意識づけ
- ⑤ 学習への不安緩和
- ⑥ リメディアル教育
- ⑦ 入学前の学生間ネットワークの構築

本稿の巻末にアンケート結果を掲載している。これら入学予定生徒の声を概観すると、入学前教育の目的は概ね達成できたと言える。ただ、リメディアル教育の成果は新年度4月に実施する基礎学力調査などを、その他の成果も入学後数年の追跡調査を精査していく必要がある。これらの追跡調査を分析して今一度入学前教育の成果と課題を明らかにし、今後のあり方を全学で議論していくことが大切である。



2011 年度エンジョイ！キャンパスライフ 2011 参加者一覧

2011 年度 <プレ>エンジョイ！キャンパスライフ 2011

対象者数	対象者	参加者	参加率	
A コース	仏教	22	15	68.2%
	日本文	5	2	40.0%
	中国	1	1	100.0%
	英米	0	0	-
	歴史	2	2	100.0%
	歴史文化	0	0	-
	教育	2	0	0.0%
	臨床心理	0	0	-
	現代社会	8	2	25.0%
	公共政策	7	2	28.6%
	社会福祉	10	5	50.0%
	理学療法	0	0	-
	作業療法	0	0	-
合計	57	29	50.9%	

2011 年度 第1回エンジョイ！キャンパスライフ 2011

対象者数	対象者	参加者	参加率	
A コース	仏教	22	12	54.5%
	日本文	5	2	40.0%
	中国	1	1	100.0%
	英米	0	0	-
	歴史	2	1	50.0%
	歴史文化	0	0	-
	教育	2	0	0.0%
	臨床心理	0	0	-
	現代社会	8	2	25.0%
	公共政策	7	2	28.6%
	社会福祉	10	6	60.0%
	理学療法	0	0	-
	作業療法	0	0	-
小計	57	26	45.6%	

対象者数	対象者	参加者	参加率	
B コース	仏教	4	2	50.0%
	日本文	12	9	75.0%
	中国	6	4	66.7%
	英米	15	9	60.0%
	歴史	15	13	86.7%
	歴史文化	10	6	60.0%
	教育	33	21	63.6%
	臨床心理	8	6	75.0%
	現代社会	29	21	72.4%
	公共政策	20	18	90.0%
	社会福祉	42	33	78.6%
	理学療法	5	5	100.0%
	作業療法	7	6	85.7%
小計	206	153	74.3%	
合計	263	179	68.1%	

2011年度 第2回エンジョイ！キャンパスライフ2011

対象者数	対象者	参加者	参加率	
A・Bコース	仏教	26	12	46.2%
	日本文	17	10	58.8%
	中国	7	4	57.1%
	英米	15	8	53.3%
	歴史	17	13	76.5%
	歴史文化	10	9	90.0%
	教育	35	27	77.1%
	臨床心理	8	5	62.5%
	現代社会	37	23	62.2%
	公共政策	27	15	55.6%
	社会福祉	52	36	69.2%
	理学療法	5	4	80.0%
	作業療法	7	4	57.1%
合計	263	170	64.6%	



入学前教育 アンケート集計結果

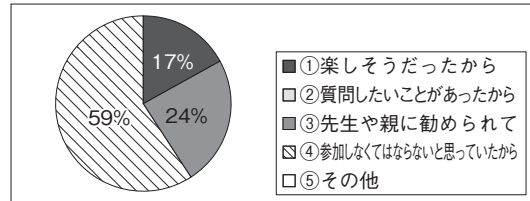
エンジョイ！キャンパスライフ 2011
2010/12/19 参加者アンケート結果

【参加動機】

Q1 本日、エンジョイ！キャンパスライフに参加した理由を教えてください。

①	楽しそうだったから	5
②	質問したいことがあったから	0
③	先生や親に勧められて	7
④	参加しなくてはならないと思っていたから	17
⑤	その他	0

総回答者数 29

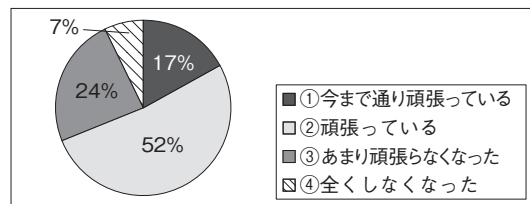


【学習状況】

Q2-1 合格後、高校での学習にどのように取り組んでいますか。

①	今まで通り頑張っている	5
②	頑張っている	15
③	あまり頑張らなくなった	7
④	全くしなくなった	2

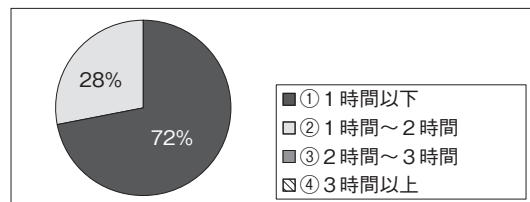
総回答者数 29



Q2-2 合格後、勉強に費やす時間はどの位ですか。

①	1時間以下	21
②	1時間～2時間	8
③	2時間～3時間	0
④	3時間以上	0

総回答者数 29

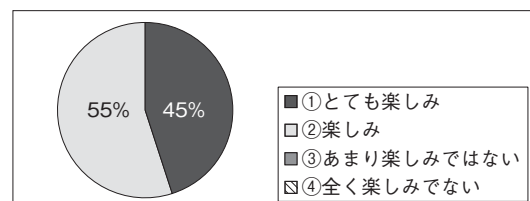


【入学に向けた心境】

Q3-1 合格した後、佛教大学への入学を楽しみにしていますか。

①	とても楽しみ	13
②	楽しみ	16
③	あまり楽しみではない	0
④	全く楽しみでない	0

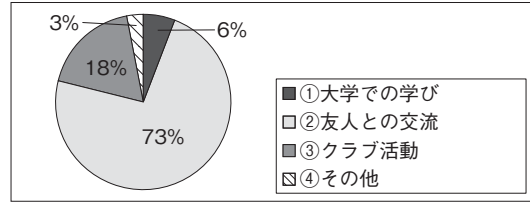
総回答者数 29



【入学に向けた心境】

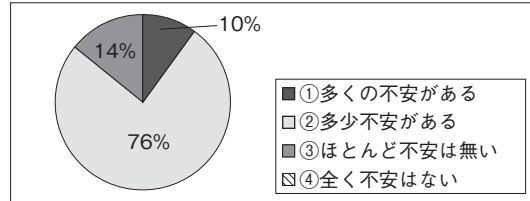
Q3-2 入学後楽しみにしていることは何ですか。

①	大学での学び	2
②	友人との交流	24
③	クラブ活動	6
④	その他	1
		総回答者数 33



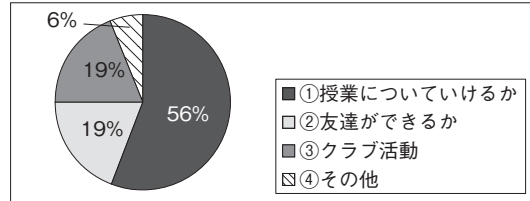
Q3-3 合格した後、大学生になる事について不安はありますか。

①	多くの不安がある	3
②	多少不安がある	22
③	ほとんど不安は無い	4
④	全く不安はない	0
		総回答者数 29



Q3-4 入学後に不安に思っていることは何ですか。

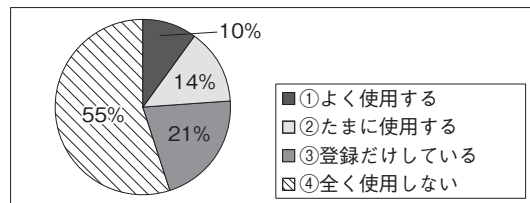
①	授業についていけるか	18
②	友達ができるか	6
③	クラブ活動	6
④	その他	2
		総回答者数 32



【SNS の活用状況】

Q4-1 現在 Mixi (ミクシィ) などの SNS を使用していますか？

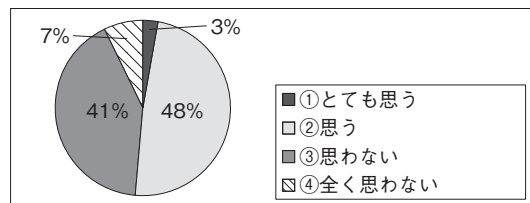
①	よく使用する	3
②	たまに使用する	4
③	登録だけしている	6
④	全く使用しない	16
		総回答者数 29



【SNS の活用状況】

Q4-2 そのような SNS を使用して佛教大学の先輩や、同級の入学予定者と交流したいと思いますか。

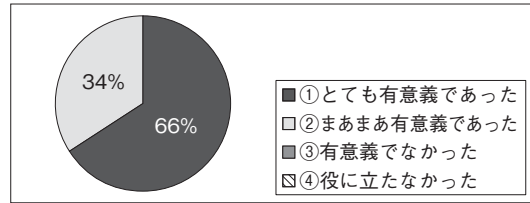
①	とても思う	1
②	思う	14
③	思わない	12
④	全く思わない	2
		総回答者数 29



【参加後の満足度】

Q5-1 本日参加した感想

①	とても有意義であった	19
②	まあまあ有意義であった	10
③	有意義でなかった	0
④	役に立たなかった	0
総回答者数		29



【自由感想】

Q6 本日参加した感想をできるだけたくさん書いてください。今後の要望もけっこうです。

- ・大学で分からなかった事が分かり、大学生活が楽しみになった。
- ・良かった。
- ・とても良かったとおもいます。
- ・学校をまわって、学校にふれられてよかった。大学生活をはやくはじめたくなった。
- ・知らない人ばかりだったが、2人1組でアンケートを答えるなどのことがあり、知り合いになるチャンスがあってよかった。
- ・佛教大学がどんな学校かを知れた。これからこの学校で勉強するんだと実感しました。
- ・質問に対して先輩方や先生方がていねいに答えて下さったり、優しい先輩と交流できて楽しかった。
- ・教えてくれる大学生の人も行動する同級生もいい人であった。友達ができたのはうれしいです。
- ・最初とても不安だったけど、とても楽しく先輩に学校を紹介していただいて、来てよかったと思います。
- ・良い先輩ばかりですごくいい時間をすごせたのもっと大学生活が楽しみになった。
- ・今日は、色々教えてもらえて不安も減ったし、参加して良かったです。ありがとうございました。
- ・先輩方にいろいろアドバイスをもらえてよかった。
- ・先輩方がとてもやさしくたくさん話してくれたし、良い人ばかりでした。今後入学してからもたくさんの人たちと交流して有意義な大学生活を送りたいです。
- ・大学の中を案内してもらってどこで何をすることが分かってよかった。
- ・大学の構造や、大学での過ごし方について聞き、少し大学のことがわかってきました。
- ・先輩といろいろ校舎を周ったり、アドバイスを聞いて、とても為になりました。
- ・少し時間が長い気がしました。
- ・大学について先輩方に色々教えてもらったので良かったです。
- ・色々な話を聞いて、それで大学も色々な所へ案内してもらったので良かったです。楽しくできたので良かったです。
- ・思ったより楽しく、テストも国語だけだったので良かったです。
- ・大学のことが分かったし、先輩も優しく接して下さったので、とても楽しかったです。ありがとうございました！！
- ・先輩らがおもしろかったです。
- ・大学生の人と喋れたのが良かったと思います。
- ・思っていたよりも楽しく、大学について本当によくわかった。今後も楽しく学校についてよく知っていこうと思った。

入学前教育 アンケート集計結果

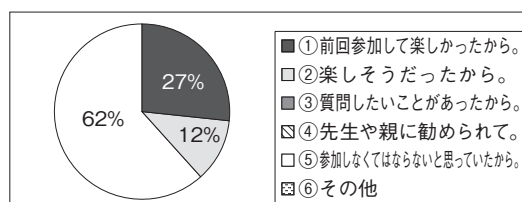
エンジョイ！キャンパスライフ 2011 2011/2/20 参加者アンケート結果（A コース）

【参加動機】

Q1 本日、エンジョイ！キャンパスライフに参加した理由を教えてください。（複数回答可）

①	前回参加して楽しかったから。	7
②	楽しそうだったから。	3
③	質問したいことがあったから。	0
④	先生や親に勧められて。	0
⑤	参加しなくてはならないと思っていたから。	16
⑥	その他	0

総回答者数 26

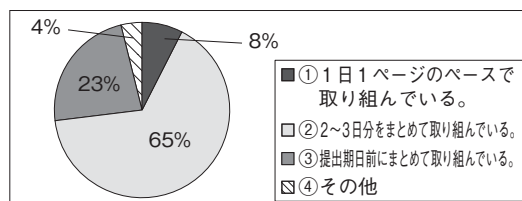


【自宅学習課題の学習状況】

Q2-1 自宅学習課題の取り組みについて教えてください。

①	1日1ページのペースで取り組んでいる。	2
②	2～3日分をまとめて取り組んでいる。	17
③	提出期日前にまとめて取り組んでいる。	6
④	その他	1

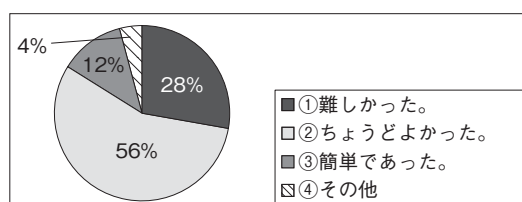
総回答者数 26



Q2-2 自宅学習課題の難易度について教えてください。

①	難しかった。	7
②	ちょうどよかった。	14
③	簡単であった。	3
④	その他	1

総回答者数 25

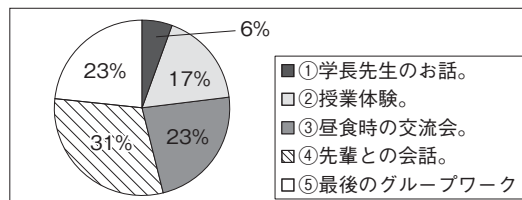


【プログラムについて】

Q3-1 本日のプログラムの中で、大学入学への期待が高まったものは何ですか。（複数回答可）

①	学長先生のお話。	3
②	授業体験。	9
③	昼食時の交流会。	12
④	先輩との会話。	16
⑤	最後のグループワーク	12

総回答者数 52



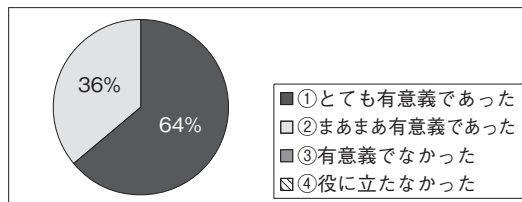
Q3-2 今日のような入学前教育（入学への準備教育）の取り組みとして、希望する企画やイベントがあれば自由に書いてください。

・グループで分けずに全体で交流できればよい

【参加の感想】

Q4-1 本日、参加してみてどのように感じましたか。

①	とても有意義であった。	16
②	まあまあ有意義であった。	9
③	有意義でなかった。	0
④	役に立たなかった。	0
総回答者数		25



【自由感想】

Q4-2 今日のような入学前教育（入学への準備教育）の取り組みとして、希望する企画やイベントがあれば自由に書いてください。

- ・とても先輩が優しくかったです。
- ・様々な人としゃべることができて楽しかったです。
- ・特に無し
- ・先輩と色々しゃべれておもしろかったです。
- ・今日参加したことで大学での授業がどんな風なのかわかってよかったと思う。
- ・いろんな人と友達になれたし、同じ学科の人ともたくさん話が出来たので、良かったです。
- ・サンドイッチの美味しい作り方がよかった。いろんな人と交流できたと思う。
- ・サンドイッチの話を聞いてノートをとっていたけど、けっこうしんどかった。
- ・グループワークが楽しかったです。授業に慣れるか不安になった。
- ・参加出来て友達が増えたと思います。グループワークが一番もり上って良かったと思います。
- ・前回よりいろんな人達と交流できて楽しかった。
- ・とても楽しかったです。
- ・今日は新しい友達が増えて、楽しくできたので良かったです。
- ・いろいろな人と会話が出来て、大学生活の実感が強まったので良かったです。
- ・たくさんの人と話が出来て良かったです。先輩の方の話を聞いて、とても自分のためになりました。大学はもっと難しいイメージがあったけど、授業の体験などができて良かったです。
- ・友達が増えた。大学では単位が本当に重要というのがわかった。
- ・いろんな人と交流できて楽しかった。先輩の話も面白かった。
- ・体験授業が身にしみた。次も楽しみだ。
- ・3月20日のエンジョイ！キャンパスライフもたのしみだ。

入学前教育 アンケート集計結果

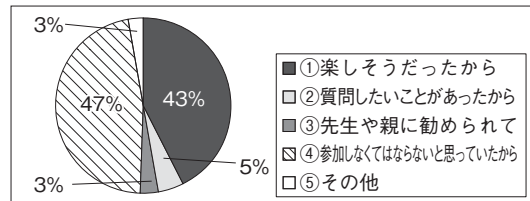
エンジョイ！キャンパスライフ 2011
2011/2/20 参加者アンケート結果（Bコース）

【参加動機】

Q1 本日、エンジョイ！キャンパスライフに参加した理由を教えてください。

①	楽しそうだったから	64
②	質問したいことがあったから	7
③	先生や親に進められて	5
④	参加しなくてはならないと思っていたから	70
⑤	その他	4

総回答者数 150

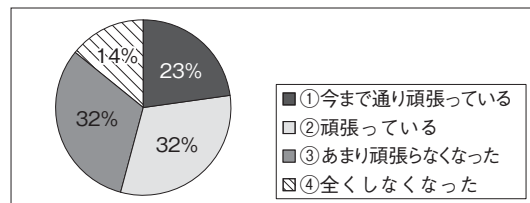


【学習状況】

Q2-1 合格後、高校での学習にどのように取り組んでいますか。

①	今まで通り頑張っている	34
②	頑張っている	47
③	あまり頑張らなくなった	47
④	全くしなくなった	21

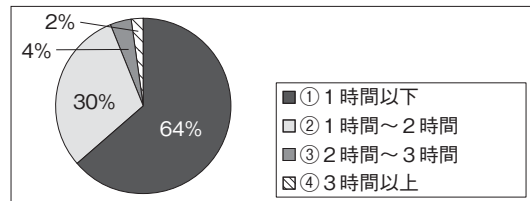
総回答者数 149



Q2-2 合格後、勉強に費やす時間はどの位ですか。

①	1時間以下	95
②	1時間～2時間	45
③	2時間～3時間	6
④	3時間以上	3

総回答者数 149

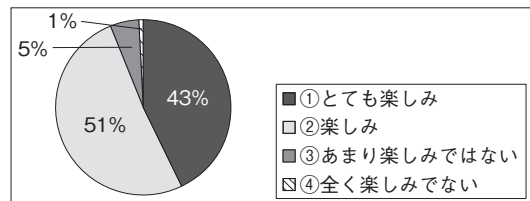


【入学に向けた心境】

Q3-1 合格した後、佛教大学への入学を楽しみにしていますか。

①	とても楽しみ	64
②	楽しみ	76
③	あまり楽しみではない	8
④	全く楽しみでない	1

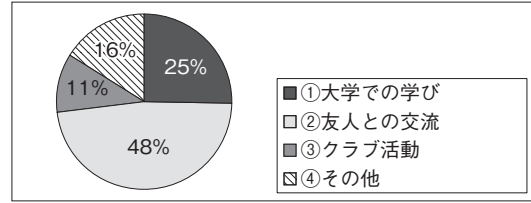
総回答者数 149



【入学に向けた心境】

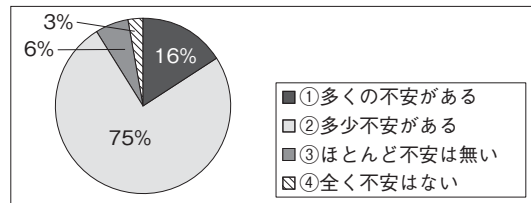
Q3-2 入学後楽しみにしていることは何ですか。

①	大学での学び	38
②	友人との交流	72
③	クラブ活動	16
④	その他	24
総回答者数		150



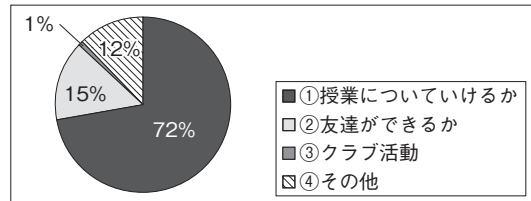
Q3-3 合格した後、大学生になる事について不安はありますか。

①	多くの不安がある	24
②	多少不安がある	112
③	ほとんど不安は無い	9
④	全く不安はない	4
総回答者数		149



Q3-4 入学後に不安に思っていることは何ですか。

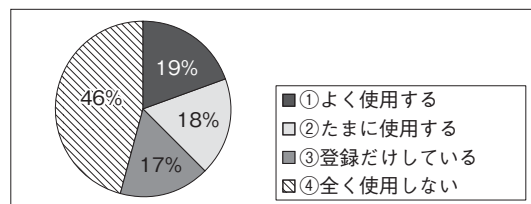
①	授業についていけるか	107
②	友達ができるか	22
③	クラブ活動	1
④	その他	18
総回答者数		148



【SNS の活用状況】

Q4-1 現在 Mixi（ミクシィ）などの SNS を使用していますか？

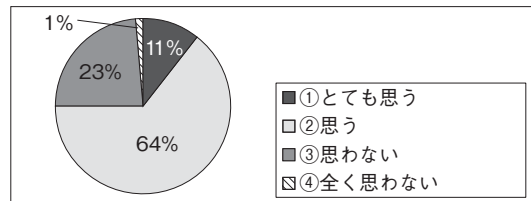
①	よく使用する	29
②	たまに使用する	27
③	登録だけしている	25
④	全く使用しない	68
総回答者数		149



【SNS の活用状況】

Q4-2 そのような SNS を使用して佛教大学の先輩や、同級の入学予定者と交流したいと思いますか。

①	とても思う	16
②	思う	96
③	思わない	35
④	全く思わない	2
総回答者数		149

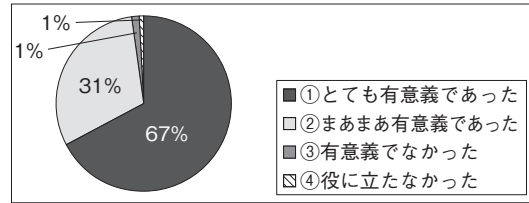


【参加後の満足度】

Q5-1 本日参加した感想

①	とても有意義であった	101
②	まあまあ有意義であった	46
③	有意義でなかった	2
④	役に立たなかった	1

総回答者数 150



【自由感想】

Q6 本日参加した感想をできるだけたくさん書いてください。今後の要望も教えてください。

- ・初めて知りあった人達と仲良くなれたし、先輩もとても親切に大学の事をいろいろ教えてくださいましたので、楽しかったです。
- ・先生が優しく、わかりやすく説明してくれたので、大体の事はわかりました。
- ・実際に話をきいたりDVDを見たり、先輩方との交流ができて良かったです。今までよりも興味がわきました。
- ・大学についていろいろ聞けたのでためになりました。
- ・あんまり自由に話しをしたり出来なかったけど、もっと友達をたくさんつくって、話せるようになりたい。先輩方と、たくさん交流できたり、話も聞くことが出来て良かった。
- ・レポートの難しさを知った。先輩とお話することができ、少し不安が減りました。
- ・高校とのちがいを教えてもらった。レポートが多いのでちゃんとやっていけるか不安。今日知りあった友だちだけではなく、ほかの子ともしゃべってみたいと思った。先輩がとても優しくかった！
- ・参加するまでは友達ができるかや大学ってどんな所だろうかなど不安も多かったんですが、今日参加してみて一足はやくいろんな人と交流したりいろんなことを知れたのでとてもよい機会になったと思いました。
- ・知らないことが多くてためになった。
- ・大学のことを結構、知ることができたので良かった。先輩も優しく、楽しかったです！
- ・色々きけて良かったです。
- ・友達ができたのでとてもよかった。レポートのことなど高校とは全然違うなど不安もあるが、話を聞いて楽しみだとも思う。
- ・来月も楽しみにします。
- ・曖昧だった大学生活の実態がわかってよかった。
- ・何をしたらいいのかという漠然な不安だったけど、それが詳しくわかったり、不安に思うものの実体がつかめてとてもよかったです。不安はあるけど楽しみもできました。
- ・大学の授業や雰囲気など、全くわからなくて不安だったけど、今日参加してみて、先輩の方々もやさしく、友達とも交流できてよかった。
- ・先生や先輩から色々聞いて、佛大のことが前よりわかった。時間割組むの難しいと思ったし、テストも大変そうなのでがんばりたい！& 4年後論文がしっかりかけるよう今から力をつけたいです。
- ・友達も増え、先輩とも仲良く出来たので、来てよかったと思いました。疑問や不安もいくつか解決できたので、周りの人より大学に入る緊張はゆるいかなと思います。
- ・初めはとても緊張していて、「一人だし不安。」と書いていたのですが、同じ学部に分かれると、すぐに話ができる人ができた。大学について知りたいことを知ることができた。不安はすこしやわらいだので、次回も楽しみです。
- ・大学のことを少しでも知れてよかったです。
- ・初めて参加して、レポートはとくに苦手なので大学に入ってからすごく頑張らないと思いました。
- ・レポートの話を聞いてるとこれからやっていけるのかとても心配です。
- ・初めは参加することに不安があったけれどたくさんの人と交流できて楽しかった。友達もできたので参加してよかったです。
- ・楽しかった。先輩もやさしくって安心した。
- ・レポートとかの話を聞いて、難しそうやなあとか不安もできたけど、授業風景とかを見て安心できた面もありました。思ったよりもかたくなで楽しくて楽しかったです。
- ・レポートの書き方についてくわしく教えてもらったのは初めてだったのでとても役に立ちました。次のレポートはこれを元にして書こうと思います。
- ・先輩の話が聞いてよかった。不安なこともいっぱいあるけれど、早くなじめるようにしたいです。レポートが多くて、高校のときみたいに、一夜づけでできないので、しっかり、がんばりたいです。
- ・高校の時とちがって自分ですることが多くなって、大変だと思うけど、有意義な4年間を過ごしたいと思いました。
- ・とても楽しかった。先輩の話や、先生の話では大学はとても大変そうだし、授業も90分だし、ちょっと不安。
- ・今日、参加して、同じ学科にいく人と交流ができて少し安心しました。大きいキャンパスで授業も自分でとっていかないとけないし、だんだん慣れていきたいです。学校の雰囲気が感じられて、よい時間が過ごせました。
- ・はじめは、女子一人でもとても不安でしたが、先生のお話も、みなさんとの会話もとても楽しく入学が楽しみです。
- ・初めて講義を受けて思っていた通り深い所までやるんだと思い、よりいっそう興味が増えました。
- ・思っているよりも深く授業を進めていたからとてもおどろいたけど、その分、たのしみができてよかった。これからたくさんがんばっていきたくて改めて思うようになった。これからよろしくおねがいします。
- ・導入の部分だったが知らないことがたくさんあり、よい経験ができました。これから入学で学ぶあたり、とても興味がわきました。
- ・家で調べたりしているだけでは分からないことを直に体験できてよかった。
- ・大学生活がどんなものなのかと不安があったので、このような場をもうけてもらってとてもよかった。授業も興味がそそられるものだったので、4月から楽しみです。
- ・今日の授業を体験して大学の授業の事をよく知れたと思うし友達もできたよかったです。

- ・大学の事を知る事ができたのでよかった。
- ・初めて会った人とも交流できてよかった。
- ・体験授業を受けてみて、話を聞いていがいと楽しいなと思いました。また3/20も行くので次はもっと友達を作りたいと思います。
- ・やっぱり入学前に同級生と交流できるのはとても大きいと思った。
- ・次回参加できるかわからないけど、今日これたのは良かったと思います。
- ・たのしかった。
- ・思ったより楽しく来てよかったと思いました。みんなおもしろい人でした。4月からの大学生活が楽しみになりました。
- ・楽しかった。知らない人達と出会い、話したりできたから
- ・同じ班の人と楽しくしゃべれてよかった。また3月20日も行きたいと思う。
- ・楽しかったです。3月もこんなふうにいよいよできたらいいなと思います。
- ・楽しかったです。
- ・大学で勉強していくということが今日で少しわかったような気がしました。
- ・人見知りなので、みんなとうまく交流できるかとてもだったが、たのしくて良かった。
- ・どんな人達と一緒にの学科だとか、ふんいきなどが知れてよかったです。
- ・他の学科の人とかとも話してみたかった！でも、たのしかったです
- ・とても楽しかった！あまり緊張もせずに友だちとも話せて楽しくすごせた。今後がすごい楽しみです。
- ・最初は、友人が出来るかや、なじめるかどうか不安だったけど、大学のことも少し分かり有意義な時間を過ごせました。
- ・レポートを1時間で適当に終わらせてしまって、最悪だったのに、ちゃんと添削してくださった事に感激した。次回のレポートは、もっとマジメにやろうと思います。今日のエンジョイ～キャンパスは、思ったより楽しかったデス！！
- ・思っていたよりも楽しかったです。友達もできて、入学後がより楽しみになりました。
- ・授業もたのしくて他の子とかも仲よくなれたので良かったと思います。先輩方もやさしくて良い方たちでした。
- ・大学の授業というのがどのようなものなのか少しわかったように思う。
- ・初対面は気まずかったがこれが入学時に感じないでいいと思うと気が楽になるので入学前にこのようなことをしてよかった
- ・高校のような聞き中心の授業じゃなくて発言重視の授業が初めての体験だったのですが、楽しくて時間がすぎるのも早く大学生活が楽しみになりました。
- ・今回参加させていただいて、本当に楽しかったし、大学での授業の雰囲気が少しつかめました。ありがとうございました。
- ・すごく楽しかったです。4月からが楽しみになりました。
- ・やっぱり自分の意見を言うのはむずかしいと思った。
- ・最初は不安だったけど授業をうけてすこし不安じゃなくなった。いい経験だった。
- ・目標に向かって頑張っていきたいです。
- ・とてもぎん張した。でも大学だ有意義な生活を過ごすためにはとても良い時間だと思いました。
- ・入学前に一回大学を体験できたので良かったです。
- ・大学について少し知識がふえたのでよかった。
- ・楽しかった
- ・あんまり皆と話すことが出来なかった…。何をしたいのかよくわからなかった(時間が無かったので)
- ・友達出来るかなと思ったけど、結局出来なくてまわりはどんどんできていったので、さらに不安になった。でも頑張っていこうと思える力にはなったと思う。
- ・とても考えさせられる授業だと思いました。とても勉強になりました。
- ・入学する前に同じ学科の人と交流できたし、優しくおもしろい先輩にも出会えたので良かったです！今日参加して、少し不安がなくなりました！！
- ・はじめてのことだらけだったので、良い経験になりました。次の3月20日のエンジョイ！キャンパスライフも楽しみです。
- ・今日きてまあまあ良かった。
- ・友達ができるかすごく不安だったけど、皆良い人たちばかりで安心しました。楽しみになってきました。
- ・色々な事が分かって良かった。
- ・講義がすごく難しかったです。
- ・エンジョイキャンパスライフで大学の授業を経験できたので良かったと思います。
- ・講義をうけて思っていたものとは全く違って、難しそうについていけるか不安になりました。
- ・大学の講義はあまり板書しないのだとあらためてわかった。
- ・楽しかった。専門的でむずかしかった。
- ・大学のことがよくわかり、同級生との交流もあって楽しかったです。
- ・先輩達と交流できて楽しかったです。講義も聞いてよい経験になった。
- ・大学の歴史が自分が思っているよりも難しいとわかった。「人物史」を調べるにはその人物のことだけでなく、その人物の生きた時代や文化も知らなくてはならないと思った。
- ・参加してわからない事がわかるようになったりして少し不安がなくなった。友達も新しくできてよかった。これから佛教大学でいろんな人との交流を大切にしていきたいです。
- ・今日の講義を聞くことができ、歴史を学ぶことに更なる意欲がわきたち、今後の大学生活が、ますます楽しみになった。歴史を学ぶ方法をおそわれば、社会でもやくだつとも思った。
- ・参加してとても良かった。次回も楽しみです。
- ・大学での生活により早くなじめそうで有意義な1日であった。次回の入学前学習も有意義にすごしたい。
- ・とても楽しかったです。僕は空手をやっているの、中国の武道についてはとても興味があります。
- ・楽しかったです。その一言につきます。
- ・中国語を学ぼうとする意欲がわきました。
- ・授業も楽しく聞いて、よかったです。入学前に学習できてよかったと思いました。
- ・教育学部というからには、先生になりたいと思っている人がたくさんいるし、みんな志を持っているなど強く感じた。授業を受けて友達と話あったりするのがとても楽しみだと思います。
- ・大学で何をするのか、どんな授業なのか分かりました。高校の授業とはぜんぜんちがって考える事が多かったけど、とても楽しかったです。1つのぎだいかからたくさん意見が出るのがみりよかったです。

- ・初めて大学の授業体験を受けて、春から私もこのような授業を受けることができるのだと思うと、すごくワクワクしました。春の入学を楽しみに学生生活のプランを立てたいと思います。ありがとうございました。
- ・とにかく大学生活が楽しみになった。今までとの「学校」とは全然違うけれど、それもまた楽しみだ。ありがとうございました。
- ・いろんなことをすることもできたとし、これから一緒に勉強したりしていく人たちともふれあえ、楽しかった。
- ・同じ道を目指す仲間がこんなにもいるので他の人たちに負けないように自分のなりたい教師像を持ち続け絶対になりたいと思った。
- ・同じ目標を持った仲間と話すことができるとても楽しかった。入学してからの大学生活が、とても楽しみでどんどん挑戦していきたい。
- ・大学の授業は、ちょっとかたいイメージがあったけど、実際はすごく楽しかったし、楽しいだけでなく学ぶことも多くありました。特に学んだのは、独自性の大切さです。人と同じようにしてはダメだと思いました。先輩たちがとてもやさしくて面白かったです！！
- ・今まで持っていた大学の印象を大きく変えた体験でした。自分がこれからどのような生活を送っていくべきかしっかりと数ヶ月で考えていきたいと思いました。自分にできることを精一杯やっというと思います。
- ・授業がとても楽しかった。「答えは1つではない」自分の中身？をどれだけ出して自分らしさを出していくかを大学ではがんばりたい。お弁当がおいしかった。
- ・今日、佛教大学に来て、まず友達ができるか交流できるかということが不安でしたが、食事の時や、ディスカッションなど交流する場を設けてもらえて、とけ込みやすく、本当に有意義な時間になった。こういう人と意見を交流する場が多ければ、今後うれしいです。
- ・大学の授業がどのようなものであるの分かりました。そして、とてもひきつけられる授業で楽しかったです。新しい友達もできたので、参加してよかったです。
- ・実際に体験してみるととても楽しかったです。大学生になることについてたくさん不安はあるけれど、楽しい4年間にしたいと思いました。
- ・4月からの大学生活が楽しみになりました。楽しいけれど楽しいだけじゃない授業を受けるのを楽しみに入学までは本を読んだりして少しでも知識をつけようと思いました。
- ・とても興味をもって授業にのぞませてもらいました。とても楽しく、新たに知ったことがたくさんあり、これからの大学生活でもたくさんのことを学んでいきたいと思います。
- ・今日は参加して先ばいや先生、みんな自分の考えをすごく持っていて、熱くて自分的にとっても刺激になった。まだまだはずかしがりだけ慣れて自分の考えを語れる先生になりたいです。
- ・今日、こういった行事に参加して、初めて会う人・初めて会う先生方とも喋ることができて、とても楽しかったです。先輩方もみんな仲良く、私もその中の一員になりたいと思いました。
- ・先生の授業が本当に興味深く面白かったです。これから、たくさん先生の色々な授業を受けることがすごく楽しみです。
- ・みんな自分の意思を持っている人ばかりだと思いました。
- ・大学でどのような授業をするのかや、どんな先生がいるのかなど、不安だったことが少し解消できたので、参加できて良かったと思います。次回も参加する予定なのですごく楽しみです。
- ・思っていたよりも楽しそうだった。
- ・大学の友達ができて良かった。大学の雰囲気が分かった。
- ・知り合いができたのでよかった。
- ・おもしろい先生でよかったと思う。
- ・階段が多いです。
- ・とても話しやすい感じで接してくれたおかげでのびのびできた
- ・先生の話のいろいろ聞いて、今まで知らなかったこともたくさん知れたし本当に良かったと思っている。友だちもできたとし、これからの大学生活が今まで以上に楽しみになった。
- ・大学はどのような所なのか何となく分かることができてよかった。大学の知らない所も知れてよかった。
- ・大学の雰囲気が少し分かったような気がしました。実際に学科の先生の話もきけてよかったです。
- ・同級生の顔が分かった。
- ・今日色々な話を聞いて入学するのが楽しみになりました。
- ・やっぱりすごく自分に合った勉強ができそうな学科であると感じてよかった。
- ・参加できてとても有意義でした。
- ・午前中は眠いので午後にしてください。
- ・楽しかった。新しく知ることがたくさんあった。
- ・たのしかったです！軽くですが、いろいろと知れました。
- ・同じ学科の人と仲良くなれて良かった。
- ・講義も楽しく聞いてよかった。先生との距離が近くて親しみやすかった。入学してからも、たのしく通えそうだった。
- ・授業が思ったより時間が短く思いました。

入学前教育 アンケート集計結果

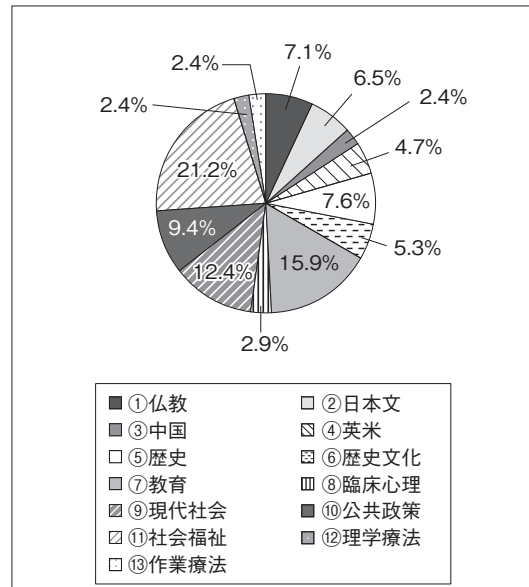
エンジョイ！キャンパスライフ 2011
2010/12/19 参加者アンケート結果（A・Bコース）

【属性】

Q0-1 入学予定学科を教えてください。

①	仏教	12
②	日本文	11
③	中国	4
④	英米	8
⑤	歴史	13
⑥	歴史文化	9
⑦	教育	27
⑧	臨床心理	5
⑨	現代社会	21
⑩	公共政策	16
⑪	社会福祉	36
⑫	理学療法	4
⑬	作業療法	4

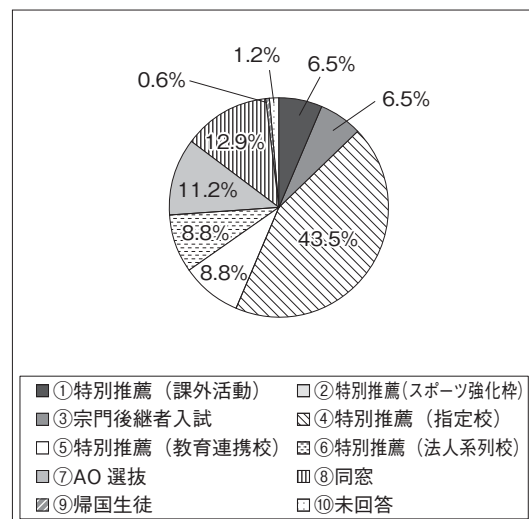
総回答者数 170



Q0-2 受験した入試

①	特別推薦（課外活動）	11
②	特別推薦（スポーツ強化枠）	0
③	宗門後継者入試	11
④	特別推薦（指定校）	74
⑤	特別推薦（教育連携校）	15
⑥	特別推薦（法人系列校）	15
⑦	AO 選抜	19
⑧	同窓	22
⑨	帰国生徒	1
⑩	未回答	2

総回答者数 170

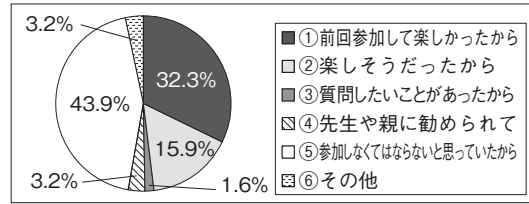


【参加動機】

Q1-1 本日、エンジョイ！キャンパスライフに参加した理由を教えてください。(複数回答可)

①	前回参加して楽しかったから	61
②	楽しそうだったから	30
③	質問したいことがあったから	3
④	先生や親に進められて	6
⑤	参加しなくてはならないと思っていたから	83
⑥	その他	6

総回答者数 189

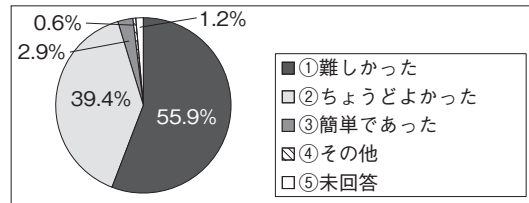


【自宅学習課題】

Q2-1 自宅学習課題は難しいと感じましたか。

①	難しかった	95
②	ちょうどよかった	67
③	簡単であった	5
④	その他	1
⑤	未回答	2

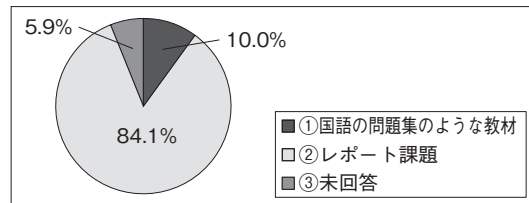
総回答者数 170



Q2-2 取り組んだ自宅学習課題の種類

①	国語の問題集のような教材。	17
②	レポート課題	143
③	未回答	10

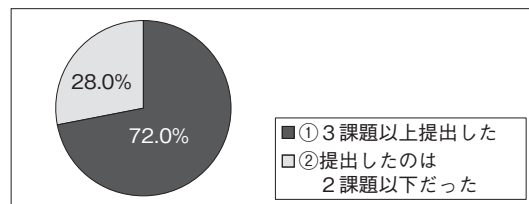
総回答者数 170



Q2-3 自宅学習課題が「国語の問題集」だった方にお尋ねします。5課題中3課題以上提出できましたか。

①	3課題以上提出した	18
②	提出したのは2課題以下だった	7

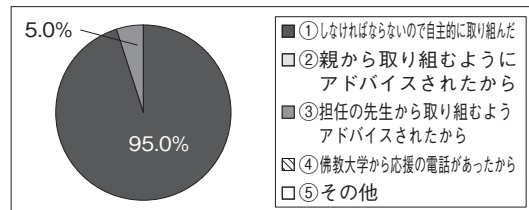
総回答者数 25



Q2-4 3課題以上提出した方にお尋ねします。自宅学習課題を続けることができた理由について教えてください。

①	しなければならないので自主的に取り組んだ	19
②	親から取り組むようにアドバイスされたから	0
③	担任の先生から取り組むようアドバイスされたから	1
④	佛教大学から応援の電話があったから	0
⑤	その他	0

総回答者数 20

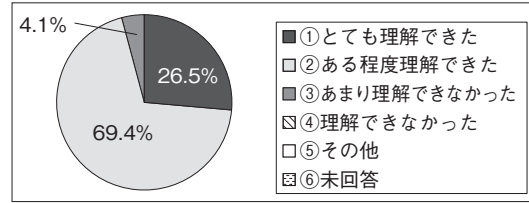


【エンジョイ！キャンパスライフ 2011 について】

Q3-1 エンジョイ！キャンパスライフに参加して、自分の学科について理解できましたか

①	とても理解できた	45
②	ある程度理解できた	118
③	あまり理解できなかった	7
④	理解できなかった	0
⑤	その他	0
⑥	未回答	0

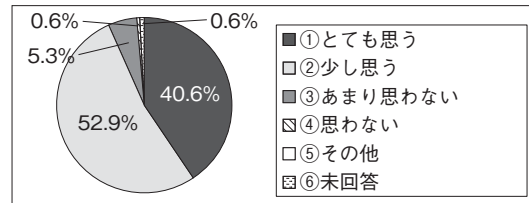
総回答者数 170



Q3-2 エンジョイ！キャンパスライフに参加して、早く大学で学びたいと思うようになりましたか。

①	とても思う	69
②	少し思う	90
③	あまり思わない	9
④	思わない	1
⑤	その他	0
⑥	未回答	1

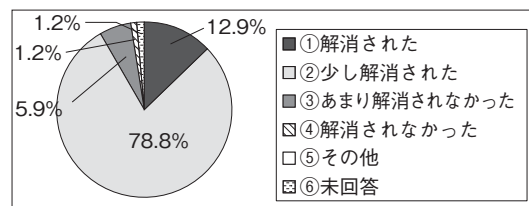
総回答者数 170



Q3-3 エンジョイ！キャンパスライフに参加して、大学入学に対する不安や疑問は解消されましたか。

①	解消された	22
②	少し解消された	134
③	あまり解消されなかった	10
④	解消されなかった	2
⑤	その他	0
⑥	未回答	2

総回答者数 170

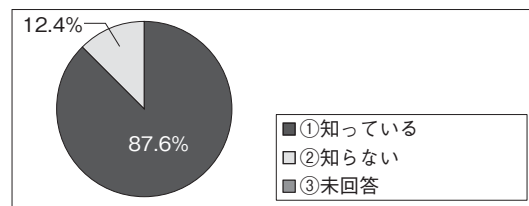


【SNS について】

Q4-1 “縁 SNS” がある事を知っていますか。

①	知っている	149
②	知らない。	21
③	未回答	0

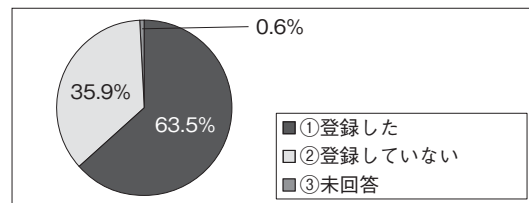
総回答者数 170



Q4-2 “縁 SNS” を登録しましたか。登録しなかった方はその理由も教えてください。

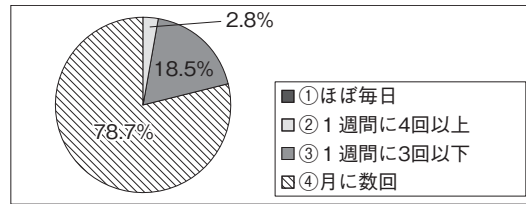
①	登録した	108
②	登録していない	61
③	未回答	1

総回答者数 170



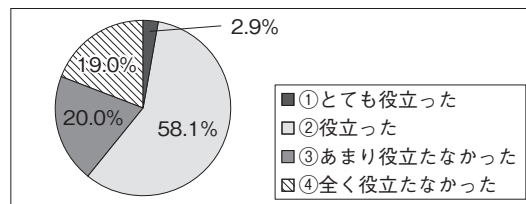
Q4-3 “縁 SNS” の使用頻度について教えてください。

①	ほぼ毎日	0
②	1週間に4回以上	3
③	1週間に3回以下	20
④	月に数回	85
		総回答者数 108



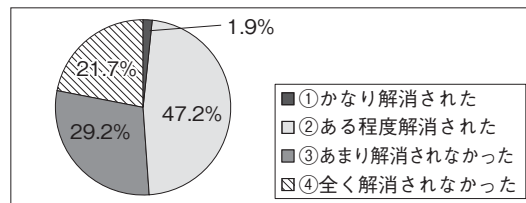
Q4-4 「佛大ダイアリー」に書かれた情報は役立ちましたか。

①	とても役立った	3
②	役立った	61
③	あまり役立たなかった	21
④	全く役立たなかった	20
		総回答者数 105



Q4-5 “縁 SNS” を通して、入学への疑問や不安は解消されましたか。

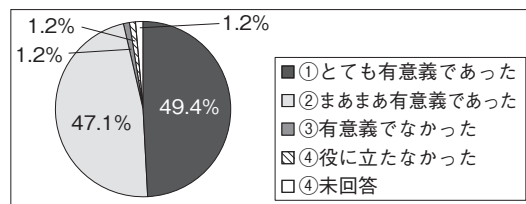
①	かなり解消された	2
②	ある程度解消された	50
③	あまり解消されなかった	31
④	全く解消されなかった	23
		総回答者数 106



【全体的な感想】

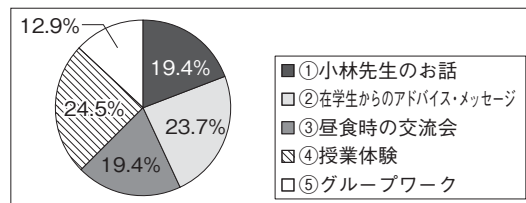
Q5-1 本日、参加してみてどのように感じましたか。

①	とても有意義であった	84
②	まあまあ有意義であった	80
③	有意義でなかった	2
④	役に立たなかった	2
⑤	未回答	2
		総回答者数 170



Q5-2 本日のプログラムの中で、大学入学への期待が高まったものは何ですか。(複数回答可)

①	小林先生のお話	27
②	在学生からのアドバイス・メッセージ	33
③	昼食時の交流会	27
④	授業体験	34
⑤	グループワーク	18
		総回答者数 139



【自由感想】

Q6 本日参加した感想をできるだけたくさん書いてください。今後の要望でもけっこうです。

- ・楽しかった
- ・授業のだらだらな方向などがよくわかってよかった。
- ・今日の授業でいろいろな知識が身に付いたと思います。
- ・友達もできて良かった。次は入学式なので緊張します。
- ・たのしかった。入学後の授業の色々な知識や楽しい勉強を教えてください。
- ・とても楽しくキャンパスライフをうけることができ、在学生にもいろいろおしえてもらって良かったです。
- ・少しでも早く環境に慣れるため。
- ・色々なことを知れて良かったです。
- ・ディベートって難しい。
- ・みんなの前で発表するのは緊張したけど、自分の発表を聞いてもらえて良かった。先輩から色々な話を聞いてアドバイスももらえて嬉しかったです。入学がより楽しみになりました。
- ・同じ夢を持っている人がたくさんいるので、これからお互い助け合って教師になる夢を実現させたいと思った。先輩方の話が分かりやすかった。
- ・同じ学年で僕たちよりも前に進んでいる人達の発表を聞いて自分も頑張らなければいけないという焦りとは違う思いを持つことができた。
- ・前回と同じくとても楽しい授業でした。また7人の話を聞いて高校の時から、このような教育コースや学科があった事は、とてもうらやましく思いました。友達もたくさんでき、たくさんの人と話す機会もあったので参加して、とても良かったです。
- ・午前中で大学への不安や疑問はある程度解消もされたし、更には7人の方の発表を聞いて、そのすごさに正直ビビったけれど、同時に、いい刺激を受けて、入学してからめっちゃ頑張ろうと思いました！
- ・入学前にみんなと交流ができたので、少し安心しました。これからの大学生活を有意義なものにするために自分からいろんなことにどんどん挑戦していきたいと思いました。
- ・入学前に、佛大に行って、授業体験や、アドバイスなどできて、佛大での学びが、どういったものか少し理解できたので、とても良かったです。まだ不安な部分はありますが、入学するのが楽しみになってきました。
- ・発表がぐだぐだになったことがとても残念で悔しいです。話す力を大学では育てたいとまず目標ができました。
- ・7人の方の発表を受けて、すごく分かりやすい話し方や発表方法でとても勉強になりました。私も4月から教育について学び、追いつきたい！と強く思いました。
- ・2回参加してみて、佛教大学がどういったところで雰囲気といったことがすごく理解できて、授業体験をして授業もとても楽しみにになりました。まだ不安はありますが、佛教大学なら頑張っていけるという気持ちが強くなりました。
- ・周りに教育を志す仲間がたくさんいて、その人たち仲間から様々なものを吸収できると思うと今から本当に楽しみ。いろんなものをその仲間から盗んだり、盗まれたりして共に成長していきたい。でもあの7人の話に少し焦りを感じた。
- ・今回は前回に比べてくわしく学習することができました。グループワークもとても良くすすんだので良かったです。
- ・入学式の服装などを聞いてよかった。
- ・たのしかったです。
- ・大学の単位のことや授業について聞いてよかった。
- ・とても勉強になった。
- ・在学生のアドバイスやメッセージを聞いて学校生活のイメージが少しわいてきたので良かったです。
- ・友達ができるか、授業についていけるか・・・とたくさん不安があったけれど、今日、少し不安が減ったので良かったです。入学するのが楽しみになりました。
- ・友達ができるか、勉強についていけるかが不安だったが、今日のイベントに参加したおかげで大方の部分は解消されてよかった。
- ・今回のキャンパスライフでは大学への疑問は不安が解消されてよかったと思います。
- ・楽しかったし、交流も深まった。
- ・入学前に、顔見知りを作っておいたので、入学後の不安が少しは晴れた気がする。早く大学生活を送りたくなってきた。
- ・楽しかった。
- ・前回参加したときよりも楽しく過ごすことができた。早く色々な友達をつくってわいわい過ごしたい。
- ・授業も内容がおもしろかったなので、これから先の授業が楽しみです。まだまだ不安はありますが、そのときは先輩方にききたいと思います。
- ・2回目ということもあり、前回のようなドキドキ感はあまりありませんでした。授業体験を楽しく出来ました。
- ・大学生活が楽しみになりました。2回目のエンジョイ・キャンパスライフで友達もできたり、早く入学したいです。
- ・とても楽しかった。4月から始まる大学生活が楽しみになった。不安であった事も解消がいくらかされて、参加して良かったと思った。
- ・ある程度の悩みが解消されてよかった。
- ・みんなと交流できたり、授業体験もできたので良かったです。
- ・大学での授業の雰囲気が、今日までつまめなかつたので、不安でいっぱいでした。でも、今日のエンジョイ・キャンパス2011に参加して、だいたいの流れがつかめて、本当に良かったです。入学が楽しみになりました。ありがとうございます。
- ・今回は、前回とは違い、同じ年の人がレポートを発表してくれました、7人とも、こういった緊張の場で堂々と話しているのを見て、本当にすごいと思いました。と同時に刺激を受けました。入学してから、本気で頑張りたいと思いました。
- ・とても充実した一日だった。この時期はみんな不安な時期だと思うので、こういう機会はとても貴重だと思う。
- ・高校から教育コースなどで勉強してきた人たちとはとても差を感じた。逆に不安になった。
- ・今日7人のレポートを聞いて、すごいなあと思いました。そして、7人のことをとても尊敬してしまいました。私も大学で4年間勉強していくなかで、7人のようなすばらしい発表をできるようになれるよう、頑張りたいと思います。
- ・今日、特に印象に残ったのは3校の人たちの発表で、同じ歳とは、思えないくらいしっかりと調べて自分の意見を発表しているのがすごいと思いました。と同時に大学に入ればこんなふうに関心のあることを調べたりするのだなあ、とても楽しみになりました。
- ・今日私は1日とても考えさせられるところが多く、有意義な時間を過ごせて、良かったです。こんな学習をみんなできる大学生活に希望が湧きました。

- ・在学生からアドバイスをもらったり、質問コーナーであまりよくわからなかったことを知れてよかったと思いました。
- ・自分の発表能力の低さにおどろかされた。みんなの発表を聞いてもっともっと自分の能力を上げようと感じた。先輩方のアドバイスは以後の大学生活でとても役に立つと思いました。
- ・英語ってやっぱり難しいです。
- ・楽しかったです。自分の課題も見つかり、がんばりたいと思います。
- ・とても楽しい時間が過ごせました。
- ・とても充実していて楽しく、時間が過ぎるのがあつという間でした。
- ・今回のような、グループワークでたくさんの方の意見や考えを聞いて、新たに楽しみも増えましたけど、やっぱり大学入ったら頑張ろうと思いました。
- ・楽しかったです。
- ・グループワークや昼食時の交流でしゃべることはできなかったんですが、授業体験はとてもいい経験になった。
- ・今日参加してある程度現代社会学科がどのようなものか知ることができて良かったと思う。
- ・今日学んだことは知らないことだったけど、今後にかいていきたい。
- ・今日のエンジョイ！キャンパスライフはとても有意義で、もうすぐ入学するので、その不安が少しは解消されたと思います。
- ・友達が前よりも増えたと参加してよかった。
- ・前回よりも、より授業に近いように感じたので良かった。
- ・ちょっとづつだけど、確実に興味がでてきました。
- ・どんな事を学ぶのか、少しわかったので良かったです。
- ・良かったです。
- ・とても自分のためになった。
- ・授業も興味があることだったので、楽しかったです。
- ・時間割の説明だけは、わかりやすくお願いします。
- ・友達ができてよかった。不安が消えました。
- ・今回は本当に大学で行われるような授業を聞いたのでよかった。
- ・勉強になりました。
- ・こういう場を開いていただいて、入学前の不安が解消されたのでよかった。
- ・とても楽しかったです。授業が楽しみです。
- ・先輩方の意見を聞くことができて、不安だったのが、少しは解決したのでよかった。
- ・今日の授業体験はディベートやっすぐ楽しくかった。前の時しゃべった子と仲良くなれて良かった。
- ・たのしかったです。
- ・参加できて本当に良かったと思っています。まわりの人のレベルの高さに正直とまどっていますが、4月から頑張ります。
- ・前回参加した時よりもわかりやすかった。4月からの大学生活が楽しみです。
- ・本当の授業を受けることができたので、雰囲気や考えがよく理解できた。少し集中力がもたなかったのですが、今度から気合を入れていきたい。
- ・キャンパスライフがどんなものか少しでもわかったので良かったです。
- ・2度目の参加だったので、前回ほど緊張せずに楽しく過ごせました。大学に入学するのが楽しみになりました。
- ・入学まで10日近くになってきて不安ばかり積もって先が見えませんでした、いろんな質問にわかりやすく回答してくれたので良かったです。
- ・今日は例として祇園祭を学びましたが、全然知らないことばかりで新鮮でした。
- ・今回は前よりも時間の長い授業を受けて前とまた違った印象を受けた。これからもっと難しいことが色々あるようだけど頑張っていきたいと思うようになった。
- ・すごく楽しかった。
- ・二回目だったので喋れたし、英米の先輩とも交流も出来てよかった。
- ・意外に仏教学が面白かった。
- ・教育連携校の7人の話を聞いて、とてもびっくりした。同じ高校生だったのに学んでいる内容がとても濃くて、すごいと思った。早くこの7人のように、人前で気持ちを伝えられるようにして頑張りたいです。
- ・学びたい！と思う気持ちがいちだんに膨らんだ。高校とは違い、問題解決型の学習が始まるのだが、いろんなことに興味を持って、どんどんでてくる難問に対して、自分で考えていけるようにしていきたい。
- ・自分より前からスタートする人がいるのに驚いた。しかしいつまでも背中をみてるつもりはないので4年後には自分が教育学科の先頭にたつつもりで頑張りたい。やっぱりいい先輩や先生がいるのでその方々に追いつき追い越したいです。
- ・前回よりも参加人数が増えていて、色々な人を知ることができてよかったと思う。教育連携で入学してきた人達の話が聞け、自分たちよりも早くから教育のことについて学んでいて知ることができ、非常に良かったし、とても刺激になった。
- ・自分が高2の時に書いた、自閉症児の支援についてまとめた論文と、今日発表された論文を比べたのですが、枚数を重ねただけの内容の薄っぺらいものであったことを改めて実感しました。
- ・また普通のお弁当だった。(笑) 授業体験を通して早く大学で学びたいと思いました。たくさんの方と接したり、本をたくさん読むことによって、自分の意見をもっと口で話せるようにならないとアカンなと感じた。入学してめっちゃ勉強します。
- ・今年入学する、自分と同じ立場の人でもすごく先をいっている人もいて自分も頑張っって追いつけるようになりたいと思いました。先輩方もフレンドリーで楽しい時間を過ごせました。
- ・先輩達もとても優しいし、友達もたくさんできたので、改めて佛教大学で良かったなあと思いました。
- ・友達ができてよかった。ちょっと安心できた。
- ・色々な質問に答えてもらってよかった。
- ・まだ大学生活がどのようになるのかわからないですけど、たくさんの方の意見を聞いて少し不安もなくなったので良かったです。大学4年間単位もちゃんと取って卒業したいです。
- ・今回初参加なのですが、きてよかったと思います。まだまだ不安なこともあります、頑張りたいと思います。友達できるといいな～
- ・いろいろな質問なども聞いて不安が減った。また友達も増えて安心して入学できるなと思いました。
- ・体験授業では自分の学科で学べることがおまかにイメージ出来ました。
- ・カウンセラーのことが少しだけわかって良かったです。

- ・前回のときよりも同じ学科の人と関わって良かったです。授業は難しかったけど、いろいろと考えさせられました。
- ・自分から話しかけることは難しいけど、何とか皆の輪に入っていこうと思ったら、話すことができて、やっと大学生活に希望の光が見えてきた気がする。
- ・授業は難しいと思った。
- ・4年間で卒業できるように頑張りたい。授業は寝ないようにする。
- ・周りの子は大学について不安を抱えているけれど、私は友達もできたので、とても楽しみです。でも、少し申し訳ない気持ちもあります。今回のことで不安が解消されたので、参加して本当によかったです。
- ・入学後の不安が少し減りました。まだまだ授業のこととわからないことばかりだけど、今日先輩が言っていたように話せる先輩をつくりたいです。
- ・新しい友達ができ楽しかったです。
- ・大学での様子が少し知れて、早く大学に行きたいと思えた。
- ・色々よくわかりました。
- ・入学後がとても楽しく感じられる。福祉についても興味がわいてきた。
- ・1回目よりも深く学部について知れたかなと思いました。
- ・学生同士の活動をやってみたいと思った。
- ・大学は自分のやりたい目的をはたせるばしょであると思った。
- ・来る前にあった大学生活への不安とか疑問がいっぱい解消されたからよかったです。
- ・在学生さんの話を聞けて、大学生活が具体的に想像することができて、とてもよかった。先生の話も参考になり、不安が少しなくなった。
- ・2回目だったので、話せる子もできて、少し安心しました。
- ・大学は自分から動いていけないといけないんだなあと思った。これが、これからの課題です。4月から頑張っていきたいです。
- ・入学前にこのような機会があると、入学に対する不安が解消されるのでいいと思いました！！
- ・友達が出来てよかった。自分の学部について理解できた。
- ・県外から1人で来たが知り合いができてとても気持ちが楽になった。
- ・いろんな人の意見や話をたくさん聞けて良かったです。先輩方や先生の話は分かりやすかったし、これから大学生活をおくるにつれての不安が消えたので来てよかったと思う。友達も少しだけ出たからよかったと思う。
- ・今日は大学に来るのも2回目、前より不安がなくなっただけでよかったと思います。今日の参加で、次大学に行くときは入学式なのが、まだ不思議な気持ちです。
- ・今日は在学生の話が聞いて良かった。4年間無駄にならないように1回生からいろんなことに挑戦したいと思う。
- ・前回よりも大学へ入学してからの期待が高まりました。学科についても興味がわきました。早く友達がいっぱい作って、学びたいと思いました。
- ・人とのふれあいが大事だということが思い知らされた。
- ・前行けなくて不安だったけど、今回行って色んな人と関わって楽しかった。4月は色んな人ともっと仲良くなりたいなと思いました。今日はありがとうございました。

FD Review

FD 研究会

第1回 FD研究会 (2011年1月26日開催)

——入門ゼミ受講生の声に接して——

教授法開発室員 小野田 俊 藏

入門ゼミ受講生の率直な声を聞こうということで、5名の1回生に集まっていただいてインタビューを試みた。歴史学部、教育学部、社会学部と別々の学部には属している学生達であったが、ほぼ同じような受け止め方で入門ゼミを受講したようだ。異口同音で皆が語るのは、入門ゼミが持つ友達作りの場としての意味合いである。サークルに所属した者を除いて、入学後に同じ学科に属する友達と一緒に受講するこの入門ゼミのクラスの持つ意味は大きい。

大学に入学した学生が最初に感じるのは高校時代の勉強と大学での学習の違いであろう。講義の受講時間割を自分で決めるという事も戸惑う点ではあるが、定まったクラス(ホームルーム)がないという事も大きな相違点である。研究課題が決まってくると指導の先生を中心に卒業論文(卒業研究)ゼミという帰るべき学内の巣が存在してくるが、新入生にとってそのような場はこの入門ゼミ以外にはない。新入生の立場からしてみれば入門ゼミは「ホーム」なのであって、担当教員はこのことを先ず強く意識しておく必要がある。学内ホームレスを作ってはいけない。これは大学としての責務であろう。大学は個人責任の訓練場ではあるが「助けてくれ」と言える環境は常に整えておかねばならない。

次に「入門」という言葉が示すように、「大学の勉強で必要とされる学習ツールの初めての体験が大きな経験となった」というのがインタビューに答えてくれた学生たちの共通した声であった。図書館や学科の資料室などにデヴューするにはそれなりに勇気が要るので、この入門ゼミでの体験は貴重である。その他、図書館のデータベース検索の方法や、SNSや縁(えにし)、あるいはe-learningなどの個人設定や機能説明はこの入門ゼミの要素としては必須と言える。

与えられたものを憶える勉強ではなく、問題点を自ら発掘してそれらに関する先行研究の有無を調べ、考察を加えるための資料の蒐集を進める、それらの為の手順と方法を初年次に訓練することは極めて重要なことであり、学生たちもその道具の入手とスキルの修得を入門ゼミに期待している。

グループ学習における研究課題の設定やグルーピングについてインタビューに答えてくれた学生たちの意見は、同席した我々教員たちに新鮮な刺激を与えた。予想に反して彼らの希望は、教員側からの一方的なグルーピングがよいと言うのである。多くの入門ゼミでは小さなグループに分かれて特定の課題を共同で考えることによって学習の手順や方法を模索しながら学習してもらおうとしているが、その際のグルーピングや課題のテーマ設定を、一方的に与えられるほうがよいと言うのである。学生たちはその課題研究を完全にシミュレーションと捉えているという事であろう。そこに好き嫌いを言わず、かつ一方的なグループ分けの方が友達作りにも、あるいは研究手順の修得にも有効だということを経験的に知っているのである。

考えてみれば我々教員の世代には有り得なかったツールで現代は満ちている。アナログ的発想が染み付いている我々には感覚的に理解困難な発想がたまにある。フェイスブックやツイッターにそれまで全く知らない人物が登場してきたり、特定のアーティストのアルバムを順番に聞くのではなく複数のアルバムの中の曲をシャッフルして聞く発想は、デジタル世代にはごく当然の事なのであろう。その意味で、グループ研究において「一方的にメンバーや課題が決められた」という感覚は彼らにはなく、むしろそれはアナログ的旧発想の産物なのかも知れない。インタビューした学生の皆は、一方的でいいから途中でシャッフルして欲しいと言うのである。新たな新鮮な出会いも発想もシャッフルの中にあると言う意味だが、それは確かに間違いではない。

入門ゼミにとって最も重要な要素の一つと考えられたのは「少人数制」ということであったが、この点に関して、ひとつのクラスの中で単一の話題が進行していなければならないという古典的な発想から自由になれるクラス運営の方法があれば、実人数はさほど問題にはならないかも知れない。個を結びつける要素が同時に複数存在し得るデジタル世代に学生たちはいる。そのような時代へ確実に突入しているのである。



第2回 FD 研究会 (2011年2月15日開催) ——成績評価の基礎知識——

教授法開発室長 藤 松 素 子

大学全入時代を迎え、入学者の基礎学力不足が指摘され、他方で、大学における教育の質保証問題が取りざたされている。私たちは、質の高い教育を学生の現状に応じた形でいかに提供するのが焦眉の課題となっている。このことは同時に適切な学習評価・成績評価の必要性をも意味するものである。本学においても授業15週の徹底が導入され、シラバスの設計、授業運営とならび、成績評価のあり方については多くの関心がよせられる。

そこで、2010年度第2回目のFD研究会では、「成績評価の基礎知識」と題して、同志社大学圓月勝博教授を講師としてお迎えした教員研修会を開催した。

圓月教授は、昨今の大学における課題が、入口の学生の多様化への対応から出口の教育における質保証に移行していることを指摘した上で、2008年教育審議会答申「学士課程教育の構築にむけて」において、「大学に期待される取り組み」として、「GPA等の客観的な基準を学内で共有し、教育の質保証に向けて厳格に適用する」ことが迫られていることを強調された。それは、国際的に通用する制度たること、アドバイザー制などきめこまやかな履修指導・学習支援を行うことと並び、教員間で成績評価に関する情報を共有し、これに基づくFD活動を実施し、その後の改善にいかすことがより重要なことだという。

そもそも、成績評価制度は多様であり、本学においては100点満点方式に基づく優良可制度をとっている。これとGPA制度に制度的優劣があるわけではなく、最も重要なことは、いうまでもなく成績評価基準が明確になっていることなのである。

しかし、この自明なことだと思われる“真実”にブラックボックスが潜んでいると圓月教授は指摘された。それは、「教員は成績評価についての自己点検をしたことがない」からだという。確かに、私たちは日常的に学生の成績不振については議論の俎上にあげることがあっても、その成績の根拠となる成績評価について徹底的な議論をする機会をもつことはあまりない。また、自分自身の成績評価について、シラバス内容から成績提出までのすべての過程において、毎回、客観的な検討を加えておられる方は、それほど多くはないのではないか。

その意味で、圓月教授は「成績について教員が語り合うことがFDの第一歩」とであると強調された。それは、各学部学科における3ポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）の明確化と、これに基づく学習成果の測定こそが広義のFDであり、3ポリシーを実現するためにFDを実践するからに他ならない。

すなわち、FDの目的は学習成果の向上であり、FDの手段は学習意欲（満足度）の向上であり、成績評価の信頼性向上は学習意欲の向上につながる。そのため、FDの手段の一つは成績評価の信頼性向上なのであると結論づけられた。

しかしながら、成績評価基準の設定は一筋縄ではいかない難しさを有しているのも、また事実である。だからこそ、教員間でたえず議論をし、基準と結果についての情報を共有し、

その全過程についての点検を怠らないようにすることが重要なのである。

本学においては、まず、現状の成績評価制度そのものの議論から始めることが必要ではないかと考える。その上で、全学共通科目および各学部専門科目において、科目の特性、カリキュラム上の位置づけ、科目間の連携等々について各関連部署で議論を重ね、各自の成績評価基準とその評価方法をめぐって、情報交換し始めることが求められているのではないだろうか。

学生にとって最も大きな関心事である成績評価をめぐるとこの議論は、次年度の教授法開発室における優先課題として設定する必要があると認識させられた有意義な研修会となった。

育
教
初
年
次
初

FD Review



初年次教育

教授法開発室員 水谷隆之

1. はじめに

初年次教育の主な課題は、①大学生活への円滑な適応、②大学での学びに必要な学習技術の獲得、およびそれらを基盤とした③専門教育への導入、と一言でよいであろう。そしてこれらの課題を達成するために「入門ゼミ」が果たす役割は大きい。

本学では2010年度より、初年次生対象の「入門ゼミ1」（春学期開講）に全学共通シラバスが適用された。そこで本稿では、全学共通シラバスを用いた文学部日本文学科の取り組みについて紹介し、その成果と今後の課題を述べることにする。なお、教授法開発室では「入門ゼミにおける統一シラバスの到達点とその課題を考える」とのテーマで研究会を行った。本号「FD研究会実施報告（入門ゼミ）」をあわせて参照されたい。

2. 全学共通シラバス

2010年度全学共通シラバスのうち、「毎回の授業テーマ・内容」「成績評価の基準」や使用テキスト等は学部学科毎に多少のアレンジがなされているものの、「授業のテーマ」「授業の目的・ねらい」「到達目標」といった基本的な項目は共通している。以下がその共通項目である。

■授業のテーマ

大学での「学び」を考え、基本的な学び方（アカデミック・スキル）を習得する。

■授業の概要

学科の教育内容を理解するとともに、大学で自律的に学ぶことを見通し、基本的な学び方（課題に応じた情報や文献の探索、読解及び内容の要約、レジュメやレポートの記述、プレゼンテーション等の発表、ディスカッション等）を習得する。

■授業の目的・ねらい

大学で自律的に学ぶことの心構えをもち、基本的な学び方（アカデミック・スキル）を習得する。

■到達目標

- ①大学で自律的に学ぶことの心構えをもち、学びを見通すことができる。
- ②自身の力で課題に応じた情報や文献を検索することができる。
- ③情報や文献を読解して内容を要約することができる。
- ④構成を意識したレジュメやレポートを作成することができる。
- ⑤効果を意識したプレゼンテーション等の発表をすることができる。

⑥ディスカッションを通して自身の考えを再構成することができる。

上記の共通項目のうち、「授業の目的・ねらい」は、「大学で自律的に学ぶことの心構えをもち、基本的な学び方（アカデミック・スキル）を習得する」とされている。基本的な学び方とは、「授業の概要」にある「基本的な学び方（課題に応じた情報や文献の検索、読解及び内容の要約、レジュメやレポートの記述、プレゼンテーション等の発表、ディスカッション等）」に相当する。すなわち全学共通シラバスでは、冒頭に掲げた初年次教育の課題のうち「②大学での学びに必要な学習技術の獲得」に重点が置かれ、学問領域を問わない汎用可能な学習技術を早期に習得することが目指されていると言ってよい。もっとも、「①大学生活への円滑な適応」「③専門教育への導入」が軽視されているわけではなく、学部学科毎に学生数や学問領域に違いがあるゆえの措置であり、学部毎に別途工夫がなされている。以下では日本文学科を例に、2010年度の初年次教育の成果について記すこととする。

3. 日本文学科の初年次教育への取り組み

2009年度までの旧文学部は、人文学科（浄土・仏教コース、仏教芸術コース、日本史コース、アジア史コース、地域文化コース、日本語日本文学コース）・中国学科・英米学科より成る1学部3学科体制であったが、2010年度の学部改組により、仏教学部仏教学科、文学部日本文学科・中国学科・英米学科、歴史学部歴史学科・歴史文化学科より成る3学部6学科体制へと改められた。そこで以下、新日本文学科の初年次教育の成果と今後の課題を、従来の文学部人文学科のそれと比較しつつ述べることとする。

3.1 従来の文学部人文学科「入門ゼミ」

以下が旧文学部人文学科の「入門ゼミ1」シラバスである。

■授業の概要

人文学のすすめ

■授業の目的・ねらい

人文学という学問の総説と6コースの概要を講義する。この授業によってそれぞれのコースのおおよその特色を理解いただき、コース選択の際の参考としていただく。

ただし、人文学科の学問は、たとえコースが違っていても共通する部分があり、また相互に関わりを持っている場合も多い。どのコースを選択しようと、ここで学んだことは決して無駄とはならないので、すべてのコースの授業をしっかりと聴講するよう、心がけていただきたい。

本科目は人文学科の総合的学習の基礎となる授業といえよう。

■毎回の授業テーマ・内容

1. 総説…大学での学問、及び人文学の特色
2. 浄土・仏教コースの学問のすすめ

3. 仏教芸術コースの学問のすすめ
4. 日本史コースの学問のすすめ
5. アジア史コースの学問のすすめ
6. 地域文化コースの学問のすすめ
7. 日本語日本文学コースの学問のすすめ

以上の講義のうち、1には1コマ、2以降にはそれぞれ2コマずつ当てる。そして、2以降はそれぞれのコースの専門の教員が交代して受け持つ。よって、学生諸君は2以降については、必ずしもこの通りの順番で講義があるということにはならないので、その点、了解いただきたい。

旧人文学科の「入門ゼミ」では、2年次以降の専門分野への円滑な移行が目的とされており、各コースの紹介に重点を置いた授業運営がなされていた。様々な学問領域を広く理解することができる一方、アカデミック・スキルの習得という点では必ずしも十分な内容ではなかったと言える。また、大人数の講義形式の授業（従来は60～70名）では、学生発表やディスカッション等を行いつらく、授業内で学生が教員とコンタクトをとることも難しかった。

3.2 日本文学科の新たな取り組みと新「入門ゼミ1」シラバス

旧人文学科が抱えていた上記の問題に鑑み、日本文学科では「入門ゼミ1」を少人数クラスとした。148名の学生を10名の教員が担当、14名ないし15名ずつのクラスに分割したものである。なお、他学科においても6～25名程度の少人数クラスが採用されている。くわえて、「日本文学初学び」を新たに設置し、従来「入門ゼミ2」（秋学期開講）で行っていた日本文学全分野の紹介（人文学科日本語日本文学コース全教員によるリレー授業）を春学期に行うこととした。知的好奇心と主体的な学修姿勢の早期育成を目指したものである。

以下が日本文学科の2010年度「入門ゼミ1」シラバスである。

■授業のテーマ

大学での「学び」を考え、基本的な学び方（アカデミック・スキル）を習得する。

■授業の概要

日本文学科の教育内容を理解するとともに、大学で自律的に学ぶことを見通し、基本的な学び方（課題に応じた情報や文献の検索、読解及び内容の要約、レジュメやレポートの記述、プレゼンテーション等の発表、ディスカッション等）を習得する。

■授業の目的・ねらい

大学で自律的に学ぶことの心構えをもち、基本的な学び方（アカデミック・スキル）を習得する。

■毎回の授業テーマ・内容

第1回 授業概要の説明 自己紹介

第2回 日本文学科への誘い：日本文学科の教育内容の紹介 大学での学びの見通し

第3回 ノートの取り方

- 第4回 文献の探し方（図書館の利用法 文献探索の方法 資料収集の方法）①
- 第5回 文献の探し方（図書館の利用法 文献探索の方法 資料収集の方法）②
- 第6回 読解の仕方①
- 第7回 読解の仕方②
- 第8回 レジюме作成の仕方
- 第9回 レジюмеを使った発表の仕方
- 第10回 レジюмеの発表とディスカッション①
- 第11回 レジюмеの発表とディスカッション②
- 第12回 レジюмеの発表とディスカッション③
- 第13回 レポートの書き方①
- 第14回 レポートの書き方②
- 第15回 授業の振り返りとまとめ

■到達目標

- ①大学で自律的に学ぶことの心構えをもち、学びを見通すことができる。
- ②自身の力で課題に応じた情報や文献を検索することができる。
- ③情報や文献を読解して内容を要約することができる。
- ④構成を意識したレジюмеやレポートを作成することができる。
- ⑤効果を意識したプレゼンテーション等の発表をすることができる。
- ⑥ディスカッションを通して自身の考えを再構成することができる。

全学共通シラバスの実施にあわせ、アカデミック・スキルの習得に重点を置くとともに、日本文学科の特徴をふまえ、文献探索や文章の読解・記述に時間数を多めに割いてある。また、各クラスの指導内容を統一するため、『知へのステップ』（くろしお出版）を学科共通の教科書として採用した。

3.3 日本文学科における初年次教育の成果と今後の課題

以上の措置の効果をはかるため、日本文学科「入門ゼミ1・2」受講後の一部の学生を対象に、稿者による独自アンケート（無記名、有効回答数28）を行った。なお、アンケートの実施にあたっては、学生が受講したクラス・教員に偏りのないよう配慮した。以下がその結果と分析である。

（以下の各項目について「そう思う」かどうかを5段階で回答。括弧内はその平均値）

- A. 大学生活に適応するために役に立った (3.5)
- B. 大学で学ぶために必要な学習技術が身についた
 - B-1 ノートの取り方 (2.8)
 - B-2 文献の探し方（図書館の利用法 文献探索の方法 資料収集の方法） (3.7)
 - B-3 読解の仕方 (3.4)
 - B-4 レジюмеを使った発表とディスカッション (3.6)
 - B-5 レポートの書き方 (3.7)
- C. 自律的な学習ができる（or できるようになった） (3.3)

- D. 2年次以降の専門的な学習への見通しを持つことができた (3.4)
- E. 入門ゼミのクラスが少人数 (15名程度) で良かった (4.2)

A. 大学生活に適応するために役に立った

概ね良好な結果が得られた。

B. 大学で学ぶために必要な学習技術が身についた

各項目毎にばらつきがみられた。最も低いのが「ノートの取り方」、次いで「読解の仕方」がやや低い評価である。一方、「文献の探し方」「レジュメを使った発表とディスカッション」「レポートの書き方」ではほぼ良好な評価が得られた。

これらの評価は授業時間数とほぼ比例しており、低評価の項目についてはより効果的な授業方法を模索する必要がある。また、ノートの取り方や読解の方法は高校までの学習と重なる部分があり、学生にとって目新しさが感じられなかったことも原因として考えられる。今後は基本事項を確認したうえで、大学で新たに必要とされるより高度な学習技術の習得を目指す必要がある。

C. 自律的な学習ができる (or できるようになった)

D. 2年次以降の専門的な学習への見通しを持てた

それぞれ3.3、3.4と、想定していたよりも低い数値となった。C自律的な学習習慣の定着は今後の重要な課題である。D専門教育への移行という点では、前述の「日本文学初学」が主にその役割を担っており、それとの有機的なつながりを目指したい。

E. 入門ゼミのクラスが少人数 (15名程度) で良かった

4.2との高い評価を得た。また、「『入門ゼミ』を受講して良かった点」について尋ねた自由記述欄では、「友人ができた」を10名があげ、次いで「先生を身近に感じられた」「先生の意見を直に聞いた」が7名と多かった。大学での学びのつまずきは多く初年次にみられ、大学生活への円滑な適応のためには学生の相互協力、教員とのコンタクトが必須であることが指摘されているが、少人数クラスの「入門ゼミ」はそうしたコミュニケーション生成の場として有効に機能したと言える。実際、クラスの少人数化により、「入門ゼミ1」の単位未修得者数は9名(2009年度)から4名(2010年度)へと半数以下に減少している。その他、「自分の意見を述べることができた」を4名が、「他の学生の考えに触れられた」を3名があげた。

一方、不満点では、「教員毎に授業内課題が異なり、クラス毎に負担の差があった」との意見があった(2名)。教員間の連携を強め、授業内容の適正化に努めたい。

5. まとめ

①大学生活への円滑な適応という点では、少人数クラスの導入により、学生間および学生と教員間のコミュニケーションが円滑になされ、当初の目的を概ね達成できたと思われる。今後は初年次におけるつまずきのさらなる解消を目指したい。

②大学での学びに必要な学習技術の獲得という点では、学生からの評価が低かった「ノートの取り方」「読解の仕方」といった項目の改善をはかる。学生の習得度を見極めつつ、

授業方法を工夫し、より効果的な授業運営を目指したい。

③専門教育への導入という点では、「入門ゼミ」と他の科目との有機的なつながりを目指すとともに、初年次教育の成果が2年次以降の学習に実際に反映されているかどうかについても今後検証を行っていききたい。

FD Review

京都 FD 開発推進セミナー

佛教大学を代表校とした平成 20 年度採択の戦略的大学連携支援事業「地域内大学連携による FD の包括研究と共通プログラム開発・組織的運用システムの確立」は平成 23 年 3 月末を以て完了した。本稿では、この事業を推進する組織として 2008 年 10 月より設置された京都 FD 開発推進センターによる 2010 年度の活動報告と 3 年間実施した事業の総括を行う。

1. はじめに

本事業では、FD 分野において大学間の連携活動を推進する専門研究員、調査員を配置する京都 FD 開発推進センター（以下、センター）を開設することとし、組織としては代表校である佛教大学に帰属する形をとりながら、大学コンソーシアム京都の事務局が置かれるキャンパスプラザ京都を活動拠点として、事業をスタートさせることとなったこと、また活動をより実質的なものとするため、各連携校の委員からなる 3 つのワーキンググループ（FDer 養成、FD 研修プログラム検討、FD システム検討、以下 WG）を設置し、事業申請時に掲げた個別の課題に取り組んできたことは昨年の『FD Review vol.5』においてご報告させていただいた通りである。

2. 2010 年度の活動について

本事業の最終年度となる 2010 年度においてはスタートアップの 1 年目、基礎固めの 2 年目を経て、より活発で旺盛な取組が実施された。また、事業終了後の活動継続に向けて承継先の公益財団法人大学コンソーシアム京都（以下、コンソ）にどのような形で引き継いでいくかも検討課題となった。ここでは活動の中心となった WG 毎の活動とセンターが主導で行った活動についてそれぞれ報告を行う。

いずれの WG もセンター事務局のサポートの元、ほぼ月一回の会議を実施し、各企画内容についての議論を行った。また、最高執行機関である運営委員会も同様に月一回の議論を重ねる形で事業運営が進捗していった。

① FDer 養成 WG

【京都 FDer 塾】

2009 年度に 3 回実施した各大学の FD 担当（FD に興味を持つ）教職員向けのセミナー形式とワークショップを組み合わせた「京都 FDer 塾」をさらに活発化させ、半年間、月 1 回のペースで実施した。各回のテーマについては前半 3 回／後半 3 回にわけ、前半を授業運営や技術といったミクロな FD をテーマとし、後半はマクロな FD を意識して組織的な FD 活動に焦点を当てたテーマ設定とした。各回とも熱心な議論や意見交換が繰り広げ

られ、他の大学の事例を知るよい機会になったという評価をいただいた。特に最後に実施した全連携校が参加したポスターセッションに関しては「他校の取り組みを具体的に知ることができ、自校のFD活動の今後の展開においてヒントをもらえた」など高い評価をいただいた。

このFDer塾は、コンソへの事業移管後も年間を通じて一貫性を持たせたテーマで複数回開催される予定である。今後も教育開発課を通じて開催の告知が行われると思うので、ぜひ参加していただきたい。

尚、各回のテーマおよび参加人数は以下の通りであった。

	日時	テーマ	講師	参加人数
第4回	5月24日	「授業公開」成功法を考えよう！ ～組織的な取組にするために～	佛教大学 松本 真治 京都外国語大学 村上 正行	25人
第5回	6月28日	授業活性化へのヒント ～ファシリテーションとは～	京都産業大学 鬼塚 哲郎 F工房 北村 広美	10人
第6回	7月31日	授業改善を考える ～多人数授業の工夫～	京都外国語大学 梶川 裕司 滋賀大学 宮田 仁	151人
第7回	9月25日	イギリスのFD ～レスター大学の取組み～	レスター大学 Derek.L.Cox 新潟大学 加藤 かおり	22人
第8回	10月25日	授業連携の視点と方法	佛教大学 田中 智子	14人
第9回	12月4日	ポスターセッション「連携大学・短期大学のFD活動から学ぶ」	各連携校のFD担当教職員	55人



【京都 FD 執行部塾】

各大学で FD 活動を進めていくにあたって、学長をはじめとする大学執行部による FD を推進、支援する役割は欠かすことができないとの共通認識のもと、大学執行部に対する FD 研修を実施した。

できるだけ多くの参加をいただくため、コンソーシアム事務局の協力のもと、コンソの理事会・評議会の直後に開催することで、33名の参加を得た。大学執行部を対象とした FD 研修は全国に先駆けての実施となり、当日夕方のテレビニュースでも取り上げられた。

参加者からは「文部科学省の最近の動向や組織的 FD の推進に関する具体的なイメージが持て、非常に有意義だった」という感想など高い評価が多く寄せられ、コンソに事業が引き継がれたのちも、継続事業となる予定である。



② FD システム検討 WG

【連携校全教員対象 WEB アンケート】

放送大学 ICT 活用・遠隔教育センター（旧メディア教育開発センター）の WEB アンケートシステム REAS（リアルタイム評価支援システム）を利用して、昨年度の 2 回（授業評価 / 授業改善）に引き続き、2010 年 9 月に第 3 回（職務意識）、2010 年 12 月に第 4 回（ICT）という 2 回の連携校全教員対象の意識調査を行った。

自由記述回答の分析には、野村総研の True Teller というテキストマイニングシステムを利用し、頻出単語の抽出と係り受けの表示により、回答のおおまかな傾向と特徴的な意見分布を把握した。回答者数は毎回 100 ～ 300 名であり、自由記述回答はさらに記入数、内容が少ないために True Teller の本来の性能を生かしきれなかった点は残念であったが、職務や ICT 技術の活用という切り口から連携大学教員の FD に関する意識把握ができたことは一定の評価が得られるものと思われる。分析結果については平成 22 年度事業報告書またはセンター HP¹ 内で確認できる。

【ICT 活用授業実践】

2008 年度に導入したリアルタイムレスポンスシステムいわゆるクリッカー機能を持つ PF-NOTE システムと、その簡易版である EduClick システムを利用して、2010 年度は京都光華女子大学の阿部一晴先生と佛教大学の漆葉成彦先生のお二人に 3 つの授業において活用いただき、事例報告をご提出いただいた。こちらについても先述の事業報告書内に収録されている。ご興味がある方はご一読いただければ幸いである。

また、これらのシステムを使用してみたいと考える教員の皆様への機器の貸し出しおよびサポートは今後もコンソを通じて継続していく予定である。

【各種勉強会開催】

またこれらの推進にあたり、個別のシステムの勉強会についても以下の通り、開催した。

4 / 15 (木) e-ポートフォリオ学習会 於：キャンパスプラザ京都 第1共同研究室

講師：大山牧子氏（京都大学大学院）

2009年度に実施した「eポートフォリオ実態調査」について委嘱した京都大学大学院の大山牧子氏より調査結果の報告が行われた。質疑応答では計20名の出席者から、自大学でのeポートフォリオ活用の報告や、イギリスで使われている事例紹介が行われた。

こちらの調査内容の報告については2009年度事業報告書²に詳しい。

11 / 19 (水) REAS（リアルタイム評価支援システム）学習会

講師：芝崎順司氏（放送大学ICT活用・遠隔教育センター）

2009年度より実施している連携校全教員向けWEBアンケートで利用しているREASシステムについて、教育場面やFD活動でのより効果的な活用のヒントを得るため開発・運用担当者である放送大学ICT活用・遠隔教育センターの芝崎順司氏を講師に学習会を開催した。

この学習会をきっかけに連携大学内の授業や大学コンソーシアム京都における行事の参加者アンケートにREASを活用する事例などが見られた。

③ FD 研修プログラム WG

【新任教員合同研修】

2009年3月に実施した第1回新任教員合同研修の成果を踏まえ、京都地域の大学の新任教員の教育活動面をサポートすることを目的として、今年度以降は年2回実施、2回通しての受講で修了認定証を発行する体系的プログラムを開発した。それぞれの大学で実施している研修を補う役割としてこの合同研修を位置付け、合わせて京都地域の多くの大学の新任教員が交流する場とした。実施時期は新学期が始まる直前の9月と3月とし、土曜日午後と日曜日全日の2日間の日程で実施した。

尚、本研修プログラムは国立教育政策研究所のFDer研究グループ「新任教員研修プログラムの基準枠組」に準拠し、基準枠組の大項目を網羅した内容となっている。なかでも「授業のデザイン」と「教育の実践」の2項目は9月と3月両方のプログラムに盛り込むこととした。また9月／3月実施のプログラムをそれぞれ《プログラムA》／《プログラムB》とし、AB共に参加することにより、「新任教員研修修了認定証」を発行することとした。

参加者数は9月が14名、3月が23名であり、両プログラムを終了した受講生3名に「新任教員研修修了認定証」が授与された。

今後もプロジェクトの成果としてコンソ事業において年2回のプログラムを継続していく予定である。将来的には本プログラムを修了することが京都で大学教員として勤務する際の条件、とまではいかないまでも、何かしら教員にとって修了するメリットがあるものに発展すること、加盟大学間でもこのプログラムに派遣を行うことで各校独自の研修プログラムを補完し、教育力の向上に資するものとの認識が高まることを期待している。

2010年度第1回新任教員合同研修《プログラムA》

開催日程・時間：

2010年9月18日（土） 13：00～18：00 / 9月19日（日） 9：30～17：00

場 所：キャンパスプラザ京都 2階ホール

参加者：新任教員13名（18日13名、19日11名）

9月18日（土）：1日目

時刻	内 容	講師・担当者
13：00	開会あいさつ：挨拶・研修目的の説明	林 久夫
13：10～14：00	(1)－① 大学教員のキャリア開発	林 久夫
14：00～14：40	(1)－② 自己紹介・アイスブレイキング	【司会】 深野政之 【ファシリテータ】 圓月勝博・梶谷佳子 左右田昌幸・辻野嘉宏 林 久夫
14：40～15：30	コミュニケーションタイム	
15：30～18：00	(2)－① 授業デザインのための基礎知識	【講師】 沖 裕貴 【ファシリテータ】 圓月勝博・梶谷佳子 左右田昌幸・辻野嘉宏 林 久夫
	(2)－② ワークショップ	

9月19日（日）：2日目

時刻	内 容	講師・担当者
9：30～10：00	2日目プログラム説明、1日目の振り返り	深野政之
10：00～11：00	(3)－① さまざまな授業形態 模擬授業①	【講師】 阿部一晴
11：00～12：00	(3)－① さまざまな授業形態 模擬授業②	【講師】 大西俊弘
12：00～13：00	休憩	
13：00～13：30	(3)－② グループディスカッション 《テーマ》授業改善	【ファシリテータ】 圓月勝博・梶谷佳子 左右田昌幸・高橋伸一 辻野嘉宏・林 久夫
13：30～14：30	(4)－① 学習者中心の授業運営	【講師】 梅本 裕 【ファシリテータ】 圓月勝博・梶谷佳子 左右田昌幸・高橋伸一 辻野嘉宏・林 久夫
14：30～15：30	(4)－② ワークショップ	
15：30～16：00	休憩	
16：00～16：30	(4)－③ ワークショップの報告	各グループの報告者
16：30～17：00	まとめ・参加証授与、閉会のあいさつ	林 久夫

2010 年度第 2 回新任教員合同研修《プログラム B》

開催日程・時間：

2011 年 3 月 12 日（土）13：00～18：00 / 2011 年 3 月 13 日（日）9：30～17：00

場 所：キャンパスプラザ京都 2 階ホール

参加者：新任教員 19 名（12 日 14 名、13 日 15 名）

3 月 12 日（土）：1 日目

時刻	内 容	講師・担当者
13：00	開会あいさつ：挨拶・研修目的の説明	林 久夫
13：10～13：40	(1)－① 京都の大学、大学のまち京都	重田裕之
13：40～15：00	(1)－② 自己紹介・アイスブレイキング	【司会】 川面きよ 【ファシリテータ】 林 久夫・高橋伸一 圓月勝博・左右田昌幸 梶谷佳子
15：00～15：50	コミュニケーションタイム	
15：50～18：00	(2)－① 授業デザインのための基礎知識	【講師】 井上史子 【ファシリテータ】 林 久夫・高橋伸一 圓月勝博・左右田昌幸 梶谷佳子
	(2)－② ワークショップ	

3 月 13 日（日）：2 日目

時刻	内 容	講師・担当者
9：30～9：35	2 日目プログラム説明	川面きよ
9：35～10：45	(3)－① さまざまな授業形態 模擬授業①	【講師】 南 直人
10：45～10：50	休憩	
10：50～12：00	(3)－① さまざまな授業形態 模擬授業②	【講師】 森原規之
12：00～13：00	休憩	
13：00～13：30	(3)－② グループディスカッション 《テーマ》授業改善	【ファシリテータ】 圓月勝博・梶谷佳子 左右田昌幸・高橋伸一 辻野嘉宏・林 久夫
13：30～15：30	(4)－① 成績評価のための基礎知識	【講師】 圓月勝博 【ファシリテータ】 圓月勝博・梶谷佳子 左右田昌幸・高橋伸一 辻野嘉宏・林 久夫
	(4)－② ワークショップ	
15：30～16：00	休憩	
16：00～16：30	(4)－③ ワークショップの報告	各グループの報告者
16：30～17：00	まとめ・修了証、参加証授与、閉会のあいさつ	林 久夫



新任教員合同研修の様子

【まんがFDハンドブック】

新任教員を対象にした研修プログラムにおいて使用する教材として、2009年度に作成した『まんがFDハンドブック おしえて! FDマン【新任教員編】』(以下、第1巻)に引き続き、今年度もマンガによる一問一答形式を継承したFDハンドブックの第2巻を作成した。今回取り上げるテーマに関し、WGでは様々な議論が交わされた。結果、「教育効果の測定(成績評価等)」をメインに据え、「高等教育の基礎」を加えた内容とすることとなった。

第1巻の制作手順を踏襲し、成績評価に関する一問一答の設問案作りからスタートし、まず20問の設問を確定させ、対応する記述内容の分担作成を行った。それぞれの記述内容や表現内容は分担作成された原案を元にワーキンググループ全員で議論した結果であるが、「成績評価におけるTAの役割」「インセンティブとしての出席点」「GPAと平均点の長短」など、いくつかの設問については意見が分かれ、最近の一般的な見解を疑問視する意見も出された。

最終的な結論として、今回はそれらを敢えて一つにまとめることはしないことにし、複数の意見あるいは一般的な見解とWGメンバー全員による提案を並列に提示することとした。

初版は2010年11月に5,000部出版したが、連携校に加え、全国の高等教育機関からの反響が大きく、2011年3月末までに3版を重ね、約8,000部が配付された。またHP内でも電子ブック形式で閲覧可能³である。



④センター活動

【FD セミナー】

2009年度よりコンソより引き継いだFDセミナーではFDの最新動向を知る機会として時事的なトピックスを取り上げて年2回の開催を実施してきた。2010年度は1回目を京都FDer塾との共催とし、「授業技術」を取り上げた。また、2回目は当センターの最終事業報告会として「大学連携によるFD活動」の3年間の活動報告を行った。いずれの回も60～200人程度の参加者に恵まれ、フロアとの意見交換も活発に行われた。

《第1回FDセミナー》

テーマ：授業技術を考える

～多人数授業の工夫～

日時：2010年7月31日（土）

15：00～17：30

場所：大谷大学 1号館1209教室

参加者：151名

講師：

梶川裕司氏（京都外国語大学 外国語学部 教授・マルチメディア教育研究センター長）

宮田 仁氏（滋賀大学 教育学部 教育実践総合センター教授）

コーディネーター：

村上正行氏（京都外国語大学 マルチメディア教育研究センター 准教授）



《第2回FDセミナー》

テーマ：FD連携事業～3年間の活動報告と今後の展望～

日時：2011年1月23日（日） 14：00～16：30

場所：龍谷大学深草キャンパス 3号館201教室

参加者：85名

記念講演：

合田隆史氏（文部科学省 科学技術・学術政策局長）

報告者：

林 久夫氏（FD研修プログラム検討WGリーダー、龍谷大学 教授）

深田 守氏（FDシステム検討WGリーダー、京都薬科大学 教授）

松本真治氏（FDer養成WGリーダー、佛教大学 准教授）

深野政之氏（前京都FD開発推進センター専門研究員、一橋大学 特任講師）

コーディネーター：川面きよ（京都FD開発推進センター 専門研究員）



【海外調査・研修】

2008年度の韓国、アメリカ、イギリス、2009年度のベルギー・スウェーデン、オーストラリア、アメリカ・カリフォルニア、イギリスにおいてFDの先進事例に関する調査を実施してきた。その成果は、各WGが実施しているFDer塾、FD執行部塾、新任教員合同研修の企画内容を通じて連携活動にフィードバックされている。

今年度は同様に、京都地域における戦略的・大学連携支援事業の一つである龍谷大学を代表校とする「多面的な国際交流の充実と高等教育の質向上に向けた国際連携プログラム開発」事業と連携し、その交流提携先であるアメリカ・ボストンの Consortium Of the Fenway およびオーストラリア・ヴィクトリア州の VIDC に加盟する複数大学において研修を実施した。双方とも参加者による積極的な高等教育に関する問題意識の共有が行われ、充実した研修となった。加えて、国際的な FD ネットワークの活動調査を目的としてスペインで行われた ICED (The International Consortium for Educational Development) およびアメリカの POD (Professional and Organizational Development) ネットワークの総会への教職員派遣を行い、教育開発に関する情報収集および情報交換を行った。

ここで培われたネットワークを維持し、今後の京都とそれぞれの地域との教職員交流についても何らかの形で発展させていければと考えている。



【FDQA サービス】

こちらも FD セミナーと同様、コンソからの引き継ぎ事業である。FD に関する様々な基本的な疑問や各大学が抱える課題に WG の協力を得ながらセンターの専門員が対応していく体制を整え、質問の受付は HP 上に問い合わせフォーム利用してもらうこととした。ニュースレターや広報ツールを利用して利用促進に努め、これに関連して授業コンサルテーションや FD 研修会への講師紹介などにも対応していたが、問い合わせは数件あったものの利用実績の伸びは低調な結果となった。

本事業については事業評価においてもさらに詳しいニーズの把握およびリソースの確認など、今後いかに展開していくかについて慎重な検討が必要であるとの認識が示されている。

【広報活動】

広報については昨年度同様、ブログ・HP での情報発信、ニュースレターの定期発行（年 4 回）、報告書の発行などを通じて、連携校、コンソ加盟校、全国の高等教育研究機関を中心にこれまで述べてきた活動およびその成果について発信、報告を行った。

また文部科学省主催の大学教育改革プログラム合同フォーラムにおいてポスターセッションに参加し、全国の様々な取組と共にその事業内容・成果について発表を行った。当日のブースには本取り組みに興味を持つ多くの高等教育関係者が訪れ、熱心にその活動内容について質問をいただいた。特に「まんが FD ハンドブック」に関する注目度は高く、制作過程や活用方法等への質問や内容に対する高い評価の声を聞くことができた。

3. 事業評価総括

当プロジェクトにおいては連携校による内部評価、また外部有識者3名による外部評価、およびそれらを総合しての総括評価の三段階の事業評価を行った。

規模も設置形態も異なる18大学による連携取組にも関わらず、センターを中心に3つのWGがそれぞれに機能し、プロジェクトとして着実な成果が上がっているとの評価がある一方で、その成果が各連携大学内でのFD活動にどの程度フィードバックされたのかについては明確ではないとの評価も複数あった。また、各会議およびWGの活動間の連携に関してはまだ改善の余地があるのではないかと指摘もあった。最も評価が高かった点は、各大学単独ではまかなえない共通リソースとしてのセンター機能の設置と専門研究員・調査員の配置である。このセンター及び専門職員の存在が本連携事業の推進を円滑に進める上で大きな役割を果たしたとことについては多くの評価者が認めるところであった。他方、センター運営に関しては事務的な業務負担もかなりの比重を占めたため、本来は専門研究員＝ファカルティ・デベロッパーとして期待されていた役割が十分には全うできなかったのではないかと指摘もあった。また今後のFD連携活動について、加盟50大学に拡大することによる事業継続性について懸念が示された。

これらの評価内容については10月に発行予定の「最終事業報告書」にて連携校・機関に詳しくフィードバックされることとなっている。

4. 今後の展開

当プロジェクトは、元々コンソの長年にわたるFD研究を基盤として立ち上がったものであるため、補助金終了後の活動成果がコンソに承継されることは、プロジェクト立ち上げ当初よりの了解事項であった。ただし、具体的な事業内容や承継後の組織の在り方等については最終年度にかかり、プロジェクトおよびコンソ内で様々な議論が交わされることとなった。

結果、組織体制としては連携18大学・短大からWGに参加していた教職員を中心とした委員会制をとり、専門研究員を引き続き配置した上で事業全体としては縮小や簡素化を図りつつも根幹となる連携事業の成果やノウハウをしっかりと継承することを目指すこととなった。

基本的にはこれまでに述べてきた各種の階層別プログラムの企画検討を中心に活動を行う予定であり、最初の取り組みは6月18日に行う「第2回京都FD執行部塾」となっている。そのほか、既存事業以外のアプローチも徐々に取り組んで行ければと考えている。

5. 3年間の活動成果の総括

3年間の活動では申請時の計画に基づき、さまざまな取組を行った。とりわけ「階層別のFD研修プログラムの開発と実施」という目標の1つが着実に達成されたことは本事業の今後の展開において大きな意味を持つと言えるだろう。本目的に沿って開発、実施された研修プログラムはa) 新任教員合同研修、b) 京都FDer塾（FD担当者による相互研修）、c) 京都FD執行部塾（大学執行部を対象とした研修会）の3点である。a) 新任教員合同研修では国立教育政策研究所の「新任教員研修プログラムの基準枠組」を参照し、大学教員としての体系的な知識を得ることを目的とした2日間のプログラムとなっており、プロ

グラム A とプログラム B をそれぞれ 1 回ずつ計 2 回受講することで修了認定証が授与される仕組みとなっている。プロジェクト期間中の修了者は 3 名であるが、参加教員の方々からも連携校事務局からも非常に高い評価をいただいているため、今後、参加者の増加が見込まれる。それに伴う運営方法の検討やプログラム内容のブラッシュアップやキャッチアップが直近での課題となる。

FD 担当教職員のためのプログラムである b) 京都 FDer 塾は毎回、具体的なテーマについて各連携校での事例を知り、ファシリテーションを用いたワークショップと組み合わせることで活発な情報交換、共有を行うことができた。毎回、参加の人数は小規模であったが、定期的な開催を重ねることで連携校内でのネットワーク構築に果たした役割は大きいと考えている。

c) 京都 FD 執行部塾は、全国に先駆けてセミナー形式で実施したが、「学内での FD の推進には大学執行部の理解・協力が不可欠である」という共通認識を今後どんな形の研修に落とし込んでいくのかの検討が必要である。ここ数年、全国の高等教育研究機関でもリーダーシップ研修の必要性と在り方について注目が高まりつつあるので、その動向に注目しながら適宜情報交換を行っていきたいと考えている。また、それぞれの研修における講師をどのように選定（育成）していくかは、いずれの研修プログラムにおいても、大きな課題の一つである。

研修で利用することを目的に 2 冊の FD ハンドブックが作成・発行されたことにも触れておきたい。連携大学の一つである京都精華大学の協力の元、マンガ表現による一問一答式の授業ティップス集としたこのハンドブックへは、連携校のみならず全国から大きな反響（配布数:vol.1: 7,138 冊、vol.2 :8,037 冊、いずれも 2011 年 2 月末時点）が寄せられた。連携校外からも続刊発行の要望が寄せられており、今後のコンソ事業の中で続刊発行を前向きに検討していくこととなっている。

ICT 活用においては中小規模校では単独での導入が難しいクリッカーを共同利用し、活用方法を共有すべく複数の授業実践を実施した。また SNS や e-ポートフォリオなどの開発の検討も行った。そのほか、100 人規模のセミナーの定期開催（年 2 回）や国内外の先進事例の調査・研究および研修の実施、それに端を発する国内外の高等教育研究者との交流などが実現された。またこれらの活動についてはセンターにより HP やブログ、ニューズレター等にて適宜、広報や情報提供を行ったことにより、当事業の活動を広く連携校外に認知させることができた。以上のことから、ほぼ申請時の目標は達成されたといえよう。

6. さいごに

この 3 年間の取組は連携校・連携機関の多くの方々のご協力と熱意がなければ成立しなかったものである。とりわけ、代表校である佛教大学の皆さまには事業推進のみならず、事務運営の面でも大変なご尽力をいただいた。センター長の八木先生、運営委員長の藤松先生、また運営委員を務めていただいた原先生、達富先生、松本先生、そして常に我々センターを支えていただいた教育開発課の皆さまに改めてお礼を申し上げたい。

私自身は、コンソに所属を移し、継承された本事業の研究員を引き続き務めさせていただくこととなった。この事業成果を京都モデルとして息の長い取組に育てていく役割を担

えることを光栄に感じている、と同時に身の引き締まる思いである。今後ともコンソにて継続される本事業への変わらぬ支援とご助言、参加をお願いして本稿を締めたい。

注

- 1 <http://www.kyoto-fd.jp/wg3/>
- 2 http://www.kyoto-fd.jp/pj_report/pdf/2009FDreport-A.pdf
- 3 http://www.kyoto-fd.jp/handbook/digital_book_vol2/index.html

總括 / 展望

FD Review



今年度の FD 活動の回顧と展望

教学部長 八木 透

まず今年度の本学における FD 活動を振り返ってみよう。例年通り継続してきた授業アンケート・英語基礎力調査・基礎学力調査・入学前教育と、一通りの活動を展開してきたといえる。ただ今年度には授業公開ができなかったことだけは前年と異なる点である。次年度には原点に戻って議論をはじめ、その結果として新たな授業公開の有効な方法を導いていく必要があるだろう。

今年度の活動の中で特筆すべきは、何よりも入学前教育についてである。これまでの入学前教育の方法を一新し、今年度はまず対象学生を「A コース<特別推薦入試（課外活動・スポーツ強化枠）・宗門後継者入試>」・「B コース<AO 選抜・特別推薦入試（指定校・教育連携校・法人系列校）・同窓入試・帰国生徒入試>」の 2 グループに分け、それぞれのグループの学生に相応しい独自のプログラムを導入した。煩雑になるために詳細についての説明は省略するが、たとえばすべての学生は 2 月と 3 月にそれぞれ一度ずつ、計 2 回の「エンジョイ・キャンパスライフ」と命名された授業体験を受講する等、これまでにはない、きわめて充実した入学前教育のプログラムであり、結果としての成果も大きかったものと思う。また授業体験の際のアンケートにおいても、ほとんどの学生たちが「大変有意義であった」と回答し、満足度は想像以上に高かったことがうかがえる。しかし一方で、プログラムが複雑すぎて関わった教職員が内容を正確に把握しづらかったことや、他部署との連携の遅れから、予定していたプレメントテストが実施できなかったこと等、反省点も多い。今年度の反省を踏まえて、次年度にはシンプルでありながらより効果的なプログラムについて再度議論いただき、よりよい入学前教育のあり方について模索する必要があると思われる。

一方、平成 20 年度文部科学省「戦略的大学連携支援事業」に採択された、佛教大学を代表校とする 18 大学・短期大学の連携事業「地域内大学連携による FD の包括研究と共通プログラム開発・組織的運用システムの確立」は、補助事業最終年度を迎え、連携大学教職員による 3 つのワーキンググループの活動を中心として、前年度以上に旺盛で活発な活動を展開した。年度末には内部評価、外部評価ともに、大変有益であったとする高い評価をいただき、予定していた事業を完了して、京都 FD 開発推進センターの業務は、次年度以降は大学コンソーシアム京都に移管されることとなった。

次に 2011 年度の FD に関する活動計画について述べてみよう。まずは「GPA」の導入があげられる。「GPA」に関しては、すでに導入のための準備は完了しており、どのような形で試行するかについて詰める段階である。次年度にはぜひ導入を果たしていただきたいと思う。またより充実した FD 活動を目指すために、やや形骸化しつつある授業アンケートの内容や方法を見直す必要があるだろう。さらに今日必要が叫ばれている「SD」について、事務局とも連携を取りながら、本格的な議論を開始しなければならない。特に 2012 年度の事務機構改革に合わせて、本学における「SD」のあり方について、早急に詰めてゆく必要があることは間違いないと思われる。

活動記錄

FD Review

FD Review

活動記録

2010年

- 4月 3日 (土) 基礎学力調査 (国語) 実施 (1回生)
英語基礎力調査実施 (1回生)
- 4月 28日 (水) 第1回教授法開発室会議
- 5月 18日 (火) 第1回教育開発委員会
- 6月 2日 (水) 第2回教授法開発室会議
- 6月 23日 (水) 第2回教育開発委員会
- 6月 30日 (水) 第3回教授法開発室会議
- 6月 9日 (水)～ 春学期中間授業アンケート実施
- 7月 1日 (木) 『FD Review Vol.5』刊行
- 7月 1日 (木)～ 春学期授業アンケート (通学課程)
- 7月 13日 (水) 第4回教授法開発室会議
- 7月 17日 (土)～ 授業アンケート (通信教育課程、夏期)
- 7月 20日 (火) 第3回教育開発委員会
- 9月 15日 (水) 平成22年度佛教大学教員研修会
「新入生の学力動向から、FDのあり方を考える」
- 9月 22日 (水) 第5回教授法開発室会議
- 10月 13日 (水) 第6回教授法開発室会議
- 10月 26日 (火) 第4回教育開発委員会
- 11月 10日 (水) 秋学期中間授業アンケート
- 11月 17日 (水) 第7回教授法開発室会議
- 11月 20日 (土)～ 授業アンケート (通信教育課程、集中Ⅱ・学外6)
- 11月 30日 (火)～ 授業アンケート (通信教育課程、冬期・冬期夜間・学外7)
- 12月 13日 (月)～ 秋学期授業アンケート (通学課程)
- 12月 14日 (火) 第8回教授法開発室会議
- 12月 19日 (日) 入学前教育 授業体験 (Aコース)
- 12月 22日 (水) 第5回教育開発委員会

2011年

- 1月 8日 (土) 英語基礎力調査実施 (第2回目、1回生)
- 1月 8日 (土)～ 授業アンケート (通信教育課程、学外8・集中Ⅲ)
- 1月 17日 (月) 英語基礎力調査実施 (予備日、1回生)
- 1月 26日 (水) 第9回教授法開発室会議

- 1月26日(水) 第1回FD研究会
「入門ゼミにおける統一シラバスの到達点とその課題を考える」
- 2月15日(火) 第2回FD研究会「成績評価の基礎知識」ワークショップ
- 2月15日(火) 第10回教授法開発室会議
- 2月20日(日) 入学前教育 授業体験 (Aコース・Bコース)
- 3月20日(日) 入学前教育 授業体験 (Aコース・Bコース)

FD Review

教授法開発室のご紹介

教授法開発室のご紹介

2010 年度

室長 藤松 素子 (社会福祉学科)
室員 水谷 隆之 (日本文学科)
持留 浩二 (英米学科)
小野田俊藏 (歴史文化学科)
小林 隆 (教育学科)
達富 洋二 (教育学科)
近藤 敏夫 (現代社会学科)
田中 智子 (社会福祉学科)
漆葉 成彦 (作業療法学科)

事務局スタッフ

八木 透 (教学部長 歴史文化学科)
三木 京子 (教育開発課長)
吉岡 典子 (教育開発課主任)
平井 孝典 (教育開発課主任)

2011 年度

室長 藤松 素子 (社会福祉学科)
室員 水谷 隆之 (日本文学科)
松本 真治 (英米学科)
小野田俊藏 (歴史文化学科)
菅原 伸康 (教育学科)
堀家由妃代 (教育学科)
近藤 敏夫 (現代社会学科)
林 悠子 (社会福祉学科)
漆葉 成彦 (作業療法学科)

事務局スタッフ

岡崎 祐司 (教学部長 社会福祉学科)
三木 京子 (教育開発課長)
平井 孝典 (教育開発課主任)
拝野 香織 (教育開発課課員)